MODEL Art

MODELING MAGAZINE

2026年4月1日発行
月刊モデルアート4月号（通巻1178号）

No.1178

2026 April

4

2026 MODEL Art 60th Anniversary Year



特集

Japanese Tanks *in Malaya*

マレー作戦と日本戦車

NEW KIT REVIEW

- ハセガワ1/12 カワサキ GPZ900R(A1)(1984)
- アオシマ1/24 CE9A ランサーGSRエボリューションⅢ 1995
- タミヤ1/48ドイツ連邦軍主力戦車 レオパルト2 A7V
- ベルファイン1/72 ダークスター
- エイチエムエー1/144 JAS39 グリペン

1978 FORD ZAKSPEED CAPRI TURBO



1/24 SCALE

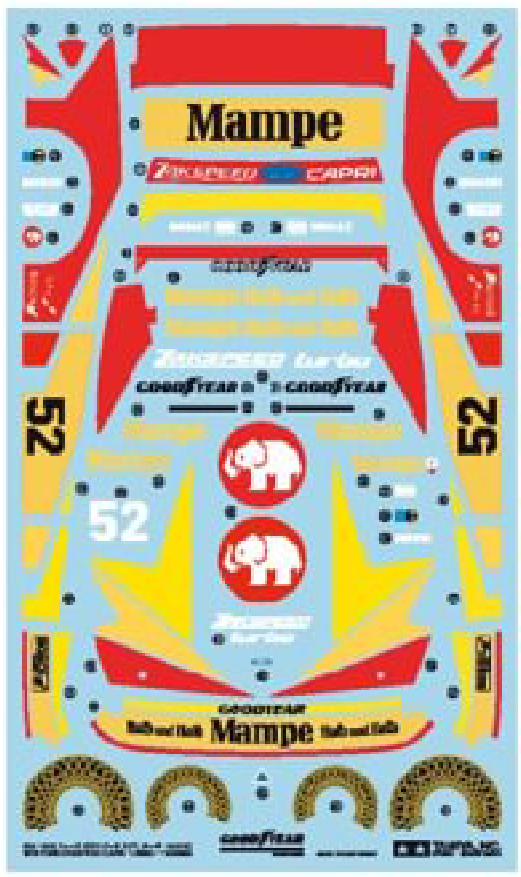
ドイツを制した空力モンスター

1/24スポーツカーシリーズ NO.376 1978 フォード ザクスピード カプリ ターボ（24376） ディスプレイモデル

1970〜80年代に人気を博したグループ5レース。市販車を大改造した「シルエットフォーミュラ」と呼ばれるマシンで争われたこのレースの中でも、DRM（ドイツレーシングカー選手権）制覇のために開発されたのがザクスピード カプリです。極端に低くワイドなボディに、375馬力を発揮する1,427cc直列4気筒ターボエンジンを搭載。78年夏に登場したカプリはデビュー当初から好成績を記録し、翌79年にはザクスピードにクラスタイトルをもたらしました。圧倒的な強さを誇ったカプリが24年ぶりに再登場。迫力のロー&ワイドフォルムはもちろん、ロールケージを装備したコクピットや前後異径ホイールなどモンスターマシンの姿をリアルにモデル化。1/24に凝縮された魅力の数々を、組み立てながらじっくり探ってください。



ロールケージを装着したコクピットは立体感十分。



新考証のスライドマークは鮮やかな発色が特徴のカルトグラフ社製。

cartograf

模型全長210mm
全幅86mm 全高51mm





スリックタイヤは質感あるソリッドゴム製。空気抵抗を減らし、走行性能を高めるエアロディスクを装着したタイプも再現できます。

《2月21日ごろ発売》
3,740円
（本体価格3,400円）

製品の詳しい情報はこちらをご覧ください。▶

カーモデルの仕上げやディスプレイに

タミヤのメイクアップ材・ディスプレイグッズ



つや出しコーティング剤

（87151）638円（本体価格580円）

モデルの表面に塗布することで被膜を作り、美しい光沢を生み出すコーティング剤です。水性タイプで伸びがよく、ふき取りも手軽。微細な磨きキズを目立たなくするだけでなく、深みのあるガラス面のような光沢が特徴。コンパウンドで磨いたあとに使うとさらに効果的です。内容量10ml。



タイヤ用コーティング剤

（87220）638円（本体価格580円）

スケールモデルやRCカーなどのゴムタイヤ用ツヤ出しコーティング剤です。布に数滴染みこませ、タイヤに塗布することで表面を保護し、ツヤやかなブラックに仕上げます。また、古いゴムが白くなる現象、「ブルーミング」を抑え、白くなったタイヤに塗り込めば美しいツヤが復活します。内容量10ml。



《使用例》

ディスプレイケースC

（73004）1,650円（本体価格1,500円）

1/24のカーモデルや1/20のF1モデルのディスプレイに最適。ケースは透明度が高く、台座はモデルを固定するための穴あけ加工もできます。外形サイズは260mm×144mm×105mm。

●価格はすべてメーカー希望小売価格です。●掲載されているモデルは製品を組み立て、塗装したものです。●写真は実際の製品と仕様が異なる場合があります。

株式会社タミヤ 〒422-8610 静岡市駿河区恩田原3-7 [www.tamiya.com] ●ネットでかんたんショッピング、タミヤショップオンライン [tamiyashop.jp]

製品に関するお問い合わせはタミヤ・カスタマーサービスまで。TEL 054-283-0003［静岡］03-3899-3765［東京］（静岡へ自動転送）【営業時間】平日・9:00〜18:00 土.日.祝・8:00〜12:00.13:00〜17:00

TAMIYA

新商品情報



© ARMOR PROJECT/BIRD STUDIO/SQUARE ENIX

水性ホビーカラー。

HDQ01▶04·101 好評発売中

ドラゴンクエスト水性ホビーカラー 各10ml入り

HDQ01～04 各**385**円(税込)　HDQ101 **495**円(税込)

HDQ 01 (光沢)	HDQ 02 (光沢)	HDQ 03 (光沢)	HDQ 04 (光沢)	HDQ 101 (メタリック)
スライムブルー	スライムベスオレンジ	ライムスライムグリーン	ドラキーダークブルー	メタルスライムシルバー

◉色見本は印刷のため、塗料の色と異なる場合もありますので参考にご利用下さい。

水性ホビーカラー。

HEVS01 3月発売予定

水性エヴァンゲリオンカラー エヴァンゲリオン初号機カラーセット

©khara

各18ml入り **1,430**円(税込)

エヴァンゲリオン初号機カラー、再起動。
エヴァンゲリオンカラーが水性ホビーカラーベースで復刻します。初号機を代表するパープル・ライムグリーン・オレンジイエローの3色がセットになり、初号機の圧倒的存在感をリアルに表現が可能です。水性ホビーカラーならではの扱いやすさと進化した発色性能で、納得の仕上がりに。
あの時、胸を熱くしたすべてのファンへ。
そして、いま初めて触れる新たな世代へ。



HEV101	HEV102	HEV103
エヴァパープル EVA PURPLE	エヴァライムグリーン EVA LIME GREEN	エヴァオレンジイエロー EVA ORANGE YELLOW
準光沢 SEMI-GLOSS	蛍光 FLUORESCENT	準光沢 SEMI-GLOSS

◉色見本は印刷のため、塗料の色と異なる場合もありますので参考にご利用下さい。

株式会社GSIクレオス ホビー部　GSI Creos Corporation Hobby Dept.
〒105-0014 東京都港区芝3-8-2 芝公園ファーストビル　3-8-2, Shiba, Minato-ku, Tokyo, 105-0014, Japan
お客様相談室/TEL.0570-041-223
受付時間 10:00～12:00・13:00～17:00
※お電話での受付時間は変動する場合がございます。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。
最新情報はこちらで https://www.mr-hobby.com/

TRUMPETER

各製品のQRコード読み取りで商品ページが開きます

1/16 No.00954 ドイツ軍 対戦車自走砲 Sd.kfz.164 ナースホルン

ご予約受付中
3月発売予定

全長：528mm 全幅：184mm 部品数1,900+ 税抜¥36,000 ¥39,600

第二次世界大戦時、ドイツ軍で採用されていた対戦車自走砲
Sd.kfz.164 ナースホルンが1/16スケールで登場。
戦闘室内部、エンジン、トランスミッション、
サスペンション等を精密再現。

全長約53cm



付属
デカール
スプリング
分割組立式履帯
牽引ケーブル用銅線
エッチングパーツ2シート

パッケージサイズ：660×380x175mm

Check this box!

1/48 No.05845 バッカニアS.2D

ご予約受付中 3月発売予定

全長：401mm 全幅：282mm 部品数200+ 税抜¥12,000 ¥13,200

イギリス海軍/空軍が採用していた複座艦上攻撃機バッカニアS.2Dが1/48スケールの**新金型**で登場



縦列複座コックピット、各種兵装を精密再現
エッチングパーツ/デカール・付属

Check this box!

1/350 No.05381 イタリア海軍 重巡洋艦ポーラ

ご予約受付中 3月発売予定

全長：522mm 全幅：66mm 部品数520+ フルハルモデル 税抜¥15,800 ¥17,380

イタリア海軍ザラ級重巡洋艦の2番艦ポーラが1/350スケールで登場
スライド金型で成形されたフルハル船体や
主兵装である20.3cm連装砲塔、高角砲、
機関砲を精密再現



基本エッチングパーツ/デカール・付属

Check this box!

1/72 No.07428 アメリカ陸軍 M1133 ストライカーMEV

ご予約受付中 3月発売予定

全長：108mm 全幅：32mm 部品数100+ 税抜¥3,600 ¥3,960

アメリカ軍が採用しているM1133ストライカー
Medical Evacuation Vehicle
(野戦救急車)が1/72
スケールで登場



各種照準装置を精密再現
ゴム系樹脂タイヤ/デカール・付属

Check this box!

1/16 No.00966 ドイツ連邦軍 レオパルド2A6主力戦車

発売中

全長：683mm 全幅：234mm 部品数1300+ 税抜¥38000 ¥41,800

ドイツ連邦軍および欧州で広く運用されているレオパルド2A6主力戦車が
完全新金型で登場



繊細なモールドで砲塔内インテリアを完全再現
分割組立式履帯/エッチングパーツ4シート/デカール・付属

Check this box!

価格は総額表示です

株式会社インターアライド 取扱ブランド

インターアライド

ACADEMY HOBBY MODEL KITS — アカデミー プラモデル 輸入販売代理

HM HOBBYMASTER — ホビーマスター ダイキャストモデル 輸入販売代理

Hi-Story — ハイ・ストーリー ミニカー 企画・製造



1/24
15620 アカデミー3月発売
ヒョンデ・グレンジャー GN7
MCP(多色成型)スナップキット
プラモデル 税抜5200 ¥5,720



1/24
15624 アカデミー3月発売
ヒョンデ・サンタフェ MX5
MCP(多色成型)スナップキット
プラモデル 税抜5800 ¥6,380



1/72
HA4443 ホビーマスター・蔵出し品
航空自衛隊 F-35A 第302飛行隊
69-8702w/RAM塗装
ダイキャスト製 税抜18800 ¥20,680



1/72
HA4573 ホビーマスター・蔵出し品
航空自衛隊 F-15DJ イーグル
飛行教導群 32-8087
ダイキャスト製 税抜18800 ¥20,680



1/48
HA8766 ホビーマスター3月発売
BF 109F-4 MarseilleYellow 14
3/JG27 Egypt Sept. 1942
ダイキャスト製 税抜17800 ¥19,580



1/72
HA9618 ホビーマスター3月発売
Rafale B Operation Harmattan 113-IE/330
French Air Force Libya 2011(w/Scalp,Hammer
,GBU-12) ダイキャスト製 税抜24800 ¥27,280



1/72
HA3383 ホビーマスター3月発売
F-5N Adversary FighterRed 117
761533 VFC-111 2014
ダイキャスト製 税抜17800 ¥19,580



1/72
HA4333 ホビーマスター3月発売
F-86F USAFE25333 461st Fighter
Day Sqn. West Germany 1955
ダイキャスト製 税抜17800 ¥19,580



1/72
HA4576 ホビーマスター3月発売
F-15E Strike Eagle 88-0705
90th FS CO Jet August 2005
ダイキャスト製 税抜24800 ¥27,280



1/72
HA4577 ホビーマスター3月発売
F-15K Slam Eagle 08-047
ROKAF 2024 (w/Taurus missiles)
ダイキャスト製 税抜24800 ¥27,280



1/43 三菱自動車工業株式会社 許諾取得
HS514 ハイ・ストーリー3月発売
MITSUBISHI GALANT
SUPER VR-4 (1998)
4色 レジン製 税抜11000 ¥12,100



1/43 マツダ株式会社 許諾取得
HS546 ハイ・ストーリー2月発売
MAZDA SPIRIT RACING ROADSTER
12R (2025) エアログレーメタリック
ダイキャスト製 税抜9800 ¥10,780



1/43 マツダ株式会社 許諾取得
HS562 ハイ・ストーリー2月発売
MAZDA SPIRIT RACING
ROADSTER (2025)
6色 ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS563 ハイ・ストーリー2月発売
Toyota GR86 RZ (2023)
3色 ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS567YE ハイ・ストーリー2月発売
Toyota GR86 特別仕様車 RZ
Yellow Limited (2025) サンライズイエロー
ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS573BK ハイ・ストーリー4月発売
Toyota GR COROLLA RZ (2025)
5色 ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS574BK ハイ・ストーリー4月発売
Toyota GR YARIS RZ
High performance (2025)
5色 ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS575 ハイ・ストーリー4月発売
Toyota GR SUPRA RZ (2025)
5色 ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS576BL ハイ・ストーリー5月発売
Toyota GR SUPRA 特別仕様車 RZ
Horizon blue edition (2020) ホライズンブルー
ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS577GY ハイ・ストーリー5月発売
Toyota GR SUPRA 特別仕様車 RZ 35th
Anniversary Edition(2021) マットストームグレーメタリック
ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS578YE ハイ・ストーリー5月発売
Toyota GR SUPRA 特別仕様車 SZ-R 35th
Anniversary Edition (2021) ライトニングイエロー
ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS579WH ハイ・ストーリー5月発売
Toyota GR SUPRA 特別仕様車 RZ Matte
White Edition(2022) マットアバランチホワイトメタリック
ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS580OR ハイ・ストーリー5月発売
Toyota GR SUPRA 特別仕様車 RZ
Plasma Orange 100 Edition (2023) プラズマオレンジ
ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680



1/43 トヨタ自動車株式会社 許諾取得
HS581BK ハイ・ストーリー5月発売
Toyota GR SUPRA 特別仕様車
A90 Final Edition (2025) マットステルスブラック
ダイキャスト製 税抜8800 ¥9,680

INTER ALLIED
輸入／販売元 株式会社インターアライド
〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町543-1
045-549-3031 info@interallied.co.jp

SHOPPING INTERALLIED
インターアライド通信販売部 スターショッピング
1万円以上ご購入で送料手数料0円 代金引換可
045-549-3033 AM11:00～PM3:00

Focke Wulf

SWS 1/32 NO.26

Fw 190 A-3

NEW

フォッケウルフ Fw 190 A-3



2.27[FRI]-4.5[SUN] 予約受付

4.18[SAT] 発売予定



1/32 フォッケウルフ Fw 190 A-3

- インジェクションプラキット（グレー・クリア2色成型）
- 346パーツ
- デカール：1枚、マスキングシール：1枚
- 全長 約277mm
- 全高 約96mm
- 全幅 約329mm

¥13,200（税込）

カラー&マーキングは「White 12」と「Blue 6」の2種！





好評発売中！

Bf 109 G製作に必携の一冊！

WWIIドイツ空軍主力戦闘機をSWSで徹底攻略。作例や貴重な資料で、多彩な兵装バリエーションを網羅！

お求めはこちら！

- 造形村ウェブサイト www.zoukeimura.co.jp

造形村 🔍

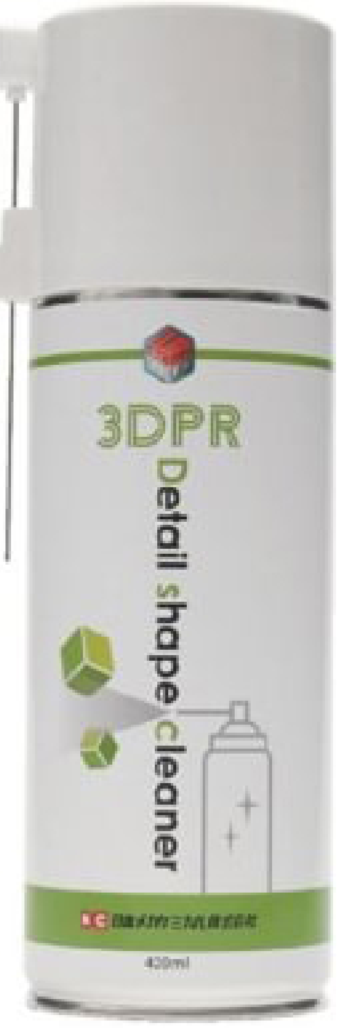
- 全国のボークス、SWSフレンドショップでも承っております！

3DPR Detail shape cleaner

ー3DプリンターUVレジン洗浄剤ー

(ディテール シェイプ　クリーナー)

触れた瞬間に実感
サラッと仕上がる洗浄効果



3DPR Detail shape cleaner
ディテールシェイプクリーナー(DSC)

日本メカケミカル株式会社

UV レジン洗浄剤　容量：420ml
1,600 円 (税込 1,760 円)
好評発売中
詳しくはこちら

商品は通販ショップ、Amazon にてお買い求めください



付属のノズルを付けて集中噴射が可能





各種 UV レジンに対応した洗浄が可能

検証　今回、細密ディテールが密集したラジエターパーツを向かい合わせに配置し、意図的に洗浄しづらい環境を作ってクリーナーの効果を検証した。

【比較対象は下記の４パターン】 ①水洗いのみ　②水洗い＋（DSC）　③超音波洗浄（30s）のみ　④超音波洗浄（30s）＋（DSC）









● クリーナースプレー併用で洗浄力に明確な差

完全乾燥後に観察すると、表面が濡れて見える部分は、いずれも未硬化レジンの残留であり、ラフト上面のように本来フラットであるはずの箇所にも、まだら状の汚れが残っていた。

その中でも、DSCを併用した 2 種類は明らかに洗浄力が高く、レジン残りはほとんど確認できなかった。写真ではわかりにくいが、触れたときの質感にも違いがあり、スプレー使用後はベタつきがなく、サラッとした「完全に洗えている感触」が得られる。

水洗いレジンは長時間水に浸けると反りや割れを誘発しやすいため、「短時間で確実に落とせる」という点は、実用上きわめて大きなメリットといえる。

また、模型パーツに多い細く繊細な形状のパーツは、刷毛で物理的に触れること自体が難しく、クリーナーの「吹き付けるだけで入り込む」という特性は、特に有効だと感じた。

秋葉さんの使用感

全体を通して、ディテールの再現性を重視したパーツや、細かなパーツが密集した形状であっても、短時間で安心して洗浄できる、扱いやすいクリーナーだと感じました。



*「3DPR Detail Shape Cleaner ディテールシェイプクリーナー」(DSC)の検証記事におきまして、商品名の英語省略表記に誤りがございました。読者の皆様ならびに関係各位にご迷惑をおかけしましたことを、謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに訂正いたします。

第195回 新製品情報 NEW ITEM INFORMATION





価格：各3,200円（税抜）
（税込：各3,520円）

★リアルな彫刻と豊富なパーツ！ ★インテリア付き！ ★エッチングパーツ付き！

価格：各3,000円（税抜）（税込：各3,300円）





1/48 SCALE ロシア戦車 **T-34/76** (1942年型)

★パーツ総数385！

1/48 SCALE ロシア戦車 **T-34/85** (1944年型)

★パーツ総数400！











皆さん こんにちは、営業の内田です。そろそろ暖かくなる季節なので魚釣りにでも行きたいなぁと思っております。
では、次号の情報をお楽しみに。

詳しい情報や他の商品は…
https://doyusha-model.com/

X @DOYUSHA official
X（旧Twitter）フォローお願いします。

創造する喜びをお届けする
模型とホビーの総合メーカー

株式会社 童友社

〒116-0002 東京都荒川区荒川4-27-21
TEL：03(3803)4747 FAX：03(3805)3009

DOYUSHA Leading the world in model technology.



CONTENTS

MODEL Art MODELING MAGAZINE
2026 Apr No.1178

■ 特集：マレー作戦と日本戦車

■ NEW KIT REVIEW

■ 連　載

■ 情　報









モデルアート 2026年4月号 第1178号
印　刷：2025年3月24日／発　行：2026年4月1日
発行人：井田耕平
編集長：戸倉 健／編集：谷﨑英也 猪股一大 内藤純一 金澤尚憲 木船智尋
広　告：佐々木 学 木本恵美子／営　業：井田真平
発行所：有限会社モデルアート社
〒110-0016 東京都台東区台東2-3-9 KHビル 4F
TEL：03-6240-1936（代表）　FAX：03-6240-1937
印刷所：シナノ印刷株式会社
撮　影：岩永友宏（スタジオパレット）、南部智則
デザイン：アイダックデザイン、ADARTS、アラブルカ
価　格：1,400円（税込）
MODEL ART Co.,Ltd. 4F, 2-3-9, Taito, Taitoku, Tokyo,110-0016



特集

マレー作戦と日本戦車

昭和16年12月8日、真珠湾攻撃に先駆けて発動された馬来(マレー)作戦により、日本は太平洋戦争に突入。半島各地へ上陸した陸軍部隊は、マレー半島南端のシンガポールへ向け進軍を開始した。本特集では、陸軍側から見た馬来作戦について作例と共に展開。本誌に先立って発売された艦船模型スペシャルNo.99と共にご覧いただきたい。



CONTENTS







銀輪部隊

一瀉千里の進軍を支え
シンガポールをたゞ目指す

東洋の電撃戦たるマレー作戦にて、急進する機動部隊との足並みを合わせるため、将兵の移動手段として自転車を活用した。戦車隊や自動車化部隊と共に快進撃を支えた機動部隊として銀輪部隊と呼称され、戦時歌謡『走れ日の丸銀輪部隊』などを通じて当時のメディアにて大々的に報道された。ここでは、マレー作戦の語り草でもある銀輪部隊の姿を、ヴィネットスタイルでモデル化する。

■ 1/35スクラッチビルド
■ 製作・文：加瀬裕基





▲▶鉄橋が破壊されつつも、自転車を担いで渡河する姿をモデル化。作例掲載にあたり、通常の２輪タイプではなく側輪の付いたタイプの製作を依頼した。

走れ！走れ！ 日の丸●銀輪部隊

●チャリで来た

今回はマレー作戦の快進撃を支えた自転車部隊“銀輪部隊”のジオラマを担当させていただきます。銀輪部隊の進撃において敵は英軍のみならず、過酷な密林、破壊された橋梁など多くの障壁が存在しました。今回も作例ではそのような障壁を乗り越えていく銀輪部隊…というイメージで、破壊された橋梁を進む銀輪部隊のジオラマを製作していきたいと思います。

●自転車の製作

銀輪部隊の自転車ですが、過去にはダイオパークより「Asia Classic Bycycle」という製品名でほぼドンピシャの自転車が発売されていましたが現在は入手困難…。というわけで、今回は実際に見られた重機器材運搬用の３輪タイプを再現するため、ここは歯を食いしばって3Dで地道にモデリングしていきます。

製作はピットロード 1/35 日本陸軍 九二式重機関銃（射手３体付き）をベースに寸法を割り出し、可能な限り再現してきます。モデリングし3D出力が完了したら塗装に入ります。ボディはGSIクレオスのMr.カラーC524枯草色、ホイールはC2 ブラックで塗装後にMr.スーパーメタリック2 SM206 クロームシルバー２で塗装していきます。最後にMr.ウェザリングカラーのWC02 グランドブラウンでピンウォッシュすればボディは完成です。通常行軍時部隊は自転車に装備品を積載していましたので、今回はファインモールド 1/35 帝国陸軍歩兵 行軍セットより流用しています。荷台の弾薬箱はピットロード の九二式重機関銃（射手３体付き）より転用しました。

●フィギュア・鉄橋の製作

要となるフィギュアですが、なかなか手頃な動きのあるポーズが見つからず探していたところ、ICM1/35 日本陸軍歩兵 1942～1945の中にちょうど良いポースの兵士が。基本的にはキットのポーズそのままですが、自転車を担がせるために右手の向きを調整しています。表面処理を済ませたらブラック＆ホワイトの２色でシャドーとハイライトを付け、C22枯草色をベースに制服色を調色し吹いていきます。細かい装備品をファレホカラーで塗り分けたらフィギュアは完成です。

同時に鉄橋の製作も進めていきます。通常プラバンなど組み合わせて製作するのですが、今回はベースに合わせ傾斜した鉄橋を六角形にカットする必要があるためベースを計測し、その情報を元に3Dデータ段階でカットした状態でモデリングし出力しました。今回のような小さいヴィネットにおいてはギリギリ可能な運用法となります。

鉄橋の塗装については他のストラクチャーとの色を見ながら決めるため、この段階ではサフまでで止めておきます。

●ベースの製作

まずは作品のサイズをザックリと決定します。今回は、フィギュア1体の8～10㎝のベースとしました。大まかなサイズ感のみ決めてあとは台座側に合わせることでサイズを確定します。台座は、100円均一ショップで手ごろな六角形の容器がありましたのでこれに決めました。

次に、スタイロフォームを積層したものを台座に合わせカットし、おおまかな起伏を決めます。破壊された橋梁の根本は煉瓦積みとするため、プリミエ石粉粘土をスタイロフォームに薄く伸ばし、グリーンスタッフワールド

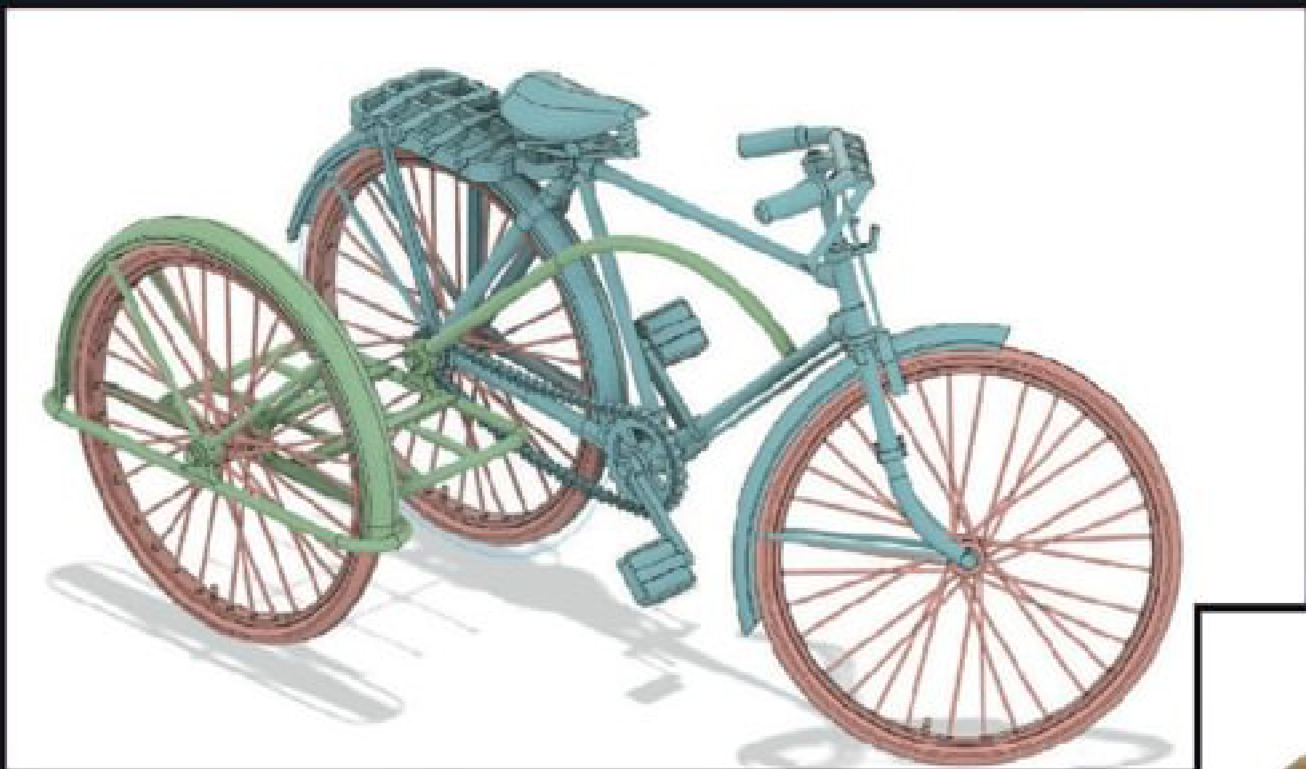
のローリングピン（レンガ塀/舗石 1/35-1/76）でスタンプし、煉瓦のモールドをつけていきます。この作業と同時に、ベース端をプラバンで囲い化粧板も製作しておきましょう。最後に化粧板とスタイロフォームの隙間を埋めるように石粉粘土を盛れば地面の起伏が完了です。

石粉粘土が硬化後、早速地面を成型していきます。まず下地としてタミヤの情景テクスチャーペイント（土 ダークアース）を土部分に塗布していきます。基礎のスタイロフォームを溶剤から保護する上で重要ですので、隙間なく丁寧に塗っておきましょう。生乾きの段階で砂利や石などを蒔いて情報量を上げておきます。

乾燥後、側面の化粧板も含めMr.フィニッシングサーフェイサー1500 ブラック スプレーでシャドーを吹き、煉瓦部分をざっくりエアブラシで塗装しておきます。完了後、地面をタミヤカラーラッカー塗料のLP-25 茶色（陸上自衛隊）で塗装していきます。この時岩陰などに下地の黒を若干残すと立体的な印象になります。この段階で別で製作しておいた鉄橋をベース側に固定します。鉄橋の塗装はLP-26濃緑色（陸上自衛隊）を使用。ベースに固定後、地面も含めてWC02でピンウォッシュを施せばベースの基本塗装は完了です。

大きなオブジェクトは固定できたので瓦礫などの小物を配置していきます。爆破された煉瓦の橋脚ということで、まず煉瓦を量産しましょう。J'sWorkの1/35煉瓦用シリコン型にアクリルガッシュで着色した石膏を流し、煉瓦を製作します。これらを水溶きボンドなどでベースに固定し、上からMr.ウェザリングペースト WP01マッドブラウンやAKインタラクティブのAK081 ダークアース（ピグメント）などで泥や土の質感を出していきます。このままだとせっかく作った起伏の立体感が消えてしまうため、生乾きの状態でAK040ライトダスト（ピグメント）を擦らずふわっと乗せるといい質感になります。最後にクリアーなどで水面付近を湿らせてあげれば完成です。

自転車●製作ノ手引き







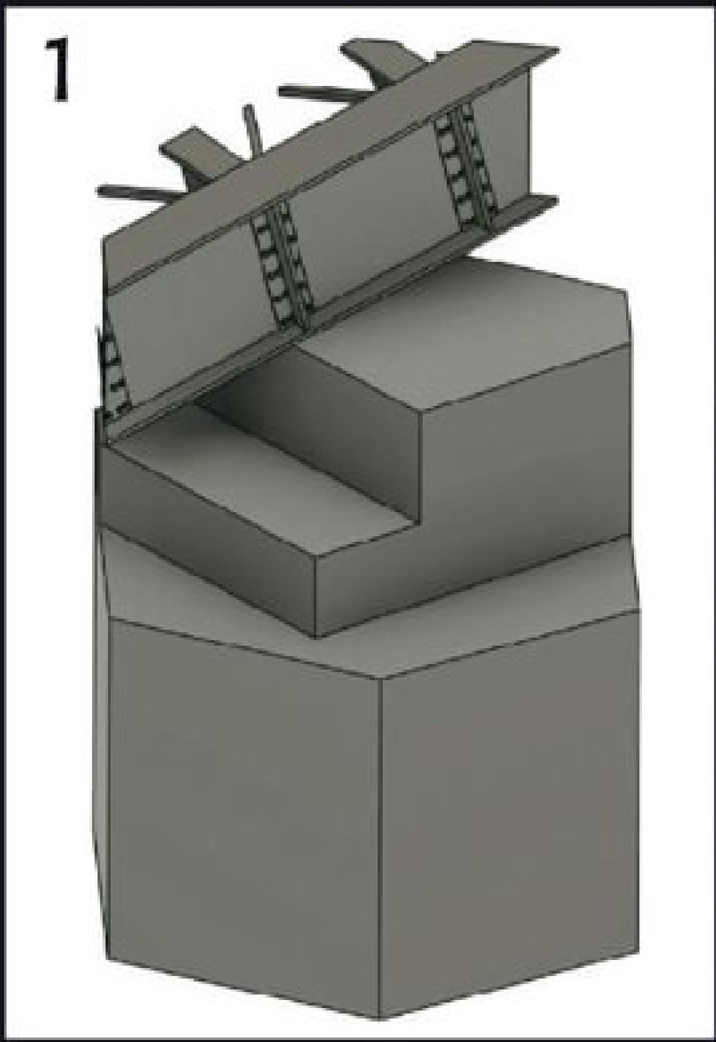
▲▶マレー作戦をはじめ、各戦線で大量に活用された自転車の多くは、一般的な2輪タイプのもの。今回は少し珍しい側輪式の自転車を製作した。1.資料を基にFusionにてデータを製作。今回は、ベースボールマガジン社刊のGUNマガジン1965年12月号内の記事（※）や各種記録写真などを基にモデリングした。一部不明瞭な箇所があり、推測にて製作している。2.データを3Dプリンターで出力した状態。塗装の便を考慮し、ホイールや側輪などは別パーツ化している。3.塗装後の状態。フレームはC524、ホイールはSM206で塗装した。側輪部には九二式重機関銃の弾薬箱を配置している。仕上げにWC02でピンウォッシュを施し、使い込まれた質感を表現した。

※「旧日本軍自転車部隊の兵器」のテーマで記事を展開。主に陸軍兵器行政本部が製作した重機関銃や弾薬運搬用の自転車を紹介する。写真の提供元は小倉陸軍造兵廠糸口山製造所長を務めた銅金儀一氏（最終階級：陸軍少将）。





情景●製作ノ手引き









▲1. 今回は六角形の台座上にヴィネットを展開するため、鉄橋は自転車と同様にFusionでデータを製作し、台座の形状に合わせて出力している。2. スタイルフォームでベースの土台を製作する。橋脚にはプリミエ石粉粘土とグリーンスタッフワールド ローリングピン（レンガ塀 / 舗石 1/35-1/76）でレンガのモールドを再現した。ベースの断面にはプラバンを接着し化粧バンとしている。3,4. 地面部分にも粘土を盛り、情景テクスチャーペイントを塗布。鉄道模型用のバラストやクラッシャブルストーンなどを撒いて地面のテクスチャーを強調している。





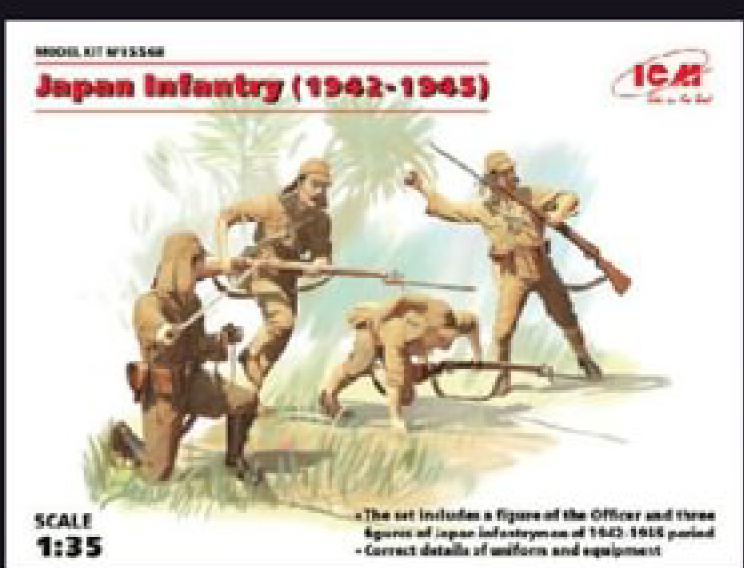








▲1. ベースの塗装。陰影を強調するためブラックサーフェイサーで全体を塗装。橋脚にはMr.カラー LASCIVUSシリーズのCL102 栗毛色を吹き付けておく。2. LP-25を吹き付け、地面を塗装する。下塗りの黒を活かしながら塗装すると良い。多少のはみ出しは後の工程で分からなくなるため、フリーハンドで問題ない。3.LP-26で鉄橋を塗装後、WC02でベース全体をピンウォッシュしベースの基本塗装は完了。4. 情景用のシリコン型で自作したレンガを地面に配置し、上からWP01やダークアース（ピグメント）を塗布して瓦礫や土の質感を再現する。5.WP01が半乾きの時を狙って、ライトダスト（ピグメント）を軽くまぶし地面の立体感を際立たせる。仕上げに水面付近（ベース端）をクリアーで湿らせてヴィネットベースの完成。







兵士ハ既製品ヲ上手ニ活用スベシ

◀ICM 1/35 日本陸軍歩兵（1942～1945）から銃剣突撃姿勢のものチョイス。自転車を担ぐ姿となるように、手の角度を調整している。フィギュアの下塗りとしてはじめに白黒で陰影を付け、その後に基本色を塗装。肌や装備品は筆塗りで仕上げている。自転車の荷台に積んだ背嚢や円匙、鉄帽は、ファインモールド 1/35 帝国陸軍歩兵 行軍セットから流用した。



銀輪部隊

マレー半島は幹線道路が発達し、比較的進軍しやすい土地であった。しかし、敵の障害物や熱帯地の暑さにより自転車が日に何度もパンクした。幸い、ゴム林の多い土地のため、ゴムの木から採れる樹液を使用することで簡単にパンク修理が可能だった。また、自転車修理班が各隊ごとに編成されたが修理班では手が回らない程の頻度で故障するため、鉄輪だけで前進することもあった。



記録写真から当時の自転車を観察する

自転車の軍事利用は登場して間もなくより検討されており、1870年に勃発した普仏戦争では伝令用として運用された。1885年に安全型自転車※が開発され、自転車の軍事利用研究が本格化。第一次世界大戦では自転車化歩兵、偵察、連絡、救急搬送など多様な自転車部隊が各国で誕生するに至った。日本陸軍においては、日中戦争時には既に多数の自転車を使用しており、兵の足として各戦線で重用された。

①


②


③


④


⑤


◀▲第二十五軍は、当時の日本としては高度に機械化された精鋭部隊であり、自動車化部隊と工兵部隊の連携の高さがマレー作戦を成功に導いた。しかし、歩兵の移動手段としては未だ徒歩が主であり、自動車化部隊との移動速度の開きをどのように埋めるのかが問題であった。そこで当時から東南アジアに多数輸出されていた自転車に注目し、歩兵の移動手段として活用した。作戦にあたって持ち込んだものに加え、現地でも多数を徴用した。①②は共にマレー作戦中に撮影された写真。①は写真週報 第203号より。写真の横には『ケダー州アロスターを経て南下中の自転車隊』とある。②国会図書館所蔵 朝日新聞刊『マレー作戦』より。『一路シンガポールへ 一皇軍精鋭は進撃する』とある。③はジャワ島バタヴィアにて進行する自転車部隊。④⑤は南方戦線各地で撮影。共に鹵獲された日本軍の自転車である。④北ボルネオ ラブアン島にて。1945年6月13日撮影。フレーム構造やハンドルなどの細部に違いが見られる。⑤はボルネオ州バリクパパンにて。豪軍兵士が鹵獲した日本の三輪車を使って電信線を敷設している。撮影日は1945年7月26日。

※ジョン・ケンプ・スターレーによって考案された自転車。現在の自転車のスタイルを確立した。
「写真週報 203号」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.A06031079800、写真週報（国立公文書館）









自転車は有効な移動手段であったが、乗車しての戦闘は出来なかった。そのため、戦闘が始まると自転車は置いていくことになり、密林や悪路を迂回しなければならない場合も同様であった。マレー半島各地では進軍に際して自転車が多数放置され問題となった。そこで現地で臨時の運転手を雇い、前進した部隊へ送り届けていた。言葉が通じない現地人を指揮しながら速やかに前身部隊へ届けなければならなかった苦労が偲ばれる。

⑥


⑦


⑧


▲▶こちらでは、比較的鮮明でディテールが分かりやすい写真から当時の自転車を読み取っていく。自転車の構造は軍/民での大きな違いはない。フレームはダイヤモンド型が多く、横一文字のハンドルバーが特徴だろう。また、ブレーキはロッドタイプであり、荷台は板材を折り曲げて作られている。当然ながら変速ギアなどはなく、シンプルな構造となっている。チェーンカバーは未装備の車両も多い。自転車には所属部隊が記入された。後輪の泥除けやフレームに直接書き入れたものや、写真のようにプレートを下げたものなどバリエーションが見られる。⑥はマーシャル諸島 クェゼリン島にて。プレートには『No.2 北桟橋詰所専用 小野工員専用（禁無断乗車）』とある。軍内部にも勝手に乗っていってしまう不届者がいたのだろうか。⑦サイパン島にて。米海兵隊の弾薬補給中隊に配属された兵士達で、休憩中の一幕。ヘッドチューブ中央の金具に南京錠がぶら下げられている。⑧ニューギニア島東部ミルン湾にて行なわれたラビの戦いの後に撮影された写真。『ミルン湾への日本軍の攻撃が失敗に終わった際に使われた自転車』との説明がある。プレートの『林部隊』から呉鎮守府第５特別陸戦隊（司令：林鉦次郎中佐）のものと思われる。
Photo : NATIONAL ARCHIVES、Australian War Memorial



■ MONO/ドラゴン TANK OF THE WORLD WW.Ⅱ
日本陸軍 九七式中戦車 チハ 前期型
マスキングシール付属

■ 製作・文：山城雅也（みやび）

第三戦車団 随一の精強部隊

戦車第一連隊所属車を製作する

日中戦争の勃発と時を同じくして採用された九七式中戦車は、その機動力を大いに発揮しマレー半島攻略の中核的戦力として活躍した。マレー作戦に参加した戦車３個連隊169両のうち、83両が九七式中戦車であった。今回は、ドラゴンのキットをベースにその高い再現度を最大限に活かして製作。熱帯の空気を纏った１両へと仕上げている。





日本初の戦車連隊 戦車第一連隊

Photo：GROUND POWER/MODEL ART

①


②


③


◀▲マレー作戦には戦車４個連隊からなる第三戦車団が参加した。その内、戦車第一、第六、第十四連隊が実際にマレー作戦に投入され、侵攻を支える原動力となった（第二連隊は予備部隊として温存。マレー作戦には参加せず、ビルマや蘭印作戦へ派兵）。その内、第一／第六連隊は中戦車連隊、第十四連隊は軽戦車連隊であった。戦車第一連隊は日本初の戦車部隊である戦車第一大隊を前身とし、1933年に戦車第一連隊に改称した。連隊各車の砲塔側面には、所属地である久留米の地名「筑紫野」にちなんで、ち（第一中隊）、く（第二中隊）、志（第三中隊、『し』は死を連想するため）、乃（第四中隊）、や（整備中隊とされる）の文字が書き入れられていた。また、同連隊の九五式軽戦車には、車体前部に日章旗を描いた車両も確認されている。①ヨンペン付近にて。ヤシの木をなぎ倒しつつ進む第三中隊所属車。砲塔上部には発煙筒投射機が設置されている。②ブキテマ市街に突入した第一連隊所属車。やや分かりにくいが、砲塔側面に「や」の文字が確認できるため、整備中隊のものと思われる。③こちらもマレー作戦にて撮影された車両。牽引ワイヤー固定具付近に荷物を縛り付け、灌木で偽装している。

戦車第一連隊第三中隊

九七式中戦車

昭和16年 馬来半島



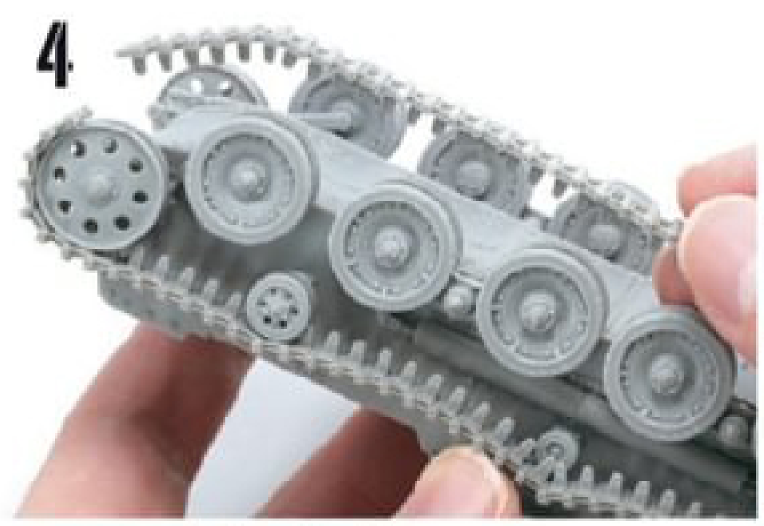
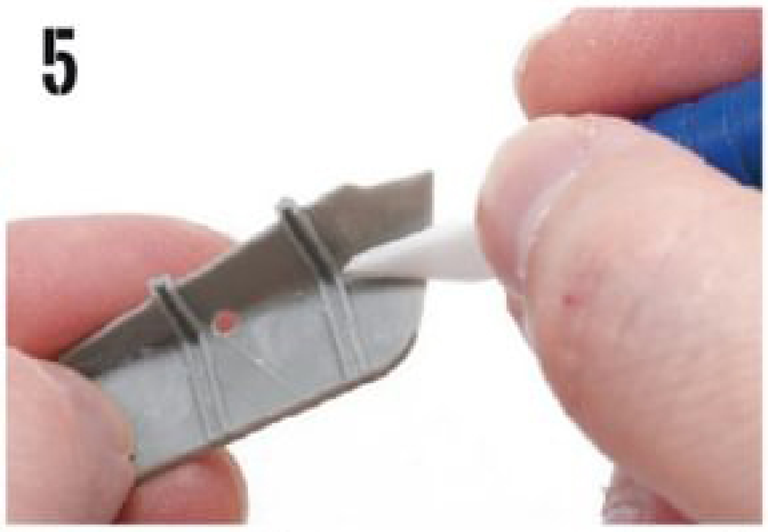
●丁寧な基本工作でキットの素性を存分に活かす

1

2

3


▲1.記録写真を観察していると、転輪のゴム部分にダメージがあるものを見かけることがある。これを再現するために、ゴム部分にモーターツールでダメージ表現を加えた。ビットは大小いくつかを使い分けて、均等にならないように注意している。最後にスポンジヤスリで表面を少し均す。2.ダメージ表現は、それぞれの転輪パーツ1つ1つに施している。組み付ける際に、ランダムに施した傷がバランス良く配置されるようにした。3.転輪の仮組みには水性糊のピットマルチ2を使っている。白い液体状の糊で、乾燥後は半透明になるが接着力がしっかり残るという優れものだ。プラスチックパーツへのダメージもないため、仮組みには必須アイテムの1つである。

4

5

6


▲4.キットの履帯は立体感豊かで、たわみまでしっかりと再現されている素晴らしい出来だ。今回は足周りを全て別個に塗装するため、誘導輪のところを接着せずに外せる状態（いわゆるC組み）で製作した。5.フェンダーパーツは少し厚みが気になったので、裏側から削り込み薄く加工した。エッチングパーツに置き換える、という選択肢もあるが、加工の難易度を考えると削り込むほうが良いだろう。モーターツールで大まかに削り、仕上げはカンナがけの要領で行なう。削りすぎて割ってしまわないように、こまめにライトに透かしながら厚みを確認して作業した。6.左が加工後のパーツだ。加工前のものと見比べると差が良く分かるだろう。面倒だがひと手間加える価値のある工作だ。


7
8


9


▲7.車体や砲塔の各所ハッチは、側面から開口して真鍮線を通し、可動させられるようにしている。ハッチはウェザリング時、特にチッピングの際に開閉できる状態にしておくと塗りやすい。8.何も荷物を載せない、というのは寂しいので、記録写真で見られるような荷物をウェーブ・エポキシパテで製作。薄く伸ばしたパテを折りたたみ、ナイロン製の水糸で紐を追加した。完全硬化する前に車体に押し付けて、裏側にスタンプしておけば完成後の取り付けも簡単だ。最終的に荷物には弾薬箱やヘルメットも追加している。9.工作が完了した状態。アフターパーツを用いず、キットを最大限に活かして製作している。塗装時の取り回しを考慮して、足周り以外にもOVMや雑具箱も接着していない。

ドラゴンの傑作キットをじっくり丁寧に楽しむ

●マレーを駆けたチハ車

今回はマレー作戦で活躍した九七式中戦車チハを、ということでMONO/ドラゴンのキットを製作しました。2017年の登場時からとても評判の良いキットだったので、今回はアフターパーツを基本的に用いずに持ち味をしっかりと活かして製作しています。また、マレー作戦のチハを再現するため各種書籍から得られる情報を読み取り、ウェザリングの風合いや小物・偽装による演出を重視して仕上げています。

●工作は最小限でOK

前述したとおり、MONO/ドラゴンのチハは大変素晴らしい再現度のキットで、各所の溶接痕やリベット表現は必見。リベットもワンパターンではなく、形状やサイズなど実車に忠実な出来です。起動輪のオイルニップルまで再現されており、追加工作の必要性のないキットです。ただ、どうしてもプラスチックモデルの宿命であるパーツの厚みだけは修整を加えています。フェンダーの薄削りは手軽に出来る工作ですが効果は絶大。一部エッチングパーツを使うキット内容なので、厚みを揃えるという意味でもオススメのひと手間です。今回は塗装の取り回し、特に迷彩の描き込みのことを考えて、足周りや細かいパーツは全て接着せずに作業を進めています。

●塗装と偽装で描く“マレーらしさ”

迷彩塗装はAFV模型の醍醐味の1つ。様々な攻略法はありますが、チハのように小柄な

●急がば回れ クッキリ迷彩は筆塗りが◎







▲1.一部エッチングパーツが用いられているため、フィニッシャーズのマルチプライマーを塗布後、ガイアノーツのGS-04 サーフェイサーエヴォ オキサイドレッドで下地塗装。今回は塗装に水性塗料を用いるため、不慮の事故による塗装剥がれに備えてこの下地色を選択した。なお、予め車体内部をホワイトで塗装している。2.塗装は全てAKインタラクティブのWW2日本陸軍AFVカラー 3Gセットを使用。まずは1色目としてIJA#31茶褐色に少量のRAL7028デュンケルゲルプを加え、エアブラシで塗装。3.以降は全て筆塗りしている。チハのような小柄な車両で、しかもボケ足のない迷彩の場合は筆塗りするほうがスピーディーに完成させられる。まず輪郭線を描き、続いて内側を塗りつぶした。







▲4.同様の手順で3色目も塗装。AKの3Gは筆塗りでもあまり筆目が目立ちにくい塗料で、しかも下地の影響を受けにくい。今回のような輪郭がくっきりした迷彩塗装にはもってこいの塗料だ。5.いよいよ日本陸軍車両の鬼門とも言える「黄帯」の塗装だ。キットには黄帯用のマスキングテープも付属していたが、今回は刷毛塗りした雰囲気を出すために敢えて使用していない。まずはファレホのフラットイエローで大まかに輪郭線を描いていく。6.ここからはAKのリアルカラーマーカーを使用。ペン先が筆ペンになっており、隠ぺい力も申し分ない。今回の黄帯はイエローRAL1003を使用。輪郭線の内側をマーカーで塗りつぶしていく。2～3回ほど塗り重ねるとしっかりと発色してくれた。





高性能な3Gカラーでスムーズな塗装を

◀▲基本塗装に使用したAKインタラクティブのWW2日本陸軍AFVカラー 3Gセット。黒線入りの4色迷彩から大戦後期の3色迷彩までをカバーした計6色セットで、全体的に落ち着いた色調にまとめられている。今回はセット外の3Gカラーを混色し色調を整えて使用している。ベースカラー以外は全て筆塗りで仕上げたが、薄い塗膜でもしっかりと発色し、筆ムラも目立ちにくいため、エアブラシを併用するよりも簡単に仕上げることが出来る。

車両の場合はマスキングして塗装するのはとても手間がかかります。入り組んだ部分の吹き漏れの修正に時間がかかってしまうことを考えると、筆塗りでこれを再現することにしました。塗料は筆塗りでも筆目が目立ちにくいAKインタラクティブの水性塗料である3Gを、若干調色をしながら塗装しています。鬼門の黄帯の塗装では発色と手間のバランスを考慮し、AKリアルカラーマーカーを採用しました。ウェザリングはオーソドックスなマテリアルを中心に、マレー半島で運用されていた様子を再現しています。フィギュアはアルデンヌミニチュアのもので、アジア人らしい造形が気に入っています。

記録写真を見ると、偽装には現地の大型の葉っぱなどを用いている様子が確認できます。今回は紙創り製のレーザーカット素材から、ココヤシの葉やジャングルプラントをチョイスしました。偽装の葉の固定方法は様々で、荷物を固定する紐に挟んだり手摺りに差し込んだり。そうした様子を再現することで、よりマレー作戦らしい空気感が演出できます。葉っぱそれぞれの表情も模型的見栄えを高めてくれるポイントです。ただ、あまりに多く偽装を載せてしまうとせっかく塗った車両が隠れてしまい、それはそれで寂しいところなので……バランスを見ながら理想の姿に近付けられると良いですね。情景ベースがなく単品作品ですが、南国で運用されている雰囲気を感じてもらえれば幸いです！

●ウェザリングは細部までじっくりと

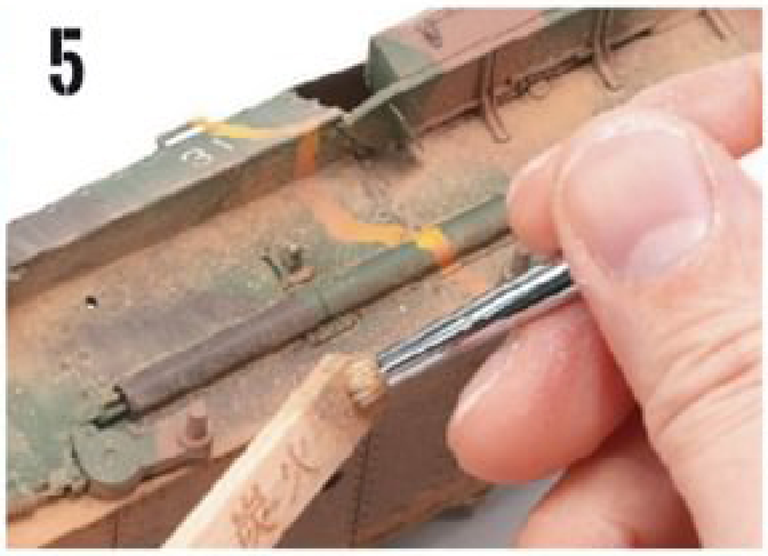






▲1.チッピングは二重チッピングを行なった。まず、車体色の明度を上げた塗料で浅いチッピングを描き込む。面相筆やスポンジなどで表情を変えながら、少し大きめに。次にその内側に、より深いチッピングを描き加える。塗料はファレホの70822ジャーマンカモフラージュブラックブラウンを使用した。2.全体を一旦ピンウォッシュし、ディテールを引き締める。この後の埃汚れなどのウェザリングでディテールがボヤけにくくするため、濃いめの色（今回はMr.ウェザリングカラーのWC02グランドブラウンを使用）で行なう。3.埃汚れの下地として、タミヤカラーアクリル塗料のXF-10 フラットブラウンとXF-57 バフの混色を吹き付ける。塗面をしっかりツヤ消しにするのも狙いの1つだ。







▲4.埃色を塗布した部分を目安に、Mr.ウェザリングカラーで埃汚れを加えていく。WC04 サンディウォッシュ、WC08ラストオレンジ、WC15 ライトグレイッシュの3色を用いて混色し、比率を変えながら一様にならないように塗っていく。5.足周りも同様にMr.ウェザリングカラーで仕上げていくが、こちらはもう少し質感を加えたい。そこで、同じ塗料でスパッタリングし、細かい飛沫を付けるように塗布している。6.埃汚れの仕上げにピグメントを乗せる。VMS スポットオン ピグメントのNo.01 ライトアース ゼロテックスとNo.03 ブラウンアース ゼロテックスを、こちらも混色しながら使用している。ピグメントの固定には、アクリル系うすめ液をスパッタリングの要領で塗布した。スポイトで垂らすとピグメントが流れ落ちてしまうので避けたい。







▲7.履帯はラッカー系塗料を使用。タミヤカラーラッカー塗料のLP-54 ダークアイアンとLP-59 NATOブラウンの混色で塗装した。8.キットの履帯は部分連結式履帯のため、エナメル系ウェザリング塗料は使用できない。そこで、今回はアルコール落としの技法でウェザリングした。まずXF-15フラットフレッシュとXF-68 NATOブラウンの混色を、水とアクリル溶剤で希釈。これをエアブラシで吹き付け、直後にアルコールを筆に含ませて塗面を撫でていく。塗料を洗い流すように筆を動かすと、入り隅に塗料が流れていく。結果、エナメル系塗料でウェザリングしたような効果を得ることが出来た。9.転輪類は基本塗装後にダンボールなどに貼っておくと、作業の取り回しが行ないやすい。







▲10.排気管はハルレッドやフラットブラウンで塗装後、Mr.ウェザリングカラー各色でサビた風合いに仕上げる。最後に、エッジにMr.メタルカラーのMC214ダークアイアンをドライブラシして金属感を演出する。11.車体後部にオイル汚れを加えていく。まずは焦茶色のピグメントを面相筆などの細い筆でピンポイントに配置していく。ここではうすめ液などによる固定はしていない。12.次に、AK インタラクティブのAK084 エンジンオイルを、ピグメントに染み込ませるように塗布する。ピグメントは湿り気を帯びると明度が下がり暗くなる。そこへ、さらに塗料を重ねると徐々にツヤが出てくる。仕上げたい度合いに合わせて調整していく。また、エンジンオイルをスパッタリングしても良いだろう。







▲13.ひとしきりウェザリングが終わると、全体のシルエットがぼやけた印象になってしまう。そこで、最終仕上げに車体のアウトラインをシャープに仕上げていく。グラファイト（ここではAK086ダークスチールを使用）を使い、車体のエッジを擦っていく。エッジを立たせ、さらに車体の金属感の演出も加えていく。14.ぼやけたパネルラインの部分のみ、再度ピンウォッシュする。油絵具のバンダイキブラウンを使って、丁寧に線を描くように塗っていく。15.フィギュアはアルデンヌミニチュアのWWⅡ日本陸軍戦車兵セットを使用。個性的な表情がたまらないフィギュアだ。ちなみに腰から下は車体に隠れてしまうので、時短のためにあまり塗りこんでいない。

ウェザリング完了

◀▼足周りだけではなく、OVMや排気管なども個別に塗装・ウェザリングを施すことで、自然と情報量が増え見所の多い作品となっている。また、チッピングや車体上部の土汚れ、油染みなどはどこに施せば良いのか、的確に示されたお手本のような仕上がりだ。





リアルな偽装は車体への馴染ませ方が重要です







▲1.偽装に用いる植物は、全て和巧の紙創りのレーザーカット素材を用いた。手持ちから今回のマレー戦の雰囲気に合いそうなものをピックアップ。メインにはヤシの葉を、それ以外にも数種類のジャングルらしい小さいものを選択している。2.塗装はタミヤカラーアクリル塗料で行なう。緑はX-28 パークグリーンにXF-4 イエローグリーンを加えたもの、枯れたものはXF-59 デザートイエローとXF-57 バフで塗装した。塗り上がった状態はいかにも作り物、という雰囲気が残ってしまうが、一旦このままで置いておく。3.枯れた葉は、少し穂先に向けて垂れ下がった表情を付けていく。指で軽く曲げていくとそれらしい形になる。場合によっては小さい葉を少し間引いていっても雰囲気が出て良いだろう。







▲4.まだ枯れていない青みのある葉は、少し湾曲させておくと雰囲気が良くなる。紙製の葉なので、筆の柄や指で簡単に曲げ癖を付けられる。5.全体のバランスを見ながら葉を配置していく。配置の場所は記録写真を参考にしながら、シンメトリーにならないように配慮しながら行なう。固定には木工用ボンドが最適だ。6.配置が完了したら、車体に馴染ませるためにMr.ウェザリングカラーや同フィルタ・リキッドで加筆していく。フィルタ・リキッドのWC10 スポットイエローやWC12 フェイスグリーンを塗布すると、葉の色合いに深みが加わり作り物感がなくなる。さらに埃汚れや葉脈部分へのピンウォッシュを行ない、車体との一体感が出るように塗り込んで仕上げる。

九七式中戦車











◀▼車体後部には荷物を積載している。車体各部の偽装は和巧の「紙創り」のものを使用した。緑1色で着色するのではなく、枯れたものやまだ新しいものなど、バリエーションを持たせるとよりリアルに仕上げることが出来る。また、車体へ固定した後に加筆し、車体色やウェザリングと馴染ませることも忘れずに。









馬来(マレー)作戦

上陸～クアラルンプール占領

マレー作戦は大本営の予想を上回るスピードで完遂された電撃的な作戦として、その名が知られている。また、一般的にシンガポール攻略にスポットが当てられることが多く、戦争記録画「山下・パーシバル両司令官会見図」をイメージする人も多いことだろう。そこで今回は敢えてマレー半島への上陸から連邦首都であったクワラルンプール占領までの戦闘経過を、地上部隊中心に解説する。 ■ 解説：酒井勇騎

Photo：Australian War Memorial、GROUND POWER/MODEL ART

●開戦前夜

太平洋戦争初頭に行われた南方作戦は資源の産出地確保を目的としていたが、半島先端に位置するシンガポールは軍事拠点化されており、その攻略は作戦遂行上不可欠であった。しかし、シンガポール海峡側には要塞群が築かれ直接の上陸はリスクが高く、反対にジョホール海峡側の防御は手薄と判断されたため、半島東岸に部隊を上陸させて遠路南下する作戦が立案される。作戦に投入されたのは南方軍麾下の第二十五軍で、近衛、第五、第十八、第五十六師団を基幹としていた。このうち近衛、第五師団は数少ない自動車化師団であり、その他にも野戦重砲、高射砲大隊や鉄道隊、気球中隊などが編入されていた。中でも第三戦車団は南方作戦に投入された唯一の戦車団として戦車第一、第二、第六、第十四連隊で編成されており、仏印に留め置かれた戦車第二連隊を除いた3個連隊（計169両）がマレーで行動することとなる。航空協同は第3飛行集団が担当し、海軍の馬来部隊が船団護衛などを行うこととなった。

近衛師団は仏印から陸路でマレー半島に進入するため作戦当初は第十五軍の指揮下に入り、第五十六師団は開戦時内地で編制中であり後にビルマ方面に充当されている。各部隊の上陸地点はタイ領シンゴラ・パタニ・ターペと英領コタバルが選定され、これらの地点にある飛行場には第3飛行集団が進出してマレー作戦を上空から支援することになっていた。対する英軍側も緊迫する情勢から日本軍に対する作戦を計画しており、これは上陸が予想される南タイ東岸に進軍し防備を固めるというもので、マタドール作戦と呼称された。

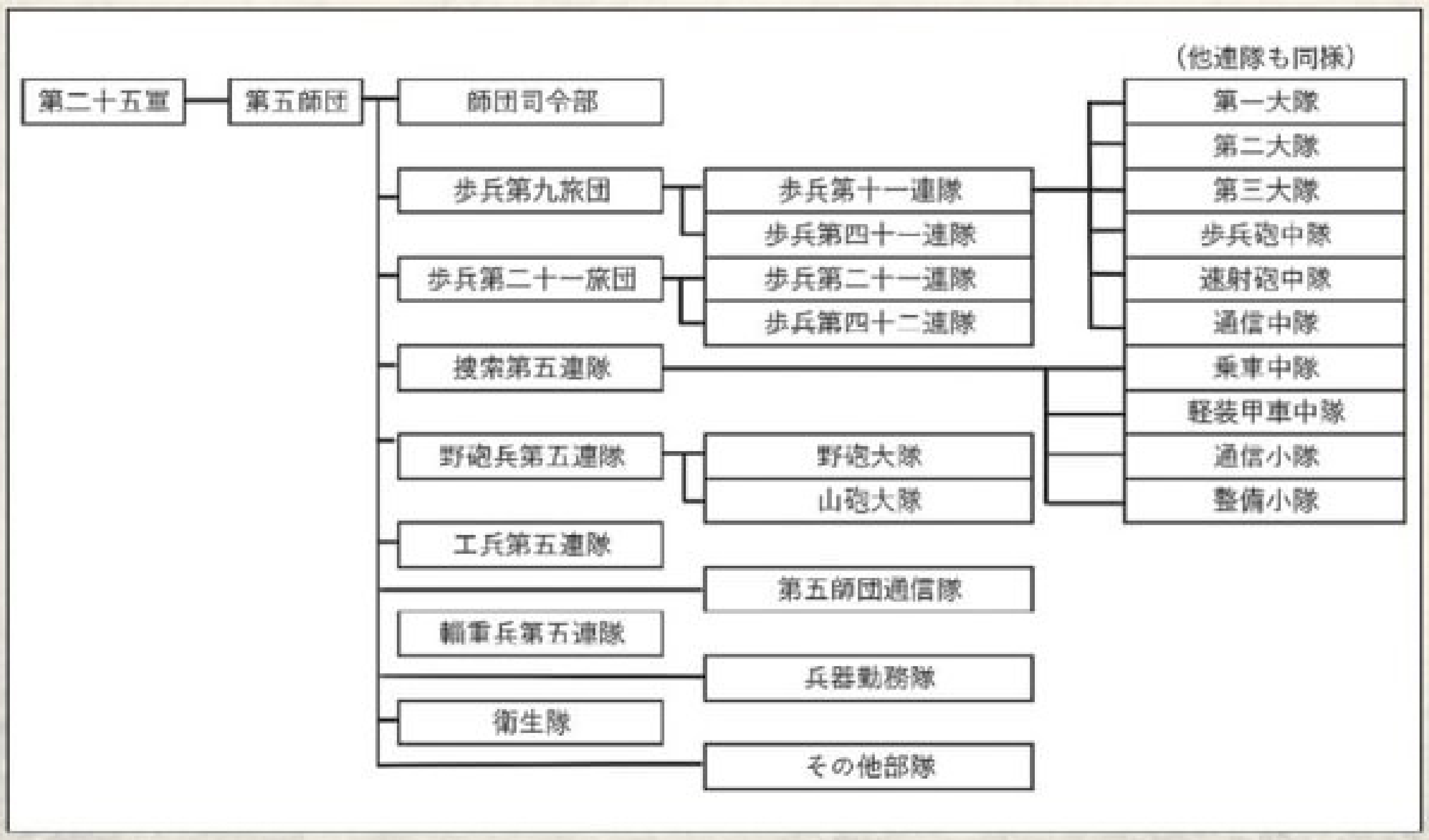
●侘美支隊

12月2日、参謀総長杉山元大将より発せられた「ヒノデハヤマガタ」(開戦日は8日という意味）の電報を南方軍は受領し、第二十五軍先遣兵団（第五師団基幹）を乗せた船団はマレー半島を目指して海南島を出撃した。マレー作戦は海軍の真珠湾攻撃に先立って行われ、8日に第十八師団歩兵第五十六連隊基幹の侘美支隊がコタバルへ、第五師団主力がシンゴラへ、歩兵第四十二連隊基幹の安藤支隊がパタニ・ターペに上陸した。各部隊とも波浪に苦戦しつつも輸送船から舟艇に移乗して海岸を目指すも、シンゴラとパタニ・ターペではタイ首相との平和進駐交渉が計画どおりに進展しなかったためにタイ軍との間で戦闘が行われる。その後、交渉の成立によって武装解除となり飛行場や港湾施設などを占領した。





▲シンゴラに上陸した第5師団主力部隊。タイ軍や英軍機械化部隊との戦闘があるもこれを制し、進軍の足掛かりとした。コタバルに上陸した侘美支隊は英軍による苛烈な抵抗を受けた。



第5師団 編成表

◀第五師団は広島鎮台を母体とし、1888年に編成された。成歓の戦いや平壌攻略戦（日清戦争）、奉天会戦（日露戦争）など、名だたる戦場で活躍し、1937年に日中戦争が勃発すると、支那駐屯軍隷下となり華北に出動。チャハル作戦や太原攻略戦、徐州会戦などに参加した。その後、第二十二軍に編入され、北部仏印進駐の主力となった。これらの戦勲により、精鋭部隊と見られていた第五師団は、1940年11月30日発令の軍令甲第五七号※にて馬匹編成を自動車化編成に改制している。これは新戦地たるマレーを見越したものであり、上陸訓練の後、1941年11月6日に南方軍隷下の第二十五軍に編入された。

※近衛・第五・第六・第四十八師団、独立混成旅団竝関係留守部隊等臨時編成（令甲第五七号）
第四十八師団(独立混成第二十旅団)の臨時動員と近衛・第五・第六師団の編制改正を主とし、関連部隊を復員、復帰するもの。

一方でコタバルには鉄条網やトーチカなどの水際陣地が設けられており、英軍から激しい攻撃を受けた。上陸地点はパーマト河の河口にあたり、大小の中洲が連なる複雑な地形であった。第一次上陸部隊は第三大隊を左第一線、第一大隊を右第一線部隊として上陸したものの、砲撃を受けて沈没する舟艇や外れた地点に上陸する中隊などもあり混乱が生じた（※）。また、コタバル・クワンタン飛行場より飛来した敵機の攻撃を受けて揚陸作業中の輸送船は次々と被弾してしまう。続く第二次上陸部隊は那須連隊長率いる連隊本部及び第一次上陸部隊残部で、連隊本部は第三大隊正面に上陸したがそこは中洲地帯であった。

そのため、工兵分隊の折畳船を使用して渡河前進を開始する。第一大隊も後続の第四中隊や機関銃小隊と共に敵の砲火を侵しつつ前進した。その後、第二回上陸部隊として侘美支隊長や第二大隊なども上陸し、支隊長は周辺の部隊の指揮を執っている。中洲を前進した那須連隊長も掌握している部隊をもって飛行場への攻撃を開始。東側に第二大隊第六、第七中隊が、西側に第3大隊第9、第10、第十一中隊が突入し占領するに至った。9日には第三大隊がコタバル市街を占領し、連隊主力は英軍の退路遮断を行なっている。コタバル上陸戦では約700名の死傷者を出したものの、この功績により侘美支隊と協力部隊に対して南方軍総司令官の寺内寿一大将より感状が送られた。

侘美支隊はその後半島の東海岸沿いを南下し、クワンタンの市街及び飛行場を占領している。

●第五師団主力

マレー半島はその大部分を密林に覆われており、半島中央の山脈からは多くの河川が流れている。もしこれらに架かる橋梁が英軍に破壊された場合、部隊の進行が遅れて英軍に防衛体制を整える時間を与えることになる。そのため、橋梁の確保は重要事項とされ、特に西海岸側最大の河川であるペラク河に架かる橋梁は第二十五軍作戦計画の第一期目標とされた。このため第五師団主力と安藤支隊は上陸後、ペラク河への迅速な進攻が求められていた。

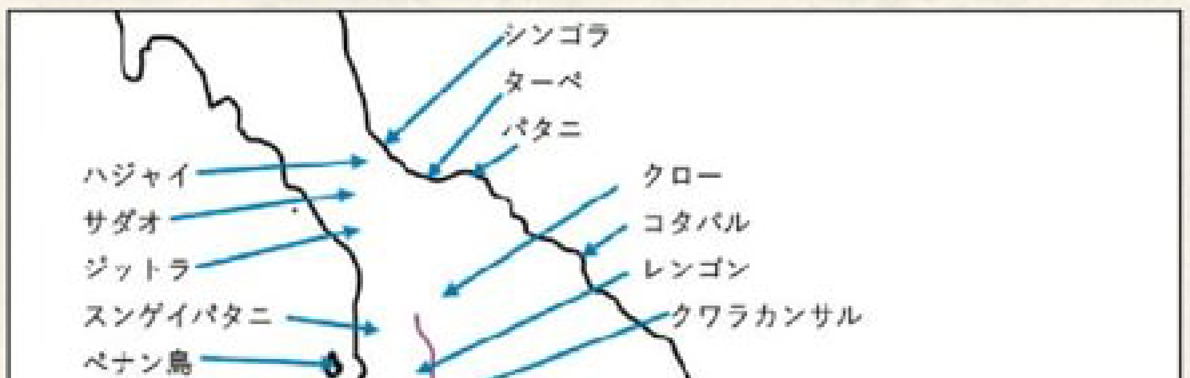
シンゴラに上陸した第五師団主力はペラク河を目指し市川支隊を前進させるも、タイ軍の攻撃により断念する。一方で佐伯部隊（捜索第五連隊基幹）はタイ軍と交戦しつつもハジャイへ進出して周辺の占領と資材の確保を果たし、その後もサダオへ前進して英機械化部隊に夜襲を仕掛けて国境付近の確保に成功する。10日に佐伯部隊は戦車第一連隊第三中隊（九七式中戦車10両・九五式軽戦車2両）や山砲一個中隊などが加えられて佐伯挺身隊となり、ペラク河への突進が命じられる。その進行方向にはジットラ・ラインが構築されていた。これはジットラ及びアロルスター以南の飛行場を防御する為に英軍が構築した陣地で、進攻する日本軍の足止めに期待が掛けられていた。しかし、その実態はマタドール作戦の準備のための労働力不足により完成には程遠い状況であった。

佐伯挺身隊は戦車中隊を先頭にスコールの中を前進するも、ジットラ北方6㎞にあるアースンで英機械化部隊と不意に遭遇する。英軍は雨除けのために火砲から離れていたため対応が遅れ、佐伯挺身隊は大した抵抗も受けずにこれを突破した。以降も英軍の攻撃や湿地帯に苦戦しつつ前進し、12日にジットラ北方1.5㎞において敵火砲の集中砲火を受ける。第一中隊が夜襲を敢行し東側陣地の一部占領に成功するも、中隊長以下多数の死傷者が出たため第二中隊も追加。また佐伯挺身隊を追及していた歩兵第四十一連隊の配属砲兵1個連隊（九〇式野砲）と第二大隊も逐次到着し、戦闘は激しさを増すも徐々に敵陣地を圧迫していく。そして河村少将率いる第九旅団も到着し、歩兵第四十一連隊主力を東側、歩兵第十一連隊主力を西側に投入しようと準備していたところ英軍は退却をしていった。こうしてジットラ・ラインはわずか一昼夜で突破されたのであった。

その後も第五師団の前進は進み、13日アロルスター、16日スンゲイパタニ、19日ペナン島、23日にタイピンを占領した。特にペナン島は北部マレーの要衝とされており、頑強な抵抗が予想されていたものの、実際に上陸してみると英軍は撤退後であった。この頃、第二次マレー上陸部隊として先遣諸部隊残部や戦車第六連隊も上陸を果たし前線に逐次

マレー半島略図及び作戦経過概略図

マレー半島はユーラシア大陸の東南端に位置する半島で、南北に細長く、約1,100㎞の長さを持つ。半島の中央にはテナッセリム丘陵と呼ばれる山地が広がっており、天然ゴムや石炭、原油、スズなどの産地として知られる。南方作戦の目標は、香港、シンガポール、マニラの重要軍事拠点を覆滅して東亜における英米勢力を一掃すると共に、国力造成上の見地からスマトラ、ジャワ、ボルネオ、セレベス、マレーなどの重要資源地帯を攻略確保することであった。





※艦船模型スペシャルNo.99にてコタバル上陸と上陸時に喪失した「淡路山丸」について記事を展開。
海軍視点から見たコタバル上陸作戦の解説に加え、輸送船「淡路山丸」の作例記事を掲載している。





◀進軍は英軍の撤退と共に破壊された橋を直しつつ行なわれた。師団工兵隊と独立工兵4個連隊がマレー作戦に参加していた。半島を縦断する間に250もの仮橋を架け、作戦の遂行に貢献した。また、マレー半島西海岸沿いに展開した水上機動、ジョホール水道の渡河など、工兵隊は作戦遂行において必要不可欠な存在であった。



▲7.7㎜車載機銃を装備した九七式軽装甲車。ヤシの葉などで偽装が施されている。軽快な機動力を活かした威力偵察をはじめ、装甲戦力の一端を担った。





▲マレー作戦には当時の日本軍としては高度に機械化された精鋭部隊が投入された。しかし、鬱蒼としたジャングルや泥濘湿地、急峻な斜面などが延々と続く戦地では、車両や駄馬が侵入できない箇所も多く、野砲や機材の人力輸送が頻繁に行なわれた。特に、分解・組み立てが容易で、山地での運用がしやすい四一式山砲などが活躍し、多大な戦果を上げている。

到着していた。第五師団はこれらの部隊も加えつつ、ペラク河橋梁確保のためにセラマ〜タイピン〜クワラカンサルへの前進を命じたものの、河川に架かる多くの橋梁は撤退する英軍によって爆破されていたためその速度は振るわず、23日にペラク河橋梁は爆破されてしまった。なお上陸からペラク河までの道中で英軍に破壊された橋梁は、第五師団・安藤支隊双方で70カ所以上にもなる。

●安藤支隊

パタニ・ターペに上陸した安藤支隊は主力の揚陸を待たずに第一大隊をもって速やかに国境付近への進撃を開始した。第二大隊は揚陸業の進捗に合わせて追及し合流している。ターペに上陸した第三大隊も支隊主力方面に転進した。支隊は英軍と戦闘を交えつつ南下し、15日には国境線を通過して英領内へ進入し、クロウでは撤退後の英国境守備隊駐屯地で放棄された物資を接収している。支隊はその後グリグに進攻するも、友軍機より『英軍がクワラカンサルからレンゴンに向けて北上中』との情報が入ったため南下を急ぎ、21日にレンゴン南地区で接敵した。支隊は第2大隊を道沿いに、第一大隊と山砲大隊を林の中に進軍させて攻撃を行い、第二大隊は第一線を突破し後方陣地へと迫り、第一大隊も攻撃を続けた結果英軍は退却していった。支隊は負傷者救護や部隊整理を行ったうえで進撃を再開したものの、ペラク河まで残りわずかなところで橋梁は爆破されてしまった。このため舟艇での渡河を余儀なくされた安藤支隊は渡河の準備を行い、その後第五師団が到着したことにより師団に復帰した。

●クアラルンプール陥落

ペラク河橋梁は破壊されたものの、ひとまず同地までのルート確保により次なる目標はクアラルンプールとなった。また、第十五軍の指揮下にあった近衛師団も南方軍命令によって第二十五軍に復帰しており、タイからマレー半島に進入して逐次集結しつつあった。これにより近衛師団はクワラカンサル方面からペラク河を渡河、29日にイポーを占領し主力の集結を図る。第五師団もブランジャ方面から渡河し河村部隊(歩兵第四十一連隊基幹)は英軍を追撃するも、ゴペン〜カンパルにおいて上陸以来最も激しい抵抗に遭う。

一方、渡辺支隊（歩兵第十一連隊基幹）はルムトより海路を南下していた。これは小発や小型汽船など計60隻以上を用いた大規模なものであり、クアラルンプール戦の退路遮断を目的としていた。しかし、前述のとおり第五師団がカンパルで足止めを受けたため上陸地点が変更となるが、一部に命令が伝わらず混乱が生じる。その後も命令の変更が繰り返されるなどの錯綜が続いたが、渡辺支隊の海上機動により側面を脅かされた英軍はカンパルからの撤退を始めた。

1月5日、河村部隊を超越した歩兵第四十二連隊はスンカイに進出。さらに南進を開始するもトロラック手前で攻撃を受ける。英軍はトロラックからスリムにかけての一帯に2個旅団を配置して防備を固めていた。そのため麾下の2個中隊に左右から密林の啓開前進を命じて、連隊主力は正面攻撃の準備を行なった。しかしトロラックより先の敵情が不明で配置された障害物も破壊できなかったため、島田豊作少佐率いる戦車第六連隊第一、第四中隊（九七式中戦車15両、九五式軽戦車3両）を先頭に黎明攻撃を敢行することとなった。7日午前5時、敵弾の中を戦車は砲撃しつつ前進し、その後ろに隠れるように歩、工兵が追随してトロラックに突入した。そし

て啓開を行なっていた中隊も英軍を包囲する形となっていたため、島田少佐は歩兵工兵に現在地の固守を命じて戦車隊単独でスリムへの突進を決意。勢いそのままに砲兵陣地や司令部を急襲し、全縦深30kmをわずか一昼夜で突破した。この戦いは歩戦砲工一体の急襲戦であり、英軍に対して殲滅的打撃を与えた。

11日、歩兵第十一連隊がクアラルンプールに突入するも既に英軍は撤退後で大きな抵抗もなくこれを占領する。またこの頃シンゴラに第二十一旅団が上陸、半島を南下しておりその到着が待たれていた。退却した英軍はゲマス〜ムアルとバトパパト〜クルアンに抵抗線を設けており、その先はジョホール水道であった。クアラルンプール以南は比較的開けて道路網も発達していたため、第五師団と近衛師団を並行させる計画が立てられるも、上陸以来前進を続けていた第五師団はここで休養を取ることとなる。そのため向田支隊(戦車第一連隊基幹)が編成され追撃を行うがゲマス西方において英軍の攻撃により瞬時に130人以上の死傷者を出してしまう。このため軍は第五師団に前進を命じて向田支隊をその指揮下に入れた。その後、先遣隊として派遣された歩兵第四十一連隊第二大隊が合流するとゲマスに対して薄暮攻撃を行い占領した。海側を進撃した近衛師団もバクリ〜バリットスロンにかけて損害を出しつつも英軍を撃退しており、この時バクリ付近において、戦車第十四連隊第二中隊は敵の障害物に阻まれたところを対戦車砲で攻撃され軽戦車1個中隊(九五式軽戦車)9両中8両が撃破されている。また近衛師団も歩兵第四連隊第一大隊を海上機動させて英軍へ圧力をかけた。

1月31日に日本軍はシンガポール対岸のジョホールバルに辿り着き、2月8日にはジョホール水道を渡河してのシンガポール攻略戦が始まる。各師団は島の西側から上陸し11日にはブキテマ高地を占領するも、英軍の抵抗は激しく一時は弾薬の欠乏が憂慮された。しかし送水管が破壊されて市街への給水が停止すると英軍は降伏。15日に第二十五軍司令官山下奉文中将とマレー軍司令官パーシバル中将の会談を行われたことにより、マレー作戦は終了した。

マレー作戦は70日という短期間で終了し、その移動距離は実に1,100kmにも達する。日本軍は熱帯の環境や英軍と戦いつつも前進を続け、自軍よりも兵力の勝る英軍を圧倒した。反対に英軍の作戦指導は消極的なところがあり、マタドール作戦もタイ領への進軍という外交上の問題のために発動が後手に回り、事実上の不発に終わった。これらの要因が重なってマレー作戦は成功したと言える。

参考文献

・戦史叢書 マレー進攻作戦(朝雲新聞)
・戦史叢書 比島・マレー方面海軍進攻作戦(朝雲新聞)
・戦史叢書 陸軍軍戦備(朝雲新聞)
・マレー作戦:第二次世界大戦史(陸戦史集 2)(原書房)
・マレー進攻航空作戦 1941-1942(芙蓉書房出版)
・日本の機甲六十年(機甲会)
・歴史群像太平洋戦争シリーズ 陸軍機甲部隊(学研)
・歴史群像 No.170




◀バクリでの戦闘を記録した一連の写真。左:オーストラリア帝国軍(AIF)第8師団第4対戦車連隊の2ポンド対戦車砲により撃破された九五式軽戦車。右:砲を操作するチャールズ・ジェームズ・パーソンズ軍曹と砲手(レナード・エドワード・クーツ、ケン・ダニエルズ)。この戦闘で喪失した九五式軽戦車のうち、6両を撃破し殊勲行動章(DCM)を受勲した。写真奥に左の九五式軽戦車が確認できる。



◀シンガポール以外のマレー半島におけるイギリス軍の防備は手薄であった。しかし、広大なマレー半島の鬱蒼たるジャングルとゴム林や大小約250本の河川により、容易に日本軍の進撃を阻止できると考えられていた。当時の英軍の装甲車両はユニバーサル・キャリアーなどの装甲車がほとんどだった。





▲上段左:徒歩で渡河し進軍する日本兵。上段右:ゲマス近郊にて。オーストラリア軍は南下する日本軍を待ち伏せし、ゲメンチェ橋を爆破。以降2日間に亘り戦闘が行われた。下段:クアラルンプールでの市街地戦。英軍の撤退により大きな抵抗なく占領した。




▲左:マラヤ軍司令官A.E.パーシバル中将(右)と、マラヤ駐屯第8オーストラリア師団司令官H.G.ベネット少将(左)。左:第二十五軍司令官 山下奉文中将(中央)が占領地を視察している。左は参謀長 鈴木中将、右は海軍連絡将校の永井参謀。

九七式軽装甲車
“テケ”



■ ファインモールド1/35 九七式軽装甲車［テケ］
■ 製作・文：高菜紅茶

マレー作戦序盤の激戦として知られるジットラインの突破は、捜索第五連隊を基幹とした佐伯伊挺身隊が中心となり達成された。騎兵連隊を前身とする捜索連隊に相応しい迅速果敢の攻撃は後の進軍に弾みを付け、マレー作戦の語り草となった。ここでは密林を進む姿をイメージし、コンパクトなヴィネットを製作した。

小改修+ヴィネットで引き出す
名作キットの真価



●稀代のタンケッテ テケ車

テケ車というと、丸い頭にコンパクトな車体の､コロッとした可愛らしいイメージ｡しかし､小型乗用車並みの車格に軽戦車クラスの主砲を備え、騎兵連隊の機械化に大きく貢献した、れっきとした鉄獅子の1つであります。今回は、そんなテケ車でヴィネットを製作しました。

●組み立て

本キットはファインモールドの名作キットで、テケ車のキットとして唯一無二の存在です。機銃装備型と37㎜砲装備型を選択可能で、実感的なインテリアパーツや連結組み立て式の履帯、要所を押さえたエッチングパーツなど充実のキット内容となっております。

組み立てに際し、大きな問題はありませんが、気になった箇所のみピンポイントで手を入れています。改修ポイントは以下のとおりです。

①フェンダー側面や砲塔ハッチのステー、ナンバープレートなどの厚みが気になる箇所はパーツ形状に合わせ、薄く削り込んだり、プラ材に置き換えたりしてシャープ化。

②尾灯をクリアー化するため、キットパーツをモーターツールで彫り込み、径を広げておく。

③成型の都合上、形が崩れてしまっているリベットが散見されるので、ランナータグ裏のリベットモールドに置き換え。

④蝶ネジはエッチングパーツで用意されているが、より立体感のある汎用3Dプリントパーツに変更。

キットのままでも十分な完成度ですが、ちょっと手を入れてあげるとさらに化けるというわけです。また、今回はヴィネットとするため、ベースの起伏に合わせて履帯とサスペンションに動きを付けています。ちなみに、付属のエッチングパーツは硬めのステンレス製なので、焼きなまし推奨。こんがりといきましょう。

フィギュアはファインモールドの「1/35帝国陸軍戦車兵セット（品番:FM22）」をベー



ジットラの堅陣を穿貫せよ ／ 捜索第五連隊基幹 佐伯挺身隊

①


②


③


④


⑤

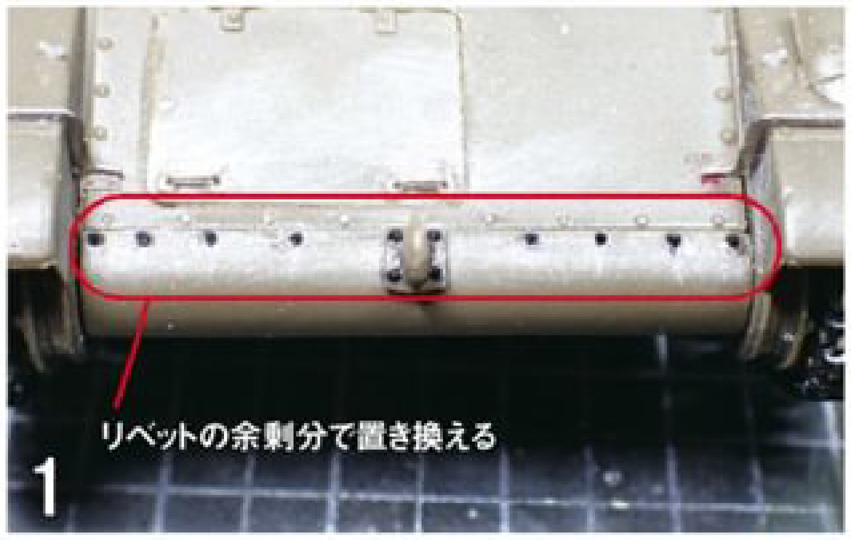

▲捜索第五連隊は騎兵第五連隊を前身とし、昭和15年7月捜索連隊に改編。11月30日発令の軍令甲第57号にて馬匹編成を自動車化編成に改制した。マレー作戦時は、軽装甲車2個中隊（九七式軽装甲車8両）、乗車歩兵2個中隊を有していた。昭和16年12月8日にタイ領シンゴラへ上陸し、騎兵第五連隊基幹の佐伯部隊を編成。タイ領サダオにて英軍機械化部隊と遭遇するもこれを下し、同地を占領する。10日には戦車第一連第三中隊（九七式中戦車10両、九五式軽戦車2両）、野砲兵第五連隊第九中隊（自動車編成）、工兵第五連隊一小隊、師団無線1分隊、衛生隊の一部が配属され佐伯挺身隊を編成。敵中突破しペラク河までの突進を命じられる。以降の顛末は24頁からの解説記事のとおりである。ここでは、佐伯静夫大佐の考案した錐もみ戦法について述べたい。これは捜索連隊独自の国境陣地突破戦法として研究されたもので、『装甲車2個中隊を先頭に乗車2個中隊（自動車化歩兵）を追従させる。国境の道路沿いにあると思われるトーチカは破甲爆雷などを投げ込み無力化させ、その間も敵陣深くまでひたすらに突っ走る』というものであった。これを基に、国境からほど近いチャルン、アースン、ジットラへと連なる陣地突破において『砲・歩兵によって突破口を作り、そこへ戦車隊を先頭にした（頭を固くした）挺身隊を突進せしめる』という作戦が採用され、見事成功させた。ジットラライン突破にあたり、挺身隊の意思を徹底させるため訓示した、「今後の突進にあたっては、一車が止まれば一車を捨て、二車が止まれば二車を捨て、友軍であろうが敵であろうが乗り越え踏み越え、突進できなくなるまでただ突進せよ・・・」の言葉は部隊の勇名と共に今日まで語り継がれている。①～③はマレー作戦中に撮影された写真。①②は共に街道沿いを侵攻する軽装甲車部隊。37㎜砲搭載車は小隊長車、その他は機銃搭載車といった編成が多かったようである。③は道路沿いに駐車し、整備を受ける九七式軽装甲車。④クエリンゼンにて撃破された機銃搭載車。⑤はナウル島にて豪軍に鹵獲された車両。

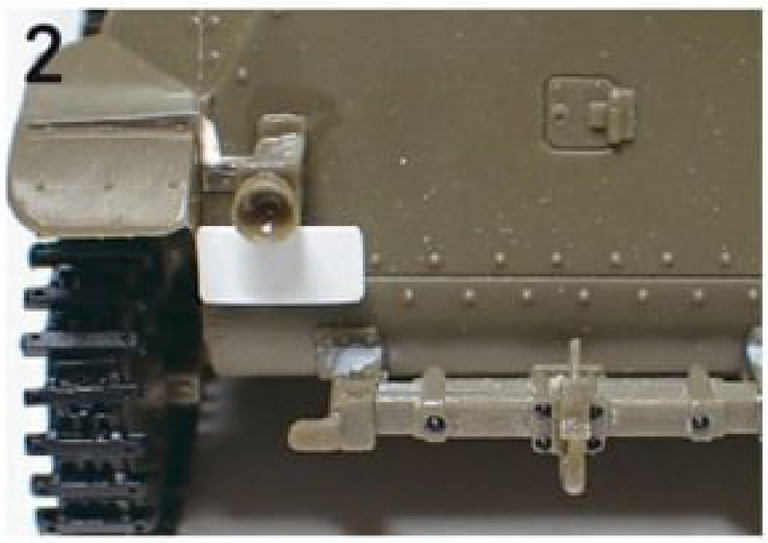
Photo：Australian War Memorial



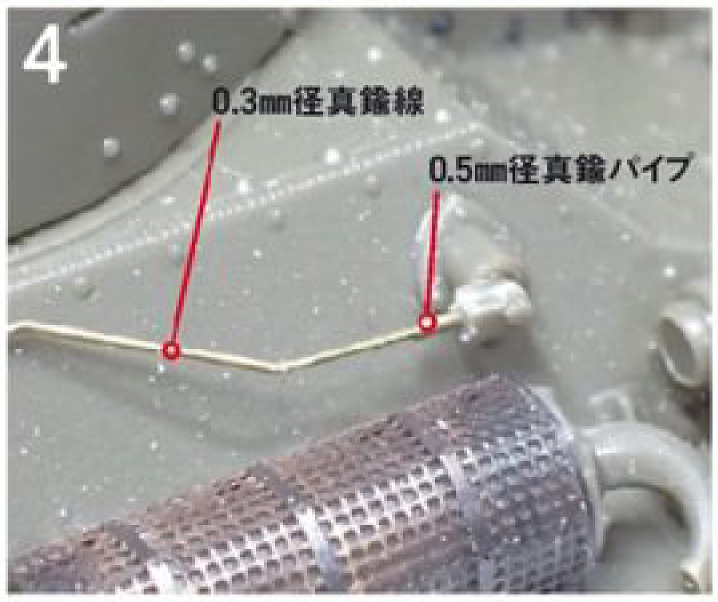


簡単な工作で良キットを引き立てる













▲1.キットには成型の都合上省略されたリベットを再現するため、ランナータグの裏にリベットモールド（S/L）が彫刻されている。キット指定の個数よりも多めに用意されているので、一部リベットをこれに置き換えている。2.尾灯は後程レンズパーツを嵌め込むため、モーターツールで彫り増しした。また、ナンバープレートの厚みが気になったので、0.2㎜厚のプラペーパーで作り直している。3.駐退機カバー上部の尖角ボルトも省略されているため、六角プラ棒を伸ばしランナーの要領で細く伸ばしてそれらしく再現した。4.説明書にはアンテナを0.6㎜径の真鍮線で製作すると指示されているが、よりシャープにしたかったので0.3㎜径の真鍮線と0.5㎜径の真鍮パイプで製作した。5.砲塔ハッチは接着シロが少なく強度的に不安だったため、0.3㎜径の真鍮線で軸打ちをした。また、ハッチ裏には押し出しピン跡があるが、ディテールに跨った形となっているためGemoのUV硬化パテを使用して修整している。6.ハッチのステーはプラパーツでも用意されているが、厚みが気になったため、0.2㎜厚のプラペーパーでそれらしく作り直した。

スに製作しました。頭部と手は他のキットから流用し、エポキシパテでの造形でポージングなどを変更しています。また、シャープな印象になるよう、キットのモールドを彫り込んだり、プラ材に置き換えたりしています。

●塗装について

マレー作戦に参加したテケ車といえば、やはり捜索第五連隊ですね。具体的な迷彩パターンや部隊マークなどは、はっきりと特定できなかったため、今回はマーキングなしの前期迷彩塗装１本で勝負です。

塗装にはGSIクレオスのMr.カラー 日本陸軍戦車前期迷彩色を使用しました。C526 茶色→C525 緑色→C522 土地色の順に塗装し、主砲と砲架、ハッチ内部などをC527 陸軍カーキで塗り分けています。黄帯はタミヤカラーエナメル塗料のXF-3 フラットイエローをエアブラシで吹き付け、ボケ足をエナメル溶剤で拭き取って再現しました。暗めの下地でも綺麗に発色し、修整が非常に簡単なのでオススメであります。

ウェザリングは作戦序盤の姿をイメージしてチッピングやサビなどは控えめに、土汚れメインで進めました。

●ベースの製作

台座は丁度良いサイズのものがなかったため、プラ材で構築しました。2㎜厚プラバンを天板とし、5㎜厚プラ棒を重ねて厚みを持たせます。側面の継ぎ目はポリエステルパテで均し木目調に塗装しています。立ち上がり部分は糊付きのスチレンボードを積層し、周囲を0.5㎜厚プラバンで覆って製作しました。その後、ベースに石粉粘土を盛り、Mr.ウェザリングペーストにモーリンのリアルサンドやスタティックグラス、石膏を固めた砂利などを混ぜて塗布し地面の基礎は完成です。

地面が大まかに出来たら車両を固定し、全体の色調を整えます。最後に、落ち葉や枯れ木、枯草などを追加し、和巧の紙創りシリーズの「ジャングルA、B（品番：A-22A、A-22B）」や「シダ類（品番：A-9）」などでマレーの植生を再現して完成です。

ウェザリングは作戦序盤をイメージしアッサリ気味に













▲1.塗装にはMr.カラーの日本陸軍戦車前期迷彩色各色を使用した。C526→C525→C522の順に塗装し、最後に砲身、砲架やハッチ内部、OVMをC527で塗り分けた。黄帯はエナメル塗料のXF-3をエアブラシで帯状に吹き付け、ボケ足を溶剤で拭き取って再現した。2,3.ヘアスプレー技法を用いて土汚れの下地を作る。はじめに足周りやフェンダーなどを中心にヘアスプレーを吹き付け、タミヤカラーアクリル塗料のXF-52 フラットアースを吹き重ねる。乾燥後に水を含ませた筆で塗膜を剥がして完了。4,5.次にボリューム感のある土汚れを加える。Mr.ウェザリングペーストのWP01 マッドブラウンとWP02 マッドホワイトを混ぜて色味を調整し、モーリンのリアルサンドを加えたものを塗布する。6割ほど乾燥させた後、ペーストの縁を溶剤でぼかし、周囲と馴染ませている。最後に油絵具のバーントアンバーなどでオイル汚れを追加する。6.車体側の仕上げ工程。油絵具のマルスブラック＋バーントアンバーで車体角やボルトの先端にドライブラシを施す。適度なヤレ感を演出すると共に、土埃でぼやけたシルエットを引き締めることが出来る。やり過ぎると真っ黒になってしまうため、ポイントを絞って行なうと良い。

偽装を施して実感UP







▲1.エポキシパテで荷物を作る。写真では分かりにくいが、複数個の荷物をシートで包んだようなイメージで造形した。荷物を固定するロープは0.3㎜径の糸鉛を使用した。パテはMr.エポパPRO-Hエポキシパテ《高密度／高接着タイプ》を使用。硬化時間が3～4時間と短いため急ぎの作業に重宝する。2,3.荷物を塗装したら偽装を取り付ける。「紙創り」のヤシの葉などを中心にバランスを見ながら配置する。接着は木工用ボンドなどがオススメ。今回は刈り取ったばかりの葉をイメージして青々とした色味に着色している。





▲▶記録写真を観察すると、車両のシルエットを隠すように大きめのヤシの葉を偽装に使用している姿が多く見受けられるが、模型的には車両をしっかりと見せたいもの。今回は荷物の上や排気管の周辺などに少量配置した。









◀▲ベースは2㎜厚のプラバンを天板とし、5㎜角のプラ棒を３層分積み重ねて厚みを付けた。継ぎ目をポリエステルパテで均し、木目調の塗装を施して仕上げている。立ち上がり部分は、糊付きのスチレンボードを土台に製作。周囲を0.5㎜厚のプラバンで覆って化粧板とし、石粉粘土で地面の基礎を作る。粘土の乾燥後に出たヒビやヒケはエポキシパテで修整しておく。その後、Mr.ウェザリングペーストにリアルサンドやスタティックグラスを混ぜたもので細かなテクスチャを付け、ペーパータオルで製作した落ち葉を配置する。この時に、車両がベースから浮いてしまわないように、履帯とベースの隙間を埋めておく。また、車両のウェザリングにはベースと同様の色を使用すると一体感が生まれる。ちなみにベースに刺した爪楊枝は植物を植える箇所の目印。

フィギュアは弄ってナンボです







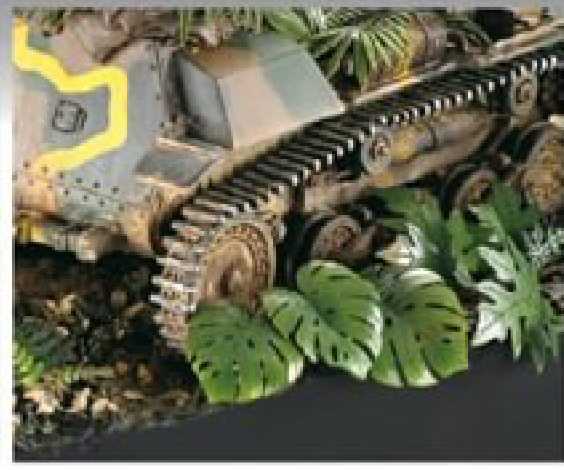


◀今回はファインモールド1/35 帝国陸軍戦車兵セット内のB.熱帯地用被服をベースにフィギュアを製作した。一旦腰のあたりで切断し、少し体を捻ったポーズに変更。手は手持ちのキットから丁度良いものを流用。胴体と手を真鍮線で繋ぎ、エポキシパテで腕を製作する。一度に全体を造形するのではなく、腕（肌部分）→袖→折り返し部分と段階を踏んで作業すると良い。頭部はタミヤ1/35 日本陸軍将校セットより流用した。塗装はB＆W法で白黒の下地を作り、肌や被服色をザックリと吹き付け、タミヤカラーエナメル塗料各種で仕上げている。襟章のデカールを貼り付けた後、全体のツヤを調整し完成だ。









◀▲マレーの植生を完全に再現！…とはいかないが、「紙創り」のジャングルセット各種を使用してそれらしく製作した。ジャングルから開けた街道沿いへ出る直前といったシチュエーションだ。①のクワズイモはサトイモ科の多年草で、熱帯・亜熱帯地域に広く分布する。低地の森林では林床（森林の中の地表面）を覆うことがあるため、ある程度密集した形で配置した。②のシュロはヤシ科の樹木。今回は若木として採用。平坦なベースに高低差を付けるのにも有用だ。③のモンステラはサトイモ科ホウライショウ属のツル性植物で、大木に絡み付きながら繁殖する。直射日光を嫌うとのことでシュロの根本を中心に植えてみた。④空いた部分にはシダなどの下生えを植えている。セット内の植物を組み合わせてそれらしく配置したい。

第五捜索連隊

九七式軽装甲車

昭和16年 馬来半島

捜索連隊とは戦闘斥候を任務とする機動偵察部隊で、旧来の騎兵連隊を改編または別個に新設し、各師団隷下に設置された。整備された捜索連隊は、編制内に装甲戦闘車両と自動車化歩兵を有しており、諸兵科連合として師団主力から独立して運用されることもあった。



■ ファインモールド 1/35 帝国陸軍 八九式中戦車 乙型（荷物搭載）
■ 製作・文：ヤタガラス



訂正とお詫び：誌面では八九式中戦車乙型（ディーゼルエンジン車）を題材に記事を展開しておりますが、比島攻略作戦に参加した車両は全て八九式中戦車甲型（ガソリンエンジン車）です。これに伴いまして、正しい使用キットはファインモールド 1/35 帝国陸軍 八九式中戦車 甲型となります。



日本戦車 迷彩塗装 再検討

B&W法を駆使し 陰影に富んだ仕上がりを目指す

八九式中戦車は歩兵直協性能と機動力を両立した戦車で、戦間期に各国で開発された戦車の中でも随一の完成度を誇った。しかし、後の戦車開発競争に着いていくことが出来ず、ノモンハン事件や比島攻略作戦では苦戦を強いられた。ここでは日本戦車の礎となった本車両を題材に、日本戦車の迷彩塗装の再現について再考する。迷彩塗装では活用の難しいB&W法を用い、メリハリのある表情に富んだ仕上がりに挑戦した。

●八九式 待望の乙型です

今回はファインモールド1/35八九式中戦車 乙型を題材に、エアブラシ塗装での迷彩塗装を考察してみます。ベースは初出から10数年が経過しましたが、組み立てやすくシャープなモールドを堪能できる素晴らしいキットなのは今でも変わりません。

組み立ては説明書に従い、ゲート処理さえ丁寧に行えば全く問題なく進みます。仮組みした後、流し込み接着剤で接着すれば効率的に組み立てられるでしょう。今回は履帯をモデルカステン製の可動履帯に交換した以外はストレートに仕上げています。尾橇は見える所に押し出しピン跡があるので処理を忘れずに。また、尾橇は塗装後に接着するようにすると塗装が楽になります。

●B&W法

今回はB&W法(ブラックアンドホワイト法)を駆使し、日本陸軍前期迷彩塗装を仕上げていきます。はじめに、B&W法のベース色とサーフェイサーでの表面処理を兼ねて、ブラックサーフェイサーを全体に塗装します。この後、グレー、ホワイトと重ね塗りをして面ごとにメリハリを付けるように仕上げ、タミヤカラーエナメル塗料のXF-1 フラットブラックでスミ入れし、リベットなどハイライト部にXF-2 フラットホワイトを筆で加えて下地としています。下地塗装の時点で、明暗のコントラストが満足いかない場合は何度でもやり直しがきくのがB&W法の利点です。イラストでいうところの下描きに位置する工程なので、この時点で満足できるまで調整するのがコツです。また、全てをエアブラシの塗り分けのみで行うのではなく、適時筆塗りを使用して調整すると仕上げやすいです。

白黒での下地が完成したら迷彩色を吹き重ねます。迷彩色はキット指定のMr.カラー各色を使用し、最初にC526 茶色を吹きます。この時、通常のエアブラシ塗装よりも若干薄

めに希釈し、1番陰になる所からノズルを絞り、少しずつ色を乗せていくのがこの技法の肝と言えます。一般的な立ち上げ塗装の様に広い面から色を乗せようとするとせっかくのコントラストが消えてしまうので、陰になる所から色を乗せ、ハイライトはほとんど色を乗せないように心がけて下地を活かした仕上がりを目指します。

C526の次はC522 土地色を吹きますが、迷彩のアウトラインは筆で描き、その中をエアブラシで塗りつぶすようにして迷彩を再現していきます。この時も出来るだけ下地のメリハリを活かすように吹き重ねます。続いてC525 緑色を同様に塗装。吹き洩らしやボケ味が出てしまった所は筆で修正し、最後に黄帯をガンダムマーカーのガンダムイエローで再現しました。マーキングは編集部で用意していただいたデカールを使用し、デカール保護を兼ねたクリアコートで全体のツヤを整えて基本塗装は完了です。

ウェザリングは、最初に全体をタミヤカラーアクリル塗料のXF-57バフを用いたアルコール落としをベースに施していきます。アルコール落としの後、GSIクレオスの八雲<YAKUMO>カラー セットA WWⅡ ドイツ軍 西部戦線用のダークウォッシュで全体をウォッシングし、油絵具のローアンバーとバーントアンバーで要所にピンウォッシュを施します。その後、Mr.ウェザリングカラーのWC04サンディウォッシュやWC02グランドブラウンで土埃などを加え、最後にデッサン用の鉛筆でエッジに金属感を加えて完成としています。

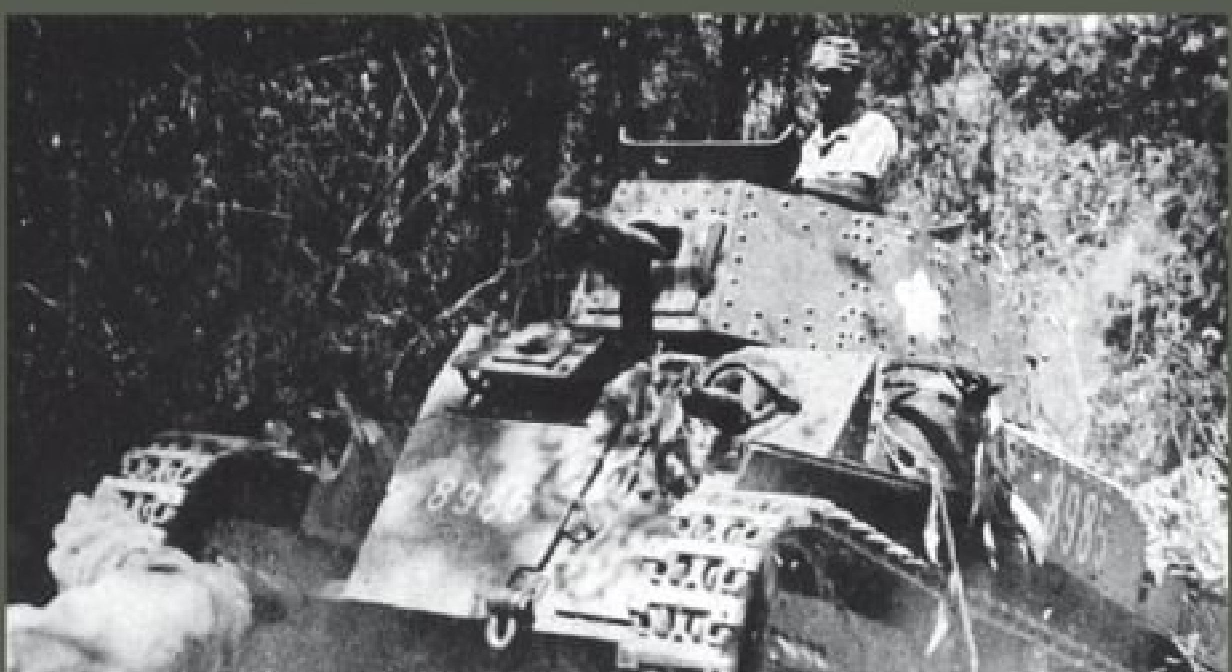


八九式中戦車 乙型



比島を駆ける猛牛部隊 ／ 戦車第7連隊

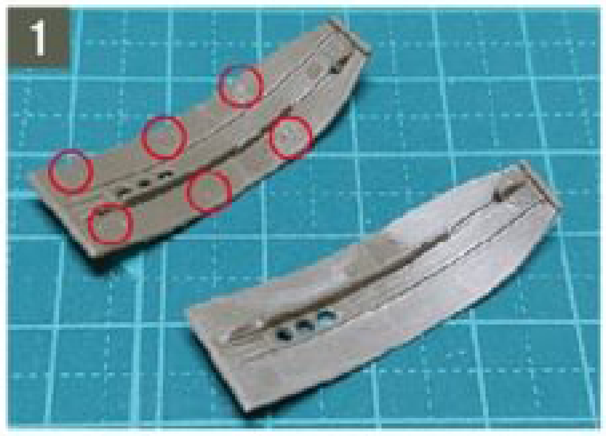
Photo：GROUND POWER/MODEL ART

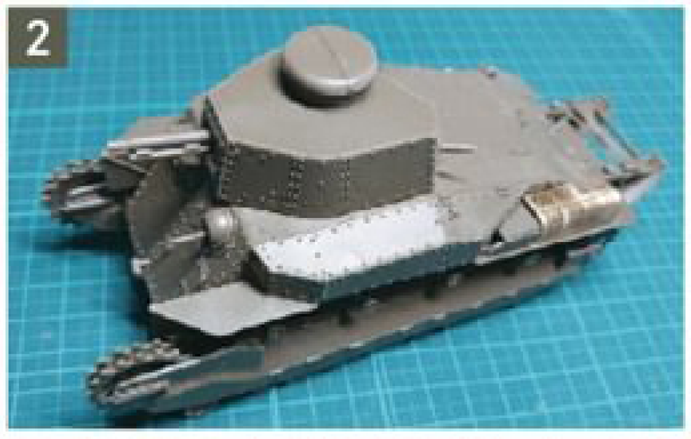




◀▲戦車第7連隊は戦車第1大隊を前身とし、戦車第4連隊と共に園田支隊（連隊長）を編成。比島攻略作戦に参加し、カバン市、マニラ市攻略戦をはじめ第14軍の機甲戦力として活躍。コレヒドール要塞攻略作戦では新鋭の九七式中戦車改を装備し、戦車による強行上陸作戦を行なった。右：作例のマーキングのモデルである戦車第7連隊第3中隊の9885車。バターン進行中に撮影されたもので、砲塔側面の梅鉢のマークに注目。左：マニラ市内を行進する戦車第7連隊第3中隊の8945車。

モノクロの下地塗装で一味違う日本戦車へ

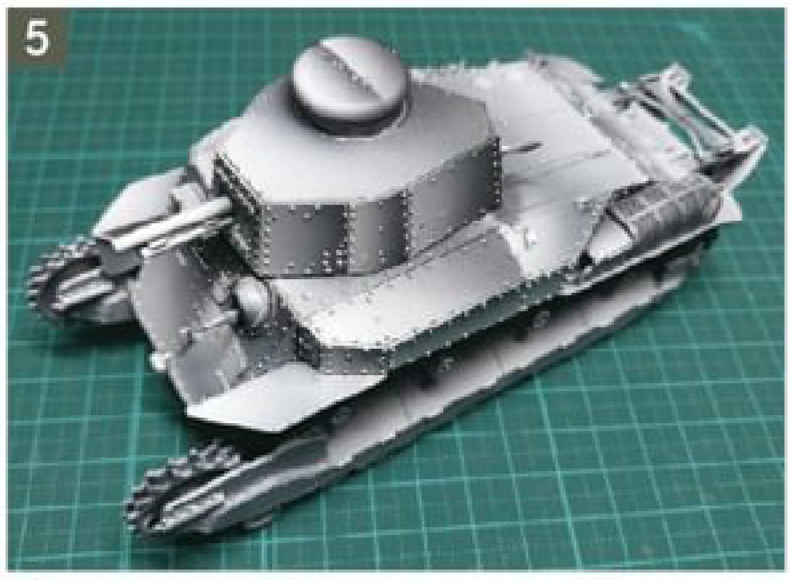


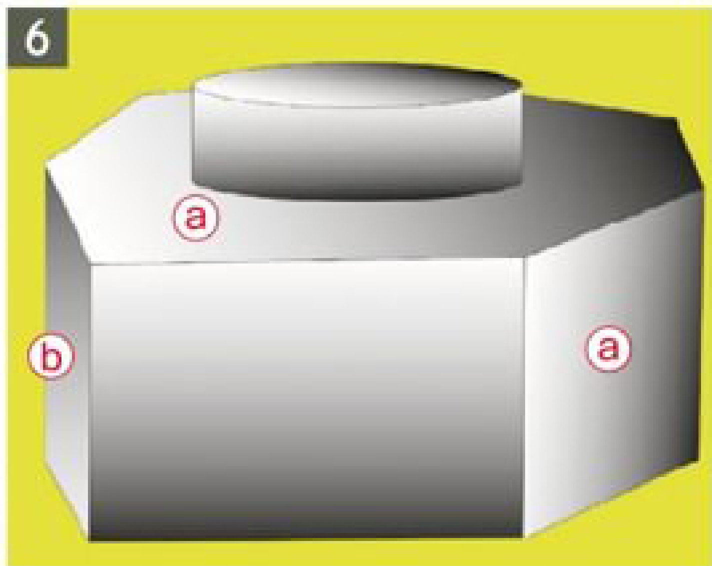




▲1.尾橇の押し出しピン痕（赤丸部）をペーパーで処理する。完成後も見える位置にあるため、きっちりと消しておきたい。2.組み上がった状態。履帯を連結可動式のものに変更した以外はストレートに組み立てている。3.今回の主題であるB&W法に備え、ブラックサーフェイサーで下塗りを行なった状態。塗り残しがないように注意。



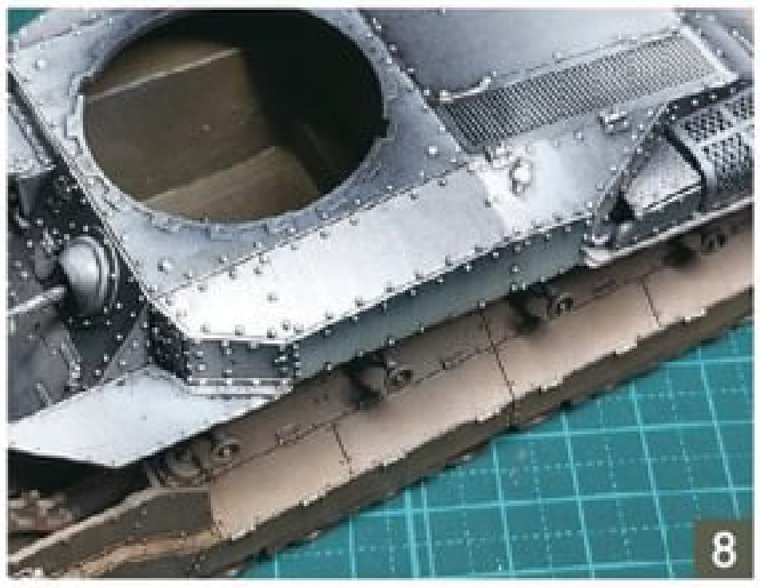


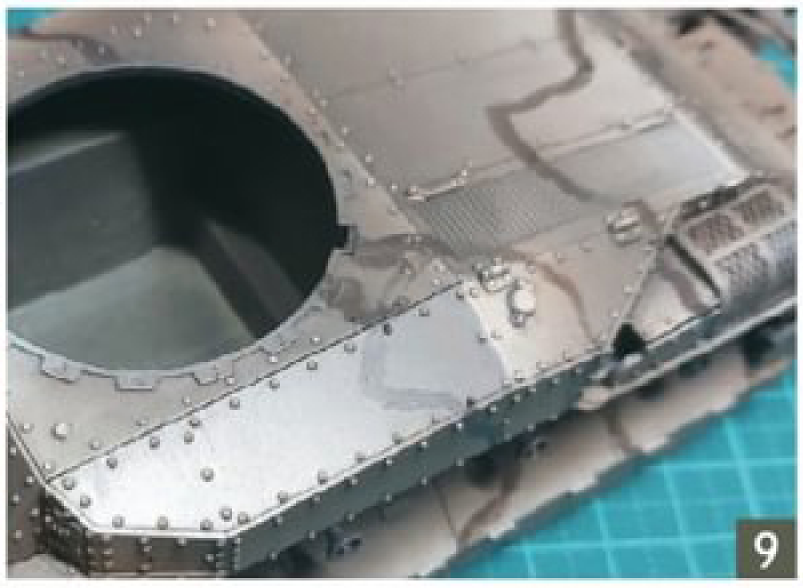


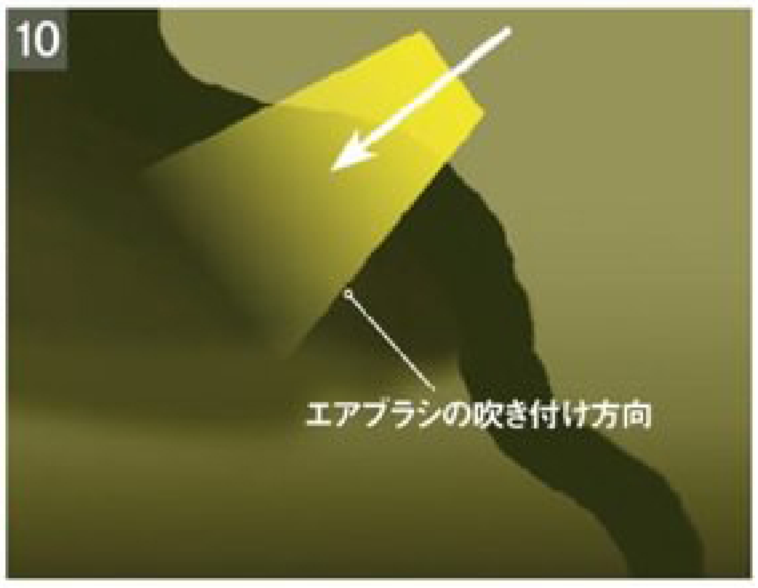




◀▲4,5.グレー、ホワイトを順に重ねていき、モノクロのグラデーションを作っていく。パネルごとに明暗を付けつつ、車体の構造やディテールを強調する。6.B＆W法の概略図。上から下にかけて暗くなるように塗装していくのがベター。シャドー部とハイライト部が隣り合うように、面ごとに塗装を施していくとメリハリの効いた仕上がりとなる。また、ⓐのように前から後ろへグラデーションをかけたり、ⓑのように下側を明るく、上側を暗くすることしたりしても面白い。面や車体形状に応じて柔軟に対応しよう。7.エアブラシ塗装終了後、筆塗りで細かなディテールを強調していく。エナメル系塗料のブラックでスミ入れを行ない、リベットなどの凸部にはホワイトを筆塗りしている。また、ストレーキングの要領でスジを入れたり、油染みやチッピングをイメージしたキズを描き込んでも良いだろう。







▲8.下地塗装完了後、基本色となるC526を塗装していく。薄く希釈した塗料を塗布していくが、いきなり全体に吹き付けるのではなく、シャドー部から少しずつ吹き重ねていく。シャドー〜中間部でしっかりと発色させ、ハイライト部に向かうにつれて徐々に塗布量を減らしていくイメージ。9.迷彩色の塗装。まずC522を筆塗りし、迷彩柄のアウトラインを決める。その後、内側をエアブラシで塗り潰していく。この時も下地のメリハリをなるべく消さないよう注意する。同じ要領でC525も塗装する。10.境界がクッキリとした迷彩塗装のコツ。エアブラシで内部を塗り潰す場合は、余計な箇所にミストが飛んでしまわないよう、アウトラインの内側へ噴出口を向けて塗装すると良い。また、塗料の濃度は通常よりも薄め、エア圧は低めに調整するとコントロールしやすい。





◀11. 日本戦車の鬼門である黄帯はガンダムマーカーのガンダムイエローを使用した。塗料皿にインクを出し、筆塗りで再現している。アルコール系のインクのため下地を侵しにくく、発色も良好。専用の消しペンも用意されているため扱いやすいアイテムだ。12.デカールは別途製作したオリジナルのものを使用した。デカールワーク後、クリアーコートをしデカールを保護してからウェザリング工程へ進む。土埃のベースとしてアルコール落としを施し、ウォッシングやピンウォッシュで調整している。最後にデッサン用鉛筆をエッジに擦り付け、シルエットを引き締めると共に金属感を演出している。

訂正とお詫び：誌面では八九式中戦車乙型（ディーゼルエンジン車）を題材に記事を展開しておりますが、比島攻略作戦に参加した車両は全て八九式中戦車甲型（ガソリンエンジン車）です。これに伴いまして、正しい使用キットはファインモールド 1/35 帝国陸軍 八九式中戦車 甲型となります。



八九式中戦車 乙型

▲中戦車連隊であった第7連隊は、八九式中戦車を中心とした編成で比島攻略作戦時を迎えた。当時、新鋭の九七式中戦車のほとんどがマレー作戦に導入されており、やむを得ないことであったが、フィリピン方面における貴重な戦車戦力として奮戦した。同じく作戦に参加した戦車第4連隊は九五式軽戦車を中心とした軽戦車連隊で、両連隊共に敵のM3軽戦車には苦戦を強いられた。





▲甲型から大きく変更された機関室上部パネル部。B&W法により、写真奥側に向かって自然な陰影が表現されているのが分かる。



履帯はモデルカステンのSK-71 1/35 89式中戦車用可動履帯を使用した。キット付属のベルト式履帯も良い仕上がりだが、可動式履帯のカクカク感は格別。特に足周りの占める割合が多い八九式にはうってつけだ。



九五式軽戦車 “八号”





日本戦車 迷彩塗装 再検討

大胆な筆使いで 鉄獅子の威容を表現する

九七式中戦車と共に太平洋戦争の各戦線で活躍した九五式軽戦車。マレー作戦においては第三戦車団の各戦車連隊に配備され軽敏な機動力を存分に活かし、太平洋戦争序盤の快進撃を支えた。その後も南方戦線各地で貴重な装甲戦力として運用されたが、強力な米軍戦車には苦戦を強いられた。ここではvavv氏が得意とする独特の筆塗りテクニックで、スピーディーかつ雰囲気のあるAFVモデルの仕上げ方を解説する。

■ MONO/ドラゴン 1/35 TANKS OF THE WORLD WW.Ⅱ 日本陸軍 九五式軽戦車 八号 初期型
■ 製作・文：vavv

●はじめに

九五式軽戦車は1933年頃から開発が始められ、1934年には試作車両が完成、1936年にはフィードバックを経て第二次試作車両が完成されました。機動性に不足が感じられた八九式戦車のフォローを目的の1つとして開発され、最高速度は40㎞/h程度。コンパクトな砲塔には武装として九四式37口径37㎜砲を装備し、砲塔と車体それぞれに追加武装として九七式7.7㎜機銃を1挺ずつ装備しています。今回製作したのは初期型で、1941年にマレー半島に参加した戦車第一連隊のマーキングを選択しました。特徴的な黄色い帯が走った迷彩を筆塗りで塗装しています。

●組み立て

キットはプラッツが展開するMONO/ドラゴンシリーズの第9弾で、ドラゴン製の精密な成型品に日本語の組み立て説明書がセットされた満足度の高いものになっています。エッチングパーツやクリアパーツがいくつか同梱されていますが、どの程度ディティールに手間をかけるかを組み立て時に選ぶことができ、手軽に楽しむ人もしっかりこだわりたい人にも配慮された親切さを感じました。車体裏面やサスペンション周り、砲塔内の一部インテリアなどの見えない箇所までびっしりとモールドが施されており、組み立て時に物足りなさを感じることはありません。履帯は軟質樹脂製のベルト式ですが強度、ディティールともに特に不満に感じることはなく、瞬間接着剤が効くので比較的取り回しやすい素材だと感じました。

●塗装は筆でスピーディーに

塗装と仕上げは、サーフェイサー以外全て筆塗りで行いました。主にタミヤカラーアクリル塗料を用いて仕上げています。水で希釈することで、非常に扱いが良く気楽に塗ることができ、また混色の容易さや発色、乾燥の



速さなど何をとっても便利な点ばかりです。

この車両に限ったことでもないのですが、個人的に足周りの仕上げがいつも億劫でどうしても乗り気になれないことが多いのですが、土埃色で覆ってしまう箇所を先に決めてしまい、後から迷彩を塗るというやり方で手間を減らす試みを行なっています。立体感のなさなど課題点はある塗り方ですが、とにかくスピーディーに塗ることができ、塗装時点からウェザリング効果を取り入れているので、完成イメージがしやすいことが利点です。

細部の仕上げ段階ではタミヤカラーエナメル塗料とGSIクレオスのMr.ウエザリングペーストの他に、AKインタラクティブが販売しているリアルカラーマーカーも使用しています。場面によって筆より遥かに簡単に塗れて手軽にリアル感を出せると感じました。次頁より、途中写真にて解説しています。







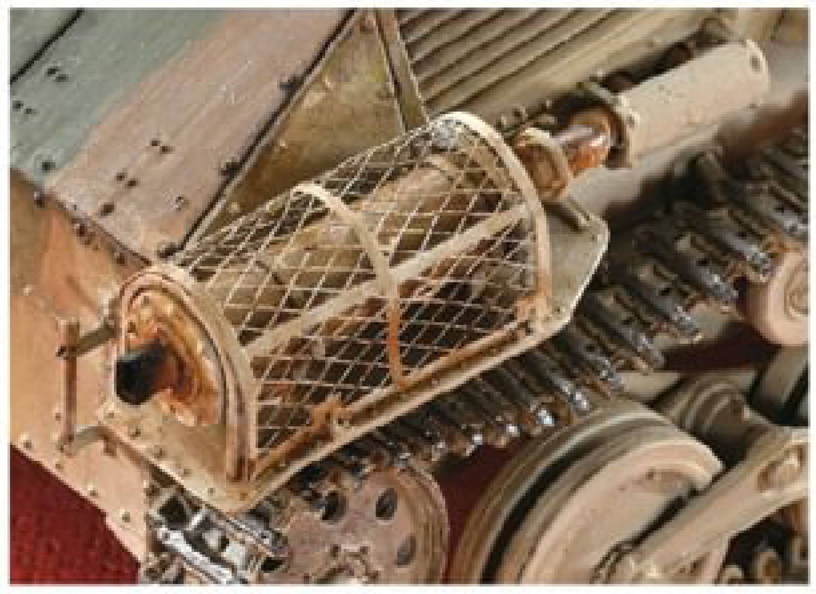
マレーの堅陣を叩く急先鋒 九五式軽戦車



九五式軽戦車は九七式中戦車と共に、装甲戦力の中核として各戦車連隊に配備された。作戦序盤においては、第5師団の先鋒として編成された佐伯挺身隊に戦車第一連隊第三中隊が配属され、上陸直後のアースンやジットララインの突破に貢献した。搭載された九四式37㎜戦車砲は各国の同級砲に比してやや頼りない威力であったが、英軍側に有効な機構戦力がなかったため余裕の戦いとなった。①シンガポール市内を行進する戦車第一連隊第三中隊所属車。日の丸を掲げ、機関室上部には荷物を満載している。暑さのためか戦闘時以外はハッチを開けたまま行動する姿が多く見られる。②写真週報第203号より。荷物を括る縄にヤシの葉を固定し偽装している。シンゴラからマレー州ケダーへ南下する最中とのこと。③25頁にも掲載したバクリでの戦闘を記録したものの1つ。戦車第十四連隊第三中隊は軽戦車のみで編成された部隊で、近衛師団歩兵第五連隊に配属され、バクリの英軍を攻撃したが甚大な被害を被った。

「写真週報203号」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.A06031079800、写真週報（国立公文書館）
Photo：NATIONAL ARCHIVES、Australian War Memorial





基本塗装とウェザリングを同時進行 独特の塗装スキームでハ号を彩る



1



2



3

▲1. 下塗りとしてMr.サーフェイサー 500 スプレー吹き付ける。適度な粒子感が生まれ、筆塗りしやすい下地となる。以降はタミヤカラーアクリル塗料をメインに製作を進めていく。サーフェイサーが乾燥したら、土埃のベースとしてXF-57バフを足周りを中心に塗装する。入り組んだ箇所までしっかりと塗り潰しておく。　2.XF-49カーキ、XF-57、XF-64 レッドブラウンを混色し車体色を塗装する。足周りを避けて筆塗りしていくが、先に塗ったXF-57を残しつつ最小限の範囲に塗装している。部分的にドライブラシのように色を重ね、表情を付けている。　3.同様に2、3色目も塗装していく。異なる太さの筆を使い分けたり、希釈率を都度調整したりして塗りやすいポジションを探りながら作業を進めると良い。緑色はXF-89 ダークグリーン2（ドイツ陸軍）、焦茶色はXF-63 ジャーマングレイとXF-64を使用している。



4



5



6

▲4. 黄帯はXF-3 フラットイエローを塗り重ねて再現した。大きく形が崩れないように、乾燥を挟みつつ複数回塗り重ねている。　5. 基本塗装が終了したら土埃色を追加する。水で希釈したXF-57を叩くように少しずつ乗せ、埃の付きそうな箇所に発色させていった。先に足周りへ塗装した土埃色と迷彩を馴染ませるようにすると良い。　6. 排気筒は赤や茶などの複数色を混ぜながらサビを表現した。色調を変えつつ、3レイヤー程を塗り重ねている。マフラー先端は黒をぼかしつつ塗り、煤汚れを追加している。







▲7.タミヤカラー エナメル塗料各種でスミ入れを行う。場所ごとに色味を変えながら、迷彩色を程良く引き立たせるように作業している。車体やディテールの輪郭をクッキリと出したい部分にはXF-1 フラットブラックをそのまま使用している。複数回塗り重ね、丁度良い塩梅に調整している。　8.円匙やジャッキはダークカラーを点描で乗せていきチッピング上のテクスチャーを付けた後、XF-49を薄く塗布して使用感を演出した。　9.履帯の接地面は金属色のドライブラシなどで目立たせることが多いが、今回はAKリアルカラーマーカーのRCM302 ガンメタルで塗り分けた。キャップを開けるだけですぐに塗装でき、発色や色味も良好。土埃と対比した良いギラギラ感を得ることが出来る。銃身も同様に仕上げている。







▲10,11.XF-49（アクリル塗料）でエッジ部分にドライブラシを施し、チッピング表現を追加すると共に、車体の輪郭を引き立たせる。土埃色を塗布した部分にもドライブラシをかけ、車体色が下から覗いているような表現も加えている。　12.XF-64（エナメル塗料）で車体各所にサビを追加。




◀製作工程を見ていくとかなりラフな筆使いが印象的だが、作品全体ではリハリの効いた良い仕上がりとなっている。これだけの情報量に比して製作時間はかなり短く、サクサクと進められるのもこの塗装スキームの特徴だろう。

戦車第一連隊

第三中隊所属車



Other Side 孤軍
1/72 Bristol Blenheim Mk.I



快進撃を続けた日本軍の"Other side"。マレー半島での英軍機のストーリーを作例で辿る。迷彩塗装には筆塗りを採用して、独特の質感を狙い再現。隼と対峙し孤軍奮闘したブレニムを製作する。本稿では、その製作過程と表現上の工夫を中心に紹介していこう。

■ エアフィックス1/72 ブリストル ブレニム Mk.I ■ 製作・文：木村誠二



●隼と対峙した機体を作る

今回はキットのパッケージイラストにもなっているアーサー・スカーフ少佐機を再現しました。資料に基づき、一部のマーキングなどは変更を加えています。塗装に関しては説明書のハンブロール指定を参考にしつつ、英国機の標準色（RAFカラー）の考証を元に、主にGSIクレオスのMr.カラーから選択しました。

●組み立てながら細部を仕上げる

機内色にはC364エアクラフトグレーグリーン BS283を使用し、組み立て前に各パーツをエアブラシで塗装しました。機首のクリアーパーツは説明書の指示どおりではなく、小窓部分を先に切り離して胴体側へ接着する手順に変更しました。胴体を組み終えてからメインの風防部分を後付けすることで、フィッティングを向上させています。

エンジンカウルは閉状態を選択。特徴的な排気コレクターリングはベースにC104 ガンクロームを塗り、タミヤのウェザリングマスターD（青焼け・赤焼け・オイル）の青焼けと赤焼けを、水性ホビーカラーうすめ液で溶いたもので焼け色を再現しました。同セットのオイルもウォークウェイの汚れに使用しています。翼端灯はエッチングソーで切除した後、Mr.UV硬化クリアパテで作り直しました。

●迷彩塗装は筆塗りで

機体表面はアイテムクラフトの"One of One"スーパーコリンスキー 4号 オーバル筆 <キャッツタン>を使った筆塗りです。下面はC92 セミグロスブラックで塗装します。上面はまずC369 ダークアース BS381C/450とC361 ダークグリーン BS641でベタ塗りし、境界線にそれぞれを1:1で混色した中間色



奮闘

マレー半島の英空軍、英連邦航空戦力

マレー半島、太平洋の開戦時における英軍、英連邦の航空戦力は十分とは言えなかった。マレー半島には11月時点で、コタバルにRAAF 第1飛行隊（ハドソン）、クワンタンにRAF第60飛行隊（ブレニムMk. I）、アロルスターにRAF第62飛行隊（ブレニムMk. I）、スンゲイパタニにRAF第27飛行隊（ブレニムMk. I）と4個飛行隊がおり、シンガポールにはセレターのRAF第36飛行隊と第100飛行隊（ヴィルデビースト）、第205飛行隊（カタリナ）、センバワンのRAAF第453飛行隊（バッファロー）などを始め11ほどの部隊が駐屯していたが、電撃的な上陸、侵攻作戦を前に旧式かつ少数の航空機では抵抗できず、厳しい戦いを強いられることとなった。開戦直前の12月7日に日本海軍の水上偵察機がRAFのカタリナに遭遇し交戦、最終的に陸軍機によって撃墜され、太平洋における英軍の初損失となった。1941年12月8日にはRAAF第1飛行隊のハドソンがコタバルに上陸せんとする日本軍の第2次上陸部隊に爆弾で攻撃を加え、続いてヴィルデビーストによる攻撃も加わり、「淡路島丸」「綾戸山丸」「佐倉丸」に被害を与えた。しかし既に日本軍は同日中にコタバルの飛行場を占領。スンゲイパタニのRAF第27飛行隊も攻撃により損害を受けるなどし、多くの飛行隊がバターワースそしてシンガポール、最終的にスマトラ島などへ撤退することとなった。



を置いた後、各色にC311 グレー FS36622を少量混ぜた色を叩くように塗り重ねて、独特のぼかしと退色表現を施しました。仕上げにMr.ウェザリングカラーのWC01 マルチブラックとWC06 マルチグレーを1:1で混色し、全体をウォッシングしています。

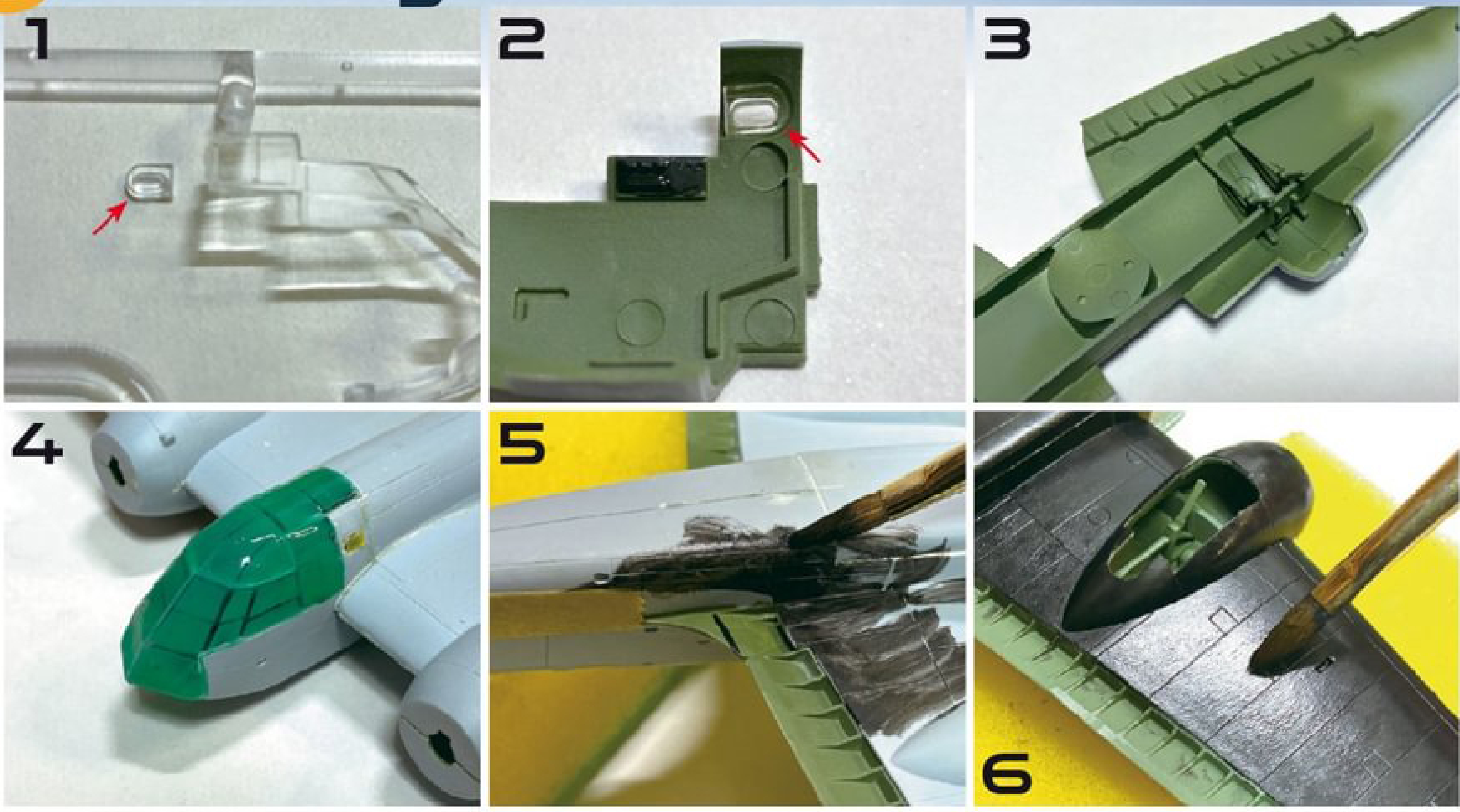
難所の風防フレームはマスキングではなく、ハセガワのつや消し黒フィニッシュにサーフェイサーを吹いてから機体色を塗装した自作シートを使用しました。細切りにして直線ごとに長さを測って貼り込み、必要に応じてタッチアップして仕上げました。コードレターはプラッツから発売されている別売デカールのWWII 英コードレター 1 レッド・グレイ（品番:KD7-4）を使用し、PT-Fにしました。デカールを貼る前後には水性ホビーカラーのH110 半光沢クリアーを吹いてシルバリングを予防しています。最終的にMr.カラー GXのGX114 スーパースムースクリアーつや消しで全体の光沢を整えて完成としました。

スカーフ機のコードレターは?

アーサー・スチュワート・キング・スカーフは1941年12月9日バターワースから日本軍が占領したタイのシンゴラの基地に対して攻撃せよとの命令を受け、ブレニムMk. Iに搭乗し離陸した。その直後バターワースの飛行場は日本軍による攻撃に晒され、既に離陸していたスカーフ機を除いた全機が損害を受けた。しかし、スカーフは単機でシンゴラへ単独で攻撃を行なうことを決断し、目標上空で隼と交戦、負傷し、アロルスターに不時着、他の乗員は無事だったが、スカーフは病院に搬送された後死亡した。死後ヴィクトリア十字章を受賞し、未亡人が勲章を受け取った。混乱の最中にあったマレー半島での出来事であるため、スカーフの乗機は確定的な資料に乏しく、一部ではPT-Fとされていたが、キットのマーキングはFX-Fとなっており、FXが付与されていたという第62飛行隊の記録（PTは第27飛行隊）による説を反映しているものと思われる。今回の作例は別売デカールでPT-Fとして仕上げている。



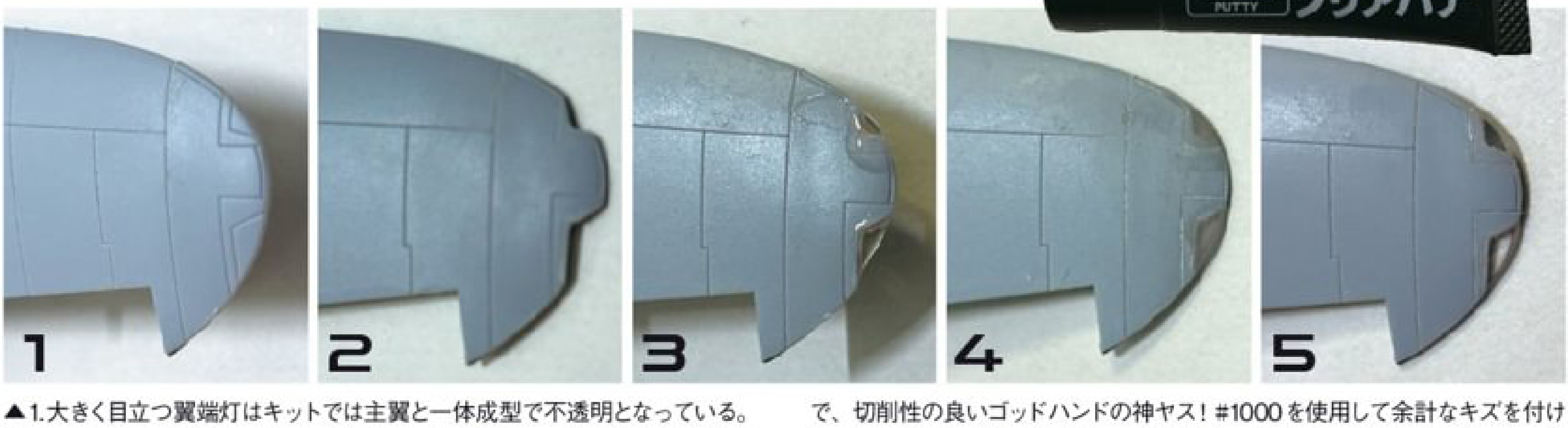
Building Notes



▲1,2.コクピット後部左舷側の小窓（矢印）はキャノピーと一体になっているが、小窓部分のみカットし先に胴体パーツに接着することでフィッティングを向上させている。　3.機体内部色のグリーンはエアブラシで吹き付けた。覗き込むと意外と内部が見える箇所が多いので広めに吹き付けておく。　4.キャノピーは機体色塗装前にフレームも含め全体をマスキングゾルで覆っておく。　5.まず下面のナイト（ブラック）塗装を筆塗りで行なう。ブラックが後から塗る上面色に影響しないように出来るだけ上面色部分は塗り残しておきたい。胴体後部の湾曲した塗り分けラインはフリーハンド、直線部分はマスキングテープを貼って塗装する。　6.機体色はラッカー系塗料（Mr.カラー）の塗り重ね。オーバルと呼ばれる先端が尖った平筆を使用して広い面積をカバーする。

Mr.UV硬化クリアパテで翼端灯をクリアー化





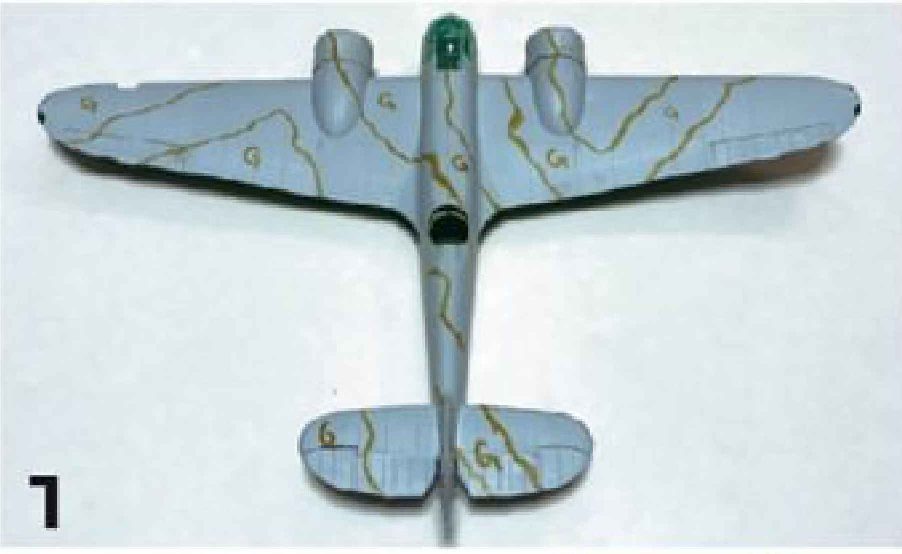
▲1.大きく目立つ翼端灯はキットでは主翼と一体成型で不透明となっている。2.パーツのモールドに沿ってエッチングソーで切り欠く。　3.Mr.UV 硬化クリアパテを盛る。翼面と面一になるように少しはみ出した状態にすると良い。一度に多めに盛っても透明でUV光が奥まで届くため硬化は問題ない。　4.形を整えるためにまずヤスリで削り込む。目が粗すぎると後の磨き工程が増えてしまうので、切削性の良いゴッドハンドの神ヤス！#1000を使用して余計なキズを付けないようにする。形を整えたら、さらに細かい目の紙ヤスリで研磨する。　5.綺麗なすりガラス状になったら最後はタミヤコンパウンドの（粗目）→（仕上げ目）と順に研磨してクリアー化完了。

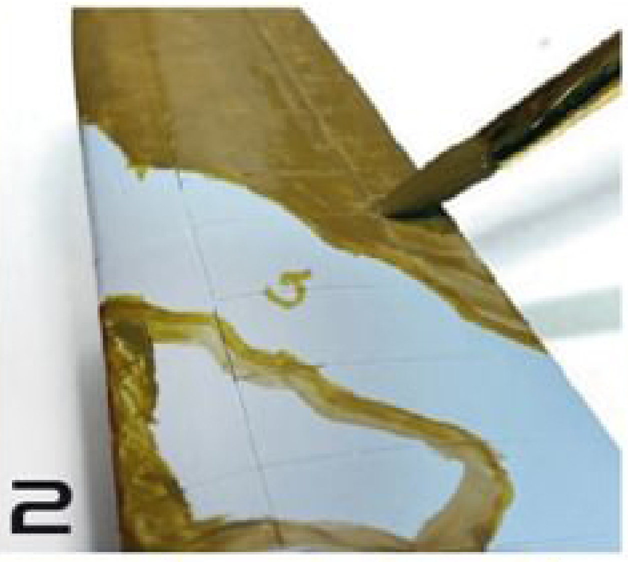
機体色塗装には上質な天然毛筆を使用

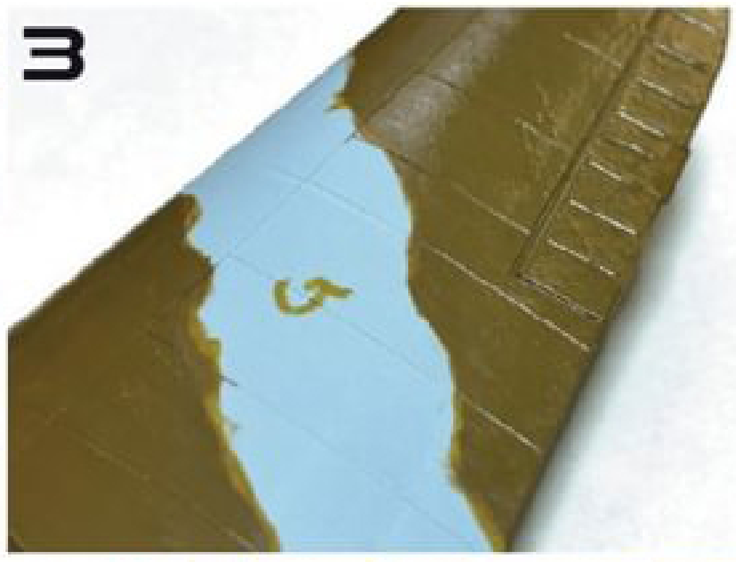


■アイテムクラフト
"One of One" スーパーコリンスキー 4号 オーバル筆 <キャッツタン>
価格：7,480円（税込）　　アイテムクラフト：https://item-craft.com

◀機体色を筆塗りで仕上げる場合は、筆にもこだわりたい。筆はナイロンなどの人工毛、豚毛、コリンスキーなどの天然毛のものがあり、毛のグレードも様々だ。今回使用したアイテムクラフトの製品は天然毛の中でも最高級とされる、コリンスキーと呼ばれるシベリア地方に生息するイタチの毛を使用したものだ。厳選されたスーパーコリンスキー毛をドイツの製毛職人が精製、そして日本の職人によって1本ずつ手作りで製作されている。形状は先の尖った平筆となっており、オーバルまたはキャッツタン（猫の舌）と呼ばれる。根本寄りを使って平筆のように広い面積をカバーしつつ、先端で細部の塗装も可能なハイブリッドな特性を持ち、模型製作にも最適なアイテムとなっている。ラッカー系塗料にも対応するため、通常の天然毛と異なる製毛を施しているので安心して使用できる。アイテムクラフトは他にも様々な筆をラインナップしているので要チェックだ！





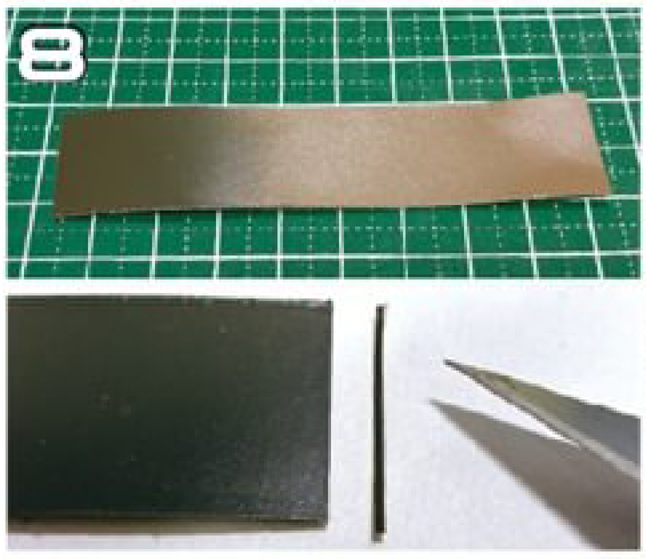














◀▲1.上面の迷彩はガンダムマーカー リアルタッチマーカーで境界の下書きを行なう。　2.下描きに沿って、まずはダークアースを塗装する。下面色同様、オーバル筆を使い薄く重ねながら全体を覆っていく。　3.境界線は後からぼかしを入れるので100%下描きに沿っていなくても問題ない。　4続いてダークグリーンを塗っていく。こちらも薄く塗り重ね徐々に発色させていく。　5.ダークアースとダークグリーンの境界は、それぞれの塗料を1:1で混色したものでなぞる。　6,7.それぞれの迷彩色にも質感を加えていく。それぞれの塗色にC311 グレー FS36622を少し加えて作った明色を叩くように乗せていく。少しぼかしを入れるようにすることで、英軍機迷彩特有のチョーキングしたような質感を表現できる。　8.キャノピーフレームはつや消し黒フィニッシュを塗装したもので再現。フレームにも迷彩が掛かっているので2色とも同じシートにエアブラシで吹き付け、塗り分け位置に合わせて切り出して貼り付けた。　9.カウルの前縁集合排気管は予めシルバーを塗っておき、タミヤのウェザリングマスターD（青焼け・赤焼け・オイル）を水性ホビーカラーうすめ液で溶き塗布。焼けたような金属表現を行なった。

Other Side
1/72 Bristol Blenheim Mk.I
孤軍奮闘



MODEL Art イベント出展告知

名古屋市でのフィギュアペイントコンテストにモデルアートが出展します！

38MODEL SHOW



詳細は38モデル公式Xアカウント（https://x.com/38model77）をチェックしてください。



◀当日はフィギュアペイントの巨匠達が審査員を担当！

審査員：オガワシンイチ／村上圭吾／ユン・ギヨル／パク・ジュンウ／カルビン・タン／ヤン・B・ソン（敬称略、順不同）

カルビン・タンのフィギュア・ペインティング DVD



世界最高峰のフィギュア・ペインター

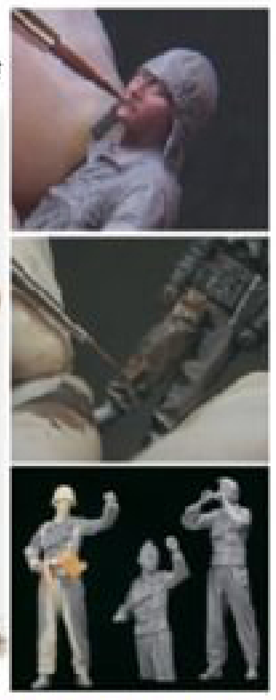
カルビン・タンによるハウツー DVD 全3作

▶筆塗テクニックの基本から「寒さによる肌の赤味の表現」や「襟章の製作」など細部に渡って動画で学べます！

商品情報はこちらから

サンプル動画 公式 Youtube より公開中





ユン・ギヨルのガールズフィギュアテクニック&作品集



タミヤカラー エナメル塗装の魔術師

フィギュアペイントからベース、ストラクチャー制作までを凝縮解説。ガールズフィギュアの顔・肌塗装の基本カラーや配色ノウハウ、ベースの作り方、プラバン工作やパテ加工の基礎を収録。ウルフパックデザイン発行・日本語版。A4 判 120 頁 2,640円（税込み）

月刊モデルアート 2025 年 4 月号で掲載された

× ユン・ギヨル × MODEL Art

WWⅡドイツ海軍 ザ・ボート "U ボート指揮官

モデルアート限定バージョン



MODEL Art モデルアート直営店 ホビーランドでのイベントのお知らせ

世界最高峰のフィギュア・ペインター

カルビン・タン

ホビーランドにて生実演開催



にやってくる！

関西初上陸

3月9日(月) @16：00～ 開催予定

生実演開催 @ホビーランド

AK

イベント情報は、随時 SNS や HP で発信致します！

AK 商材を使った生実演では…

カルビン・タンがテクニックから AK 商品に関することまで疑問質問に直接答えてくれます！



デモにて使用予定商品

AK11252
ウルトラマットバーニッシュ 100ml

▶AK が市場で初めて展開したウルトラマット・バーニッシュは、現在もなお最高品質を誇る仕上げ用クリアコートです。筆塗り・エアブラシのどちらにも対応し、あらゆる素材の表面に完璧なマット仕上げを実現します。

使用前によく振ってください。
完全乾燥時間：12 時間。



AK11500
3G アクリルシンナー 100ml

▶従来のアクリル塗料と比較して顔料がさらにきめ細やかになり、発色や伸びが向上して撹拌しやすくなっています。





100ml 点眼ボトル入り。

【会場情報】
大阪ホビーランド
〒541-0053
大阪市中央区本町4-8-6
横幅ビル3F
TEL：06-6281-2811

定休日：毎週火曜日（祝日営業）
営業時間：
平日 12:00～20:00
日祝日 11:00～19:00
大阪地下鉄 本町駅より徒歩3分
大阪地下鉄 梅田（大阪）・難波駅から本町駅まで5分
新大阪駅から本町駅まで10分



ハセガワ 1/72 F-15DJ 近代化改修機の作り方その①



346回 モデリングJASDF 題字：和代DAGGER

イラスト：ネエサン　写真／文：秋山いさみ

古い金型を改修することでバリエーションを増やしていた凸モールドのハセガワ1/72のF-15シリーズに代わる、スジ彫りモールドの完全新金型キットの登場は、何だかつい最近のような感じもするけれども、考えてみればそれは1988年とはるか昔のことだ。現在ではグレートウォールホビーやプラッツ、ファインモールドなどから21世紀のニューキットが発売されているが、比較的古いアイテムとなってしまったハセガワのニューキットも実は実機のイメージを上手くスケールダウンしたプロポーションを持っており、バリエーションの豊富さ、比較的安価で購入できる、などの理由から今でも一定の支持を受けており、SNSなどでの製作〜完成の投稿も後を絶たない。そのためか、3Dプリントによるディテールアップパーツもハセガワ1/72専用のものがいくつも発売されていたりする。そこで、今月から複数回に渡り、ハセガワのF-15の作り方を改めて紹介し、同時に現用の近代化改修機にするポイントも確認していきたいと思う。キットには手のかかる大きな改造は施さず、3Dプリントパーツを効果的に使ってお手軽なディテールアップもやってみたい。

■F-15DJ イーグル 'アグレッサー グリーンデジタル迷彩'

使用するキットは昨年12月に発売された飛行教導群F-15DJ 近代化改修機の081号機。緑色系ピクセル柄の識別塗装は大判デカールで再現できるので、作例でもこれを実際に使用してみようと思う。

■パーツの下処理

キットが古いだけに、実機とは異なった解釈や実機のアップデートに追従できていない部分がそこここに見受けられる。もちろん細かいことを言い出すとキリがないわけだが、それでもここだけは押さえておきたいという部分がある。不要なモールドの消去やディテールの修整など、組み立て作業に入る前にやっておいたほうが良い分に関してをまず紹介してみる。各項目の番号は工程写真と該当する実機写真に対応している。

■スジ彫りの消去とモールドの加工

●機首両サイドのピトー管取り付け部分にある瓢箪型のスジ彫りモールドは、実はここに取り付けるピトー管用のハードカバーの痕をパネルラインに取り違えただけだと分かっているので、まずはここを消去しておきたい。モールド埋めにはコニシボンドのUV硬化タイプの瞬間接着剤を使用したが、すぐに固まる上に削りやすいので非常に作業効率が良い（写真1,2,3）。

●近年のF-15にはスピードブレーキ右側にGPSアンテナが存在する。装備位置はイラストのとおりだが、大判デカールの絵柄との兼ね合いもあるので、ここはデカールを貼った時に位置を確定し、その部分をカットしてアンテナを取り付けようと思う。デカールにはそのGPSアンテナに関連するアクセスパネルのナンバー（158RAと158RB）は印刷されているが、丸いGPSアンテナ自体は表現されていない（写真4,イラストA）。

●左インテーク下、主脚庫直前に四角いスジ彫りモールドがあるが、この場所にはチャフフレアディスペンサーのデカールを貼ることになるので、このモールドは消去しておいたほうが良い（写真5、6）。

●コクピット後方右舷側にある丸い開口部は近代化改修機にはないのでUV硬化タイプの瞬間接着剤で埋めておく（写真7,8,9）

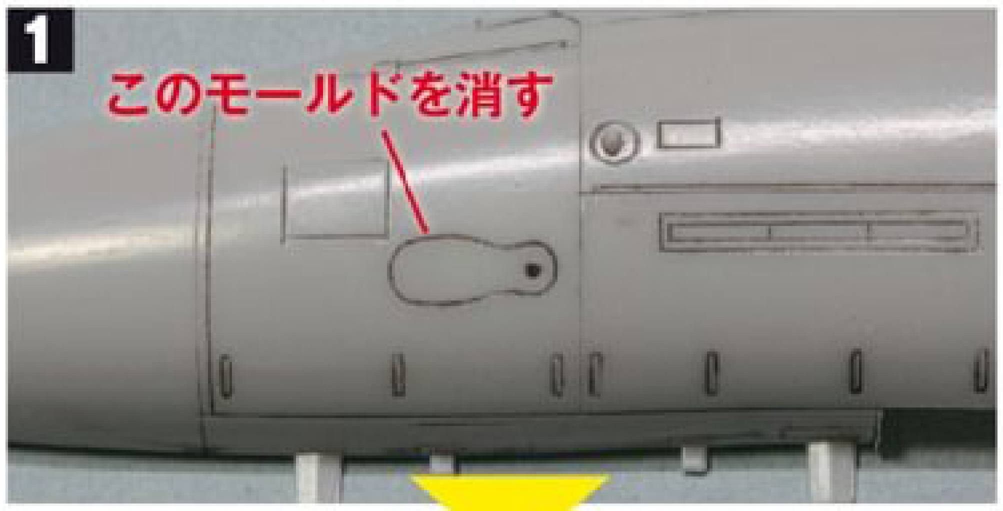
●垂直尾翼には実機には見られない目立つパネルラインがあるので消去しておきたい（写真10,11,12）。

●垂直尾翼上端にあるアンテナと尾灯のフェアリングはその先端が鋭角の旧タイプのまま。空力の関係からかこの部分にはクラックが入りやすかったようで、その後丸い形状に改められている。作例ではこれを再現するために鋭角になっている先端（前方側）をカットし、そこに濃いめのサーフェイサーを点置き。乾燥後にペーパーを掛けて形を整えた（写真13,14,15）。

●垂直尾翼頂部のマスバランスは後端が左右から絞り込まれたような形の初期仕様のままなので、ここは丸くなっている現在の仕様にしておきたい。オリジナルのマスバランスはカットし、エバーグリーンの0.88㎜径のプラ丸棒を加工したものに置き換えた（写真13,14,15）。

●垂直尾翼上部前縁には特徴的な形をした補強板があるので、0.2㎜厚のプラバンで造作（写真13,14,15）。

●アレスティングフックのカバーも撤去されているので予めカットしておく。その基部のディテールはそう単純なものではないのだが、モデリンクの3Dプリントパーツ「1/72 F-15イーグル エンジンノズル "オープン"」（設計：V1models）にそのものズバリのパーツがセットされているの



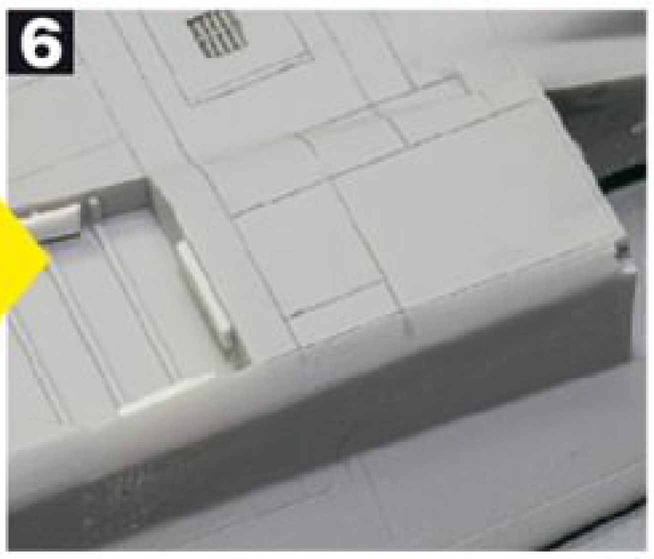




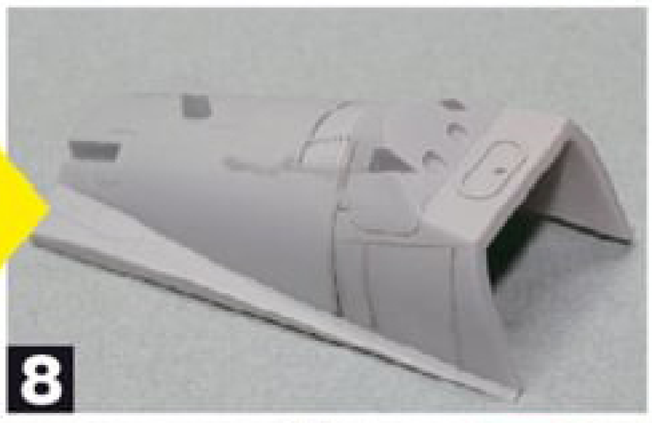












▲▶ **1~3.** 機首両側面にある瓢箪型のモールドは存在しないので消去しておく。**4,A.** 赤い矢印で示した部分がGPSアンテナ。**5,6.** 写真に示した四角いスジボリモールドを消去。**7,8.** パーツE8の右舷側にある丸い排気口のモールドを埋めておく。近代化改修機の外観上の特徴のひとつ。**9.** F-15DJ近代化改修機のコクピット付近。従来あった丸い排気口がないことが確認できる。

で、これを使用してみよう。なのでとりあえず根元からバッサリとカットしておく(写真16,17,18,19)。

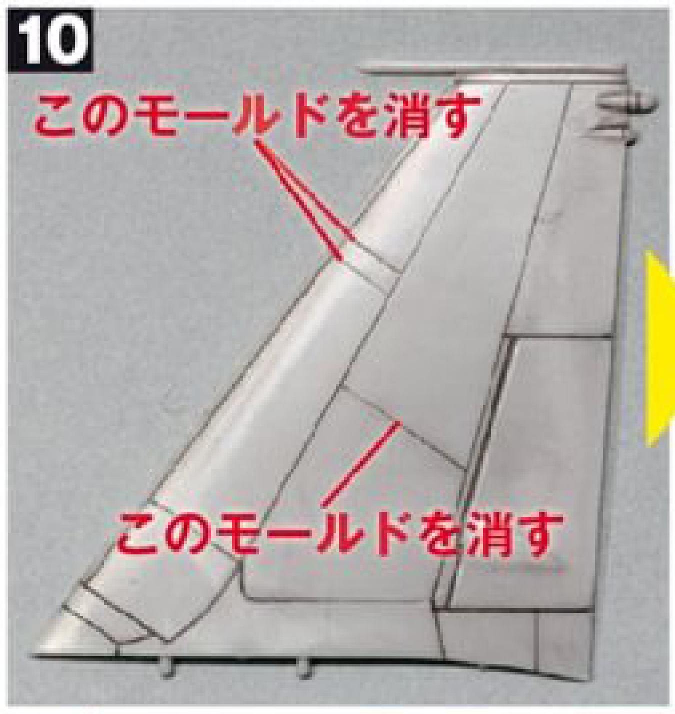
●胴体後部下面にモールドされているオグメンタの燃料投棄ドレンは現在では撤去されており、小さく丸い穴があるだけなので、このモールドをカットして0.8㎜径ほどの穴を開けておく(写真20,21,22)。

■パーツの落ち止め加工

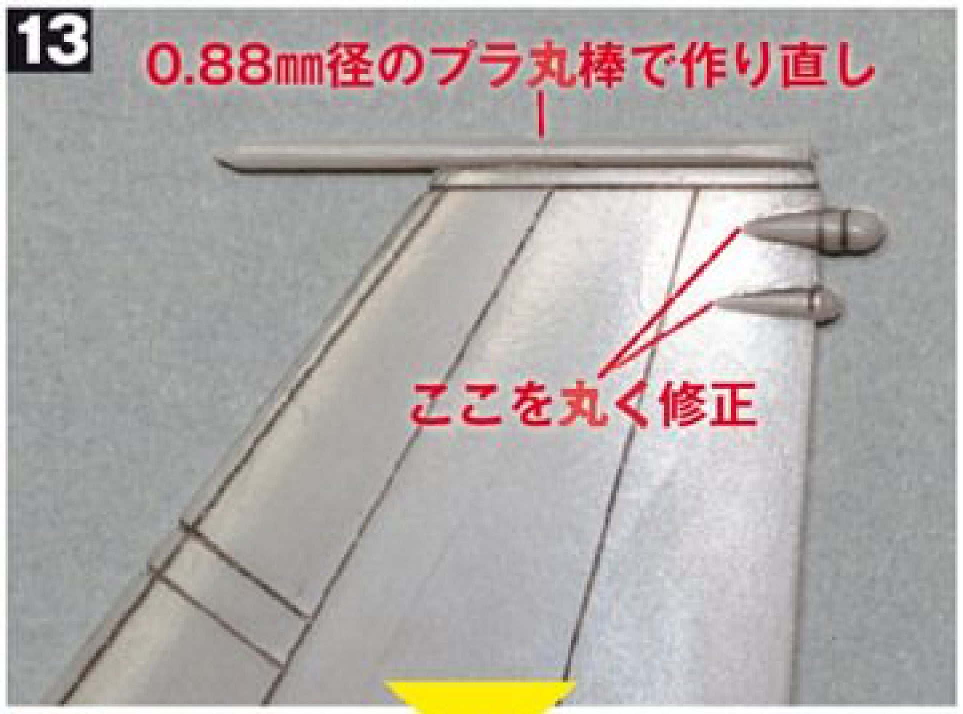
●主翼はインナー側が上下分割になっているが、翼中央側が浮いた状態となっており、接着後に割れてしまう心配がある。そのストッパーとして主翼本体側にプラバンを接着しておいた(写真23,24)。

●主脚庫のドアは地上では閉じているのが基本なので、これを閉状態で接着する必要がある。ここも庫内にプラバンのストッパーを接着しておいた(写真25,26)。脚庫ドア取り付けの際には若干の隙間が生じるのでプラバンで埋めておく。最後に紙ヤスリを掛けて表面をき綺麗に均しておきたい。





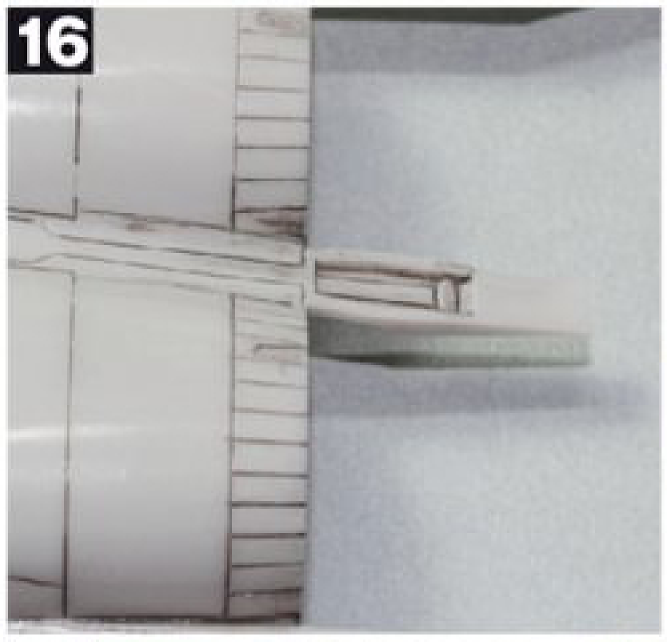




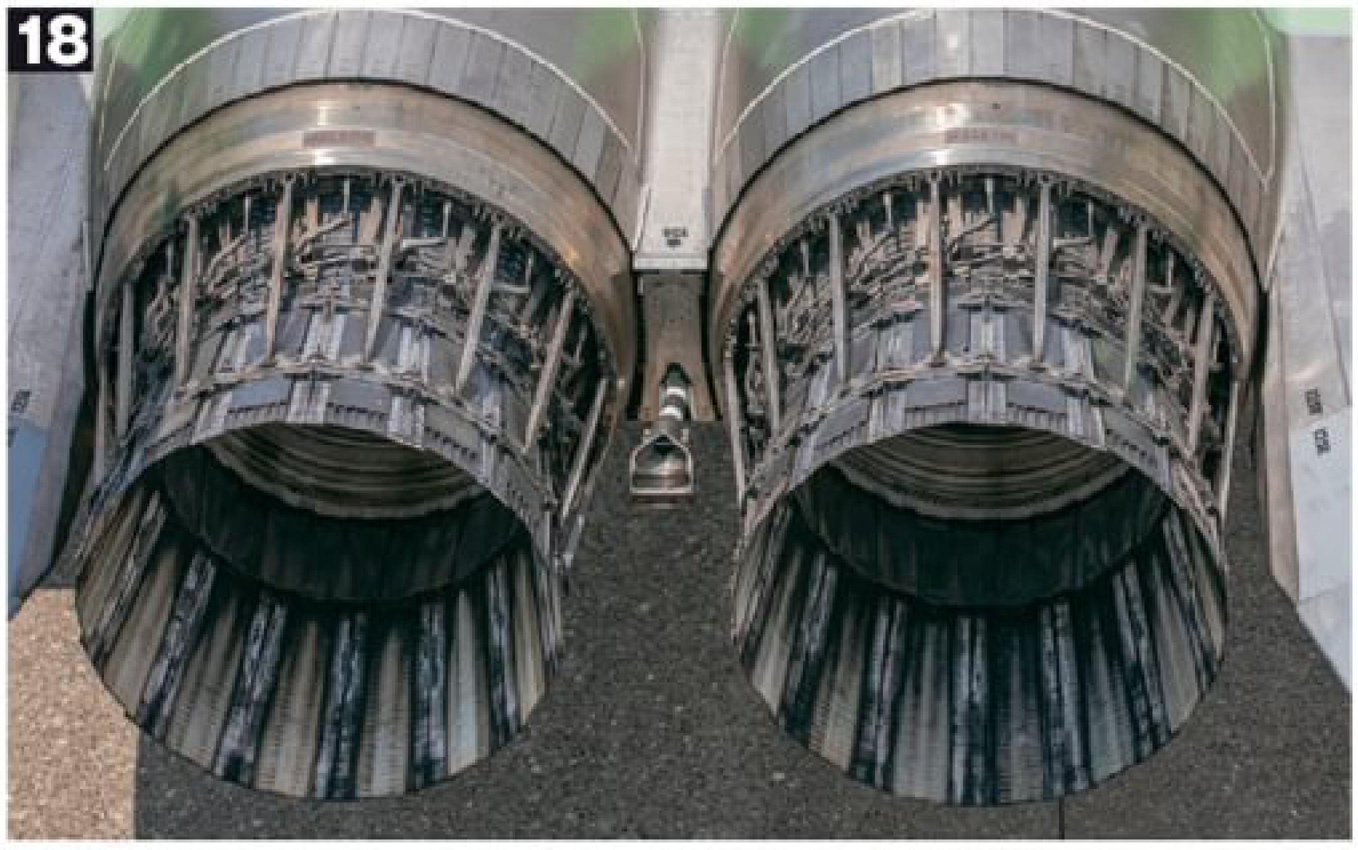












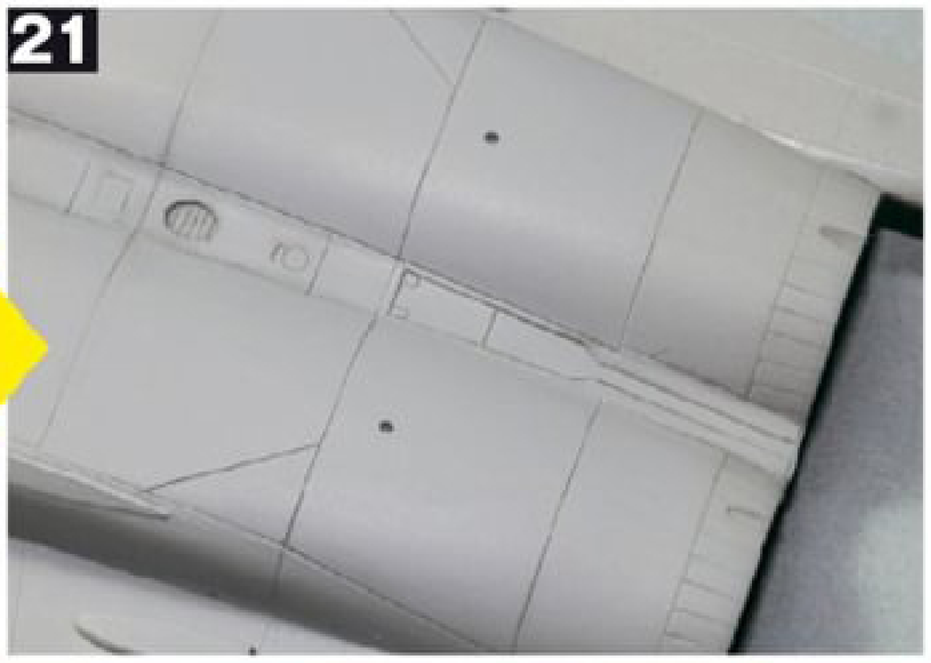


▲▶**10,11.**垂直安定板のスジ彫りの一部を消去。目立つラインだが実機にはない。**12.**F-15Jの垂直尾翼。パネルラインやマスバランスなどのディテールが確認できる。アンテナのフェアリングは右翼側が旧タイプで左翼側が丸い新タイプ。**13,14.**マスバランス後端の形状を丸くするためにプラ丸棒に置き換えた。前縁側には目立つ補強板があるので追加。アンテナフェアリングの形状も修整しておきたい。**15.**F-15DJの左垂直尾翼上部のアップ。**16.**アレスティングフックのカバーは不要なのでカットしておく。**17.**取り外されたフックカバーの基部には3Dプリントパーツを使用してみた。**18,19.**各アングルから見たアレスティングフック。カバーが取り外されている状況がよく分かる。

20



21



◀20,21.胴体下面後方の突起はオグメンタの燃料放出ドレンパイプ。現用機のほとんどで取り外されているのでカットして、0.8㎜ほどのダイレクトなドレン孔を開けておく。**22.**F-15DJ近代化改修機の機体下面。オグメンタのドレンパイプがないことが確認できる。各部のディテールやウェザリングの参考に。

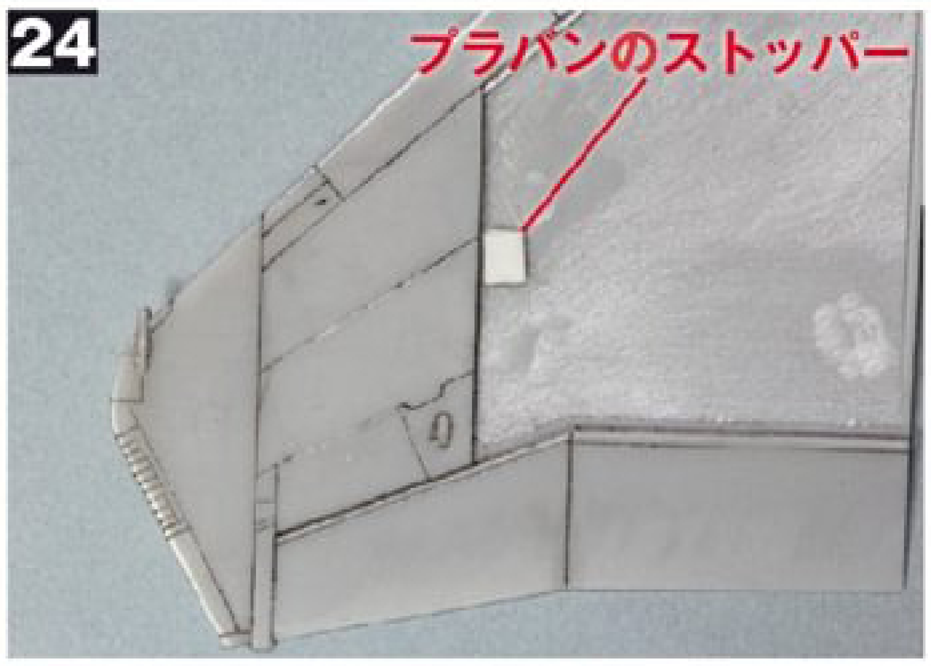
22



23



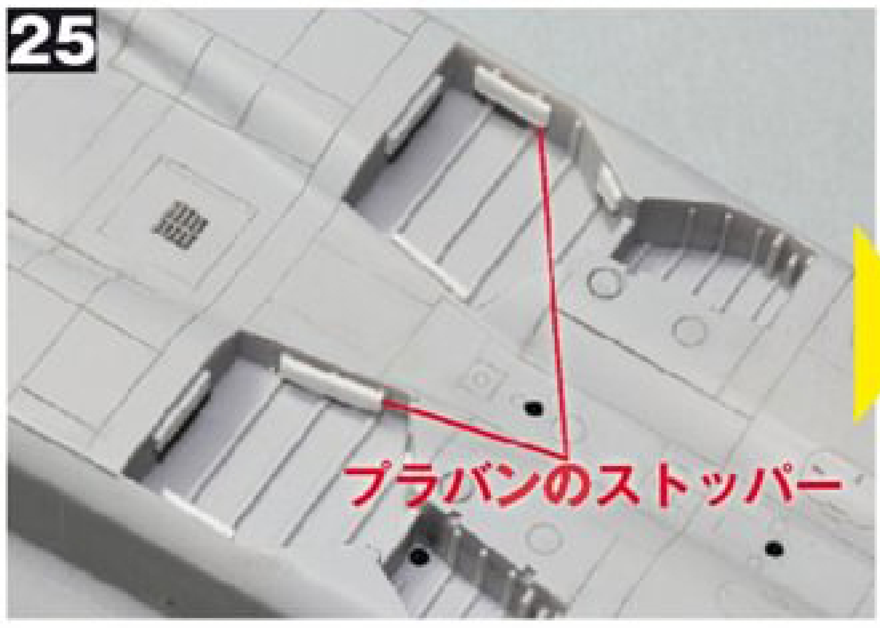
24



◀**23.**主翼下面は内側が上下分割となっているが、合わせ目の部分でパーツが浮いた状態になるので、場合によっては事後に割れてしまう可能性がある。**24.**予防的措置として内部にプラバンを仕込んでしっかりと面一になるように調整しておくと良い。

▶**25.**主脚庫は駐機状態でも前方のドアは閉じているのが普通。ドアパーツはピタリとは収まらないので、完成後に取り付けるのではなく、予め接着して調整したほうが良い。ドアの落ち込みを防ぐために庫内にプラバンのストッパーを接着した。**26.**ドアパーツの表面に紙ヤスリを掛けて周囲と面一にする。パーツ表面がややヒケているのもこれで解消する。

25



26





戦乱を乗り越えて
タイこどもの日エアショー

１月第２週の土曜日はタイの「こどもの日」であり、各地で盛大な催しが企画される。空軍基地ではエアショーの実施が恒例であったが、今年はカンボジアとの紛争の影響を受けて戦闘航空団でのイベントが軒並み中止に。停戦中という情勢の中で開催された基地では最大規模のドンムアンと、実戦部隊としては唯一の公開となったウドンの様子をレポートする。（写真・文：Sweeper Ⅱ）

ドンムアン基地



▲ドンムアン基地は国際空港と滑走路を共用しており、輸送機部隊が配備される。例年ではタイ空軍のほぼ全機種が集結していたが、今年は現役戦闘機の展示はゼロ。代わりにF8F ベアキャットなどの保存機がショーセンターに配置されて花を添えた。当日の来場者は約 18 万人と発表されている。



▲ 15 分間のデモフライトを披露した F-16A OCU。ドンムアンでの F-16 の飛行は長らくフライパスや模擬空戦程度しか行われていなかったが、昨年からアクロバットが復活。プログラムは米空軍のデモチームを彷彿とさせるもので、終盤に観客の背後から高速で突入するデディケーションパスを盛り込むなど、見せ方も考えられている。



▲ F-16OCU は 1988 年の導入以降、機体構造の強化程度しか改修は行われていないものの、数の上ではタイ空軍の主力。カンボジアとの国境紛争にも多数が投入されており、デモ機の機首にはリザード（イスラエル製のレーザー誘導爆弾）、Mk.82、Mk.84 によるミッションスコアが描かれている。

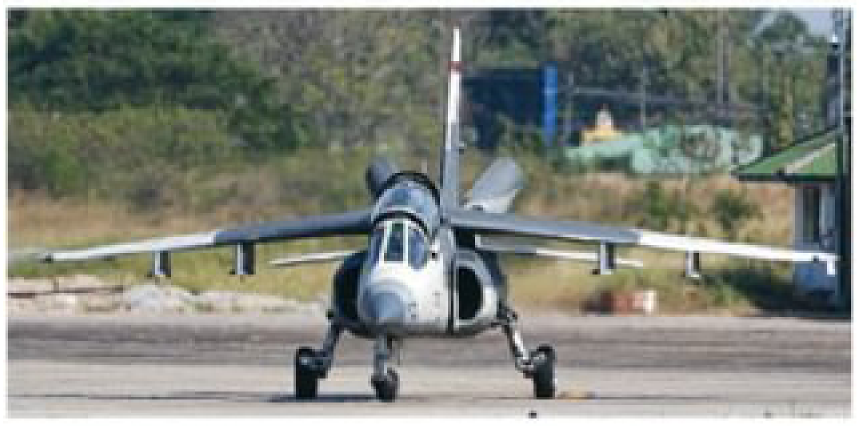


▲予行では D 型、本番では C 型がデモフライトを行った JAS39 グリペン。アジア地域ではタイが唯一の運用国であると共に、昨年には一部の F-16 の代替用に最新仕様の E/F 型の発注も始まっている。国境紛争では GBU-12 を投下したことが公表されており、スウェーデン製の戦闘機が輸出先で実戦に参加した初のケースとなった。

ウドン基地



▲ラオスとの国境至近に位置するウドンはベトナム戦争期に米軍が使用した主力基地の１つであり、3,000m級の滑走路と広大なエプロンを有する。他の戦闘航空団でのイベントが中止される中、ウドンのみは開催５日前に概要が公表された。急遽の決定にも関わらず、当日は４万人近い観客が押し寄せた。



▲着陸後にタキシングするアルファジェットTH。不整地での運用も想定した太いタイヤと広い主脚間隔、細い機首に収めるためにオフセットされた前脚といった、地上姿勢での特徴がよく分かる。主翼下４ヶ所のパイロンには最大６発のMk.82などを搭載できるが、本機は今回の国境紛争には投入されていない。





▲▶対地攻撃デモとアクロバットを披露したアルファジェットTH。1999年に西独空軍の退役機を購入したもので、価格は１機当たり100万バーツ（当時の日本円で約300万円）と格安だった。2021年から国産技術によるグラスコクピット化やデータリンクの搭載が行われた近代化改修機の運用が始まっており、2030年代まで現役に留まる見込み。国境警備や近接航空支援のほか、尾部のCMDにヨウ化銀系の薬剤を搭載し、高空から投下することで人工降雨を行う珍しい用途にも活用している。近年では干ばつ対策のほか、激甚化する雹による地上被害を抑えるため、発達中の積乱雲に薬剤を散布し早期に降雨、雲を消滅させる任務も与えられている。





◀コラート基地からのリモートでデモフライトを行なったF-16B OCU。主翼パイロンにはTERを取り付けているほか、胴体後部のCMDにはチャフとフレアを満載している。イベント後に公表された国境紛争に関するタイ側の公式動画では、TERにMk.82を６発搭載して出撃するシーンが多数含まれていた。



▲地上展示されたシンガポール空軍のF-16C。国土面積が東京23区程度の同国では友好国に訓練拠点を確保しており、タイとは2004年にF-16A/Bを譲渡する見返りとして、ウドン基地に分遣隊を配備している。本機は長らく米ルーク基地で使用されており、帰還後すぐに再派遣されたためか、尾翼や機首には米空軍仕様のマークを塗り潰した跡が残る。



▲以前からF-16による騒音が問題視され、タイ側では恒久対策として配備基地の変更を検討。約50㎞南方のナムポーン基地を再整備した施設が稼働を開始し、既にF-16Dが駐留している。移転の詳細は未公表なものの、各部のカバーに描かれた“ウドン分遣隊”のマーキングも見納めが近いかもしれない。



◀演習などでの展開は確認されていたものの、ウドンでは初めて公開されたシンガポール空軍のA330MRTT。KC-135の後継として2019年に配備され、2022年からはタイ空軍のF-16にも空中給油訓練を提供している。なお、タイは初の空中給油機としてA330-800をベースとする次世代型A330 MRTT+の採用を決定している。

私とプラモデルのおつきあい

目指せ200回 第155回 スグー

備忘録　選挙の話の巻

この原稿を書いている本日は3年ぶりの積雪だ。翌日は選挙だ……。

さて、私は自慢ではないが、超・投票率が低い。政治に無関心なのもあるとは思うが、それだけではない。

言い訳をすると、55歳で心筋梗塞になって死にかけるまで、自衛隊こそ4週6休だったものの、派遣会社の営業を8年間、その後のレオナルドでは週6日勤務を14年間続けてきた。会社には「投票しました」と言っていたが、実際にはまったく投票に行っていない……。

自衛官時代は別であった。しかし、断っておくがこれは38年くらい前の話で、今は違う！

昭和から平成の元年あたりは、外出の枠（人数）が1/3までと制限されていたため、新隊員は月にせいぜい2回外出できれば良いほうだった。そのため日曜日の外出は大切で貴重だったし、私は16歳から自衛官に入隊するまで、日曜日はほとんど休んだことがない人間だったので、とにかく日曜日の娑婆（駐屯地の外）はまぶしかった。それは時間にして3時間の「臨時外出」。楽しみ♡。

たかが選挙の投票とはいえ、そこはそれ、臨時外出でしっかり自衛隊である。しかも選挙当日の当直幹部は、人格高潔で優しいが仕事に厳しい、2等陸士（二等兵）上がりのS田一尉（大尉）中隊長だ。

さすがに日曜日の大阪の選挙日なので、全員制服ではなく私服ではあるが、訓練のようで、というか完全に訓練である。中隊長を前にして、

W二曹「第一分隊6名、異常ナシッ。これより投票のため、豊中市役所に向かいますッ……敬礼！」

中隊長「訓練通り、規律正しくやれ」ニヤリ♡。

第一分隊一同「はい！」

W二曹「それでは、ただ今より豊中市役所へ向け前進する。乗車用意、乗車！」

一同「乗車用意、乗車！」と、やたら声がデカい。

白いディーゼル仕様のキャラバンに乗り、警衛所（門）を出ると、すぐ後部座席からプシュッと缶ビールを開ける音。3任期目（6年目）のH田陸士長だ。さすがに私は飲めなかった。

H田士長「プハ～。朝からの酒はうまい！」

W二曹「それ～、とっとと終わらせて、オレこのまま外出するから13時までに帰隊せよ！」

つつがなく公用も終了し、W二曹に豊中駅まで送ってもらい、近くの当時としては珍しかった24時間営業の、やたら安い居酒屋に入る。

H田士長「今日はオレが奢るからな。90分一本勝負だ！　それに選挙に乾杯だ～！」

私は選挙に投票したのも初めてだし、90分とはいえ臨時外出中に飲む酒である。生来の酒飲みで、日中に飲む酒はやはり美味しい！

手始めにビール大瓶をほぼ一気飲み。90分一本勝負なので、下手にちゃんぽん飲みすると悪酔いすると思い、ここは慎重に日本酒一本とすることを決定。つまみもなるべくあっさりした刺身など和食系にしていた……が、酒飲みの卑しさで飲み過ぎる。

あっという間に90分が過ぎ、タクシーに分乗して帰隊。だが、酔っぱらって日本酒定番の、ベッドがぐるぐる回り、気持ち悪く、ほとんどトイレに返納した。

くどいが、40年近く前の話で、今はない。

PS：飲み友のO久保さん（秀才）は天井が回るらしい。バカな私はベッドが回るが……。皆さんはどちらでしょう？

つづく

クルマの模型買取りします

-出張買取します-



買取り対象は1/12、1/20、1/24のプラモやレジン・メタルキットなどなど

持ち込みの場合は即お支払いします。送り、出張買取の場合は3日以内にお支払いいたします

クルマ、飛行機、AFV、艦船、ロボット、SFなど。オールジャンルの模型の買取りをします。買取り希望の模型が50個程度でも関東一円は出張無料で伺います。デカール、ディテールアップパーツ、改造キットも買取します。ランナー切り離し、一部接着、サフ吹きなどの物もOKです。まずはお電話ください!

新ホームページアドレス

事前のお見積りも可能。リストをFAXかEメールでお送りください。https://finishers.shop-pro.jp/

電話03-3845-9511　Eメール:viancagold@aol.com　https://finishers.shop-pro.jp/

メキシコのメーカー　エルマノ・モデロ製 1/20 レジン製フルキット

アストンマーティン AMR24 2024年

スペアデカール付き
33,000円



アルファモデル　1/20 レジン製フルキット

F1 2023 SF23

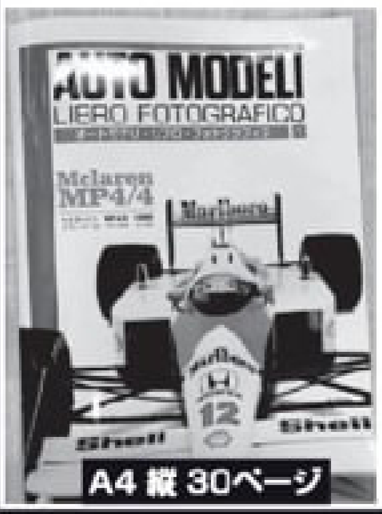
意大利&拉斯维加斯特别涂装
Italian GP & Las Vegas GP
1/20 Scale Full Detail Kit
AM03-0017



フェラーリ SF23　40,000円

フィニッシャーズ出版 新刊 オートモデリ・リブロ・グラフィコ No.1

1/12 マクラーレン MP4/4 1988 プラモデル製作写真集



A4 縦 30ページ

1,320円

プラッツ / ビーマックス 1/12 マクラーレン MP4/4 を製作した写真集。プラモデルのカウルを載せて実車と同じ様な状態でのディスプレイ写真と、カウルを開けてエンジン、ラジエーター等が詳細に分かるようにした写真に分かれて掲載されています。

1/24 ZoomOn レジン製 トランスキット

マクラーレン・セナGTR

14,850円

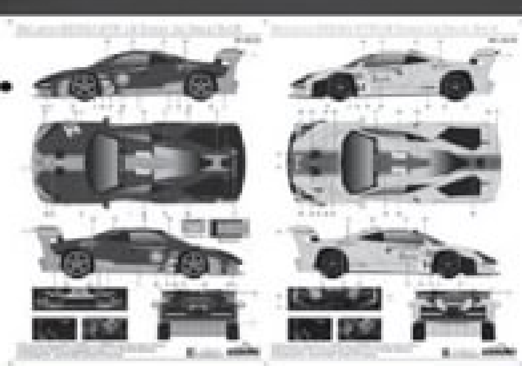


カストロール・スープラ JGTC 1997



14,300円

マクラーレン・セナGTR LMデカール





各3,300円

Finisher's

since 1997　オートモデリGT auto modeli G.T

〒110-0015 東京都台東区東上野6-10-7-1F
水~土:14:00~19:00/日・祭:13:00~18:00 定休日:月・火曜
通販OK! コレクト・ペイペイ銀行振込
TEL/FAX:03-3845-9511



Twitter、Facebookで情報発信中
フィニッシャーズで検索!!

黒あみ目メッシュ　各1,650円(税込)

通販、店頭どちらでも購入可能





- ●つや消し黒で染めたエッチングのメッシュです
- ●細目(0.5㎜平方)と粗目(1㎜平方)の2種類
- ●サイズは約 8 ㎝ ×7 ㎝、厚さ0.3㎜
- ●クルマ模型の空気穴、艦船模型の煙突等に使用
- ●ご自分でハサミ等で切り取って製作できます

第12回

Welcome! MA色彩ゼミナール

模型の塗装は分からないことだらけ!?塗装の方法は分かるけど、理屈が分からない!?「色を塗る」というシンプルだけど奥が深い作業について、深掘りするコーナーです!第12回では更なる実践的活用方法を紹介します。

■ 協力：ターナー色彩株式会社
■ 構成：モデルアート編集部

アクリルガッシュ&U-35アクリリックスを活用したテクニック!

ウォッシング(ウォッシュ※)をしてみよう

今回は筆塗りの実践的テクニックを紹介します。「アクリル絵具用エアブラシうすめ液」はエアブラシのみならず、筆塗りにおける希釈でも高い性能を発揮します。良好な発色、隠ぺい力と食い付きを保ったまま、伸びや乾燥後の平滑性も格段に向上します。筆塗りでもムラのない表面を作れるので、ウォッシング（ウォッシュ）も綺麗に決まります。アクリルガッシュの基本塗装にU-35アクリリックスで質感表現を足してみましょう。



POINT 「アクリル絵具用エアブラシうすめ液」は筆塗りの希釈にもベストマッチ!

1

2

3


▲1.アクリルガッシュの1ホワイト、10 パーマネントレモン、035 セピアを混色してダークイエローを作り、「アクリル絵具用エアブラシうすめ液」で希釈します。エアブラシ塗装の際は希釈率は同量から2倍程度が推奨ですが、筆塗りの場合は絵具：うすめ液＝7:3程度で少しとろみがある状態が理想です。　2.うすめ液を使用したことで水での希釈と比べて表面張力が低下するため、その分ムラなく平滑に塗ることが出来ます。　3.乾燥後は落ち着いたツヤ消しに仕上がります。刷毛目などがほとんど目立たない綺麗な塗装面になっています。

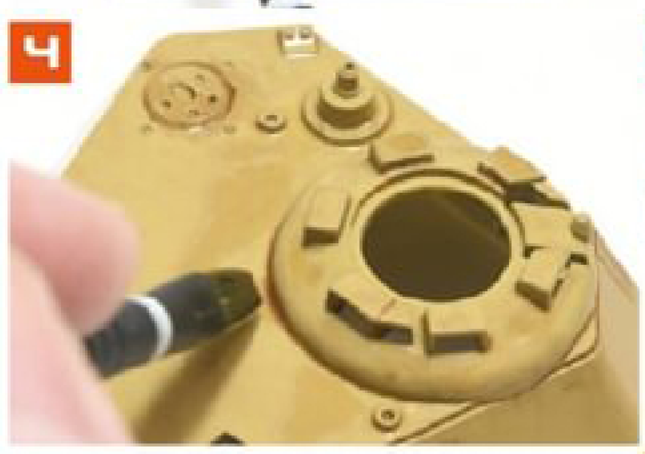
■アクリルガッシュ
アクリル絵具用エアブラシうすめ液
■発売中　■250mℓ入り
■価格770円（税込）

POINT ウォッシング（ウォッシュ）の下地は完全乾燥させる!

1

2

3

4

5

6


▲▶ 1.基本塗装が完全乾燥したら、U-35アクリリックスの683 バーントアンバーを水で希釈します。この時の濃度は好みですが、アクリル絵具の上にアクリル絵具を重ねる場合は濃すぎると拭き取り切れずシミになってしまうので、写真の様に塗料皿の底が少し見える程度に薄めるのがオススメです。希釈した絵具、ウォッシング用の筆と別に水と拭き取り用の綺麗な筆を用意します。2,3.希釈したバーントアンバーを文字通り洗うように面ごとに塗っていき、水を含ませた筆で拭き取るように広げていきます。　4.天面はほとんど拭き取りを行なわず、塗り付けた筆でランダムな表情を付けながら広げています。　5.部分的に湿らせた綿棒で拭き取りぼかしを入れてみます。　6.ウォッシング（ウォッシュ）完了です。



アクリルガッシュの様々なテクニックをご紹介!

全国の取り扱い店にてガイドブックを配布中!

ターナー色彩株式会社：https://www.turner.co.jp

※ガイドブックでは技法名は「ウォッシュ」として紹介していますが、本記事内では本誌で通常使用している「ウォッシング」と併記しています。ご了承ください。

長谷川迷人の やっぱり プラモデルは作ってナンボですよ!

Season 2

M-50バウンダー(ミクロミル)

■ ミクロミル1/144 ミャスィーシチェフ
M-50「バウンダー」試作超音速戦略爆撃機
■ 製作・文:長谷川迷人

いやはや、鉛筆みたいに細い胴体にデルタ翼、しかも翼端と翼下面にエンジンナセルを配した4発機。さらにはタンデム式の車輪という、超個性的なスタイルのM-50ミャスィーシチェフです。同じ50年代の西側諸国の爆撃機とは一味も二味も違う魅力に溢れております。まぁソビエト機によくあるキワモノなのですが、輝く銀翼が実に映えるのであります。

第二回 M-50をナチュラルメタル塗装で塗ってみる! 銀塗装&完成編



●ナチュラルメタルの誘惑

50年代のソビエト機の場合、銀色の機体といっても無塗装ではなく、銀で塗装された機体が多いです。旧ソビエトの爆撃機ではTu-16「バジャー」、Tu-22「ブラインダー」がよく知られているところですが、いずれも塗装された銀色です。現在でも現役で頑張っているTu-95「ベア」でも、やはり銀、あるいはグレーで塗装されています(最近では無塗装の機体もいるようですが)。M-50は現存機がモニノの博物館に野外展示されているのですが、写真を見る限り、機体はグレーもしくはシルバーに塗られているようです。前回も書きましたが、キットのパッケージイラストでは、どう見ても無塗装でギラリとしたナチュラルメタル感が「なかなかにカッコよござんす」的なM-50が描かれており、随伴するMiG-21も良い感じのメタル感が出ています。それだけに、説明書の機体の塗装指定がライトグレーというのは、思わず「なんでやねん!」とツッコミを入れたくなるわけです。某コミックで「宇宙の色は銀色!」というセリフがありまして、それに大いに賛同しつつ、個人的に「ソビエト機の色は銀色!」という信念のもと、今回のM-50爆撃機もギラリと輝くナチュラルメタルで仕上げています。

●最近はリアルな金属感が出せる塗料が揃っている

ギラギラなナチュラルメタル銀塗装にこだわる背景として、近年は国内外の塗料メー



カーから、いわゆるシルバーのみならずアルミ、ジュラルミン、チタン、アイアン、さらにはメッキ質感の再現を可能にした塗料まで、ラッカー系・水性ともに種類豊富に揃ってきたことが挙げられます。今回の機体はGSIクレオスのMr.スーパーメタリック２ SM201スーパーファインシルバー２と、ガイアノーツのGP-07プレミアムメッキシルバーをブレンドしたシルバーを塗装しています。プレミアムメッキシルバーはエアブラシ専用のメッキ調仕上げを再現できる塗料ですが、さすがにこれ単体だとナチュラルメタルとは趣が異なってしまうため、スーパーファインシルバー２をベースに、そこへプレミアムメッキシルバーを７：３の割合でブレンドしています。さらに10%ほど希釈し、エアブラシの低圧塗装を行なうことで、ギラリとした金属感を引き出しています。

下地は白の光沢塗装とすることで、銀の明度を上げています。また、主翼上面と胴体ともに無塗装の質感を出すため、パネル単位で部分的に銀のトーンを変えて塗装しています。先に調色したシルバーに、わずかにブラックを添加して調色した明度を落とした銀を使用しました。

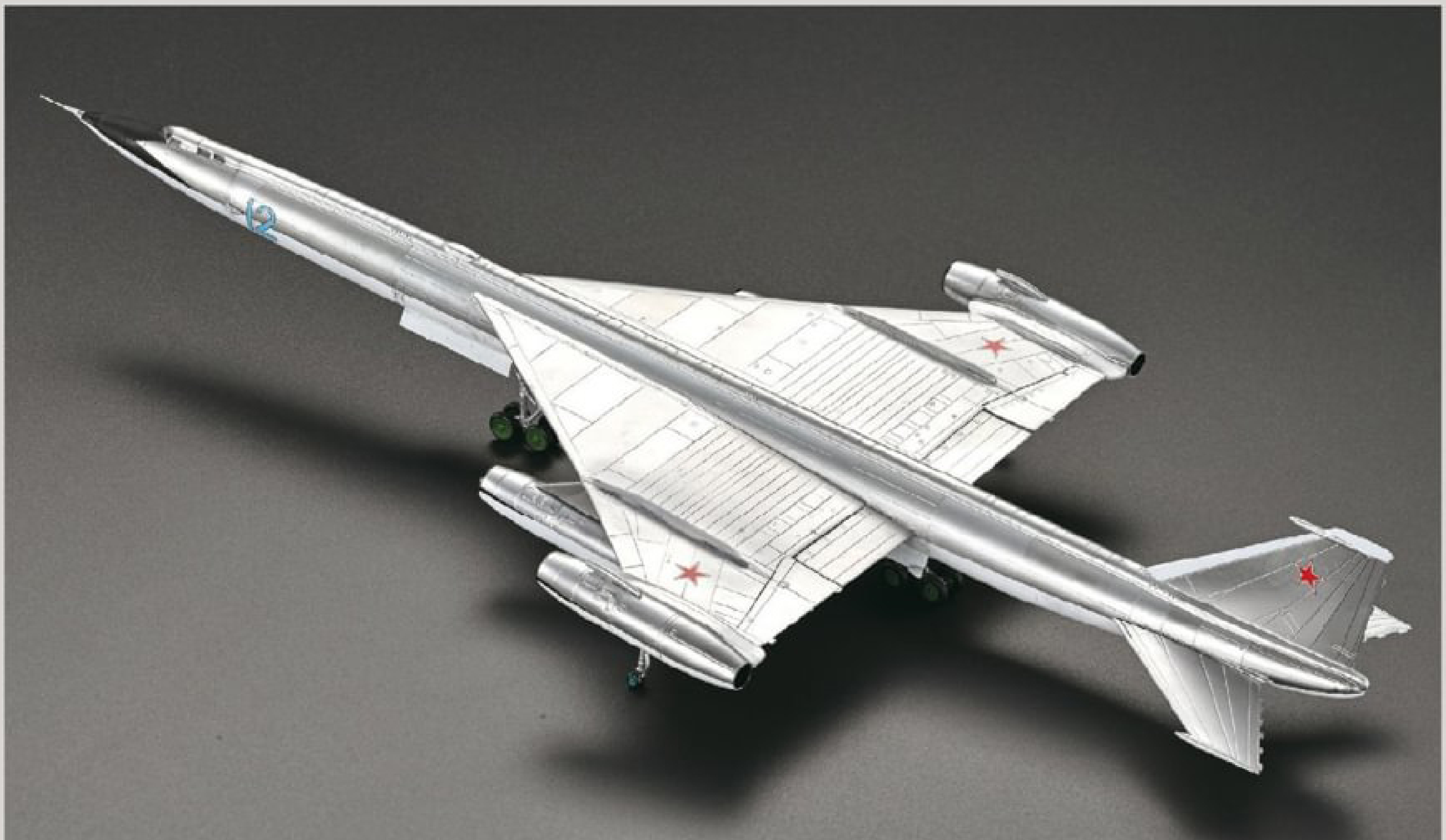
●一筋縄ではいかないM-50

塗装は、主翼と垂直尾翼を合体させた胴体を先に行ない、パネル単位での塗り分けを考慮して、水平尾翼は後付けにしています。正直なところパーツの合いが良いとは言えないため、事前の摺り合わせは必須作業となります。

特に足周りを正しく組むのには苦労させられます。胴体前部と後部に配された4輪ボギーの主車輪と、翼端の補助脚柱の車輪を正しく接地させるのは、正直至難の業です。作例では翼端の補助脚柱を金属線で延長しています。

●やっぱり銀翼はカッコ良い！

出来上がったM-50は、「うーむ、カッコ良いじゃないか」というのが正直な感想といったところです。デルタ翼にギラリと輝く銀塗装が映えます。そして上面から見ると、胴体が細く長い点を除けば、MiG-21とよく似たシルエットをしているのが分かります。機首とエンジンナセルの黒ラインを赤に置き換えたら、特撮番組に登場するウルトラメカと言われても違和感のない、アバンギャルドなデザインの60年のソ連爆撃機は大好物でありますよ。こんなマイナー機をニューキットで出してくれたミクロミルに感謝です！（作るのは大変ですが…）





いよいよナチュラルメタルの輝きを纏わせる!







▲▶前回で下面色兼下地のホワイトを吹き付けた機体にシルバーを吹き付けていく。使用したのはスーパーファインシルバー２とガイアノーツのプレミアムメッキシルバー。スーパーファインシルバー２は単体でナチュラルメタル感を表現することに優れており、一方のプレミアムメッキシルバーは飛行機の塗装には少しイメージが異なる。そこで２種のメタルカラーを混色し、輝度をアップさせつつ、ナチュラルメタルの機体特有の金属感を表現してみた。エアブラシのエア圧を低く絞り、表面に乗せるように吹き付けていく。さらに単調にならないように前述のメタリックにブラックを若干量加え、パネルごとに塗り分けを行なった。

2種の高輝度メタリックカラーを使用



ガイアノーツ GP-07 プレミアムメッキシルバー

◀個人的に一番使用頻度が高いラッカー系メッキ調塗料です。当然ながらエアブラシ専用塗料で、下地は平滑面に仕上げておく必要がありますがそれを除けば、エアブラシ用に希釈済みで、通常のラッカー系塗料と同じ感覚で使用できる手軽さがありがたいです。速乾性があるため、湿度が高いと曇りやすいので要注意です。水性クリアーでのオーバーコートは可能です。ラッカー系クリアーでもオーバーコートは可能ですが、厚塗りすると質感が変わってしまうのでNGです。



GSIクレオス Mr.スーパーメタリック2 スーパーファインシルバー2

◀Mr.カラースーパーメタリックの現行ラインナップです。旧シリーズの「スーパーメタリック」に比べて、細かい微細金属粒子を使用したことで、より金属感を表現できるようになりました。スーパーファインシルバー２は、通常のMr.カラーC8シルバーと比べると輝度が高いため、今回のM-50塗装のメインで使用しています。単色でも良い感じの金属感を再現できますが、今回はプレミアムメッキシルバーとブレンドすることで、より金属感を強調してみました。

 ※異なるメーカーの塗料のブレンドは、基本的には非推奨です。試す場合は十分なテストを行ない自己責任で行なってください。

MikroMir 1/144

Myasishchev M-50



最大の泣き所はやはり脚だ。胴体下に4輪ボギーの主脚が2組、翼端エンジンポッド基部に格納されるアウトリガーが1対装備されているが、完全に接地させるのは至難の技である。



CLOSE UP!

～迷人の視点～

銀塗装M-50の原稿を書いている最中に、タミヤから新しいメッキ調塗料が発売されるとの情報が入ってきました。以前、タミヤフェアで開発中とは聞いていたのですが、詳しい情報は今のところ不明です。近年需要が拡大しているメッキ調塗料だけに、詳細の発表が楽しみですね。

出展：タミヤHP（https://www.tamiya.com）



▲ドイツ・ニュールンベルクで開催されたシュピールヴァーレンメッセ2026にて発表された「ミラーペイント」。見本を見る限りかなりきれいなメッキ調に仕上げられそうだ。同時にミラーペイント塗布前に使用する専用の「ミラーペイント専用プライマー」も発表されている。

欧州の模型ショーで活躍するプロ・モデラー

アンドレイア・ロドリゲスさんにインタビュー

今月は欧州各国の模型ショーで人気の、ポルトガルのアンドレイアさんにご登場いただきました。子供の頃にたまたま自宅近くで開かれていた同国最大の模型ショーを覗きにいったことがきっかけでスケールモデルに魅了され、今ではAmmo by Mig Jiménez（アモ・ミグ）の専属プロ・モデラーとして活躍中です。

構成：竹村典夫



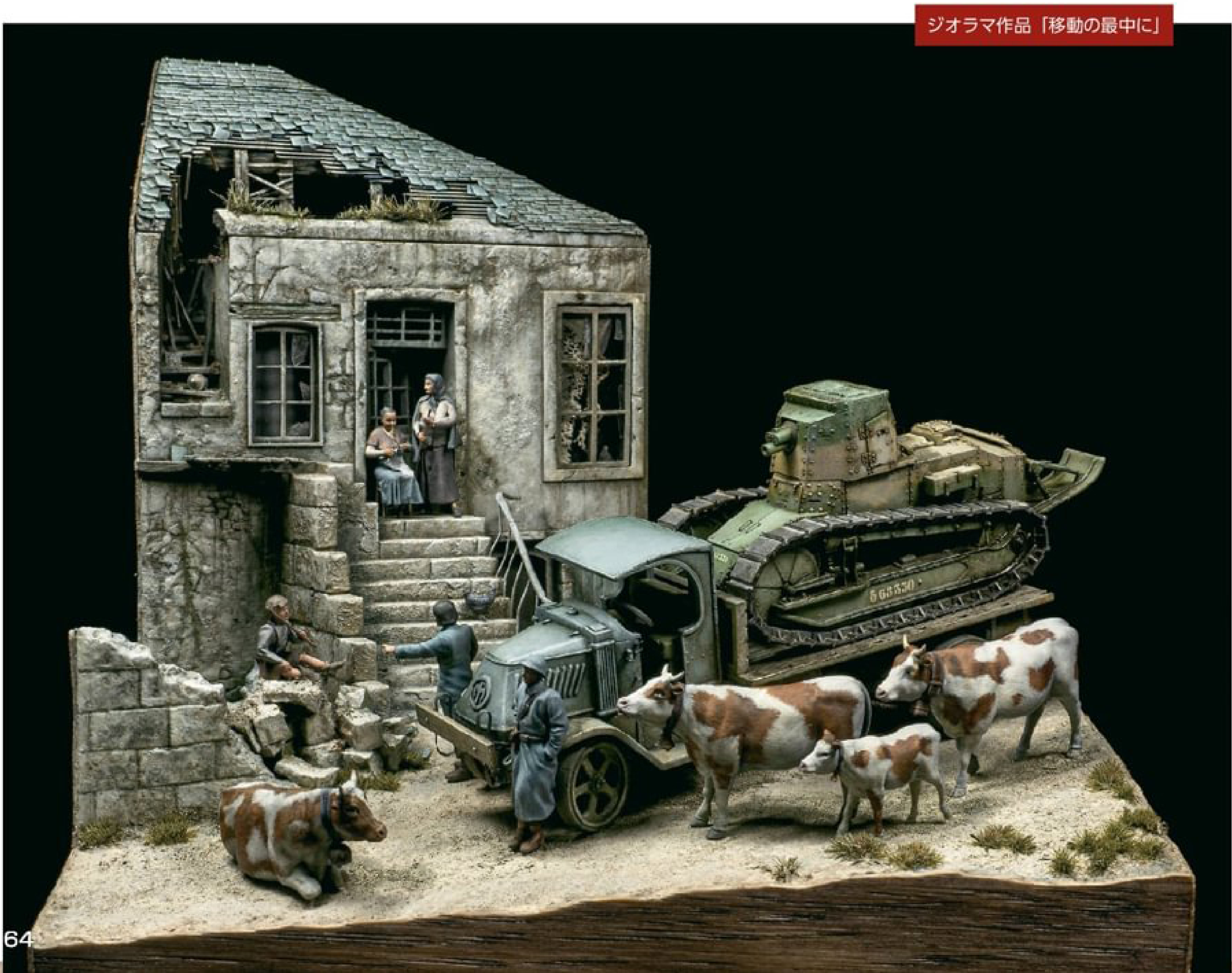
アンドレイア・ロドリゲス
Andreia Rodrigues
ポルトガルを拠点にプロ・モデラーとして多くの模型ショーに参加、確かな表現力と技術で製作依頼を受けることも多い。プラスチックの塊が真実味のある作品に生まれ変わる瞬間がこの仕事の醍醐味と語る。夫と共に3Dプリンター関係のビジネスも営む。

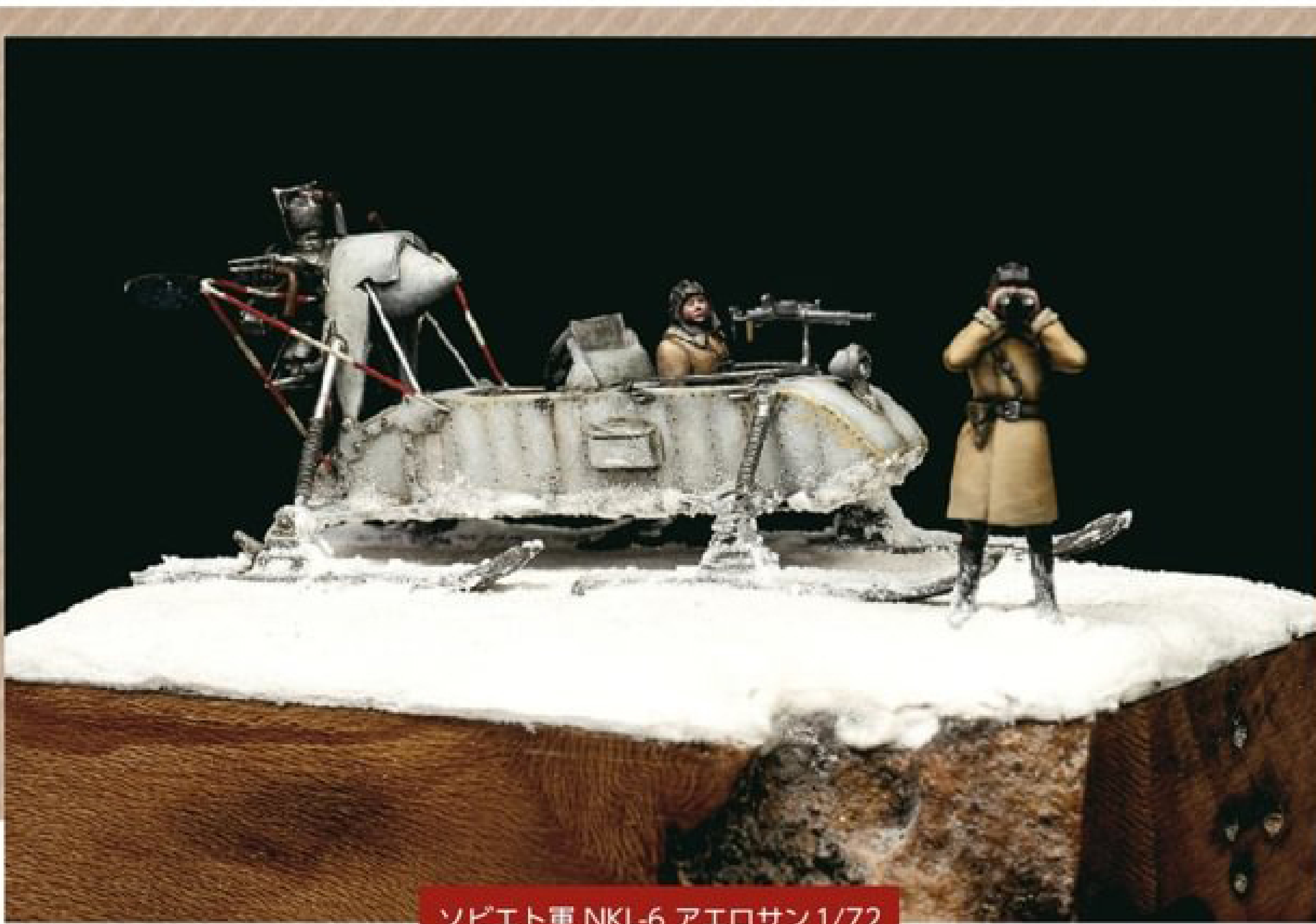
Q1. アンドレイアさんはいつ頃スケールモデルに興味を持つようになったのですか？初めて作ったプラモデルを覚えていますか？

A1. スケールモデルに興味を持ったのは10歳くらいの頃です。自宅のすぐ近くでModelscala（スケールモデル展）という展示会が開催されていたので初めて訪れ、その雰囲気にすぐ魅了されました。展示会の後、母から初めてのプラモデルキット、レベルの1/1200スケールのタイタニック号をプレゼントされ、それが模型趣味への第一歩となりました。ところがこの後は多くの人と同様に学業や他の興味に追われ、スケールモデルは私の日常生活から徐々に姿を消していきました。しかし、14年後の2018年に再びModelscalaを訪れたのです。子供の頃の思い出が強く甦ってきて、その日のうちにホビーボス製1/72スケールのFw 190フォッケウルフを買いました。私がこの趣味に本格的に復帰した瞬間でした。

Q2. 戦車、飛行機、SF、ジオラマ、フィギ

ジオラマ作品「移動の最中に」





ソビエト軍 NKL-6 アエロサン 1/72


「荒野を彷徨う」

ュアなど幅広いジャンルの作品を細部まで丁寧に作り上げていますね。特に感銘を受けるのは、必要な技術を工程ごとに的確に使用されている点です。

A2. 模型製作の工程はまさに連鎖のようなもので、１つでも欠けると仕上がりに影響が出ます。最初にコンセプトやストーリーを考えることで方向性を固めて、組み立てとディテールアップで作品の土台をしっかり築き、そして最後の写真撮影は完成した作品を正確に伝えるために必要不可欠です。

とはいえ、もし好きな工程を１つ選ぶとしたら塗装とウェザリングですね。これこそ模型に命を吹き込めるかどうかの大事な工程なのです。色や質感の調整、車体に残る傷や経年変化、埃汚れなどを施すことで見る人の感情をぐんと引き付けることができます。塗装とウェザリングは単なるテクニックではなくてストーリーを明確に伝える手段なのです。作者と観賞者を繋ぐコミュニケーション・ツールだと言っても良いでしょう。この瞬間に、模型は単なるプラスチックの塊から真実味のある作品へと変化します。そしてその変化こそがこの趣味の醍醐味だと思います。

Q3. 模型を製作する際に最も大切なことは何ですか？ 歴史的な考証に基づいて正確に再現することでしょうか？それともあなた自身のイメージや表現を重視することでしょうか？

A3. 歴史的な考証は、常に私の製作活動の基盤で不可欠なものです。私は作ろうとする作品の背景やその実際の状況について可能な限り正確に理解することから始めます。特に依頼作品やメディアに載せる作品は当然ながら正確さが最優先ですね。でも自分の楽しみで作る時は、考証と私なりの芸術的視点を共存させています。事実を変えるのではなく解釈を加えるのです。つまり雰囲気、構成、そしてストーリーテリングに焦点を当てます。当然それには限度がありますが、その限界の中で私は雰囲気や物語を探求しています。

Q4. 模型趣味のどんなところに魅力を感じますか？言い換えれば、模型作りはなぜそんなに楽しいのでしょうか？

A4. 最初の頃、模型製作は日常の仕事から離れてストレスを解消するためのごくありきたりな手段に過ぎませんでした。しかし時が経つにつれて、徐々に私の夢を実現してくれる仕事となっていき、自分の創造性を自由に表現できる喜びに気付きました。個人的な情熱が仕事として成立することはなかなかありませんが、私の場合は強い目的意識と自立心を持って自分の理想の仕事にすることが出来ました。模型作りは私の人生にとても良い影響を与えてくれました。この趣味を通して多くの友人や国際的なモデラーのコミュニティに出会い、そうでなければ訪れることのなかったであろう国々



フォッケウルフ Fw190 A-8



フィンランド空軍のホーカー ハリケーンMk.I

を製作実演の仕事で旅する機会も得ました。そういう意味で模型趣味は単に作品だけでなく、私の人生をも形作ってくれたのです。

Q5. ポルトガルには模型製作を楽しむ人は多いですか？どんなジャンルの模型に人気がありますか？

A5. ポルトガルにも多くの模型愛好家の団体があって、私は1998年に設立された地元モンティジョ市の模型クラブの会員です。このクラブは、先に述べたポルトガル最大の模型ショーであるModelscalaの運営を担っており、国内外のモデラーにとって重要なイベントとなっています。人気のテーマはAFV、航空機、艦船、ジオラマといった伝統的なテーマが依然として根強いですが、SF、ファンタジー、そしてよりクリエイティブでクロスオーバーなジャンルへの関心が高まってきています。ただ残念ながら若い世代はスマホ、ビデオゲームなどデジタル系のエンターテイメントに自然と惹き付けられるため多くはいません。とはいえ、彼らも展示会や家族を通じて模型に触れる機会を一旦持つと、ピュアに好奇心と熱意を示しますよ。

Q6. 最近の世界的なインフレの影響で日本でも模型の値段が高くなっています。ポルトガルでは模型趣味は手頃で一般的な趣味でしょうか、それとも高価な趣味なんでしょうか？

A6. ポルトガルでも残念ながら模型製作は年々高価な趣味になりつつあります。物価の高騰、増税、そして比較的低い平均賃金により、多くの人にとってキットや工具、材料を定期的に購入し続けることは正直、楽とは言えなくなりましたね。

Q7. ポルトガルでの日本製プラモデルの評判はいかがですか？

A7. ポルトガルでは日本製のプラモデルキットはその非常に高い品質から「レゴ」によく例えられます。組み立ても簡単でパテはほとんど、あるいは全く必要としませんから。そのためモデラーは難なく組み立てた後、自分の創造力を発揮し塗装や仕上げに遺憾なく集中することが出来るのです。


硫黄島のシャーマン戦車




Yウイング・スターファイター






10歳の頃に初参加し、模型趣味のきっかけとなった地元の模型ショーで実演中。

NEW KIT REVIEW

THIS MONTH's LINEUP



START!



NEW KIT REVIEW

ハセガワ 1/12 カワサキ GPZ900R（A1）(1984)
製作・文：髙橋浩二

北米市場では「Ninja」と名付けられ、映画でもその存在が広く知れ渡ったカワサキの名車が、ハセガワから完全新金型で登場。長い歴史の原点であるデビューモデルで、欧州仕様を徹底した実車取材により精密に再現。ハセガワによるカワサキのモーターサイクルとしては2021年のKR250以来の新製品だ。

組みやすくて塗りやすい 新時代のニューキット誕生









GPZ900R

HASEGAWA 1:12 BRAND-NEW KIT



世界に轟くカワサキの名車が高解像度で現る

■欧州仕様で先陣を切る

往年の名車、カワサキGPZ900Rがハセガワからリリースされました。A1と呼ばれる最初期の頃の仕様をキット化しています。そしてこのマシンといえば、皆大好きな映画『トップガン』にも登場する主人公メカの1つ。F-14Aと共に作品を彩っていましたね。

キットのパーツを確認すると、今回は使用しないサイドリフレクターのパーツも入っており、北米仕様や最強（＝馬力が1番出ていた）の南アフリカ仕様もリリースできそうです。追ってバリエーションも発売されることが期待できますね。

ブレーキリザーバータンクや冷却水リザーバータンクはクリアーパーツで再現されていて、塗装で液体が入っている風の再現が捗りそうです。カウルはサブフレームを介して取り付ける構造を再現することで、正しい位置にしっかりと取り付けられるようになっています。そして忘れてはならないのは、ハセガワさんもチェーンのコマ再現を遂に実現してくれました。これでチェーン彫り工程から解放されます♪

■フレームを加工して組み上げる

さて組み立てを始めますが、説明書を読み解くと冷却水配管を組み込んだ後にフレームのアッパー部分を取り付けする指示や、エンジンマウント部をエンジン側に先に取り付ける指示となっています。後工程を考慮して組めなくなったり、取り付け位置がずれないための工夫なのですが、実車と同じように組みたい私は冷却水配管を分割し、フレームにエンジンを仮組みした状態でエンジンマウントをフレーム側へ接着し、エンジンを取り外してフレームASSYとして完璧になるように工夫しました（単なる自己満足です）。

フレームASSYに移植したエンジンマウント部にはメイン＆サイドスタンドのピボットも設置されていますが、サイドスタンドの可動化のためプラバンで座面を作り直し、サイドスタンドパーツもコの字断面になるように裏面にプラバンを追加し、軸打ちして回転可動できるように加工しました。合わせてリターンスプリングも追加しています。3DCADによる設計のおかげで各パーツがバチッと決まりやすいですが、1点止めの傾きや複数パーツで組み上げる箇所（エキゾースト配管、カウリングやラジエターのサブフレーム取り付け）は、各パーツを仮組みした状態で接着することで、パーツの傾きやズレによる破綻を防ぐように組み上げていきました。

■塗り分けはエナメル塗料を併用

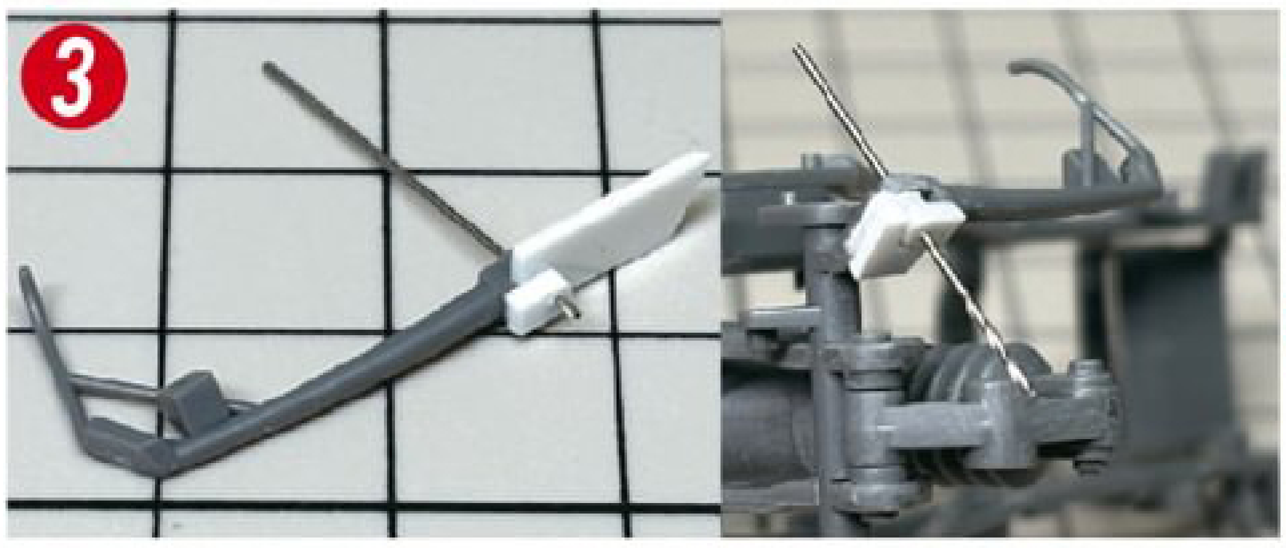
ホイールやサイドステップの金属剥き出し＋セミグロスブラック処理の箇所は、光沢ブラックと光沢クリアーで下地をツルツルに仕上げ、ガイアノーツのGP-07 プレミアムメッキシルバーでアルミ地金感が出るように塗装します。その上にエナメル塗料の半光沢ブラックをライターオイルで希釈して吹き付け塗装し、ライターオイルをガイアノーツのフィニッシュマスターに含ませ、アルミ地金部を拭き取って再現しました。

ウィンカーやバックミラーなどのパーツは位置決めがしっかりしており、特にウィンカーはスナップフィット並の仮組みのしやすさで組み立てやすく、流石最新のキットと唸らせられました。少し気を遣う必要はありますが、ツボを押さえれば実車を組み上げるような工程で楽しく作れました。

BUILDING POINT



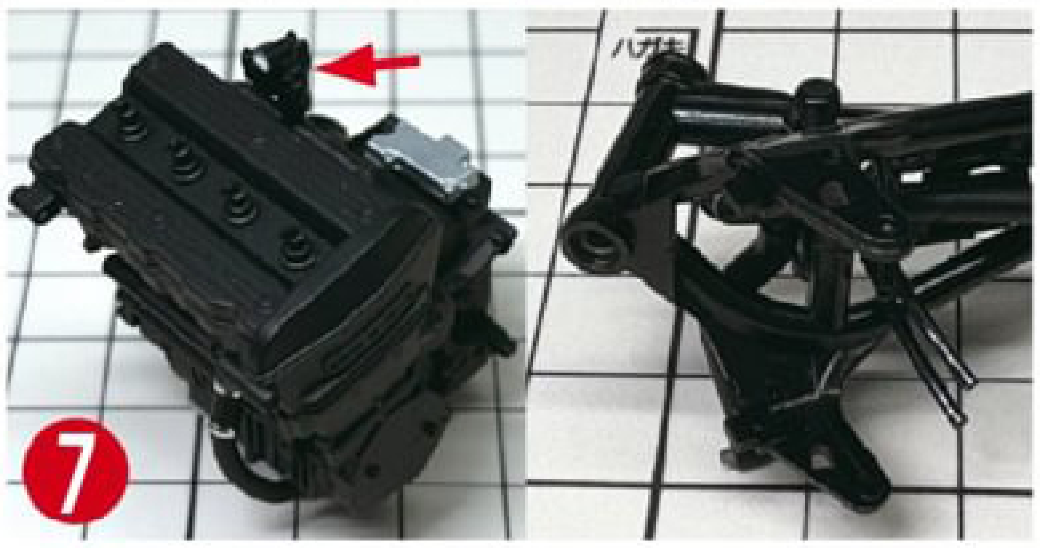












▲①タンク、シートカウル、エンジンとフレームの取り付け位置に問題がないか仮組みして確認する。マウント類がフレームと別パーツになっているので、この工程で確認調整しよう。②サイドスタンドを可動化する。スタンド基部の強度を担保させるため、元のパーツを写真のように切り欠く。③スタンド側にプラバンを追加してコの字型に加工し、その間に基部側となるプラバンを挟み込み、回転軸をドリルで開口して金属線を仕込んだ。④インセクトピンを埋め込みリターンスプリング（矢印）を追加し、引っ掛けるようにすれば完成。リターンスプリングの力で収納/展開どちらでも位置を保持できるようになった。メインスタンドはキットのままでも未接着なら可動させられるようになっている。⑤フレームは説明書の指示と変えて先にアッセンブリー化。合わせ目消し加工や位置ズレを防ぐため、各パーツを仮組みした状態でフレームの各パーツを接着する。エンジンなどを間違って接着しないように注意。⑥マフラーとサイレンサーは左右貼り合わせなので合わせ目を処理した。また、マウント部分は成型の都合で一部が埋まって板状になっているので、裏打ちしてから丸くなるように削り込んだ。⑦フレームを先にアッセンブリー化して装着困難になった冷却水配管は、一体になっていたサーモスタット（矢印）を配管から切り離してエンジンに予め接着しておくと、フレームの渋滞箇所をかわして冷却水配管が装着可能になる。



カウル装着前の状態。細部が徹底的に再現されている。ビニールパイプの取り付けは説明書の各工程で指示されているが、さらに組み終わった後の3DCGイラストで、取り回しを図解した参考図も用意される。フロントフォークのインナーチューブはメッキパーツとなっている。ブレーキディスクはキットのパーツをそのまま使用。これでも十分シャープな仕上がりだが、さらに薄さを求める場合は別売のエッチングパーツ（73頁参照）に置き換えると良い。





▲冷却水リザーブタンクは冷却水が入っている様子を再現するため、マスキングして下半分にクリアーグリーンを塗装後に全体をクリアーホワイトで覆って仕上げた。

※作例はテストショットで製作しているため、製品版とは成型色が異なります。



PAINTING POINT







▲①基本塗装は説明書に従い、GSIクレオスのMr. カラー C68 モンザレッドとC28 黒鉄色で塗装。光沢クリアーでコートし、表面をサンディングして塗り分けラインの段差を解消してから、ゴールドストライプのデカールを貼るようにした。②ホイールなどの金属部は光沢ブラックを塗装してから光沢クリアーを重ねてツヤツヤの下地を作り、ガイアノーツのGP-07で塗装する。③リム部をマスキングしてからタミヤカラーエナメル塗料のX-18 セミグロスブラックをライターオイルで希釈し、エアブラシで吹き付ける。その後、ガイアノーツのフィニッシュマスターに希釈時と同じライターオイルを含ませ、凸部分を拭き取ってシルバーを露出させた。ライターオイルを使用するのは、エナメル溶剤よりも乾燥が早く拭き取りやすいため。



来るべき時に備えて Kawasaki ライムグリーンをゲットしよう



◀GSIクレオス Mr.カラー CKA 01 KAWASAKIライムグリーン。カワサキによる監修の元、同社の象徴でもあるライムグリーンをMr.カラーでリリース。Ninja ZX-10R 40th Anniversary Editionの色味を再現しているが、GPZ900Rの南アフリカ仕様にもピッタリだ。含まれている蛍光イエローのツヤが低いため半光沢塗料となっており、Mr.カラー GGXのLG112 GGXクリアー UVカットなどでのコートが推奨されている。18㎖入りで価格418円(税込)、発売中。



▲ハンドル周辺のディテールも見事。メーター類はデカールが細かく用意されている。ミラーの鏡面はメッキパーツとなっているのでそのまま活かした。



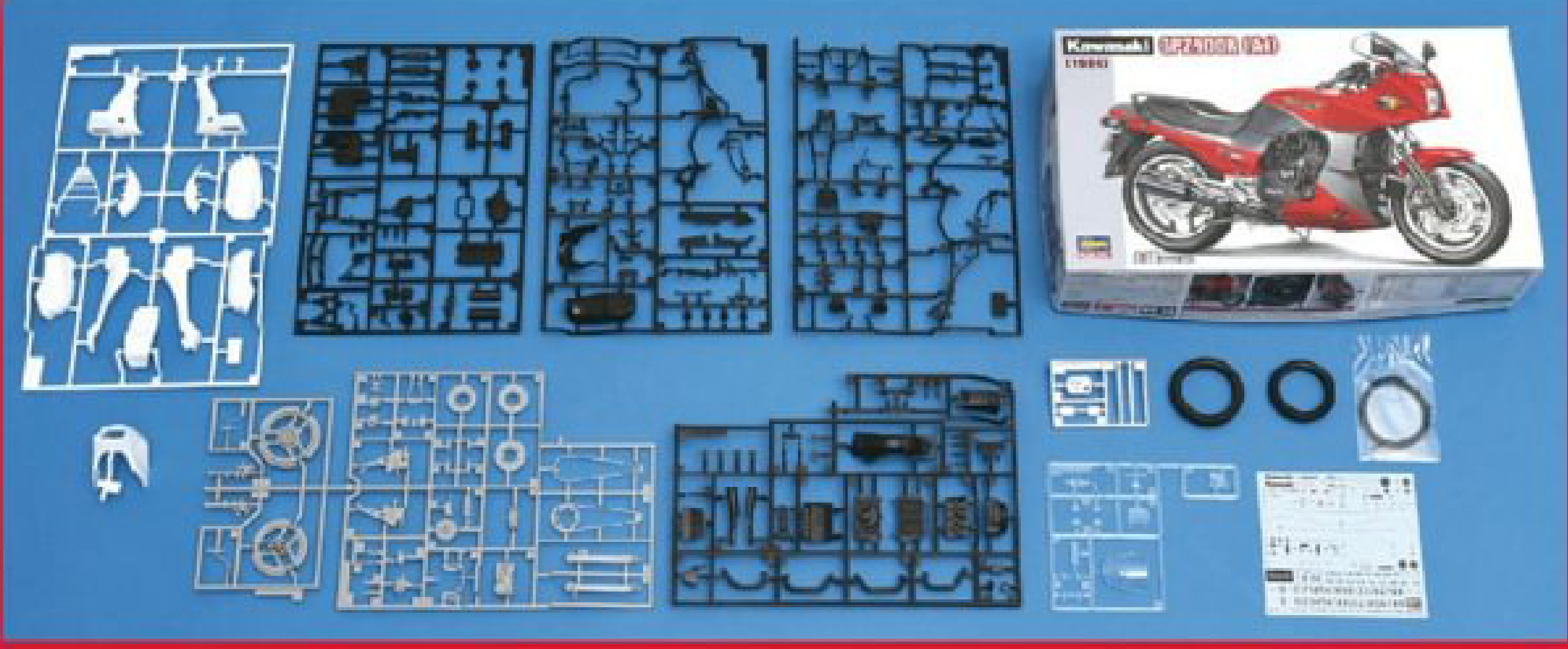
▲チェーンは左右貼り合わせとすることでコマの隙間を再現。加工要らずでこの精密感だ。



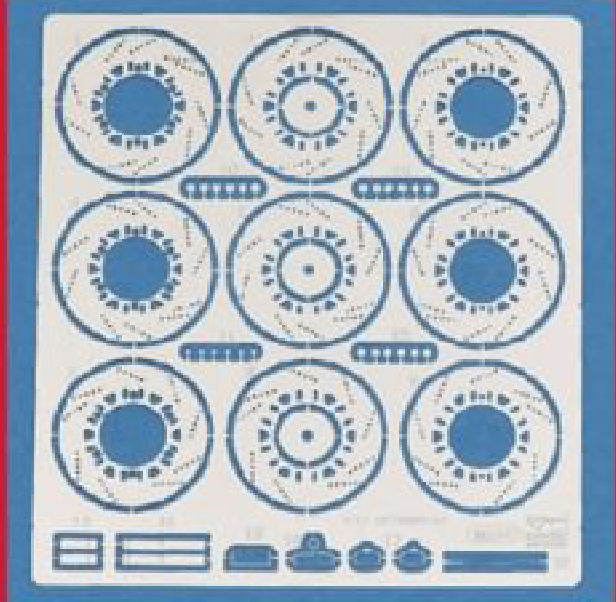
実はもう1台作ってました!



▲今回は2台同時に製作しており、もう1台は当然(?)あの仕様となっている。こちらは3月21日発売予定のモデルアート4月号増刊**「バイク模型 モデリングミッション」**にてたっぷりと掲載する。詳しくは表3をご覧いただきたい。



▲作例使用の新金型キット。カウルの装着は選択式。塗装図にはカウルの塗り分け用型紙が印刷されている。フロントフォーク、スイングアーム、リアホイールの取り付けには付属のビスを使用する。発売元はハセガワ(054-628-8241)で価格4,070円(税込)、発売中。全国の模型店などで購入可能。



▲前後ブレーキディスクや各種ケーブルホルダーなどを収録した、ステンレス製の純正エッチングパーツ(品番:21778)も発売中。価格2,970円(税込)。



塗装、接着剤不要で手軽に 1/24 のカーモデルを楽しめるアオシマの楽プラ スナップカーシリーズに、4 車種目となるランサーエボリューションⅢが加わった。歴代ランエボの中でも屈指の人気を誇るⅢだけに注目度も高く、既に組み立てたモデラーも多いのではないだろうか。今回はストレートに組んで塗装したものと、キットのグレードであるGSR から RS に改造してジムカーナ仕様にカスタムしたものをご紹介しよう。

AOSHIMA 1:24 SNAP CAR
LANCER Evolution Ⅲ

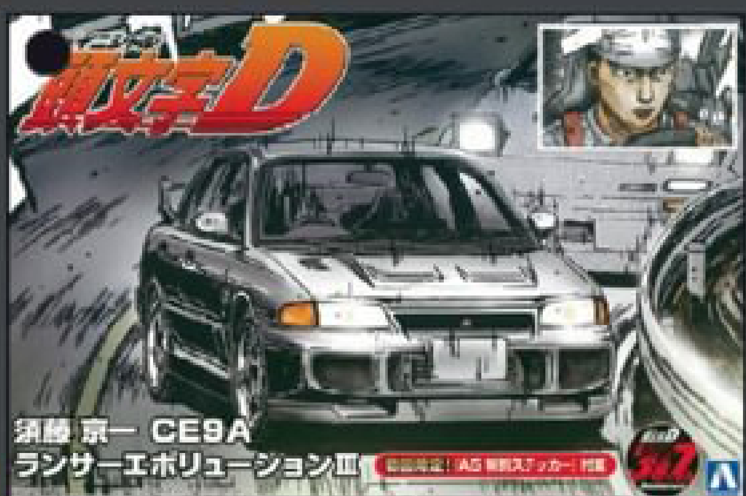
第 1 世代の完成形「エボⅢ」をスナップフィットでキット化！



◀▼作例使用の新金型キット。内装はシリーズ恒例の折り畳み式ながらもフロントシートは別パーツ化され、シャシーも少ないパーツで緻密なディテールを再現。ホイルシールとデカールの両方がセットされ、前後窓枠はビニールシールを用意。ボディカラーはⒶ**ダンデライオンイエロー**Ⓑ**スコーティアホワイト**Ⓒ**クイーンズシルバー**の３色展開。さらに漫画『頭文字D』の劇中仕様を再現したⒹ**須藤 京一 CE9A ランサーエボリューションⅢ**もリリース。ボディカラーはブラックで、スポーツマフラーとスピーカーのないリアシェルフの専用パーツを追加。また、初回特典としてA5サイズの特別ステッカーが同梱される。発売元は青島文化教材社（☎ 054-263-2595）で価格はⒶⒷⒸが各3,960 円(税込)、Ⓓが 4,620 円(税込)、発売中。全国の模型店などで購入可能。







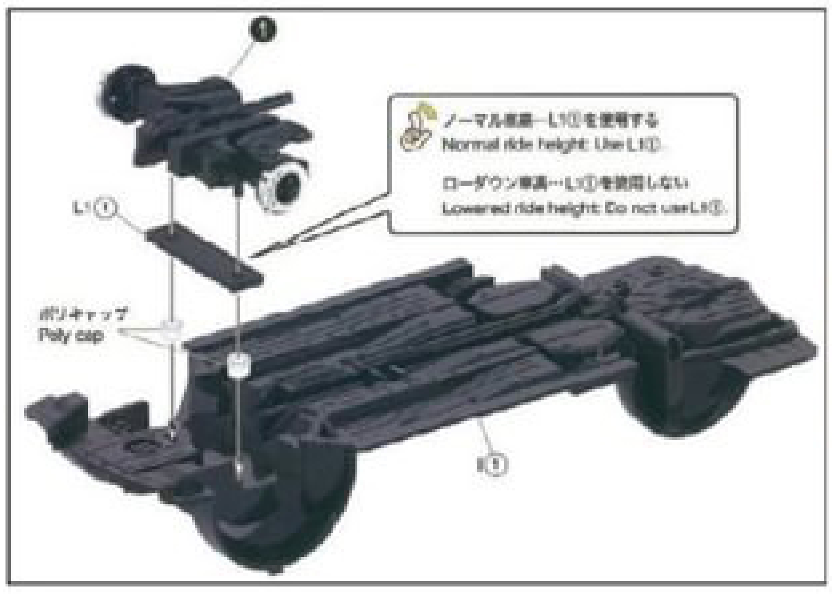
無塗装でシールも貼らずに組むと こんな仕上がりに

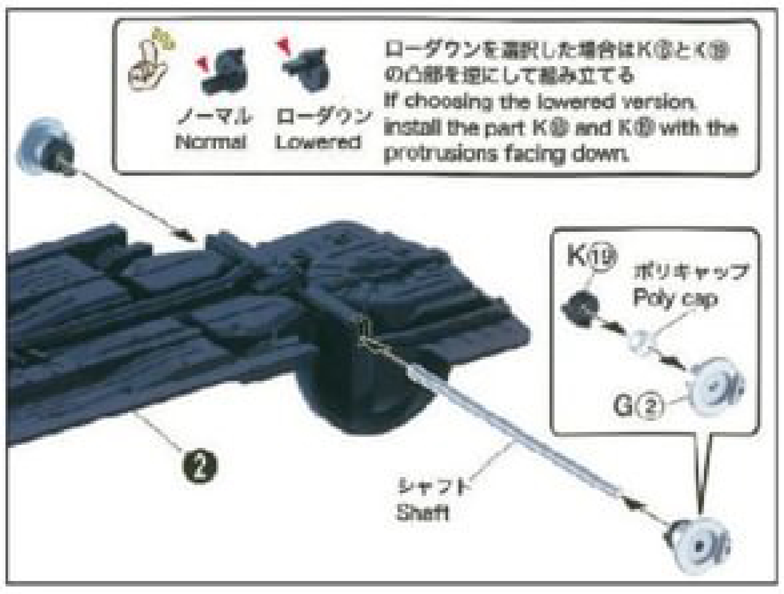




ダンデライオンイエローをそのまま組んだ状態。イエローの成型色はおもちゃっぽくなりがちだが、オレンジ寄りで透けることなくしっかりとした色に仕上がっている。シールを貼らずとも、窓枠とルーフモール、ウィンカー以外はパーツ分割と成型色で色分けはバッチリ。フロントバンパーはグリルで塞ぐか内部のインタークーラーとオイルクーラーを取り付けるかの選択式（写真は後者）。前後ライトハウジング、ドアミラー鏡面、マフラーはメッキパーツとなっている。

☞ステアリング機構を持ちながらも簡単差し替えで車高を変更可





◀上の完成状態はノーマル車高としているが、ローダウンに差し替えられるようになっている。フロントはエンジンとアップライトが一体化したユニットをシャシーに嵌め込むが、その間にスペーサーのパーツを挟むとノーマル車高、省略するとローダウンになる。シャシー側にポリキャップを仕込むようになっているため、組み立て後も簡単にユニットを取り外せる。リアはシャフトでブレーキディスクを取り付けるが、ブレーキディスクとシャシーの間に挟むパーツに突起が設けられ、この上下の向きを変えることでブレーキディスクの位置が変わり、車高を選択できる仕組みだ。

☞思わず膝を打つパーツ構成でマニアも納得のフロントマスクに！







▲①スナップフィットと再現性を両立するため、毎回モデラーが唸るパーツ構成を見せる楽プラシリーズだが、今回の注目はヘッドライトだ。まずはぱっと見だと用途が不明なM字のユニットにウィンカーのダボを差し込み、前方に回転させる。②ユニットをボディの裏側から差し込むと、ウィンカーがフロントマスクに収まる。③メッキパーツにカバーを取り付けたヘッドライトハウジングを内側から入れ、ウィンカーの位置を合わせてから前方に押し込む。こうするとメッキパーツ側のダボ穴に、フロントグリルから伸びたダボ（丸囲み）が差し込まれ、しっかりとボディに固定できる。







キットの持ち味を活かしてストレートに作る!

そのままパチパチと組むのはもちろん、塗装して製作するのもライトに楽しめるのが楽プラシリーズの魅力。キット付属のデカールとホイルシールを活用しつつ、クイーンズシルバーで塗装して通常のカーモデルと同じように製作してみた作例を見ていこう。

■ラリーに懸けた三菱の情熱

1992年にデビューしたランサーエボリューションは、それまでのギャランVR-4で戦ってきたWRCでの勝利のために、ギャランよりもひと回り小さな車体にエンジンと駆動系を移植するという手法で開発されました。当初は上層部もこの手法には懐疑的な目であったそうで、一部有志が上層部を説得するために試作車の開発をスタートさせました。WRCのホロモゲーションのための2,500台を完売できるか分からず、専用カタログが存在しなかった状態での販売開始だったようです。

しかし、いざ販売開始してみると数日で完売となり、増産に次ぐ増産で最終的には7,600台強の売り上げとなりました。結果的に上層部からも売れるクルマと評価され、いつしか「ランエボだから仕方ないね」という理由での開発予算も大幅に増えたことでエボⅡ、エボⅢと徐々に進化していったのです。

■楽プラを塗装する前に

そんな第1世代の最終型となったエボⅢを、アオシマが1/24の楽プラとして発売しました。基本的に無塗装＋シールで完成させられるキットではありますが、もう一歩進んで塗装したい方への考慮もされたキットにも感じました。スナップキット故にパーツ同士のクリアランスがギリギリに設定されているので、ボディを塗装したい場合はウィンドウと灯火類とが合わさる部分は、事前にボディ側を削ってクリアランスの調整が必要となります。特にサイドウィンドウの下辺は合わせがきついので、ボディ側の角を予め落としておかないと、ウィンドウの取り付け時にボディの塗膜が欠ける恐れがあります。

また、ボディとシャシーのフロント側の嵌合部はボンネット裏にあるのですが、何度か仮組みをしていたら爪が変形してしまいました。そのためバンパー下部に1㎜厚プラバンで受けを自作追加して固定できるようにしました。ボディのスジ彫りはドアなどの開口部は刃厚0.2㎜、その他の部分は刃厚0.15㎜のタガネで彫り直していますが、ボディのプラパーツが通常のプラよりも硬いようで、タガネが脱線しやすい印象がありました。脱線した部分は都度パテで修正しています。

■ボディ塗装は調色で

ボディカラーはガイアノーツのEx-07 Ex-シルバーにGSIクレオスのMr.カラー色ノ源のCR1 シアンとCR3 イエローを加えてから、ブラックを数滴加えてトーンを落としましたが、ちょっと緑が強かったかもしれません。ボディカラー塗装後にメタリック保護のため一旦光沢クリアーを吹いてから各デカールを貼り、改めて光沢クリアーを吹いてデカールを保護しつつ研ぎ出しをしています。内装に関しては説明書に色の指示がないので、インターネットの中古車情報の画像を参考にしました。



◀フロントバンパーにはグリルのパーツを取り付けた。三菱のエンブレムはデカールではなくホイルシールを使用。貼り付けるだけで済み、厚みがあって立体感も出るので一石二鳥だ。ナンバープレートはパーツだと分厚いので、デカールを台紙ごと切り抜いて両面テープで貼り付けた。

アオシマ 1/24 CE9A ランサー GSR エボリューションⅢ
1995 クイーンズシルバー
製作・文：小田島俊介





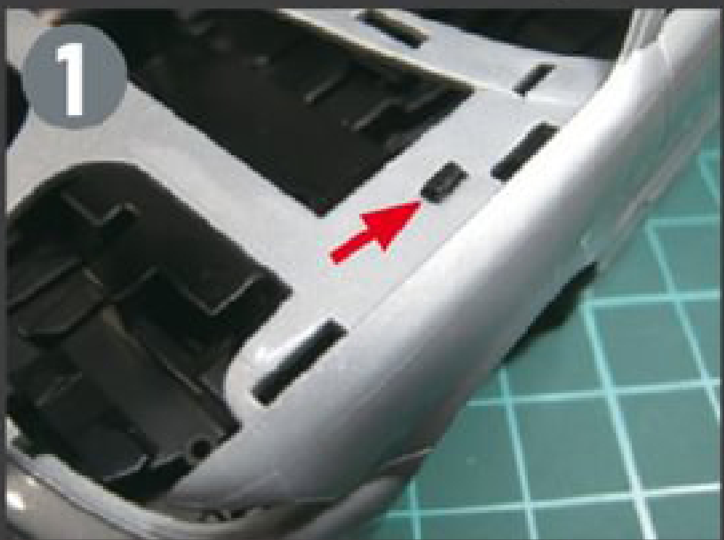


ABSってどうなるの？
塗装前に成型色の染み出しを実験

◀今回はクイーンズシルバーとシルバースコーティアホワイトを使用したので、ダンデライオンイエロー及び『頭文字D』仕様のボディパーツの染み出しは未確認である。各パーツのランナーをガイアカラー薄め液に漬けて実験を行なったが、シャシーと内装のランナーは10分後から黒く染料が染み出してきた。ホイールとボディパーツは1時間経過しても染み出しは見られなかった。



☞ポイントを押さえてワンランク上の仕上がりを目指す













▲①フロント側のボディとシャシーの合わせ部分は、ボンネット裏にシャシー側の爪（矢印）を引っ掛けて固定する独特の形状。②ただし何度も仮組みをしていると爪が緩くなってしまった。③そこでボディ側に突起を追加して固定する方法に変更した。1㎜厚プラバンを瞬間接着剤で取り付け（丸囲み）、Mr.SSP瞬間接着パテで補強した。④赤く描き込んだ位置にパーティングラインがあるので#400の紙ヤスリで除去した。⑤各部のスジ彫りは、ドアなどの開口部は刃厚0.2㎜、バンパーの分割線などは刃厚0.15㎜のスジ彫りカーバイトで行なった。⑥プラの材質が通常と違い、気を付けても脱線してしまうことが何度か生じたので、都度パテで修正した。パテはフィニッシャーズのラッカーパテを使用している。



▲内装はインターネット上の画像を参考に塗り分けた。ダッシュボードとドア内張の外周部分はタミヤカラーラッカー塗料のLP-65 ラバーブラック、ドア内張のモケット部とシートのグレー部分はMr.カラーのC37 RLM75グレーバイオレット、シート外側はブラックサーフェイサーを使用している。



▲ウィンドウは自作のクリアーグリーン（ガイアノーツのEx-クリアーに033 純色シアンと035 純色イエローを数滴加えたもの）で塗装。また、リア側の3面はMr.クリアカラー GXのGX101 GXクリアブラックで塗装した。窓枠の黒セラ部分はキット付属のシールの不要部分をマスキングの型に利用して、セミグロスブラックで塗装した。

アオシマ 1/24 CE9A ランサー GSR エボリューションⅢ
1995 スコーティアホワイト 改造
製作・文：小田島俊介



RSに改造してジムカーナ仕様で仕上げる！

ここからはカスタマイズして製作した作例をご紹介。キットでは快適装備を備えたグレードのGSRとなっているが、これらを外した競技車両ベースのRSに改造。さらに「ジムカーナあるある」を詰め込み、キットとはひと味違うイメージに仕上げた。



LANCER RS Evolution Ⅲ



■GSRからRSへ

もう1台は少しイジってジムカーナ仕様としました。エボⅢにも競技ベースのRSが存在しますが、GSRから小加工で変更できます。RSへの変更点はアンテナ位置の変更（トランク横から運転席Aピラー）、リアフォグ部分とドアミラー、ドアノブのブラックアウト（塗装のみ）、リアワイパーとリアスピーカーの除去程度です。

ただしリアワイパーはクリアーパーツの加工が困難なので、「修理したらRS用のリアウィンドウは廃盤でGSR用になっちゃった」という設定ってことで…。厳密にはドア内張やコンソールパネルも違いますが、今回はオミットしています。

■内装の加工

塗装で変更した部分はセミグロスブラックで塗装しただけですが、Aピラーのアンテナはフジミのk11マーチのパーツをおゆまるで複製して使用し、リアワイパーの穴はキットの窓枠シールをポンチで打ち抜いてカバーとしています。

続いて内装ですが、実車のRSは交換される前提で低グレード用のシートが前後席で標準です。ライトチューンということを考えて、運転席はタミヤのポルシェ 911 GT2からフルバケットシートを流用しました。助手席はキット付属のレカロですが、フロントシート裏面の肉抜きをプラバンで埋める加工をしました。黒で塗装した場合は外から目立たないので無視しても良いかもしれません（GSRのほうは無加工）。助手席もシート交換の設定ですので、当時流行ったルマンカラーとしてみました。リアシェルフのスピーカーはRSでは付いていないので、プラバンでパーツを丸ごと自作しました。ちなみに『頭文字D』のキットにはスピーカーレスのパーツが付属しています。

■足周りもカスタム

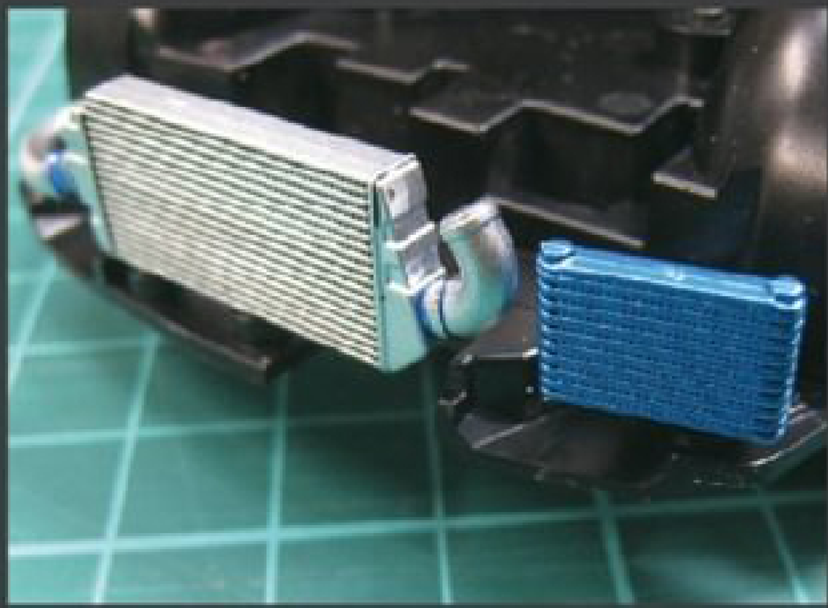
ここまでは割とスムーズに進んだのですが問題はホイール。4穴の15～16インチサイズのホイールって意外とパーツ化されていないんですね。これは盲点でした。今回はアオシマのTE37グラベルをオフセット調整しつつ使用し、それに付属するタイヤを使用しました。今では3Dプリント製のホイールも入手しやすい時代になったので、そちらを利用するのも良いと思います。

ウィンドウはインターネットの画像を参考に自作調色したクリアーグリーンを塗装しています。オイルクーラーは形状が良さげだったのでEx-07にクリアーブルーを重ねて塗装して社外品風にしつつ、バンパーのダクトにはハセガワのモデリングメッシュを黒で塗装して貼り付けました。





☞細部をカスタムしてひと味違うエボⅢを作る





▲インタークーラーとオイルクーラーのパーツを取り付け、バンパーのダクトにはハセガワのモデリングメッシュ41（菱形・Lサイズ）を貼った。オイルクーラーは純正だとブラックだが、トラスト製を取り付けたという設定でシルバー＋クリアーブルーで塗装した。ここに明るい色が入ることでフロントマスクの良いアクセントになる。GSRのヘッドライト周辺はキットのままにしているが、こちらはカバーの断面を黒く着色し、より引き締まった印象になるように仕上げている。



▲トランク横のアンテナを除去し、運転席Ａピラーへ変更。原型はフジミのK11マーチのパーツで、おゆまるで複製した。パーツ単体ではなく、一旦プラバンに貼ってから型取りするとズレを予防できる。複製には家電量販店などで購入可能なパジコのUV-LEDレジン 星の雫[ハード］を使用。型に流す際は、針などの細いツールで行うと気泡を予防できる。



▲リアワイパーを除去。ただし取り付け用の開口部を処理することが出来なったため、「ガラス交換をしたらRS用がなかったためGSR用を取り付けた」という設定にして、開口部はキット付属のシールをポンチで切り抜いてパッチ処理とした。シート後部のスピーカーも外すため、リアシェルフごとプラバンで自作して置き換えた。



▲テールレンズのリアフォグ部分を除去し、セミグロスブラックで塗装した。



◀ホイールはアオシマのTE37（16インチ）を使用し、タイヤもホイールに付属するものをそのまま履かせた。このホイールはアオシマのカーブティッククラブ AE86 トレノ '85に含まれているほか、ザ・チューンドパーツのNo.11として単品販売もされている。

☞フロントシート背面の肉抜きはプラバン加工で埋める









▲①フロントシートの裏側が肉抜きされているためプラバンで塞ぐ。まずは形状をマスキングテープに写し取る。②形状に沿って1㎜厚のプラバンを切り抜く。今回は３面に分けた。③接着して細部はパテ埋めで対応した。純正のシートカラーの場合は目立たないので加工は不要かもしれない。④RS仕様の運転席はタミヤのポルシェ 911 GT2 のバケットシートを流用し、助手席はレカロの塗装を変えてSR3のルマンカラーを模してみた。

NEW KIT REVIEW

タミヤ 1/48 ミリタリーミニチュアシリーズの現用車両としては、2022 年のチャレンジャー 2 以来となる新製品が登場。1/35 に続きレオパルト 2 の最新仕様をキット化しているが、1/48 に合わせて各部の構成を変更し、より手軽に組めるようになっている。

TAMIYA 1:48 SCALE LEOPARD2 A7V



絶妙なサイズで手にするレオ２の進化形

■はじめに

レオパルト2は1/35、1/16で発売されているので、1/48でもラインナップされるのは順当なところです。現用戦車は車体が大きいので1/35でも存在感がありますが、1/48ならコンパクトに収まって程良い大きさになります。A7Vは現在実用化されているレオパルト2シリーズの最新鋭モデルであり、ドイツ連邦軍の主力戦車として実戦配備されています。それでは早速組み立てていきましょう。

■車体の組み立て

キットは既に発売となっている1/35のディテールを引き継ぎつつ、適度な省略とパーツ分割を行うことにより、ストレスを感じさせることなく組み立てを進めることが出来ます。足周り、特にサスペンションアームとダンパーは複雑で数が多い箇所ですが、車体下部側面と一体化させ、車体の箱組み工程の一部にしてしまうことで、パーツの切り出し、整形を加えて形にするまで10分しかかかりませんでした。なお､シリーズ恒例だった重量感を演出するためのウェイトは今回より別売で、必要な方はタミヤカスタマーサービスへ発注となります。

履帯は長いコマと短いコマを組み合わせていく部分連結式で、説明書の順番どおりに進めていけば良いのですが、その前に履帯同士を結合しているエンドコネクター部分のパーティングラインが完成後もかなり目立つ部分なので消します。さらに履帯が曲がる部分のコネクターをペンチなどで軽く曲げておくことで、繋がりをスムースに見せることが出来ます。

車体上部内側には長大なサイドスカートの取り付けをサポートするパーツが入っており、同時に車体上下の接着を確実なものにしています。エンジンデッキ上にはOVM類が一体でモールドされています。とても立体感のあるものなので、後で塗り分けるだけでメリハリある仕上がりになります。

■砲塔の組み立て

砲塔部分には全体にわたって滑り止めのザラザラとしたディテールが施されています。側面中央部には左右に雑具バスケットが取り付けられています。実車ではパンチングメタル製で小さな穴が無数に開いており、1/35ではエッチングパーツが用意されていましたが、1/48ではデカールでの表現となっています。作例では塗装とデカールを貼る作業の便を考慮して最後に取り付けるようにしました。後部にあるラックも同様にデカールでの表現です。ここには取り外されたマッドフラップが固定されるので、これも塗装作業後に接着します。上面3ヶ所の吊り上げ用フック（A4）は、ラン



▲先行してリリースされた1/35（製作:佐藤児輝/本誌2024年11月号掲載）と並べてみる。1/48の完成時の全長は約23.4㎝、全幅約8㎝で、大柄な現用車両を手頃なサイズで楽しめる。

タミヤ 1/48 ドイツ連邦軍主力戦車 レオパルト 2 A7V
製作・文：尾林大輔



ナーに付いた状態のまま極小棒ヤスリで内側のパーティングラインを消しました。

120㎜滑腔砲は1パーツ構成の砲身に排煙器や砲口を取り付けていきます。主砲は完成後も目立つ存在なので、排煙器の合わせ目は丁寧に消しておきます。ここも全体の塗装が済むまでは砲塔に固定せずにしておきます。

■NATO迷彩を塗装する前に

塗装はNATO標準の3色迷彩です。パターンはそれほど細かくないので、今回はエアブラシの一発吹きで塗っていきます。まずは全体にブラックサーフェイサーを吹き付けます。転輪と履帯の部分をマスキングテープで養生したら、ブラックサーフェイサーを塗り潰さない程度にグレーサーフェイサーを吹きます。これは1色目のグリーンに変化を付けたいという狙いと、足周りの影の部分にグレーが入らないようにしたいからです。グリーンは塗装図の指示どおりタミヤカラーラッカー塗料のLP-58 NATOグリーンを使用し、塗装後に転輪部分を再度マスキングして、残りの2色が転輪にかからないように養生します。

次はブラウンとブラックです。塗装図ではタミヤカラーアクリル塗料で指示されていますが、作例ではLP-59 NATOブラウンとLP-60 NATOブラックを使用します。この2色で迷彩パターンを塗っていきますが、塗装図はモノクロ印刷なので濃淡でパターンが示されており、塗り進めていくと途中でパターンが分からなくなってしまうことがあります。このようなことを防ぐために、色鉛筆やマーカーで塗装図のパターン部分を塗り分けておくことをお勧めします。今回のような3色迷彩ならば、中間の濃度のブラウンだけ塗っておけば後の2色は自ずと認識できます。

■フリーハンドでの吹き付けのコツ

パターンを整理していざ塗装開始です。塗料の希釈は攪拌棒から連続して垂れるくらい。ボタリ、ボタリというよりボタボタボタ…となる程度に調節します。そもそも瓶の中でどれだけ溶剤分が揮発しているかで塗料の濃度は千差万別なので、定量的表現は出来ません。塗料と溶剤の混ぜる比率はその時によって異なります。

コンプレッサーから吐出される圧縮空気の圧力をかなり落とし、圧力計で表示すれば0.2MPaまで調圧します。エアブラシは0.3㎜口径を使用し、先端のキャップを取り外した状態で吹き付けます。キャップを外すとノズル先端から吐出された塗料があまり飛散せず、細吹きが可能になるということです。ただしキャップがないということは、エアブラシのもっとも重要な部品であるニードル先端がむき出しになっているので注意しなければなりません。取り回しを誤ってニードルをぶつけて曲げてしまったりすると、もう精度の良い吹き付け作業は出来なくなります。あくまで自己責任でお願いいたします。

■フィニッシュワーク

転輪と履帯を筆で塗り分けたらデカールを貼ります。1日乾燥させた後、デカール保護と段差をなくすことを目的としてGSIクレオスのMr.カラー GX GX114 スーパースムースクリアーつや消しを吹き付けます。

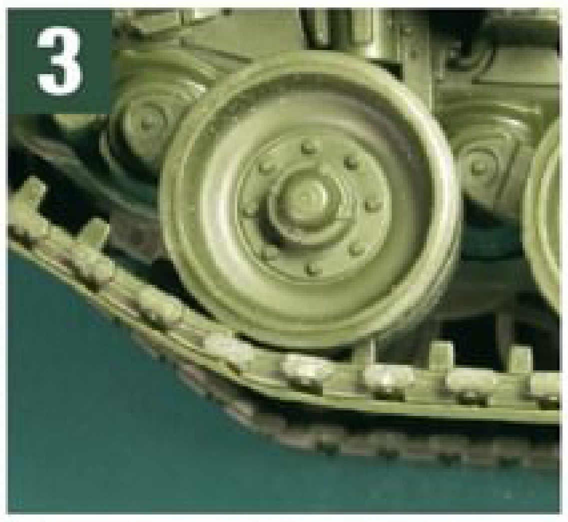
スミ入れを兼ねたウェザリングとして、Mr.ウェザリングカラーのWC01 マルチブラックを専用うすめ液で薄めに希釈して全体に塗布し、さらにディテールの周囲やパネルラインに流し込んでメリハリを付けます。ボルトや取っ手などの突出部には、WC17 マットアンバーを面相筆で乗せてハイライトを表現しました。最後にもう一度つや消しクリアーを吹いて全体の調子を整え完成です。

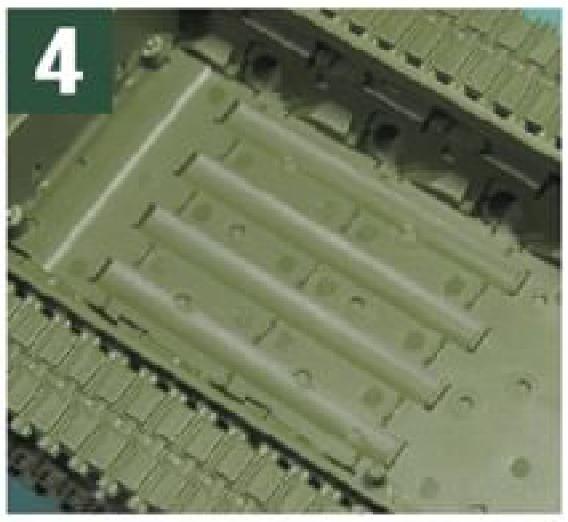


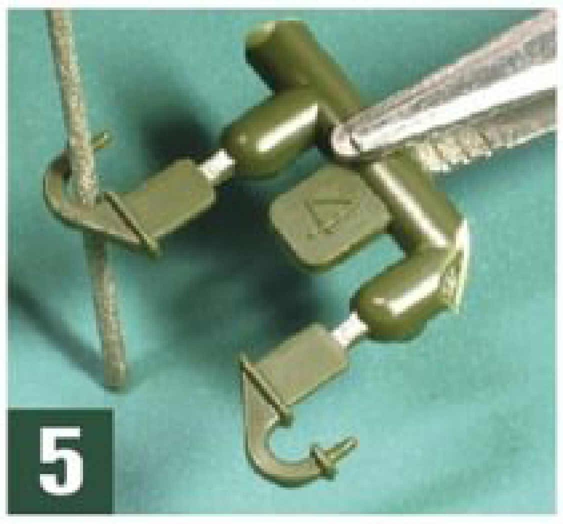
BUILDING POINT









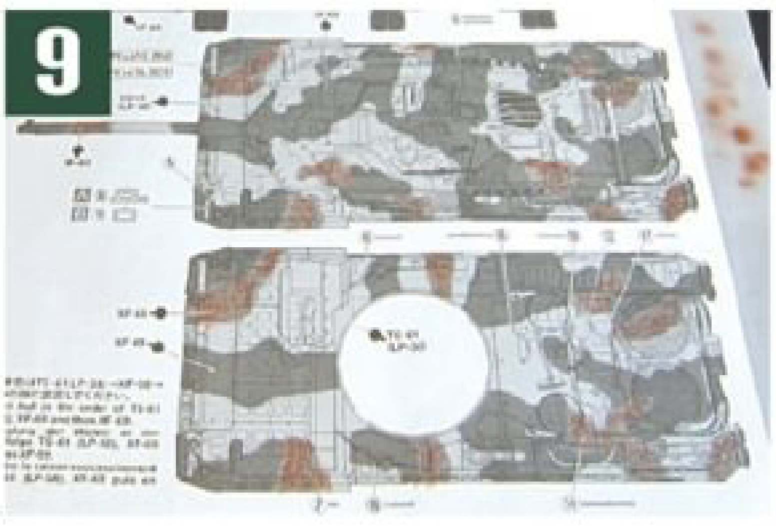






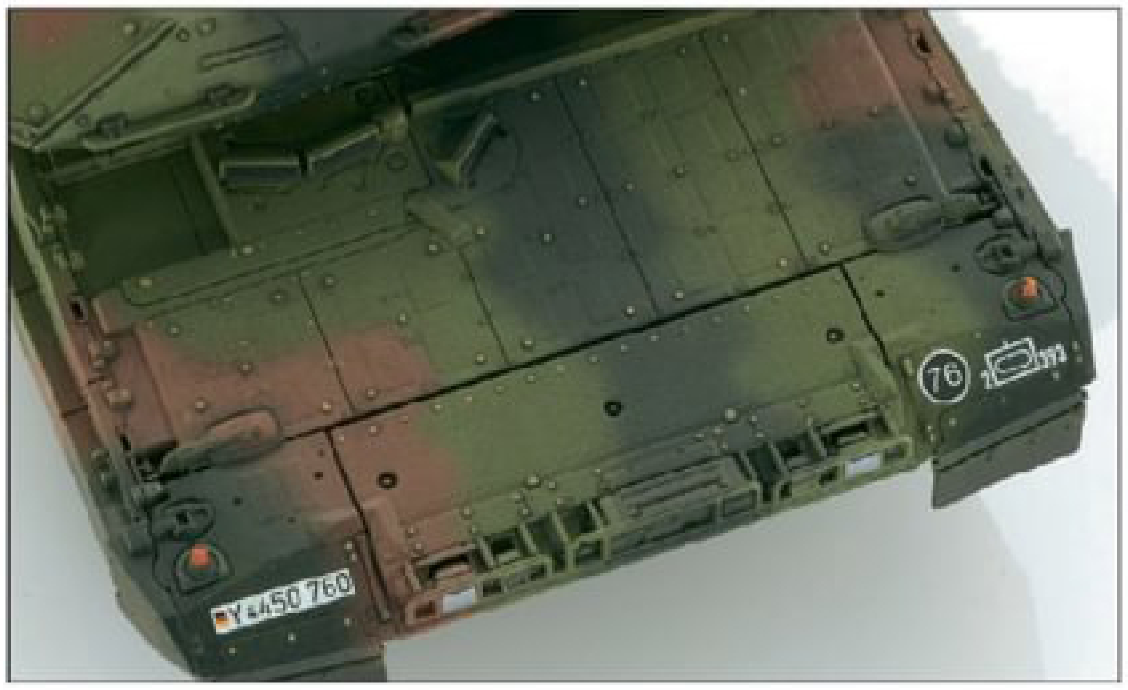
▲1.先に製品化された1/35ではサスペンションアームは別パーツとなっていたが、1/48では巧みな構成でパーツ数を減らし、組みやすさを追求している。ディテールも申し分ない。2.転輪は貼り合わせてからスポンジヤスリでパーティングラインを処理した。3.履帯は直線部分を一体化した部分連結組み立て式。エンドコネクター部分のパーティングラインが目立つので処理した。また、カーブにかかる部分はペンチなどで曲げておくと自然な仕上がりになる。4.シリーズ初期はダイキャスト製シャシー、近年はウェイトによって重量感を演出していたが、今回はキットに付属しない。ただし車体内部にウェイトを仕込むための窪みが設けられており、タミヤカスタマーサービスにて注文が可能。ウェイト４本で価格484円（税込）＋送料。5.砲塔上面のフックはランナーに付いた状態で棒ヤスリを使ってパーティングラインを処理した。6.砲身の排煙器は左右分割なので合わせ目を消しておく。7.組み立て完了。砲塔バスケットはパンチングメタルのデカールを貼る都合を考え、個別に塗装して最後に取り付ける。







▲8.Mr.フィニッシングサーフェイサー 1500 ブラックで全体を覆った後、足周りをマスキングしてタミヤのファインサーフェイサー（ライトグレイ）を重ねる。9.塗装図はモノクロ印刷のため迷彩パターンは濃淡で描かれているが、ブラウンとブラックの塗り分けがやや分かりにくい。そこでブラウンの箇所のみ着色しておいた。10.塗装図ではラッカー塗料とアクリル塗料の併用が指示されているが、３色ともタミヤカラーラッカー塗料を使用した。NATOグリーンで先に全体を塗装し、0.3㎜口径のエアブラシを使ってフリーハンドでNATOブラウン、NATOブラックの順で吹き付けた。



▲車体の滑り止めのモールドはしっかり目立ちながらも過剰な凹凸になっておらず、絶妙な塩梅。ライトガードもキットのままで十分繊細だ。



▲バスケットのパンチングメタルは1/35だとエッチングパーツになっていたが、1/48では組みやすさを最優先してデカールでの表現。ただし言われなければデカールだと気付かない、スケール感に合った自然な仕上がりである。



砲塔後部がA6までの台形から、長方形で大きく張り出すようになったのがA7以降の特徴。右側のルーバーがあるほうが空調装置、左側が雑具箱となっている。OVM類はエンジンデッキにモールドされており、牽引ワイヤーは後端のうねった部分だけ別パーツ化するなど、パーツ数を抑えた工夫が見られる。説明書に塗装指示が記載されているので、これに従って丁寧に塗り分ければこれだけの仕上がりを得られる。



◀作例使用の新設計キット。戦闘時の姿を再現し、リアパネルのマッドフラップは外して砲塔後部側面に取り付け、バックミラーは畳んだ状態となっている。砲身はポリキャップで上下に可動する。砲塔側面の増加装甲や各部ハッチは固定式。コマンダーの半身像フィギュア1体が付属。マーキングはドイツ陸軍で最初にA7Vを受領した第393戦車大隊所属車2種をセット。発売元はタミヤ（☎054-283-0003）で価格3,630円（税込）、発売中。全国の模型店などで購入可能。

ベルファイン1/72 ダークスター
製作・文：安藤隼也





映画『トップガン マーヴェリック』の予告映像で一瞬登場してファンをざわつかせ、本編公開で全貌が露わとなったダークスターをベルファインがインジェクションキット化。機体の概要は映画を観ていただくとして、ここではキットの気になる仕上がりをチェックしてみよう。

TOP GUN: MAVERICK DARKSTAR

スクリーンの興奮再び キット化の奇跡に諸手を挙げる



■公開から３年を経て

映画『トップガン マーヴェリック』に登場した極超音速有人航空実験機（架空機）が、ベルファインよりキット化されました。パーツ数を抑えながらも、キャノピーや降着装置を完成後も差し替えられる構成となっていますが、今回の作例では強度を優先して駐機状態で固定しています。

■エッジを立たせながら組む

機体内部のインテークやエンジン周りから取り掛かります。基本的にスナップフィットとなっていますが、スプリッターベーン周辺などで一部ピンやダボの噛み合わせがきつい箇所があったので、適宜削って調整しています。完成後はほぼ見えなくなりますがエンジンも再現されています。せっかくなのでGSIクレオスのMr.スーパーメタリック２のSM204 スーパーステンレス２で塗装し、スモークで陰影を表現しました。

コクピットは主計器盤のスイッチを塗り分け、ディスプレイにはハセガワのTF902 偏光フィニッシュ グリーン～マゼンタを貼ってそれらしく表現しています。説明書に指示はありませんが、念のため機首に尻餅防止用のオモリ（鉛玉）を仕込みました。

胴体上下と機首部分を組み合わせるとほぼ外形が完成します。胴体と機首の接続部には目立つ合わせ目が発生したので、高切削タイプの瞬間接着剤を使用して埋めています。また、機体表面には所々ヒケが見られるので、同じく埋めて平滑に処理しています。この機体は極超音速機ということで、機体外縁部などを削ってエッジを強調し、主翼前縁やインテークの縁も薄く見えるように削り込みました。

■高高度飛行を意識した塗装

工作が完了したところで、機体表面の確認のためブラックサーフェイサーを全体に吹きます。次に下地として、Mr.カラーのC317 グレー FS36231を、市販のステンシルや換気扇フィルターを使用してまだらに吹き付けました。このパターンを完全に塗り潰さないように機体色を吹いていきます。ブラックで指示されている部分はMr.カラー GXのGX2 ウイノーブラックとMr.メタリックカラー GXのGX218 グラファイトブラックを1:1で混色したものを使用します。グラファイトブラックは適度なメタリック感を得られるので、このような機体







の塗装にもマッチします。次に各部をマスキングし、グレーでの塗り分けを指示されている部分はGX218でそのまま塗装しました。

機体の基本塗装が完了したら、デカールのシルバリング防止のためGX100 スーパークリアー３を全体に吹きます。付属のデカールは貼りやすく密着性も良いですが、ウォークウェイラインなどは余白が大きくシルバリングすると目立つため、タミヤのマークフィット（スーパーハード）を使用しながらじっくりと密着させました。

デカールが十分乾燥した後に、ウェザリングに備えて再度GX100を吹き付けます。ウェザリングは実在するSR-71などを参考にしながら、超音速飛行による機体表面のダメージを表現していきます。まずMr.ウェザリングカラーのWC01 マルチブラックとWC06 マルチグレーを機体表面にランダムに置き、次に専用うすめ液を含ませた筆で伸ばし、乾燥する前にキッチンペーパーで叩くように拭き取ります。こうすることで機体表面にランダムなパターンを描き、高温によるダメージを表現します。グレーが強すぎたと感じたらブラックを上塗りするなど、全体を見ながら調整しましょう。また、機首や主翼前縁など、摩擦が大きい箇所はタミヤウェザリングマスター（日本海軍艦船用）のグレイを擦り付けて強調しました。最後に足周りのパーツを取り付け、C181 スーパークリアー半光沢を全体に吹き付けて完成です。

■キーアイテムを手元に飾る

このキットはパーツ数が少なめに抑えられ、さらに頑丈に組み付けられるよう配慮がされています。エアモデルを組んだことがない方でも、映画を観てこの機体に惚れ込んだ方はぜひ製作にチャレンジしてほしいと思います。

DARKSTAR

PROTOTYPE HYPERSONIC AIRCRAFT



BUILDING POINT

1


2


3


4


5


6


7


▲1.インテーク、ノズル側共にスプリッターベーンが設けられ、上下に可動するようになっている。そのままだと嵌合がきつい箇所があったため、適宜削って調整した。2.インテークリップや機体外縁は薄く削り込んでエッジを強調した。3.完成後は前後しか見えなくなるが、エンジン本体も再現されている。せっかくなのでSM204で全体を塗装し、スモークを吹いて陰影を付けた。4.胴体下面に組み込んだ状態。右写真のようにスプリッターベーンを上げるとスクラムジェット状態（超音速飛行時）になり、下げるとターボジェット状態になる。5.コクピットブロックはシンプルな構成。主計器盤のディスプレイにはハセガワの偏光フィニッシュ グリーン～マゼンタ（限定品）を貼った。説明書に指示はないが、念のため尻餅防止用にオモリを仕込んでいる。作例では鉛玉を使用した。6.機首と胴体の接合部は瞬間接着剤で埋めた。機体表面にはヒケが見られる箇所もあるので、エッジを出しつつ平滑になるようにヤスリ掛けした。7.前脚前方のパネルは合わせ目消しの際に邪魔になるので、一旦削り落として処理後にプラペーパーで再生した。





完成時の全長は約29cm、全幅は約14cmになり、同スケールのF-14と近いサイズだ。全長はダークスターのほうが約2.5cm長く、全幅は主翼を後退させた状態のF-14とほぼ同じである。





PAINTING POINT





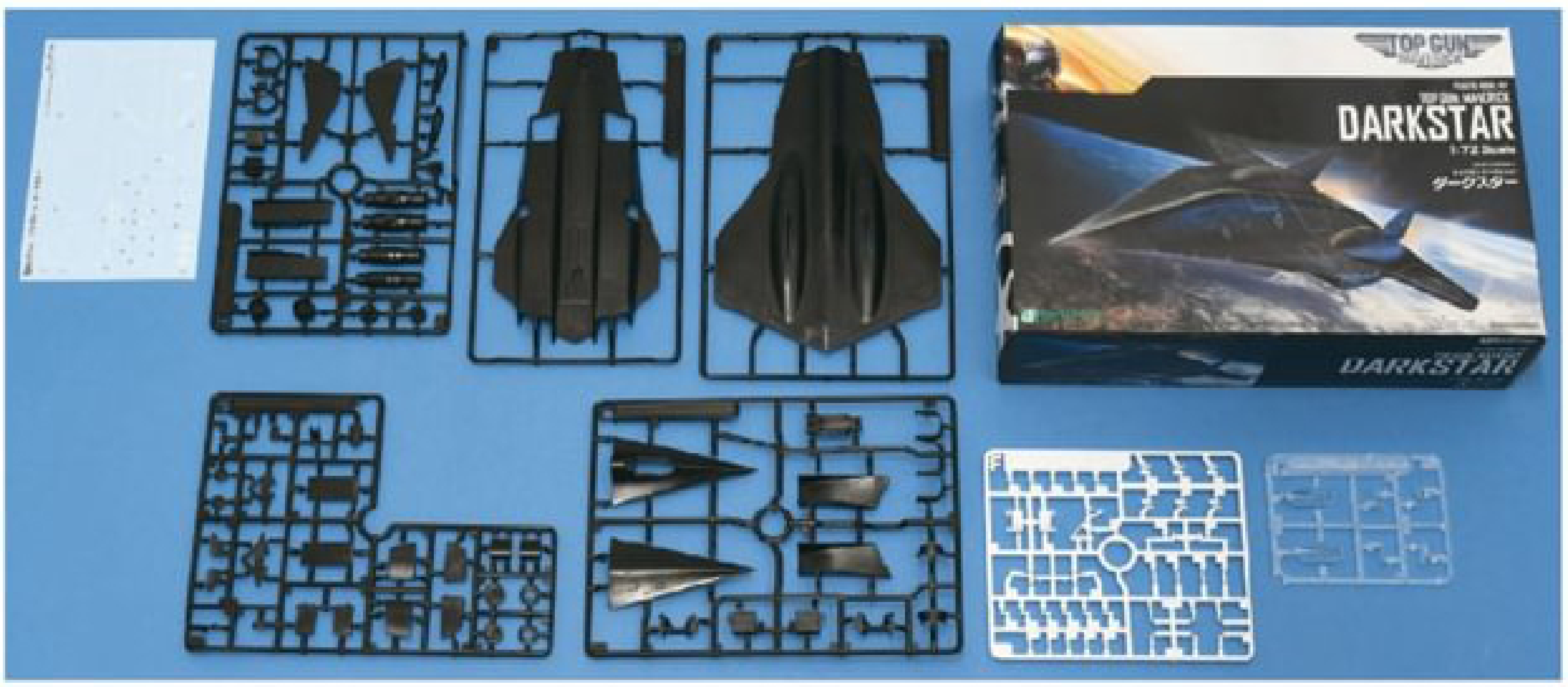








▲1.ブラックサーフェイサーで全体を覆った後、まだら模様のステンシルプレートや換気扇フィルター越しにC317を吹き付けてテクスチャーを付けた下地を作る。2.GX2とGX218を1:1で混色して金属粒子がうっすら見えるようなブラックを作り、1の下地を残すように塗装する。乾燥後にパネルに沿ってマスキングする。コクピット後方の蛇行した部分はタミヤの曲線用マスキングテープがあると便利だ。3.GX218で塗装しマスキングテープを剥がした状態。4.付属のデカールは貼りやすいが、ウォークウェイラインの内側の透明ニス部分が目立ちやすいので、デカールを貼る前に光沢クリアーで塗膜を平滑にし、軟化剤も使用して対処しよう。5.光沢クリアーでデカールを保護し、SR-71を参考にしてウェザリングを加えていく。WC01とWC06をランダムに置く。6.専用うすめ液を含ませたキッチンペーパーで叩くように拭き取り、高熱で機体表面が焼けた様子を表現してみた。また、機首や主翼前縁など、さらに高熱に晒されるであろう箇所にはタミヤウェザリングマスター（日本海軍艦船用）（限定品）のグレイを擦り付けた。



◀作例使用の新金型キット。成型色が分かれているため、未塗装でデカールを貼るだけでもそれらしく仕上がる。説明書はカラー印刷で、各工程ごとに塗装指示が記載されており親切な印象だ。キャノピーはクリアーパーツの一体成型タイプかフレームが別パーツ化されたタイプかを選択可能で、さらにそれぞれで開閉が専用で用意され、接着剤不要で嵌め込めるため完成後も差し替え可能。降着装置も駐機状態と飛行状態を差し替えられるように嵌め込み式になっている。発売元はベルファイン（https://bellfine.co.jp）で価格7,480円（税込）、発売中。全国の模型店などで購入可能。

WHATEVER YOUR PAST

THE FUTURE IS GRIPEN





NEW KIT REVIEW

エイチエムエー 1/144 JAS39 グリペン
製作・文：kurage

全スケール通じてベストキットとの呼び声も高いエイチエムエーのグリペンが再販された。そこで今回はモデリンクから登場したディテールアップパーツも組み込み、さらに精密に製作してみよう。

1/144で精密再現する北欧の獅子
エイチエムエーのグリペンが久々に復活

☺小さいながらもプロポーション抜群

エイチエムエーのグリペンが再販となりました。格好良くて人気の機体ですが、全スケール通じてキットが手に入りにくいので、今回の再販は1/144モデラーはもちろん、グリペンファンにとっても嬉しいニュースです。

キットはプロポーションも良く、組み立ても容易で格好良いグリペンが手軽に楽しめる好キットです。足周りなどの小物の形状は良好でウェポン類も豊富に付属するので、武装満載の姿を楽しめます。今回は合わせて発売されたモデリンクの3Dプリント製ディテールアップパーツ「JAS39 グリペンディテール」も使用して、精密感をさらにプラスしてみました。

☺アフターパーツも組み込みながら

一体形状のコクピットは十分な形状ですが、ディテールアップパーツのシートに変えて手軽に情報量をアップ。シート単体かパイロット付きかを選べて遊びの幅が広がります。キットにはキャノピーパーツが複数付属しているので、ニコイチでキャノピーオープンに改造するのも良いでしょう。

パーツ数も少ないので組み立ては簡単。その分細部に少し手を入れてワンランク上を目指してみます。ポイントはインテークリップやアンテナ、動翼など厚みがある箇所を、整形の際に薄く削ること。それだけで格段に精密感を上げることが出来るので、ぜひチャレンジしてみてください。垂直尾翼、エアブレーキのパーツは若干隙間が出来るので、気になるようならパテで修整すると良いでしょう。

インテークはディテールアップパーツに入っているFODカバーを付けると、アクセントになり修整の手間も省けるのでお勧めです。エンジンノズルもディテールアップパーツに変更しました。ここが精密になると全体的な印象が大きく変わります。

☺塗装はイメージ優先で

キットの指定色が自分のイメージと少し合わなかったので、上面はGSIクレオスのMr.カラー C306 グレー FS36270、下面はC338 ライトグレー FS36495で塗装しました。グリペンは画像によって色合いが違って見えるので、資料に囚われず自分のイメージに合った色で塗ったほうが、完成時の満足感が高まると思います。エアブラシで塗装し、パネル上に一段暗い色を塗って軽くグラデーションをかけています。

デカールの質も良く、番号は好きなものを選べるので、作りたい機体を容易に再現できるのはありがたいです。

HOW TO BUILD HMA 1:144 GRIPEN





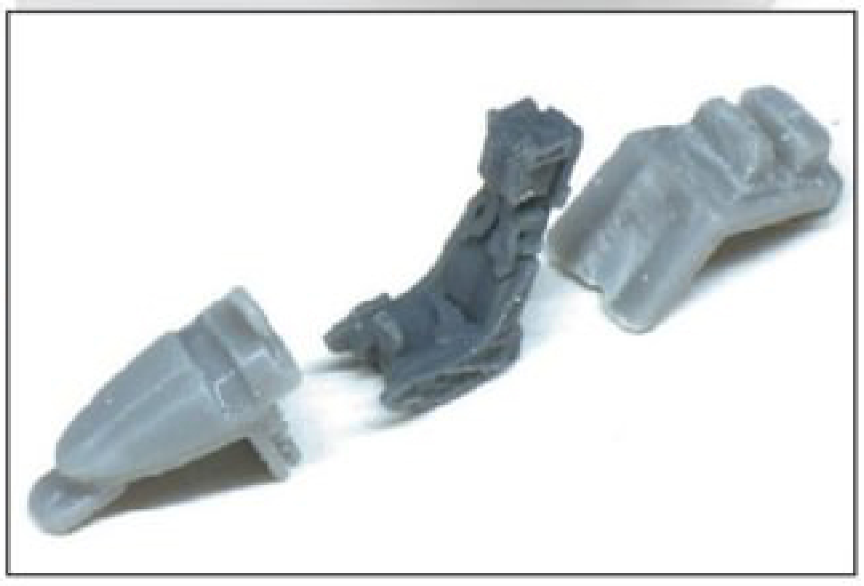

▲①インテークブロックは1パーツ構成。成型の都合で厚みがあるので、エッジを削り込むと機体全体のシャープな雰囲気と揃えることが出来る。②主翼やカナード翼は薄く成型されているが、垂直尾翼後端は厚みがあるので、ここも削り込んだ（写真は加工前）。③ドーサルフィンから垂直尾翼にかけての上部を胴体に差し込むが、隙間が大きかったためパテを充填した。また、別パーツ化されているエアブレーキも上側に隙間が発生したため、周囲と面一になるように修整している。④ウェポン類はAIM-9L×2、AGM-65×4、RBS-15空対艦ミサイル×2、偵察ポッド、増槽が付属する。

モデリンクの3Dプリントパーツでさらに魅力的に



▲作例では今回の再販に合わせてリリースされた、モデリンクの**JAS39 グリペンディテール**も組み込んでいる。3Dプリント製ディテールアップパーツで、設計はMach3 Modelsが担当。エンジンノズル、射出座席（単体/パイロットフィギュア付き）、立ち姿のパイロットフィギュア、乗降ラダー、インテークのFODカバー、輪留め×4、消火器がセットになっている。1/144で機体も小さいため、このアイテムを使って葉書サイズでエプロンの情景作品に仕立ててみても楽しいだろう。価格3,025円（税込）、発売中。



▲コクピットは1パーツ構成で1/144としては十分な出来だが、射出座席を換装する。今回はディテールアップパーツの座席単体（マーチン・ベイカーMk.10）を選択。キットパーツの座席部分を切除して置き換えた。



▲エンジンノズル（ボルボRM12/F404のライセンス生産）もディテールアップパーツに置き換えている。



◀作例使用のキット。パッケージデザインとデカールをリニューアルして再登場。スウェーデン空軍機の国籍マークと機体番号に加え、垂直尾翼にグリフォンを大きく描いた初号機のマーキングを収録する。脚庫扉は閉状態のパーツも付属し、飛行姿勢で製作することも出来る。折れやすいピトー管は3本分を用意。キャノピーは4個分あるので、カットして開状態にチャレンジしてみても良いだろう。完成時の全長約11㎝、全幅約6㎝。発売元はエイチエムエー（☎03-5643-5015）で価格2,420円（税込）、発売中。全国の模型店などで購入可能。

ナナニイ スポットライト

72 SPOT LIGHT 第52回

いつでもどこでも入手できる定番商品や、普段の誌面にはなかなか登場しないキットの魅力をお届けする、1/72飛行機模型オンリーのコーナー！第52回はタミヤのモスキートを製作。端正なグラスノーズの爆撃機型をチョイスしました。





駿才の木製爆撃機

DH.98 MOSQUITO B.Ⅳ



タミヤ1/72
デ・ハビランド モスキート
B Mk.Ⅳ/PR Mk.Ⅳ
製作・文：マゼンタ

■はじめに

タミヤ製キットといえば高いパーツ精度と組み立てやすさが全ての製品で共通した要素ですが、特に90～00年代にかけてのものや1/72ウォーバードコレクション製品などは、精度は現在のものに近く、しかも少ないパーツでサクサク組み立てられ、今となっては廉価なアイテム揃い。自分で製作するのも楽しく、他人にオススメするのにも向いているものが目白押しです。

今回製作する1/72 モスキートＢ Mk.Ⅳは上記の条件をどちらも満たしており、もう約束された傑作キットといっても過言ではありません。

■キット雑感

手に取ってみてまず出た感想は「想像していたよりもパーツ数が多いな」というものでした。とはいえつぶさに見ていくと、キャビンは機首先端風防とキャノピーの２方向から見えるから広めに再現が必要だし、機首はバリエーション展開のために分割すべき箇所が出てくるなど、これでもパーツ数は最低限ということが分かります。

それでいて合わせ目処理をすべき部分は少なく、パーツ分割位置は塗り分け境界が多くて扱いやすく、合いの良さはもちろん言わずもがな。ということで、今回はそんなキットの特徴を活かして製作を進めていくことにします。

■塗装と組み立て

前述のとおり、分割位置が塗り分け境界となっている部分が多いことを活かし、胴体と主翼、水平尾翼はそれぞれバラバラの状態で塗装してから組み立てていきます。とりわけこのキットで指示されているＢパターンの塗装では、胴体の下面のブラックが主翼よりも上側まで回り込んでおり、主翼を別に塗ることでマスキングの手間をかなり軽減できました。

具体的な手順としてはまずエンジン部、主翼、胴体、水平尾翼にそれぞれバラバラの状態で下面色（GSIクレオスのMr.カラーC40 ジャーマングレーにC33 つや消しブラックを少し加えたもの）を塗布。エンジン部と主翼を合体後に下面色部分をマスキングし、C361 ダークグリーンBS641とC362 オーシャングレーで上面迷彩を塗り分けて各部を合体していきます。

■おわりに

非常に楽しいキットでした。シンプルで作りやすいうえ、「ここをディテールアップすると楽しいですよ」という部分がはっきり見えるので「よっしゃそれに乗ってやろうかあ！」と気分も乗ってきます（今回はごく一部を除いて基本素組みです）。

パネルラインは木製機ということもあって少なめですが、その代わり金属など木製以外の部分ではディテールが多めに彫刻されており、全体としてはメリハリが効いていますね。彫り直しや追加などの必要性も個人的にはあまり感じず、全体的に「そのまま製作して十分に格好良い」キットだと感じました。





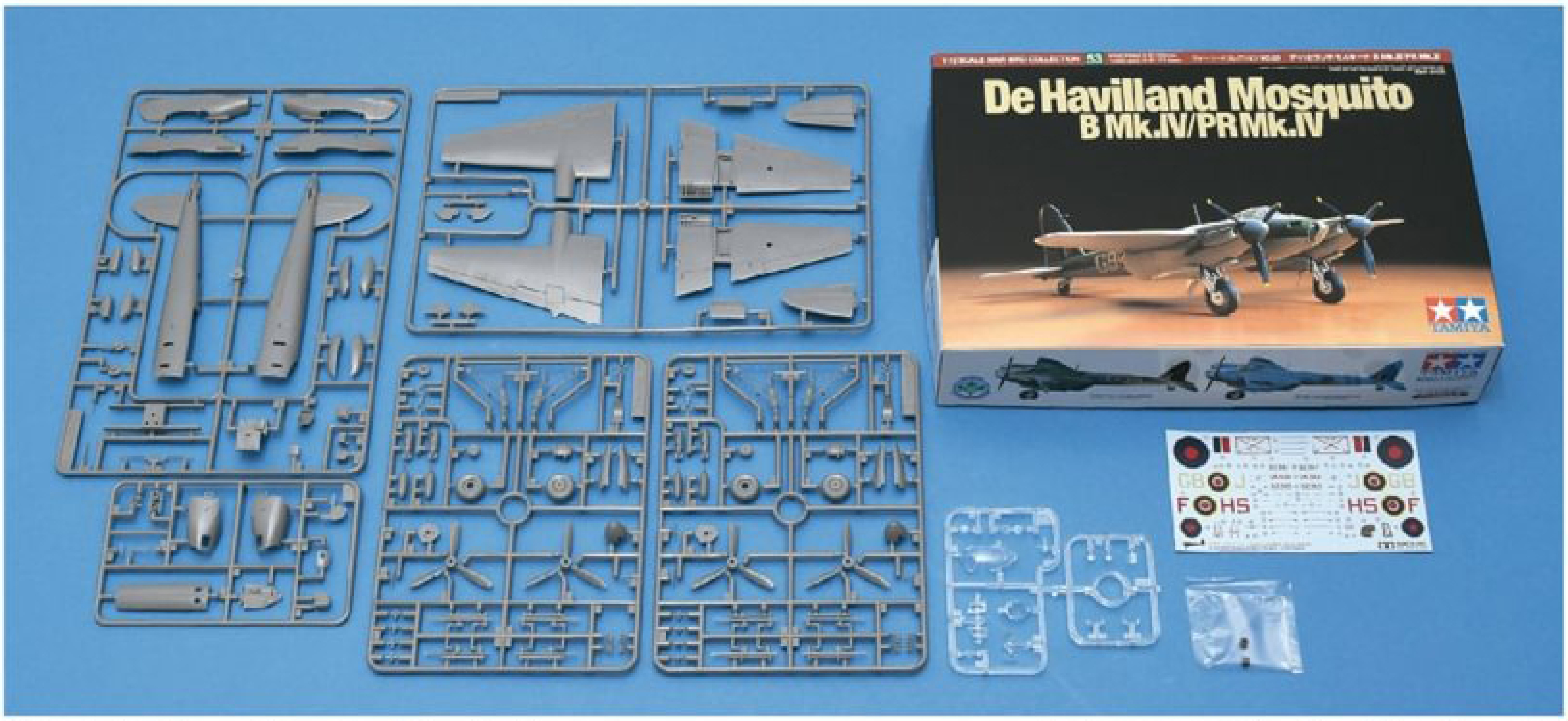
実機解説

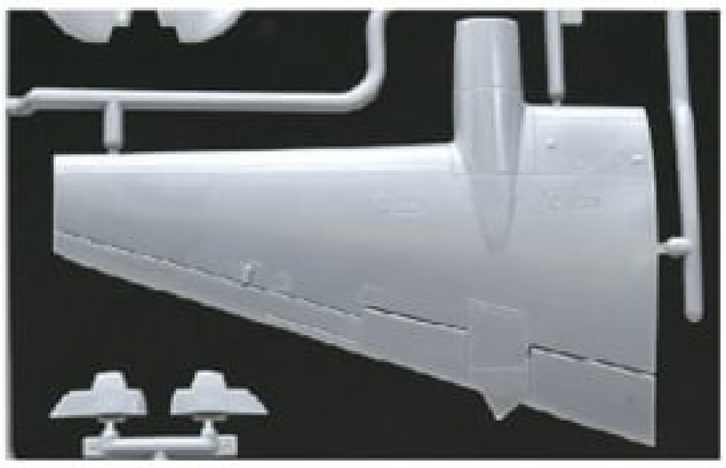
デ・ハビランド社が開発した多用途双発機。機体の大部分は合板製で固定武装を持たず、エンジンはスピットファイアなどと同じマーリンエンジンを搭載している。これにより高速性能に優れ、様々な派生型で活躍した。爆撃機として設計開発されたが、最初に実戦投入されたのは写真偵察機型のPR. Ⅰである。その後、PR. Ⅰの製造ラインから９機を抽出して完成したのが最初の爆撃機型であるB. Ⅳで、さらに水平尾翼のバフェッティング（気流の乱れによる振動現象）を解消するべくエンジンナセル後端を延長したB. ⅣシリーズⅡをもって、モスキートの基本形状が完成した。

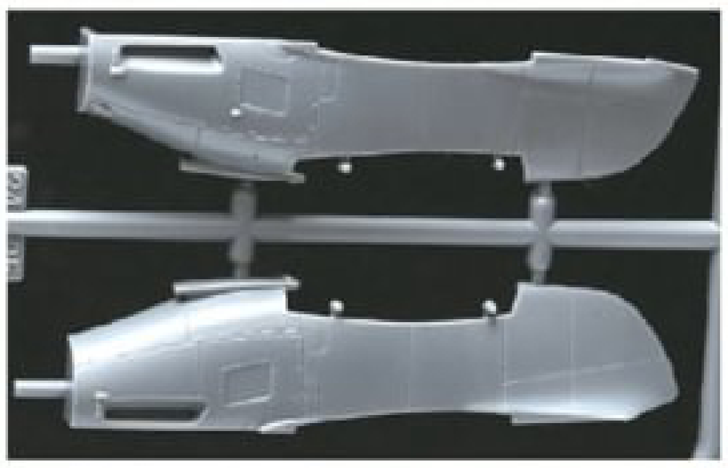


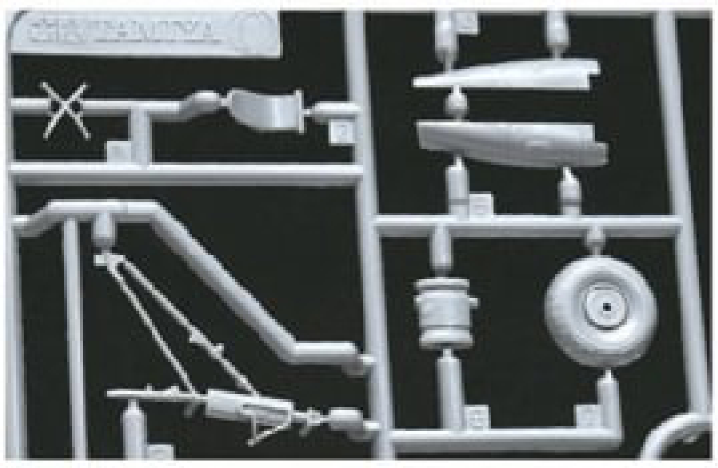


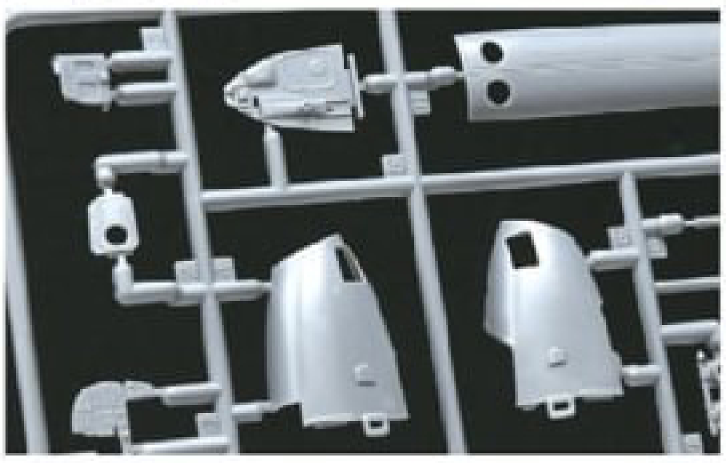
今回のキットはこれ！

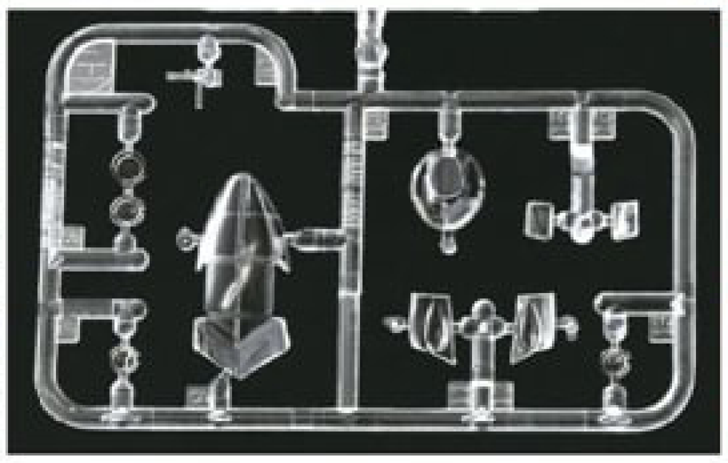


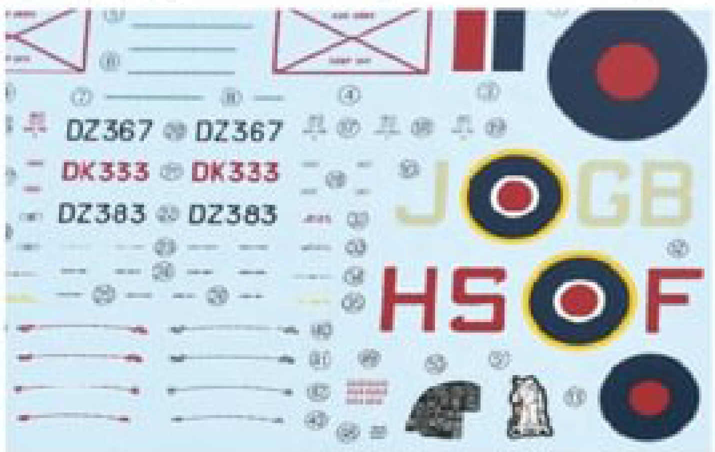














担当編集
シヨウケン

モスキートのキットは各社どれも秀作ですが、タミヤは1/48譲りのディテールと組みやすさで入手性も抜群なので、作りたくなったらこのキットを買えば間違いなし！

▲タミヤ1/72 デ・ハビランド モスキート B Mk.Ⅳ/PR Mk.Ⅳ。1998年にリリースされた1/48傑作機シリーズに続いて1/72でも製品化。第1弾の戦闘爆撃機型と夜間戦闘機型の選択式である**FB Mk.Ⅵ/NF Mk.Ⅱ**が1999年に発売され、本作はその翌年に登場した。爆撃機型と写真偵察機型の選択式で、マーキングは爆撃機型2種、写真偵察機型1種を用意。価格1,650円（税込）。全国の模型店などで発売中。機首に大型レドームを装備した夜間戦闘機型の**NF Mk.Ⅷ/ⅩⅦ**もラインナップされている（価格同上）。

製作ポイント























▲❶バリエーション展開のために分割された機首部分は、爪でロックすることで正確な位置に収まる仕組みが秀逸。爪は主翼内部に隠れるので見えなくなる。❷プロペラパーツは表面にうねりが出やすいので、一皮剥いて表面を平滑にすると精密感が出る（上が処理後）。❸コクピット内は手持ちのエッチング製シートベルトを追加した以外は素組み。無線機裏の肉抜き穴（矢印）が完成後もわずかに見えるので、気になるなら埋めよう。❹主脚タイヤの軸となる部分は1㎜径の真鍮線に置き換えることで、脚柱と別々に塗装して最後に合体できるようになる。ハブ側には真鍮線を通すため1.1㎜径まで穴を開けるが、縁部分が薄く一気に開口すると割れるため、0.2㎜径から始めて0.1㎜或いは0.2㎜径刻みで少しずつ拡げている。❺エンジンナセル後端は合わせ目が目立つため、タミヤ瞬間接着剤（イージーサンディング）で埋めて消している（左が充填状態で右が処理後）。❻バラバラの状態で塗装しウェザリングに入る。これはエンジンナセルの排気汚れをエアブラシで行う関係上、主翼と胴体を合体させた状態だと丁度良い角度から吹き付けられなくなる可能性を避けたため。もちろんタミヤ製品の合いの良さがなければ中々なし得ない方法。❼全体の間を持たせるために表面にごくわずかなムラを付ける。まずはタミヤのスミ入れ塗料（ダークグレイ）をエナメル溶剤で希釈し全体に塗布する。乾いたらエナメル溶剤を染み込ませたキムワイプ（紙ウェス）で拭き取っていくが、横方向ではなく面に対して垂直にポンポンと叩くようにする。❽拭き取りが終わって乾燥した状態。写真に写るか写らないかというレベルだが、それでもやるとやらないとでは大違い。特にこうした暗めの逆光下だと、微妙なツヤのムラが表情を作り出してくれる。❾排気汚れは通常黒系の汚れを入れるところだが、下面がブラックだと目立たないためひと工夫。まずはタミヤカラーエナメル塗料のXF-57 バフを排気管後方部分に吹き付ける。❿排気管に近い部分にGSIクレオスの八雲カラーセットA WWⅡ ドイツ軍 西部戦線用内のMIG01ダークウォッシュを吹き付け。この白と黒の煤が重なった汚れ方は、モスキートと同じくマーリンエンジンを搭載したP-51で見られるものを参考にした。⓫排気管カバーは八雲カラーセットD 標準セット内のMIG16ラストを使って、焼けて錆が浮いた状態を表現した。



▲翼端灯は色付きバルブ＋透明カバーの構成なので、クリアーパーツ断面部をドリルで掘り込んでバルブを再現し、クリアーカラーを流し込んでいる。

▼ピトー管は外径0.8㎜の真鍮パイプと0.3㎜径の真鍮線を組み合わせたものに置き換えた。



PROFILE

マゼンタ

@ndmk_mgnt_bot

プラモデルならなんでも作る雑食マン。勢いで作ったほうが格好良く作れるタイプの人間でもある。

地名を名に持つ船とその場所のエピソード

艦船諸国漫遊記

Vol.124



— 帝国海軍特務艦 知床シスターズ —

水上機母艦　運送艦　給油艦

能登呂 知床 襟裳



今回の旅先は北海道と樺太島。北海道と言えば、何を思い浮かべるだろうか。網走の三流歌手松岡リリー？それとも…カツ丼とラーメンを注文後、コップに注いだ瓶ビールを両手で飲む高倉 健？この連載を担当する艦スペ編集長はドラマ『北の国から』が好きで、北海道と言えば「子どもがまだ食ってる途中でしょうが!」の名シーンで有名な富良野だそうです。そんな前振りは若者には古すぎる話で、それよりも知床型給油艦の命名由来地が3か所もあるわけで。

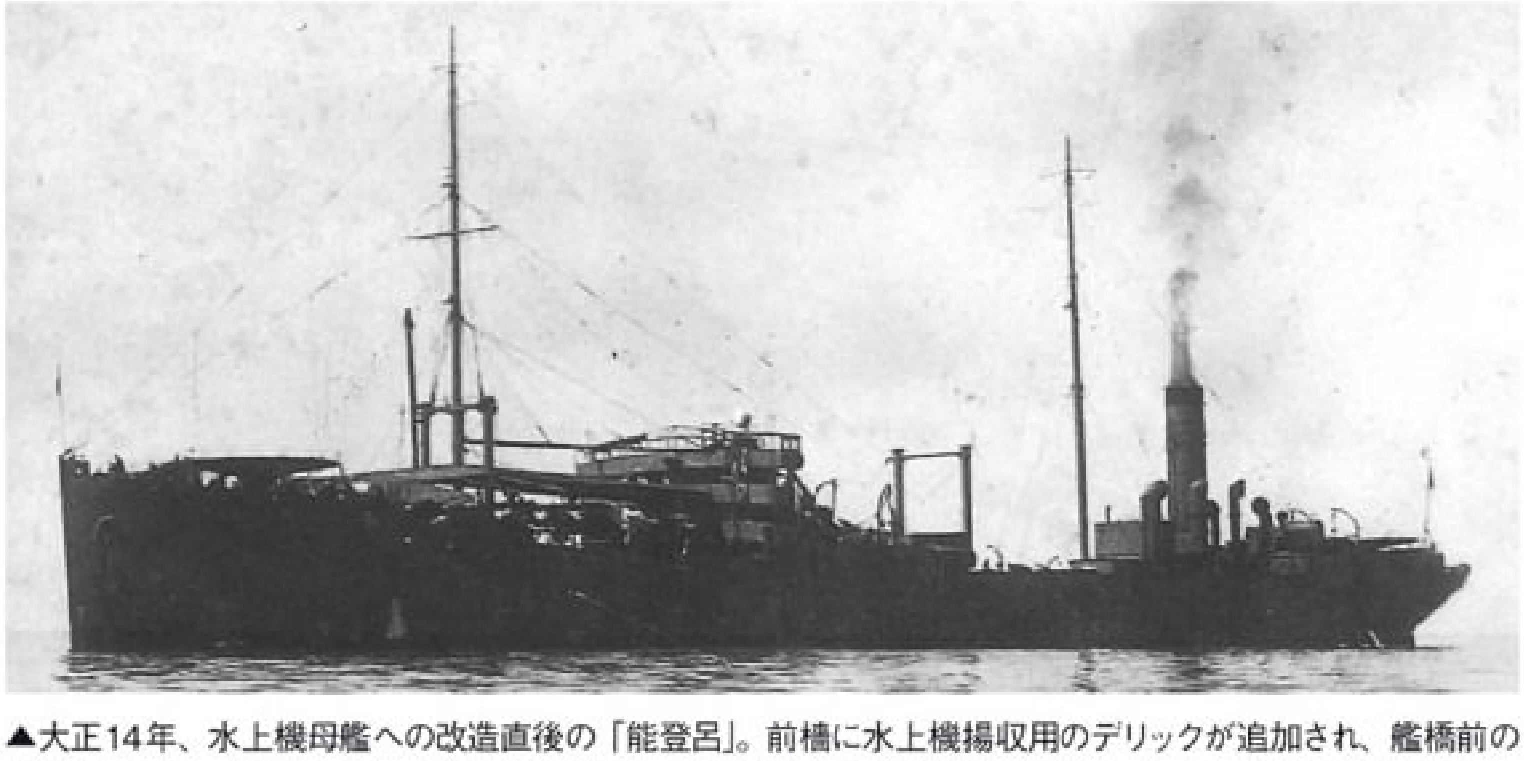
IJN Seaplane tender NOTORO
IJN Oiler SHIRETOKO&ERIMO
PIT-ROAD 1/700 Seaplane tender NOTORO
PIT-ROAD 1/700 SHERETOKO Class Remodel
Build by Geisuian-Yasohachi

製作・文：鯨水庵八十八

ベイビー!北の岬シスターズは似てる？似てない??

■能登呂型？ 知床型？ それとも…？

帝国海軍の特務艦で最多の姉妹艦計７隻を有する給油艦は､「能登呂」が長姉にあたり、本来は「能登呂型」と称するが、彼女が大正14年に水上機母艦に改装されたため、次女「知床」がネームシップとなった。しかし次女もまた昭和３年に給炭と40㎝砲塔の運搬設備を持つ運送艦へと改装されたため､三女「襟裳」の名を採って「襟裳型」と型名を変えている。ややこしいけれど、その艦容を見れば一目瞭然。長女・次女はその任務に特化した異形の特務艦なのであった。



▲大正14年、水上機母艦への改造直後の「能登呂」。前檣に水上機揚収用のデリックが追加され、艦橋前の上甲板にフラットを設けて水上機が搭載された。鉄骨木張りの天蓋は未施工でキャンバス張りのように見える。給油艦「能登呂」としての活動は短く、約４年ほどであった。

■グレーゾーンの国境

長女「能登呂」は、樺太最南端に位置し宗谷海峡を挟んで北海道最北端の宗谷岬に対峙している「西能登呂岬」に由来する艦名だ。アイヌ語で「岬の所」を意味するというこの地は、現在実効支配するロシアでは「クリリオン岬」と呼ばれている。樺太島の北緯50度以南の地域は明治38年、ポーツマス条約で日本の領有権を国際的に認められた地だが、昭和20年８月、ソビエト連邦は日ソ中立条約を反故にして侵攻。サンフランシスコ講和条約では「日本の領土であると請求する権利を放棄する」とされているが、ソビエトがこの条約に調印していないため日本国政府は連合国の管理地という認識で、帰属先が未だ決まっていないグレーゾーンなのだ。とはいえ、石油や天然ガスなどの資源が眠る樺太島の開発プロジェクトには日本企業も協力している。

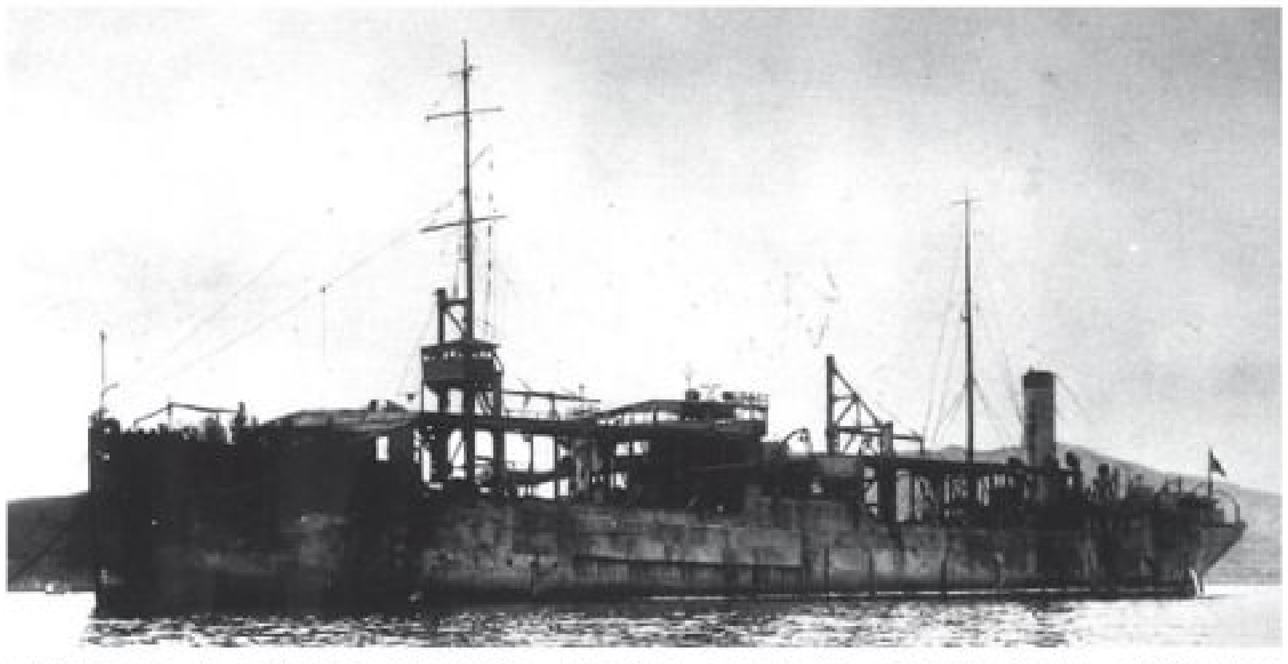
宗谷岬までわずか43㎞。2002年には日本人の寒中水泳愛好者が単独で、2019年にはロシア寒中水泳協会の企画でロシア人、中



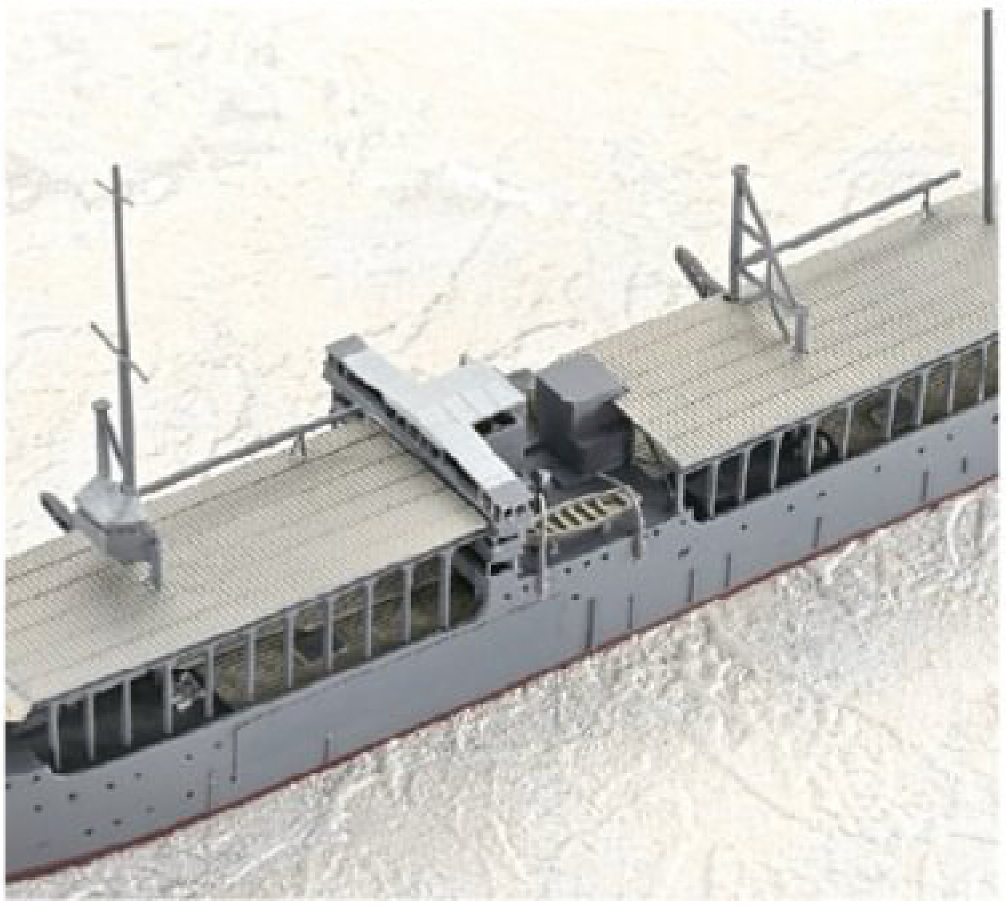
水上機母艦に転職した長女
能登呂







▲昭和9年、水上機母艦に類別直後の「能登呂」。9月1日付で軍艦籍に移され、艦首には菊花御紋章が取り付けられた。前頁の写真と比較すると、前後甲板には鉄骨木張りの天蓋が追加され、水上機揚収用デリックが増備されている。前橋中段の構造物は前方視界を補佐するためのパイロット・ハウス。舷側に貼り増しされた外板に注目（右舷にはない）。



国人、日本人など25人のリレーによる遠泳に成功し、交流を深めている。

■国内でも立ち入り困難な地

次女「知床」の由来となった「知床岬」は北海道北東部に位置する知床半島の先っぽ。アイヌ語で「地の突端」を意味するという。知床国立公園があり、平成17年には世界遺産に登録された。岬の付近は国立公園内の特別保護地区として厳重な管理下に置かれているため、一般の観光客は事実上立入りできない。昭和生まれには加藤登紀子の「知床旅情」で有名な地だろう。この曲のオリジナルは俳優・森繁久彌によるもので、令和元年から森繁が長く在住した世田谷区船橋に近い小田急小田原線千歳船橋駅の列車接近メロディとなっている。

■受難の三姉妹

水上機母艦となった「能登呂」は昭和6年9月、横浜港に停泊中、漏れ出したガソリンに引火爆発する事故を起こした。

第一次上海事変では搭載する水上機で陸上爆撃するなど活躍を見せた。当時、水上機母艦は特務艦に分類されていたが、昭和9年6月1日付で軍艦に昇格となった。しかしその後、新型機の運用に支障を来すようになり、昭和16年には搭載機を降ろし、大東亜戦争は給油艦に復して開戦を迎えた。

砲塔設備の輸送に従事した次女

知床





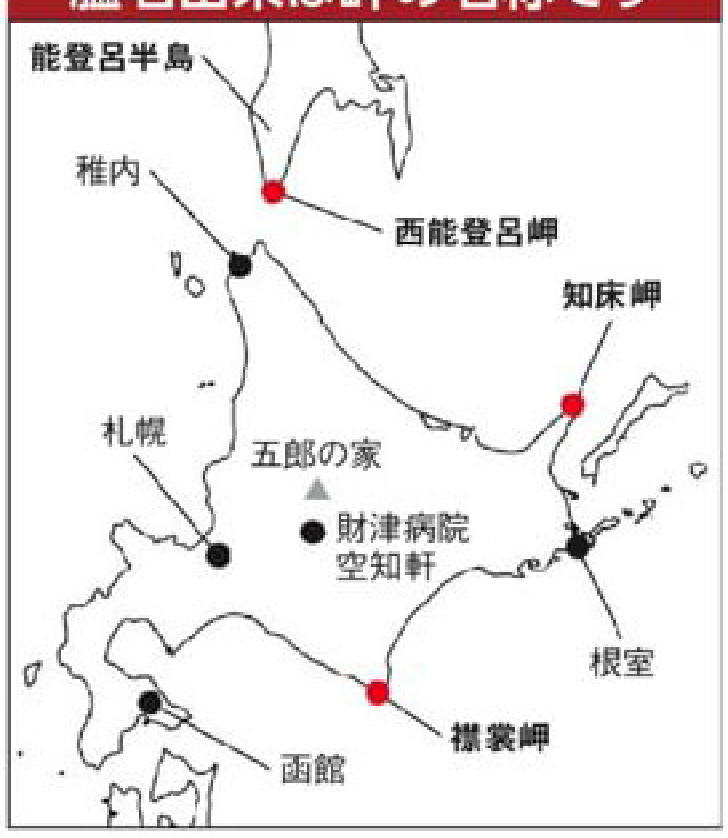






▲改装後のプロフィールを伝える上空写真。八八艦隊計画建造艦の40cm主砲設備を運搬を目的に油槽の半分を船倉に改装し、船体前後には重量物吊り上げに適した頑丈な三脚檣とデリックを設置した。その他の任務ではドラム缶入り石油、石炭を船倉に積載して輸送する場合もあった。

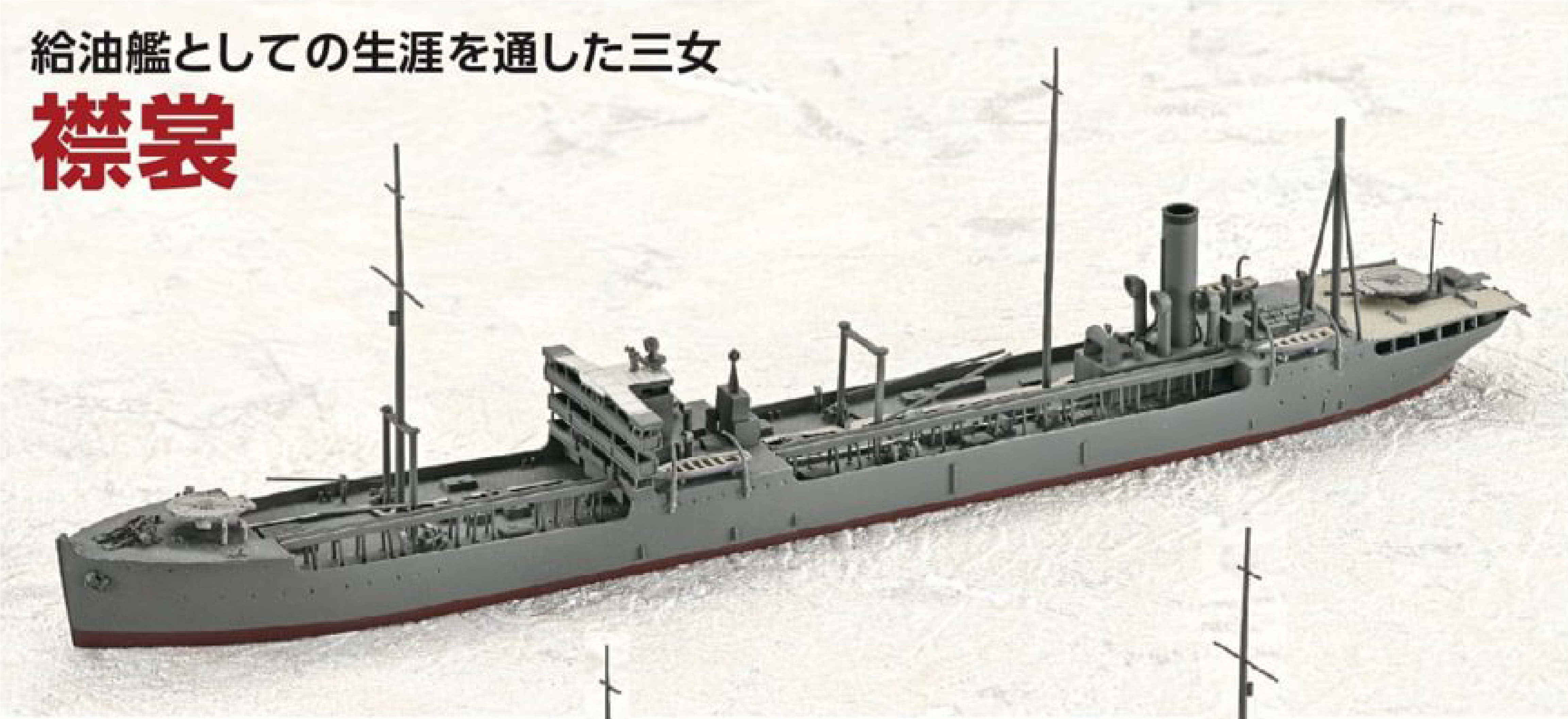
艦名由来は岬の名称です



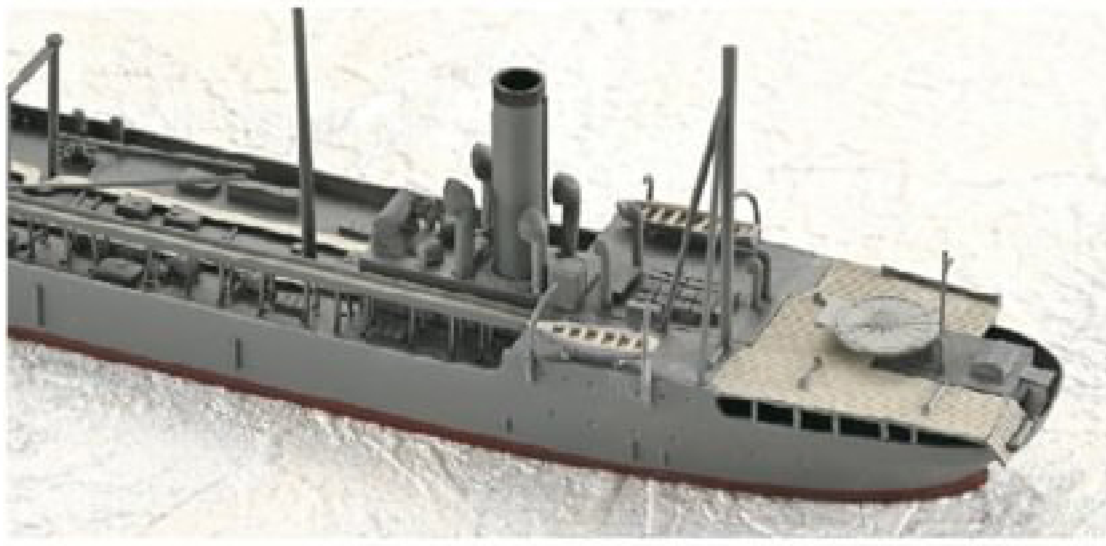
昭和18年1月9日、マカッサル海峡で米潜水艦「SS-206 ガー」の雷撃により大破したが沈没は免れ、8月までシンガポールで修理を行った。9月20日 、今度はトラック沖で米潜水艦「SS-231 ハダック」の魚雷を受けるも自力航行でトラックに帰着。昭和19年6月29日には シンガポール南東沖で米潜水艦「SS-249 フラッシャー」の魚雷3本を受けたが、ここでもしぶとく生き残り、シンガポールに帰着した。ところが同年11月5日 、米陸軍航空隊機が同地を爆撃し、大破した。それでも彼女は浮きタンクとして働

給油艦としての生涯を通した三女

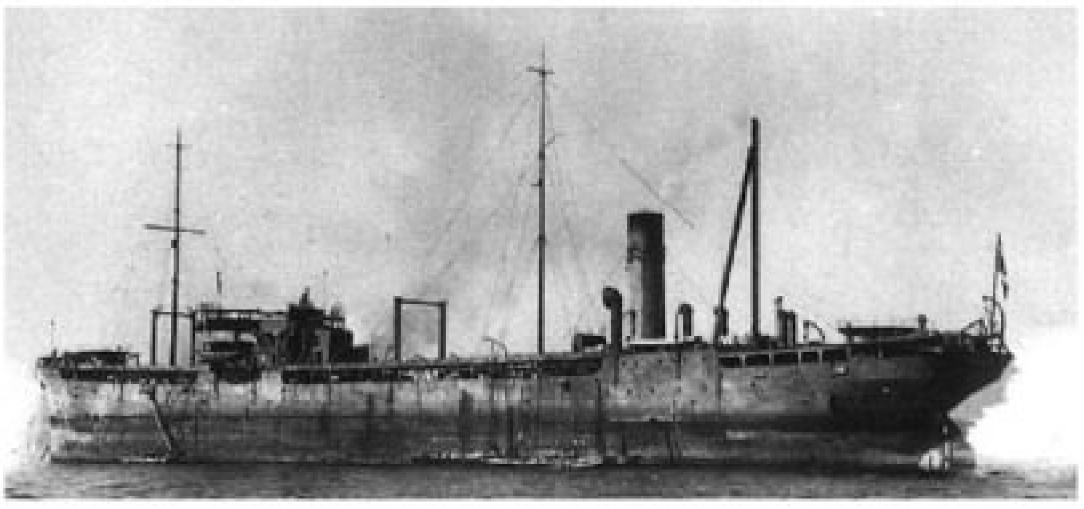
襟裳











◀昭和８年の「襟裳」。煙突後方に洋上給油時に使用する給油櫓を設置。空船状態であるため、極めて吃水が浅い。

き続け、戦後の昭和22年1月12日 イギリス軍により海没処分とされた。

運送艦となった「知床」は昭和8年、横須賀で保管されていた戦艦「土佐」の三番砲塔を呉へ輸送。砲は戦艦「長門」の改装に利用された。

大東亜戦争はクェゼリン環礁で開戦を迎えた。昭和18年1月25日、敵潜水艦の雷撃を受けたが損傷は軽微で、任務を続行した。9月12日、米潜水艦「SS-178パーミット」の雷撃を受け航行不能となるも、沈没は免れた。ルオットで応急修理を受け、輸送船「桃川丸」の曳航で本土へ向かう途中の11月13日、パガン島近海で米潜水艦「SS-278 スコーピオン」により魚雷1本を受けるが、小破に留まりどうにか逃げ切った。10月7日には米潜水艦「SS-224 コッド」の雷撃により損傷するがここでも生き残り、セレター軍港の5万トン浮きドックに入渠中の昭和20年2月1日、米陸軍機B-29による爆撃で浮きドックもろとも沈没着底した。

本連載Vol.14で取り上げた「襟裳」は北海道南端の岬の名。蘭印作戦を支援中の昭和17年3月1日、ジャワ海で米潜水艦「S-39」の雷撃を受け沈没。知床型で最初の喪失艦となった。被雷した彼女を救援に駆けつけた「由良」も日本軽巡で最初の喪失艦となっている。

北澤志朗×ヤングタイマー・ガレージ 連載第87回

YOUNGTIMER garage vol.87

コンバーチブルとバウアトップ、いずれ劣らず魅力的！

2002tiiの初期型をベースにバウア社が200台のみ製造したフルオープンのコンバーチブルは、今日では極めて稀少なヒストリックカーとして珍重されています。マルニならではの端正なスタイリングはルーフを取り去っても健在！



ハセガワ1/24ヒストリックカーシリーズ23
BMW2002 tii（1971）
製作/文：北澤志朗



今回のモデル
BMW2002tii Convertible 1971



BMW2002バウアトップ
（ハセガワ1/24BMW2002改造）





▲フルオープンなので完成後もインテリアがよく見える。シートベルトの追加が効果的。

■マルニのコンバーチブル

BMW 02シリーズには純正コンバーチブルはありませんでしたが、オープンカーのスペシャリストであるバウア社が完成車の改造という形でコンバーチブルを手掛け、BMWディーラーで販売されました。初期の200台はフルオープンでしたが、1972年以降はバウアトップという独自の形態に移行しました。今回はハセガワの2002tii 1971年型をベースに、フルオープンの初期型カブリオレを作りました。

■オープン化は意外に簡単！

マルニのボディはウェストラインがほぼ直線なので、オープン化は非常に簡単です。ウィンドシールドの上をカットする手順は、①厚紙を曲線定規で切り出して型紙を作る。②型紙を両面テープでルーフ前端に貼る。③スジ彫り用タガネで型紙に沿ってスジを彫る。④ある程度スジが深くなったらエッチングソーで切断する。これで余計な傷を付けることなく、綺麗にルーフを切断出来ました。B・Cピラーはニッパーで切断し、跡をドア上端のモールに合わせて平らに整えました。

窓の透明パーツは4面一体なので、前面ガラスと三角窓を残してその他を切り取りますが、ウィンドシールドの後方にモールドされているサンバイザーはそのまま活かしています。透明プラは割れやすいので慎重に切断しました。三角窓とサンバイザーの後端の位置にスジを彫ってエッチングソーで切断し、サンバイザーの輪郭はモーターツールに細い切削ビットを付けて削り込みました。

オープン化でもうひとつ必要なのがソフトトップの自作です。閉じた幌・畳んだ幌・トノーカバーの中で、今回は最も簡単に作れるトノーカバーにしました。0.5㎜厚のプラバンで土台と骨組みを作り、厚紙の上に両面テープで固定してティッシュペーパーを被せ、外周を両面テープに貼り付けます。ティッシュペーパーを自然な形状に整えてから、シアノンDW（瞬間接着パテ）を染み込ませ、硬化促進スプレーで固めます。シアノンDWを数回塗り重ねると、柔らかい形状でしっかりした厚みのあるトノーカバーが出来上がりました。トノーピンの頭はウェーブのR・リベット（丸）を接着して再現しました。

ボディカラーはガイアカラーの013ビリジアングリーンを使用しました。1970年代の欧州車らしいパステル調のグリーンは、マルニのボディによく似合います。クリアーコートには藤倉応用化工のアクセルSクリアーを使用し、4コートで仕上げました。

■インテリアにもひと工夫

シャシーはキットのまま、インテリアもほぼキットなりですが、ドアトリム上端が窓ガラスのクリアーパーツとの兼ね合いでドア上端に届かないので、タミヤの1㎜プラ角棒を接着して嵩上げしました。アームレストやレギュレーターハンドルなどは省略されているので追加したいところですが、今回は残念ながらタイムオーバー。また、リアシート上端はトノーカバーと当たるので、下面を削って約1㎜下げ、約2㎜前に出してトノーカバー前端と位置を合わせています。

■バウアトップも作ってみた

黄色のバウアトップは実は数年前に作ったもの。ルーフ後端をカットして中央部をくり抜き、Cピラーを切断して前方に移動し、トノーカバーを自作するだけなので、大幅に変化した見た目に反して、実は簡単な工作で改造出来ます。フルオープン化と共にお勧めな改造メニューです。

コンバーチブルの外観はトノーカバーでキメる！



BUILDING *point*

ボディや透明パーツを壊さずに切断するコツ



point 01

フレキシブル曲線定規で厚紙を切って型紙を作り、ルーフ前端部にタガネでスジを彫る。三角窓のサッシの内側にドリルで穴を開け、タガネがそこで止まるようにした。



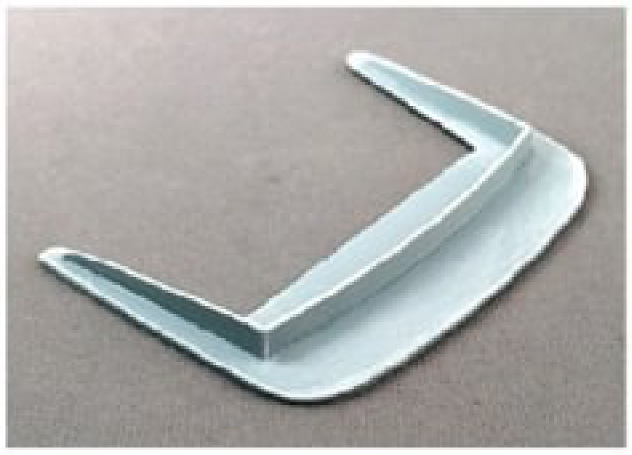
point 02

スジの一部が貫通するくらい深くなったらエッチングソーで切り込む。Ken-1 Model Car Worksのエッチングソー0.15㎜厚(精密ノコ)は刃が硬くて曲がりにくく、非常に使いやすい。



point 03

窓ガラスは割れやすいので慎重に切断。タガネとエッチングソーでフロント部分を切り取り、サンバイザーはモーターツールで削り出した。バックミラー取り付け部も残す。



point 04

0.5㎜厚プラバンで作ったトノーカバーの土台。外周の下側に1㎜幅に細切りしたプラバンを接着して縁を作り、ボディのキャビン開口部のフチに被さるようにした。



point 05

両面テープで土台を厚紙に固定し、上からティッシュペーパーを被せて外周を両面テープに貼った。シアノンDWを染み込ませ、硬化促進スプレーを吹き付けて固めた。



point 06

シアノンDWは一度に大量に盛ると硬化時に発泡するので、数回に分けて塗り重ねて硬化を繰り返す。3回でしっかりした厚みになり、自然なシワのあるトノーカバーが出来た。

マルニならではのディテールを綺麗に仕上げる



point 07

シート背面の蓋は塗装前に接着し、合わせ目にはシアノンDWを流し込んで紙ヤスリで平らに整えた。オープンカーだからインテリアの細部も手を抜かず仕上げておきたい。



point 08

側面の黒モールは塗装前に接着し、マスキング塗装で塗り分ける。マスキングテープをガイドにして流し込みタイプの接着剤を使えば、真っ直ぐ綺麗に接着出来る。



point 09

フェンダーアーチの縁は厚みが目立つので、内側をモーターツールで斜めに削り、#320～#400の紙ヤスリで整えた。あまり尖らせ過ぎないのがリアルに仕上げるコツだ。



point 10

藤倉応用化工アクセルSクリアーをGSIクレオスのMr.レベリングうすめ液で3倍に希釈し3回吹き、6時間乾燥、#1200のスポンジヤスリで中研ぎ。この上に再度クリアーを吹いた。



point 11

フロントの窓枠はガイアカラーの121スターブライトシルバーを吹き、内側にタミヤカラーエナメル塗料のXF-1フラットブラックを筆塗りし、エナメル溶剤で外側を拭き取って仕上げた。



point 12

ウェストラインのモールはメッキパーツ。溝の中にエポキシボンドを塗り、はみ出しを綿棒で拭き取ってから嵌め込み、マスキングテープで硬化するまで押さえておく。

CHECK point

セダンやクーペを改造してコンバーチブル化する際に重要なのは、Aピラーとウィンドシールド周り、そしてソフトトップです。ただ屋根を切っただけでは、リアリティのあるコンバーチブルにはなりません。実車を数多く見て、コンバーチブルの構造や様式を理解することが大事です。



トノーカバーはティッシュペーパーをシアノンDWで固めて造形した。リアシートは裾を削って1㎜下げ、2㎜前に出してトノーカバーとの位置関係を調整した。

側面下部の黒サイドモールは塗装前にボディに接着一体化しておき、マスキング塗装した。



フロントガラス、Aピラー周辺は実車をよく見てルーフとピラーの適切な切断位置を決めた。ドアトリム上端（室内側）はタミヤの1㎜プラ角棒で嵩上げした。







前後バンパーの黒いゴムモールは、黒成型のプラパーツを無塗装で使用した。

DETAIL UP POINT

■ボディ
○ノーズとリアエンドのエンブレム：MSCクリエーションのメタルシールに置き換えた。
○スジ彫り：0.15㎜幅のBMCタガネで彫り込み、クリアー塗装後にタミヤカラーエナメル塗料のX-19スモークでスミ入れ。
○フェンダーアーチ：フチの裏側をモーターツールで斜めに削り込んで薄く尖らせた。
○トランクリッドの鍵穴：0.6㎜径のドリルで下穴を開け、アドラーズネストのブラインドリベットSを取り付けた。

■インテリア
○シートベルト：バックルと金具はアスカモデルのミニチュア・スパイス・シートベルトセット黒を使用。ベルトはニットーのアセテート布粘着テープの細切り。

Shiro Kitazawa



北澤志朗

S.E.M.湘南モデルカー愛好会の会長で、他誌でも活躍するプロモデラー。本誌では1998年から活躍中！

カッコイイ車は 屋根を切ってもカッコイイ！

オープンカー作りにはモデルカー改造の基礎技術が全て詰まっているので、改造初心者が工作テクニックを身に付けるには1番の早道です。便利な工具が増えた今、改造工作のハードルはかつてよりも大きく下がりました。読者の皆さんも是非気軽にトライ！では次回もお楽しみに…

内藤あんもの戦車模型基本講座

内藤あんも氏が戦車模型の製作術を詳しく解説！基本からちょっとした応用、さらには時短テクニックといったプラスアルファのポイントを押さえて、カッコイイ作品に仕上げるためのスキルアップ連載です！





タミヤ 1/35 アメリカ戦車 M4A3E8 シャーマン イージーエイト（朝鮮戦争）
製作・文：内藤あんも

第23回 朝鮮戦争時の米軍戦車を作ろう

今回押さえるポイント

1. ちょっと手を加えて米軍戦車らしさを表現してみよう

どの国の戦車にも、設計思想やその軍の運用方法などで明確にお国柄が反映されます。米軍ならばライトガードや積載された荷物など…。それらのポイントとなる箇所に手を加えることで、作品のアイキャッチにもなります。

2. AFVらしくない「赤色」に挑戦してみよう

朝鮮戦争の米軍戦車といえば「顔」。車体前面に描かれた虎や悪魔など、様々なモチーフの顔はとても目を引くものです。反面、色味や仕上げ方などの影響をモロに受けてしまう場合も。今回はパッケージイラストで印象的な「赤い悪魔」を仕上げてみましょう。

お題のキットはこちら！



◀タミヤ1/35 アメリカ戦車 M4A3E8 シャーマン イージーエイト（朝鮮戦争）（1/35ミリタリーミニチュアシリーズNo.359）。2011年発売のM51スーパーシャーマン（No.323）のHVSSを使用したM4A3E8のヨーロッパ戦線仕様（No.346）が2015年に登場。さらにそのバリエーション展開としてT80型履帯（塗装可能な軟質樹脂製のベルト式）、エンジンデッキ、防盾のキャンバスカバーなどの新規パーツを追加して2018年にリリース。乗員の半身像フィギュア2体が付属。説明書とは別でマーキングについての詳細な解説も用意する。また、共産軍フィールドカーとしてGAZ-67Bも同梱されるが、こちらのフィギュアは付属しない。価格4,400円（税込）、全国の模型店などで発売中。

M4シャーマンといえば第二次大戦中盤に登場し、戦後も多くの国々の軍隊に配備され長く使われ続けました。搭載火器や車体形状、エンジン、足周りなどのバリエーションも多岐に亘り、一口に「シャーマン」といっても、外見が大きく変化しているのも特徴です。エンジンの種類が違って車体も鋳造 / 溶接箱組の違いがあったらもう別物じゃん！という感じもありますが、基本設計は大きく変化していないのがアメリカの工業力の底力を感じさせます。

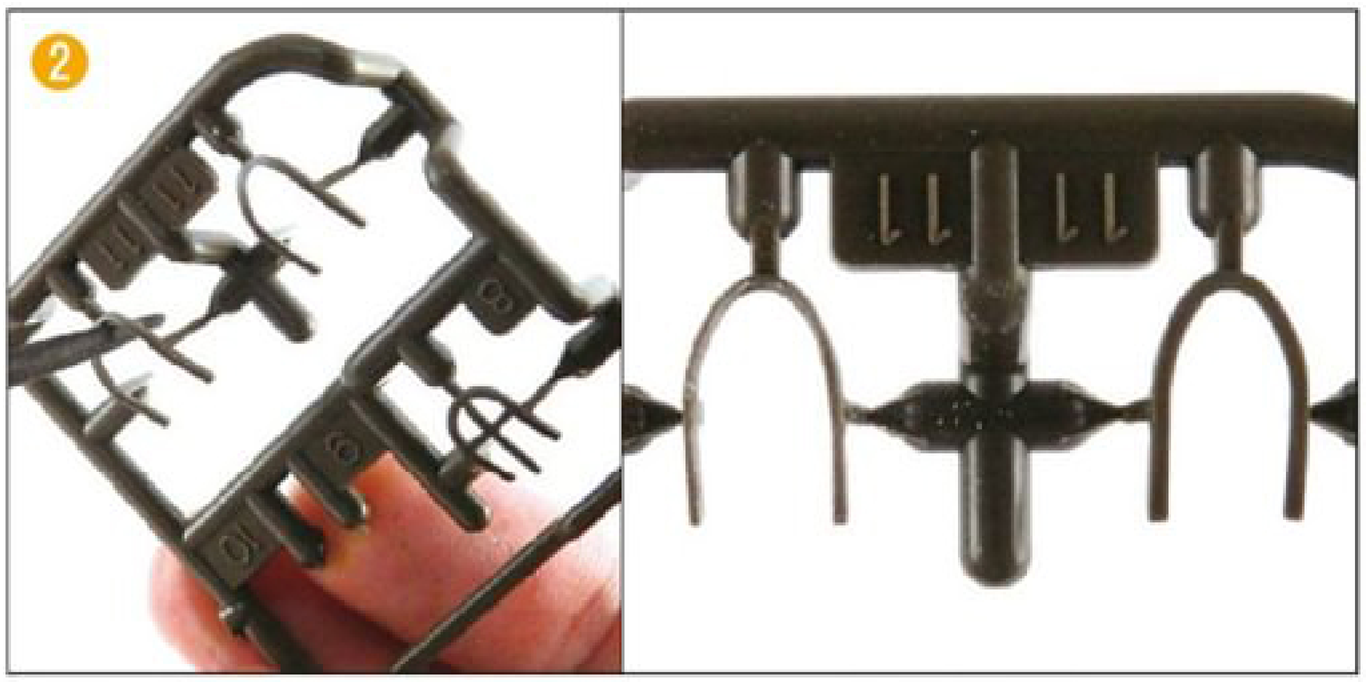
さて、そんなM4シャーマンの完成形とも言えるイージーエイトですが、長砲身76㎜砲や力強いHVSSの足周りなど、「戦車らしい戦車」の形状をしており、米軍では第二次大戦後半から朝鮮戦争で使用され、陸上自衛隊でも装備していました。怪獣映画にも登場し、長く使われていただけあって馴染みがある型式であります。タミヤ製キットも古くはモーターライズの頃に既にラインナップされており、2015年には1/35MMシリーズとして登場しました。

車体は既に発売されていたM4A3と同形状ではありますが完全新設計で、「これが新世代のタミヤシャーマンか！」と感動して作った記憶があります。そして2018年には朝鮮戦争仕様として新規パーツを追加して登場。特に驚いたのは車体前面に彩られた「赤い悪魔」。カラー写真から再現されたこの悪魔の顔は非常にインパクトも強く、模型映えします。機会があれば作ってみたい仕様ではありましたので今回挑戦してみようと思います！

ポイント 1. ちょっと手を加えて米軍戦車らしさを表現してみよう



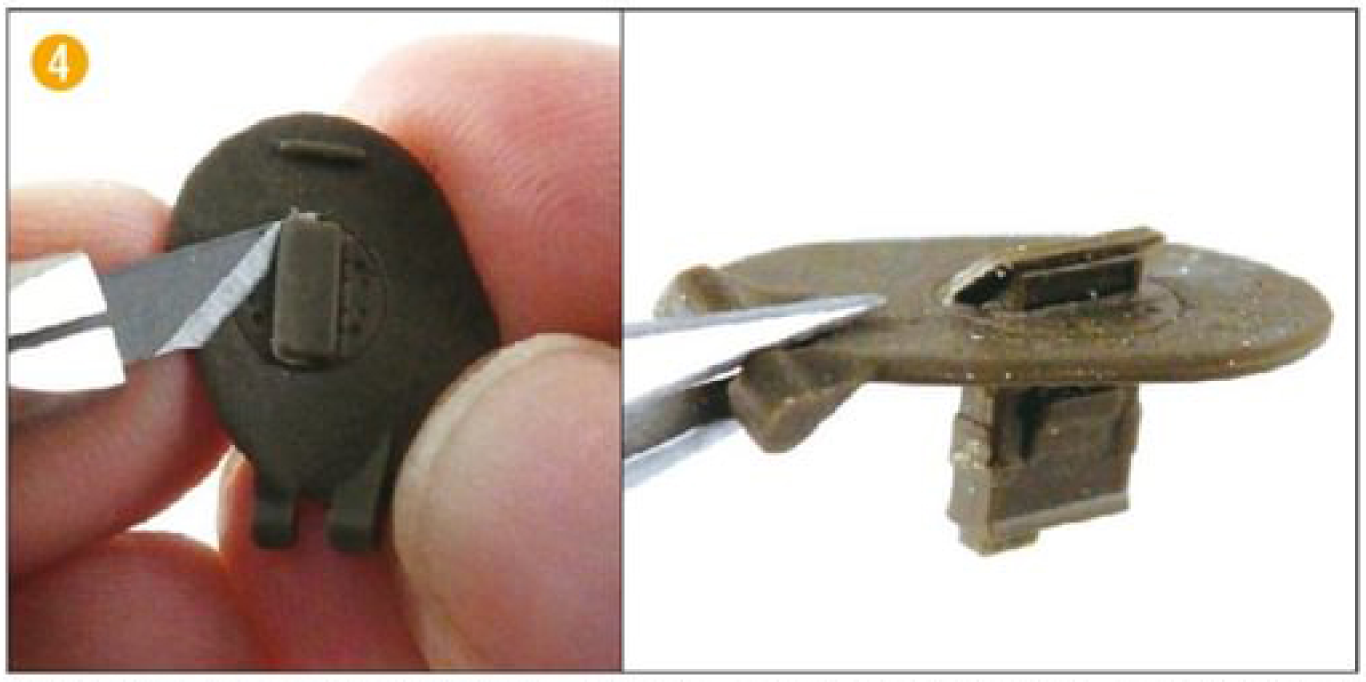
▲①複雑な形状のHVSSサスペンションは可動させないことで、転輪を入れても8パーツと少ないパーツで再現されている。転輪は回るようにしておくとゴム縁を塗る時に便利だ。



▲②第二次大戦前後の米軍戦車の顔とも言えるライトガードは強度を考え厚めに成型されているため、内側を削り込んで薄く見せる。パーツを切り離してしまうと削り込む時に破損しやすくなるため、ランナーに付いた状態で削ると良い（左が削り込み後）。



▲③パーティングラインや合わせ目が発生するので綺麗に処理し、消えてしまった鋳造表現を溶きパテで再現する。鋳造ではない箇所はマスキングしておくと良いだろう。



▲④操縦手ハッチを閉めているため、ペリスコープは開けたいのが親心。長方形のペリスコープハッチをデザインナイフでスライスし、キットパーツのペリスコープをひっくり返して差し込めるように穴を開け、差し込んで再現してみた。割と簡単な工作で効果的だ。

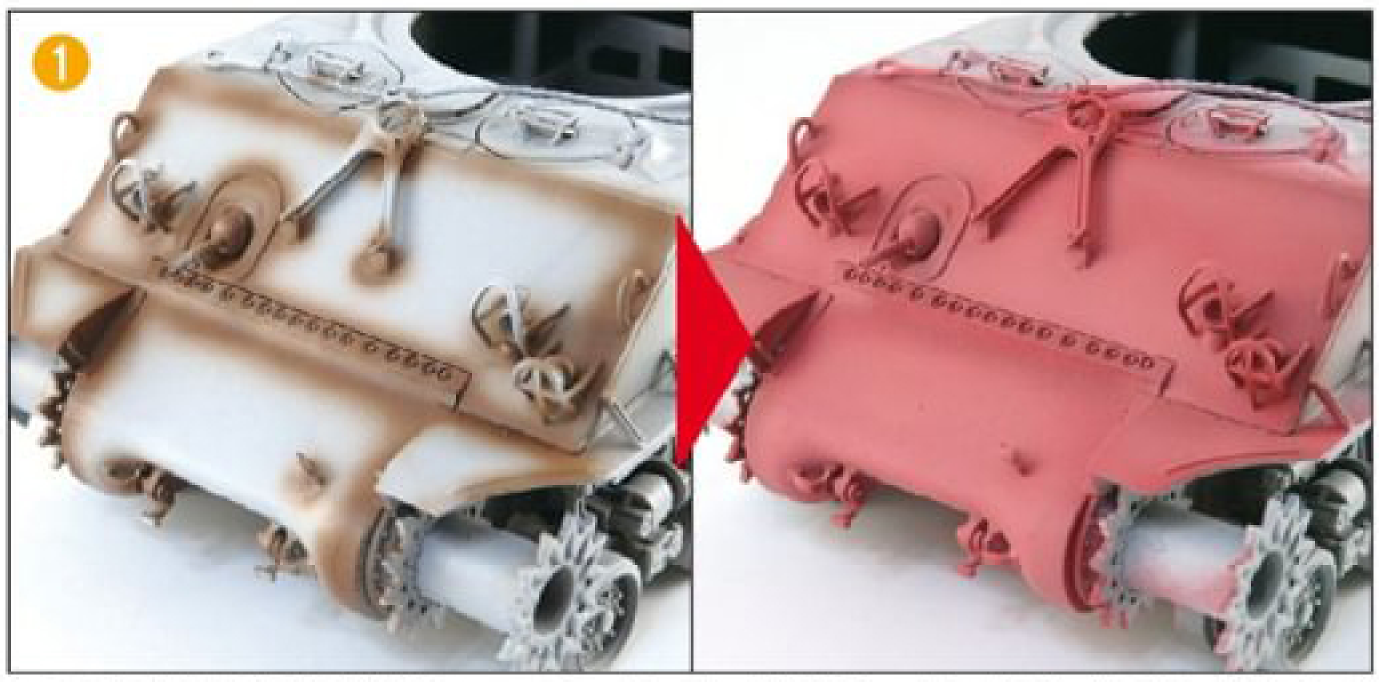


▲⑤後部のラックは弾薬箱を積載する程度とし、タミヤのエポキシ造形パテを薄く伸ばして被せてみた。一度では上手くいかないことも多いので何度か挑戦してみよう。



▲⑥組み立て完了。履帯は巻き付けてあるだけで取り外して塗装する。牽引用のワイヤーは付属のナイロン糸を瞬間接着剤で固めておくが、塗装を考えて留め金のパーツ（S1）を仮止めして外せるようにしておく。砲塔上部のM2重機関銃は非常に細かくパーツ分割され立体感抜群だ。その分細かなパーツも多いため、組み立てはピンセットを使い慎重に行おう。

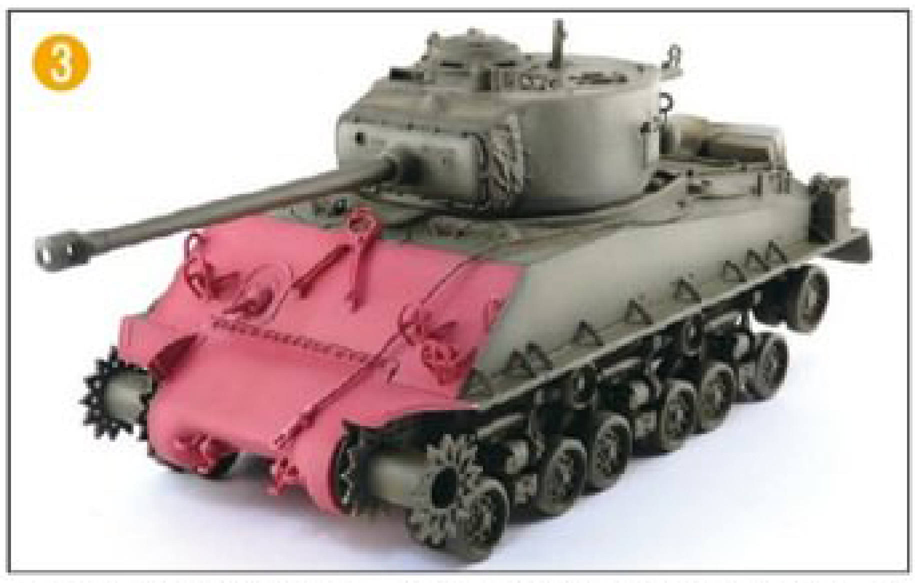
ポイント 2. AFVらしくない「赤色」に挑戦してみよう



▲①手順的には基本塗装後にマスキングして赤を塗りたいが、発色を考え先に塗装する。茶系で影を吹き付け、タミヤカラーラッカー塗料のLP-79 フラットレッドにLP-30 ライトサンドを若干混ぜてトーンを落とし吹き付ける。白を加えて軽く退色表現を入れておく。



▲②前面の赤をマスキングし本体色に移るが、予め影色（LP-3 フラットブラック+LP-74 フラットアース）を吹き付けておく。足周りの奥まったところは完全に塗り潰すが、車体上面は影に入れる程度に留める。



▲③朝鮮戦争時はオリーブドラブも緑味が強い印象だ。指定色のLP-29 オリーブドラブ2を使うが、ラッカー系塗料は隠ぺい力が弱めなので、それを生かして下地の影色でグラデーションを作る。LP-29にLP-30を加え、ハイライト兼退色表現を入れていく。自然なグラデーションを心掛けよう。



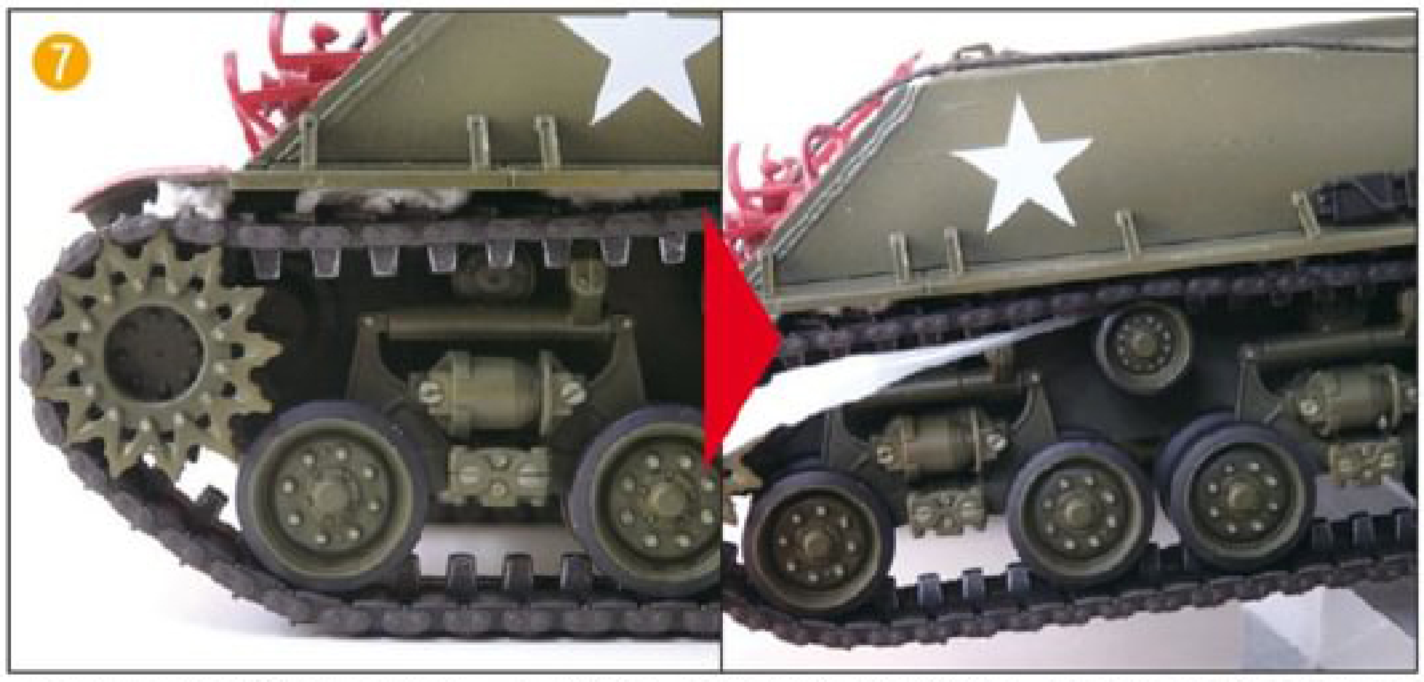
▲④今回の最大の山場、悪魔の顔のデカール貼りだ。口は面積が広く、凹凸もある面に貼る必要がある。特にデファレンシャルギアの固定用ボルトの箇所はいくらマークフィットを使っても馴染ませるのは至難の業だ。とりあえず位置に気を付けて貼り付けていく。



▲⑤口は白と黒という単純な色なので、リタッチ前提で作業すると気が楽だ。今回はタミヤセメント（流し込みタイプ）で溶かす乱暴な方法を取ったが、ボルトの凹みの部分だけデカールを切り取る作戦でも大丈夫だろう。リタッチすればこのとおり問題ない。



▲⑥塗り分け完了。赤い悪魔も含め、結構塗り分けが多くて時間がかかった。ちなみに逆の手順で先にOD色を塗装した場合は周りをマスキングし、赤の下地としてサーフェイサーかホワイトを吹いておくと良いだろう。ただホワイトの場合は発色が良すぎる場合もあるので、ここは好みで選ぶと良い。



▲⑤M4系の履帯はサスペンションが異なっても弛むことは少ない。むしろピンと張っている印象だ。キットはダブルピンタイプのT80型履帯を再現しているが、起動輪と誘導輪に接する箇所が浮くと重量感に欠けるので、ティッシュで詰め物をして瞬間接着剤を流し込んでおく。



▲ウォッシングはOD色とも赤とも合う色として茶系とし、タミヤスミ入れ塗料のダークブラウンを使用する。車体前面の赤はウェザリングが映えるが、あまり暗い色で入れ過ぎると折角の発色の良さがくすんでしまうので程々に。ピンウォッシュや雨垂れなどを慎重に描き込んでいこう。

Finish!

背が高く武骨なイージーエイトに、心理作戦の一種だったという赤い悪魔のマーキングも相まって、猛々しい作品に仕上がりました。



OD色は暗い色なのでグラデーション塗装が映えるが、いきなり白を混ぜたりするとメリハリが付き過ぎてしまうので、黄色系（タンなど）で明度と彩度を維持しながら明るくしていくと自然に仕上がるだろう。



▲フィギュアはラッカー系塗料で塗り分け、服は軽くドライブラシしてハイライトを表現してみた。やり過ぎた場合は薄めた服色を重ねると調整できる。ツヤを整えた後にエナメル塗料で影を入れておく。





▲共産党軍が使用していたGAZ-67Bがオマケで付いてくるのも嬉しい。古いキットながらよく出来ているので丁寧に組み立て、ステアリングだけ切ってみた。



◀キットには弾薬箱とジェリカンが付属するが、アメリカM4A3シャーマン·75㎜砲搭載·後期型（前線突破）(No.250) から弾薬箱やヘルメットなどを追加し、連合軍車輌アクセサリーセット (No.229) からも毛布類をセットしてみた。弾薬箱がずらっと搭載している写真も多く残っている。ヘルメットと弾薬箱の1つを砲塔に装備することで、少しだけ砲塔に情報量を増やして変化を付けてみた。ヘルメットはマスキングテープで顎紐を追加し、リフティングアイにぶら下げてみた。

今回のまとめ

緑の車体に赤という組み合わせは戦車の仕上げとしてはなかなか珍しく、手順はちょっと考えなければなと考えながらの製作となりました。赤も原色を使うとちょっと目がチカチカしますし、かといって退色表現を入れ過ぎると赤に見えなくなってしまう（ピンクになってしまう）罠も存在します。今回は発色良く塗装しつつ落ち着いた赤を再現できたのではないでしょうか。朝鮮戦争時の米軍戦車は他にも魅力的なマーキングがあり、コレクションしてみても面白いかもしれませんね！

次回予告

誌面ではあまり登場しなくなりましたが、古いキットでも魅力的な戦後車両が数多くあります。次号ではレオパルト1A4を製作してみましょう。



内藤あんも

ammo naitoh

幼少時より模型製作を趣味とし、気が付けばそれがお仕事に。「丁寧かつ早く作る」が得意技。模型誌作例を手掛ける傍ら、専門学校や短大で造形の講師も勤める。飛行機やキャラクターモデルも作るがやっぱり戦車模型が好き。

@ammonaitoh

Militärische Wissenshäppchen für Modellbauer

模型をよりリアルにするための蘊蓄資料講座 第 71 回

WWII ドイツ軍
ドイツ軍の編制 その 2

PHOTO&TEXT : STEINER

模型制作の考証に編制表が有用なことは前回記したとおりだが、編制表だけでは資料として物足りないのも事実だろう。

それは編制表自体には説明が記されていないため、意図するところを読み取るには適切な解説が欲しくなる。

そこで今回は、編制表を読むための基礎知識の解説の前に、来月タミヤから発売予定の 1/35 ミリタリーミニチュアシリーズ No.393 シュビムワーゲン 166 型 (ワイドホイール仕様) を例に、まずはどのような部隊に配備されかから紹介したい。

軍隊では人だけではなく、全ての物にも任務がある。

シュビムヴァーゲンに関しては、水陸両用と不整地走破性能に見合った任務が必要とされる部隊に配備された訳だ。

具体的には橋が無い所に橋を架ける架橋工兵や、部隊の進路をあらかじめ調査する偵察部隊、部隊の先鋒として敵情把握を主任務とする捜索部隊等が代表的な部隊の例である。

これらの部隊の中から本号では、捜索大隊に焦点を当てて編制の歴史、師団の中での役割、編制表も含めて紹介する。

開戦当初の歩兵師団の捜索大隊　(1939-1940 年)



大隊本部（伝令梯隊と通信小隊を含む）



第 1（騎兵）中隊



第 2（自転車）中隊



第 3（重）中隊

戦闘では相対する敵の兵力や位置情報、意図を含む敵情の解明は極めて重要であり、これを元に作戦立案が行われる。
この情報収集には空中偵察や無線傍受、地上から接近しての偵察等、さまざまな手段が用いられるが、地上偵察の一端を担う部隊として、各師団には捜索大隊：Aufklärungsabteirung や装甲捜索大隊：Panzeraufklärungsabteirung が編成された。
捜索大隊は当初軍団及び軍管区の騎兵連隊：Kavallerieregimentern から動員して編成された経緯があり、そうした部隊に於いては騎兵の兵科色（ゴールデンイエロー）を継承したが、騎兵連隊だけでは全てを賄えなかったため、機動力を有する自転車部隊や自動車部隊も加えられたため、兵科色にはカッパーブラウンやローズピンクの部隊もあった。
1939 年から 1940 年頃の編制は以下のとおり
伝令梯隊と通信小隊を伴う大隊本部：Abteilungsstab mit Melderstaffel und Nachrichtenzug
第 1（騎兵）中隊：1. (Reiter-) Schwadron
第 2（自転車）中隊：2. (Radfahr-) Schwadron
第 3（重）中隊：3. (Schwere) Schwadron　軽歩兵砲 2 門、3.7㎝ PAK36　3 門、軽四輪装甲偵察車輌 3 輌、無線車 1 輌を含む。この 3 輌が歩兵師団における唯一の「装甲」車輌であった。
※ Schwadron は騎兵科に於ける中隊：Kompanie の呼称
捜索大隊には第 3（重）中隊に歩兵砲や対戦車砲は配備されており、第 1（騎兵）中隊（3 個小隊）には各分隊に軽機関銃が 1 挺配され、第 2（自転車）中隊（3 個小隊）には各分隊の軽機関銃だけではなく、サイドカー付き重オートバイを有する軽迫撃砲と重機関銃小隊が配されている。
そしてこの第 1（騎兵）中隊や第 2（自転車）中隊を、自動車化歩兵師団に対応できるようにしたのがオートバイ歩兵中隊：Kraftradschützenkompanie である。
オートバイ歩兵と言えば「強行偵察」とか「威力偵察」のイメージがあるのではないかと思うのだが、ここで使われている「偵察」は事前に進路等の状況を把握する「偵察：Erkundung」ではなく、敵の状況を解明する「捜索：Aufklärung」である。
捜索大隊はその機動力から、開戦当初は対戦車大隊：Panzerabwehrabteilung や工兵大隊：Pionierbataillons の一部と共に先遣部隊として展開されることがあった。

自動車化歩兵師団グロースドイチュラントの捜索大隊

1



オートバイ歩兵大隊グロースドイチュラント（1942 年）
1. 大隊本部と通信小隊：Stab mit Nachrichtenzug
2. 第 1（装甲偵察車）中隊（装輪偵察車）：1. (Panzerspäh-) Schwadron (Radspähwagen)
3. 第 2（装甲捜索）中隊（軽装甲兵員輸送車）：2. (Panzeraufklärungs-) Schwadron (le. SPW)
4. 第 3(装甲捜索)中隊(シュビムヴァーゲン):3. (Panzeraufklärungs-) Schwadron (Schwimmwagen)
5. 第 4(装甲捜索)中隊(シュビムヴァーゲン):4. (Panzeraufklärungs-) Schwadron (Schwimmwagen)
6. 第 5（重）中隊：5. (schwere) Schwadron

2



3



4



5



6



自動車化歩兵師団グロースドイチュラントは、通常の 3 個中隊よりも多い 5 個中隊編成の捜索部隊として、オートバイ歩兵大隊グロースドイチュラントを有しており、その第 3 及び第 4 中隊には当時最新鋭のシュビムヴァーゲンが配備されていた。
自動車化歩兵連隊 グロースドイチュラント（1940 年 12 月）の時点では、捜索部隊として連隊本部に 1 個オートバイ歩兵小隊、第 5 大隊に第 17 オートバイ歩兵中隊があったのみであるが、1942 年にグロースドイチュラントが歩兵連隊から歩兵師団に再編成された後には、捜索部隊も大隊レベルに拡充された。
オートバイ歩兵大隊グロースドイチュラントは、1942 年 3 月 1 日にヴァンデルン練兵場で創設され、7 週間の編成期間を経て、1942 年 5 月に歩兵師団グロースドイチュラントに配属された。

装甲捜索中隊（シュビムヴァーゲン）の編制（一部抜粋）
Panzeraufklärungskompanie (Schwimmwagen)

第１小隊：1.Zug　中隊は４個小隊編制で、第２と第３小隊は第１小隊と同編制であるが小隊長の職域は【O】である

小隊本部班：Zugtrupp



1. 小隊長【Z】Zugführer, 機関短銃（MP-38/40）
2. 伝令（無線通話手兼務）【M】Melder (zugl. Sprechfunker), 小銃（Kar98k）
3. 乗用車運転兵【M】Kraftwagenfahrer für Pkw. 小銃（Kar98k）
4. 小隊本部班長【G】Führer, 小銃（Kar98k）
5. 担架兵【M】Krankenträger, 拳銃（P-08/38）
6. オートバイ伝令（小型オートバイ 350cc）【M】Kradmelder (le.Krad 350ccm), 小銃（Kar98k）

a. 対戦車ライフル：Pz.B.　必要に応じて使用する射手指定無しの火器

※役職の後の【　】は職域記号（本誌 2026 年 2 月号（No.1174）の階級と職域の対照表を参照）緑の文字は携行火器を示す

３個分隊：3 Gruppen

第１分隊：1. Gruppe　第２と第３分隊は第１分隊に同じ





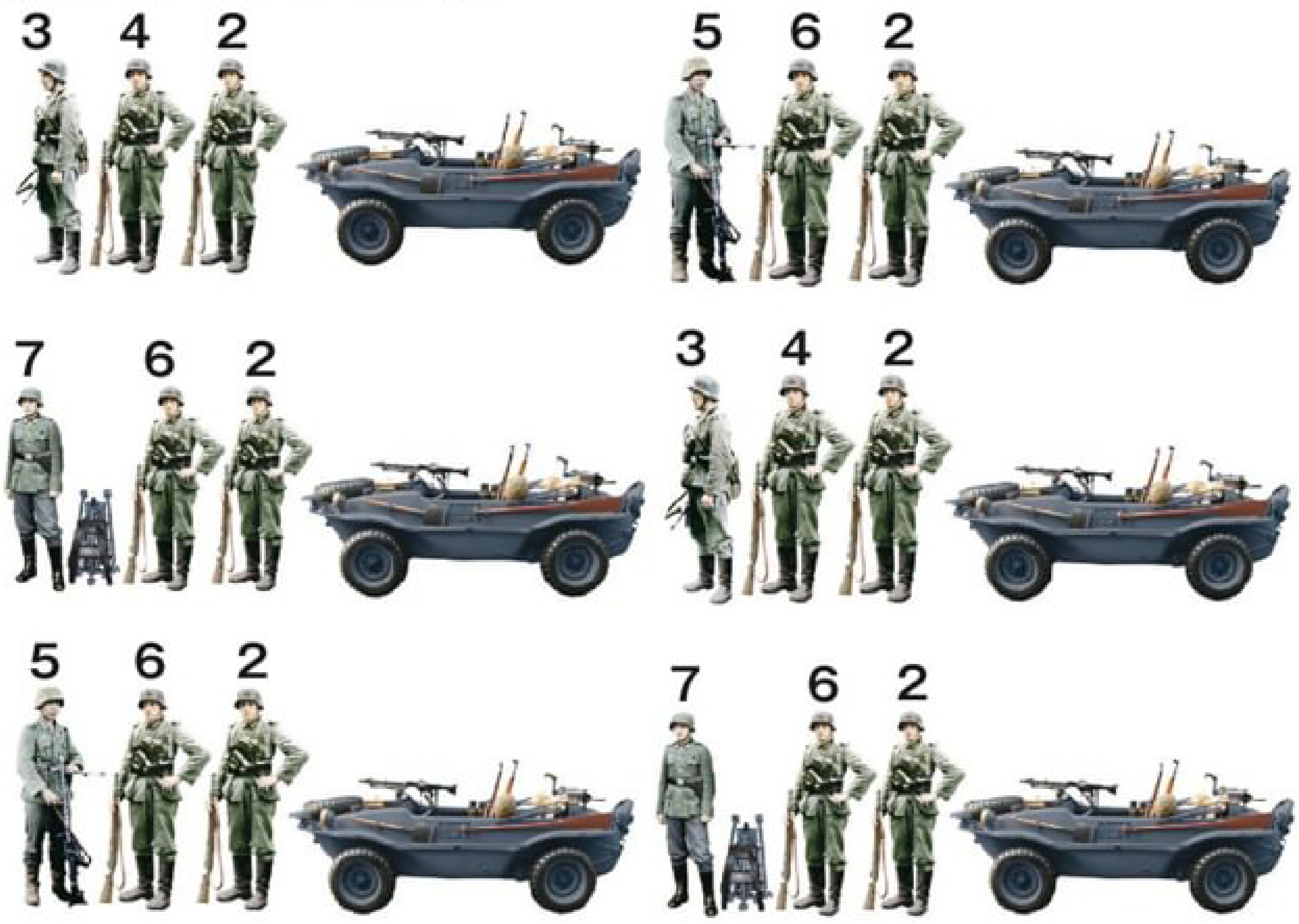
1. 分隊長【G】Gruppenführer, 機関短銃（MP-38/40）
2. 小銃兵【M】Schütze 小銃（Kar98k）
3. 乗用車運転兵【M】Kraftwagenfahrer für Pkw. 小銃（Kar98k）
4. 機関銃手【M】M.G.Schütze, 軽機関銃（MG.34/42），拳銃（P-08/38）
5. 機関銃手【M】M.G.Schütze, 拳銃（P-08/38）

分隊は分隊長以下 12 名で、３人ずつ４輌のシュビムヴァーゲンに分乗した。分隊には２挺の軽機関銃が配備されており、車上から射撃する際にはドラムマガジンを使用した。そのため機関銃手の１名は空になったドラムマガジンに、ベルトリンクに装弾された機関銃弾を充填する役目を担っていた。

第４（重）小隊：4. (schwerer) Zug

第 1.（重機関銃）分隊：1. (s.M.G) Gruppe　第２分隊は第１分隊に同じ





1. 分隊長【G】Gruppenführer, 拳銃（P-08/38）
2. 乗用車運転兵【M】Kraftwagenfahrer für Pkw. 小銃（Kar98k）
3. 機関銃長【G】MG-Führer, 機関短銃（MP-38/40）
4. 弾薬兵【M】für Munition, 小銃（Kar98k）
5. 機関銃兵【M】M.G.Schütze, 軽機関銃（MG.34/42），拳銃（P-08/38）
6. 機関銃兵【M】M.G.Schütze, 小銃（Kar98k）
7. 機関銃兵【M】M.G.Schütze, 拳銃（P-08/38）

※小隊本部と第 3.（重迫撃砲）分隊は省略

1942 年 3 月 1 日に創設されたオートバイ歩兵大隊グロースドイチュラント：Kradschützen-Bataillon Großdeutschland は、1943 年初頭のハリコフ周辺での戦闘後、1 月 14 日に装甲捜索大隊グロースドイチュラント：Panzer-Aufklärungs-Abteilung Großdeutschland と改名された。
ちなみに同部隊の兵科色はゴールデンイエローであった。

自動車化歩兵師団グロースドイチュラントは、クルスク戦直前の 1943 年 6 月に装甲兵力が大幅に増強され、装甲擲弾兵師団グロースドイチュラントに改編された。
シュビムヴァーゲンのディテールについては、2022 年 12 月号（No.1098）～ 2023 年 4 月号（No.1106）の記事を参照頂けると幸いです。

MA EVENT REPORT

横浜モデラーズクラブ合同展示会 2026

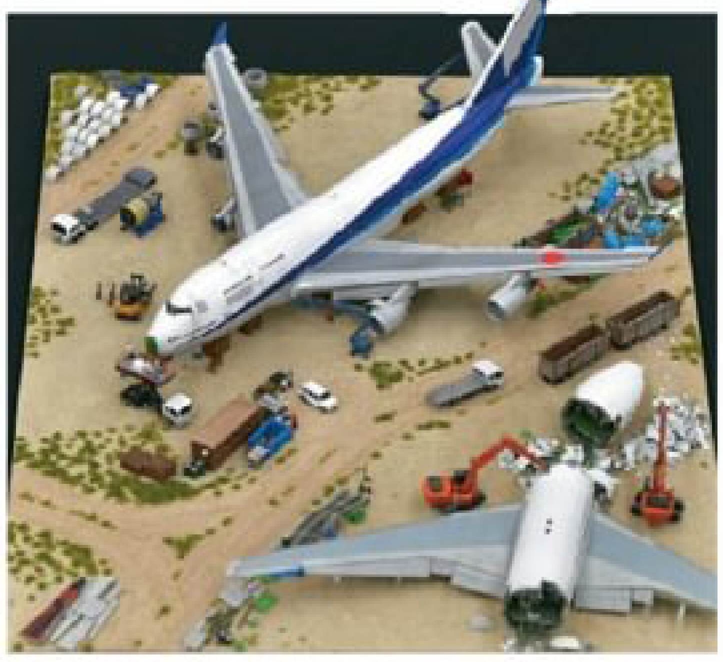
晴天に恵まれた1月31日、2月1日の2日間、横浜モデラーズクラブ合同展示会 2026が開催された。例年の会場から場所を移し、参加者も大幅に増えてパワーアップ。大いに盛り上がった東日本の一大イベントの模様をご紹介しよう。

写真・報告：編集部



▲横浜産貿ホール マリネリアは、みなとみらい線の日本大通り駅から徒歩3分、JR関内駅から徒歩15分の位置にある。目の前は山下公園で「氷川丸」も目と鼻の先だ。会場内は広く照明も明るいため、作品鑑賞にはもってこい。







◀▲▶展示ジャンルは多彩になったが、この合同展はやはりエアモデルが最も盛況。複葉機から第二次大戦機、現用ジェット機、そして旅客機まで様々な機体が所狭しと並ぶ様子は圧巻。





▶若手主体のサークルも増え、次代を担うスケールモデラーが多数参加。力作を展示し、ベテラン勢にアドバイスを求め交流する場面も多く見受けられた。





◀▲個人参加も多く、ジャンルを問わず全国から集結した。



▲会場奥には初の試みとして物販エリアが設けられた。モデリンクによるフリーマーケットや3Dプリントパーツの販売、スータンホビーによる特価キット販売、個人ディーラーによるキットやデカール、オリジナルツールの販売などが行われた。







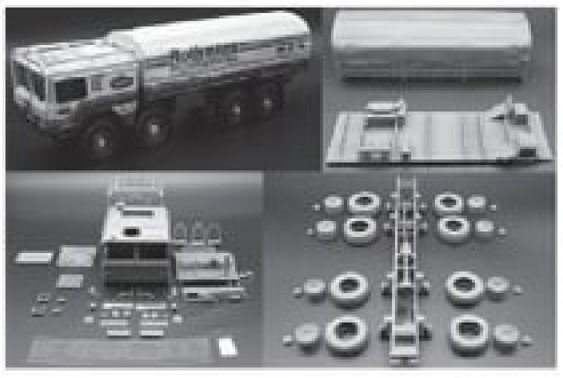




2024年9月以来となる横浜モデラーズクラブ合同展示会が開催された。これまでの横浜ワールドポーターズから中華街に程近い横浜横浜産貿ホール マリネリアに移動。元々はエアモデルが中心の展示会だったが、今年も様々なジャンルの力作が会場内にズラリと並んだ。過去最多となる40クラブ以上に加え、個人参加も30名近くとなり、さらに会場奥にはモデリンクやスータンホビーなどによる物販エリアも設けられた。来年も同会場で1月30、31日に開催される予定だ。

カーモデルキット
買取強化中
06-6377-2700

1/43 フルキット D・A・B MODELS



マン 8by8 ポルシェ ロスマンズダカール
1984 1985 ¥44,000

ZoomOn 1/24トランスキット



マクラーレン セナ GTR パーツセット
タミヤ対応 ¥17,000

MODEL GARAGE Romu SINCE 1985
モデルガレージ ロム本店
☎ 06-6486-7000
honten@romu-romu.com
営業時間
平日 12時 - 19時
土祝 11時 - 18時
定休日
日曜 月曜

梅田本店
O.Dハウス / ウインズB館 / ウインズA館 / ファミリーマート / ファーストキッチン / 北阪急ビル / 阪急梅田駅 / リンクス梅田 ヨドバシカメラ / 新阪急ホテル / JR大阪駅
大阪市北区芝田2-6-30 清和ビル5F
地下鉄梅田駅徒歩3分
VISA PayPay

新品・中古
現行・絶版
関連書籍
雑誌 等
プラモデル 販売・買取
通販しております

空モノ・AFVから キャラ物まで 全てのジャンルの
プラモデル等買取
いたします

ホビーカンスケ
〒556-0014 大阪市浪速区大国 3-1-25
エミネスアーク2F（専用出 入口有）
㊌・㊍・㊏・㊐ に営業
営業時間：PM1:00～PM6:50

TEL.06-6646-0520　FAX.06-6646-0521

写真ばかりのホームページです
www.kansuke.net
ヤフーまたはグーグルでホビーカンスケを入力して
検索すると簡単にアクセス可能！ ホビーカンスケ

アクセス
地下鉄大国町5番・6番出口より徒歩5分
JR今宮駅東口より徒歩5分

PLATZ (有)プラッツ PLATZ Co.,Ltd.
〒424-0065
静岡県静岡市清水区長崎64-1
お問い合わせは
TEL:054-345-2047 FAX:054-345-2285
メール：info@platz-hobby.com
詳細は弊社ホームページをご覧ください
http://www.platz-hobby.com/

1/48 F-35A ライトニングII ビーストモード
（日本語対訳補足説明書付属）



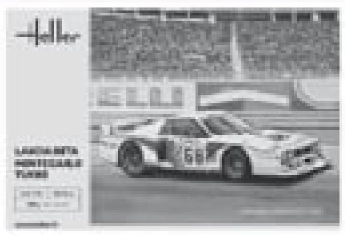
NEW ITALERI
IT2836
1/48 プラスチックモデルキット
3月発売予定
日本語対訳補足説明書付属
12,000円(税込 13,200円)

1/24 プジョー 205 GTI（日本語対訳補足説明書付属）



NEW Heller
HE82705J
1/24 プラスチックモデルキット
12月発売予定
日本語対訳補足説明書付属
7,600円(税込8,360円)

1/24 ランチア ベータ モンテカルロ Gr.5
日本語対訳補足説明書付属



NEW Heller
HE80741J
1/24 プラスチックモデルキット
3月発売予定
日本語対訳補足説明書付属
6,500円(税込7,150円)

A!CTION アクション
BROWNING M2HB 50CALIBER
1/1 ブローニング M2HB キャリバー .50
110,000 円（税込）

1/1 完全フルスケールモデルシリーズ

モデルガンメーカー アクション制作のフルスケールプラスチックモデル。細部にまで再現されたディティールとそのド迫力をお楽しみください。陸上自衛隊の協力の元、1953 年の自衛隊発足時に、アメリカ軍から購入し配備されたとされる第二次世界大戦中モデルのブローニング M2HB 50 キャリバーを採寸し実寸サイズで、プラスチックモデルとして再現いたしました。若干の補強材を使用することで、ジープに搭載することも可能です。



◀専用三脚（完成品）
※別売り 88,000 円（税込）

てんちょうのこんなん入りました
ガネットらしからぬブツ入荷いたしました！ 1/1 フルサイズのキャリバー５０。ご縁があってガネットに着弾いたしました。そう入ってこないし、確かにスケールモデルなのですが、ガネットモデルガン扱ってないし。そこなんですよね。純粋なるスケールモデルであることとこの大きさにてんちょ飛びつきました。ガネ子さんは自分が欲しかったんとちゃうん！と言ってましたがその通りです。欲しい方ございましたらお譲りいたします（笑）
早い者勝ちでございます。通販可能です。
（輸送費ご相談させてください）

通販 輸入 キット 品切れ商品
HOBBY SHOP Gannet®
ご相談ください
阪急、JR 徒歩 5 分
阪急夙川駅 / Ⓟ Gannet / 夙川 / 山手幹線 / JRさくら夙川駅 / 国道 2 号線
☎ 0798-26-6168
https://gannet.jp
兵庫県西宮市寿町 2-35
KOWA BUILDING 2F

バイクモデル製作 攻略のメソッド2024
バイク製作はもう怖くない
製作の基本から応用まで―幅広く解説



e-books 定価 2,860円(税込) B5 104頁

MODEL Art　www.modelart.jp　(有)モデルアート社 東京都台東区台東2-3-9 KHビル4F　TEL：03-6240-1936　FAX：03-6240-1937

定期購読開始のご案内
飛行機模型 スペシャル AIR MODEL SPECIAL



年４冊発行の「飛スペ」を、
「取り扱い書店が近くに無くて…。」
「毎号確実にほしくて！」「買いそびれしちゃうので…。」
というお客様のご要望にお応えし、年間購読の受付を開始いたします。

飛行機プラモを楽しんで作るためのモデリングマガジン

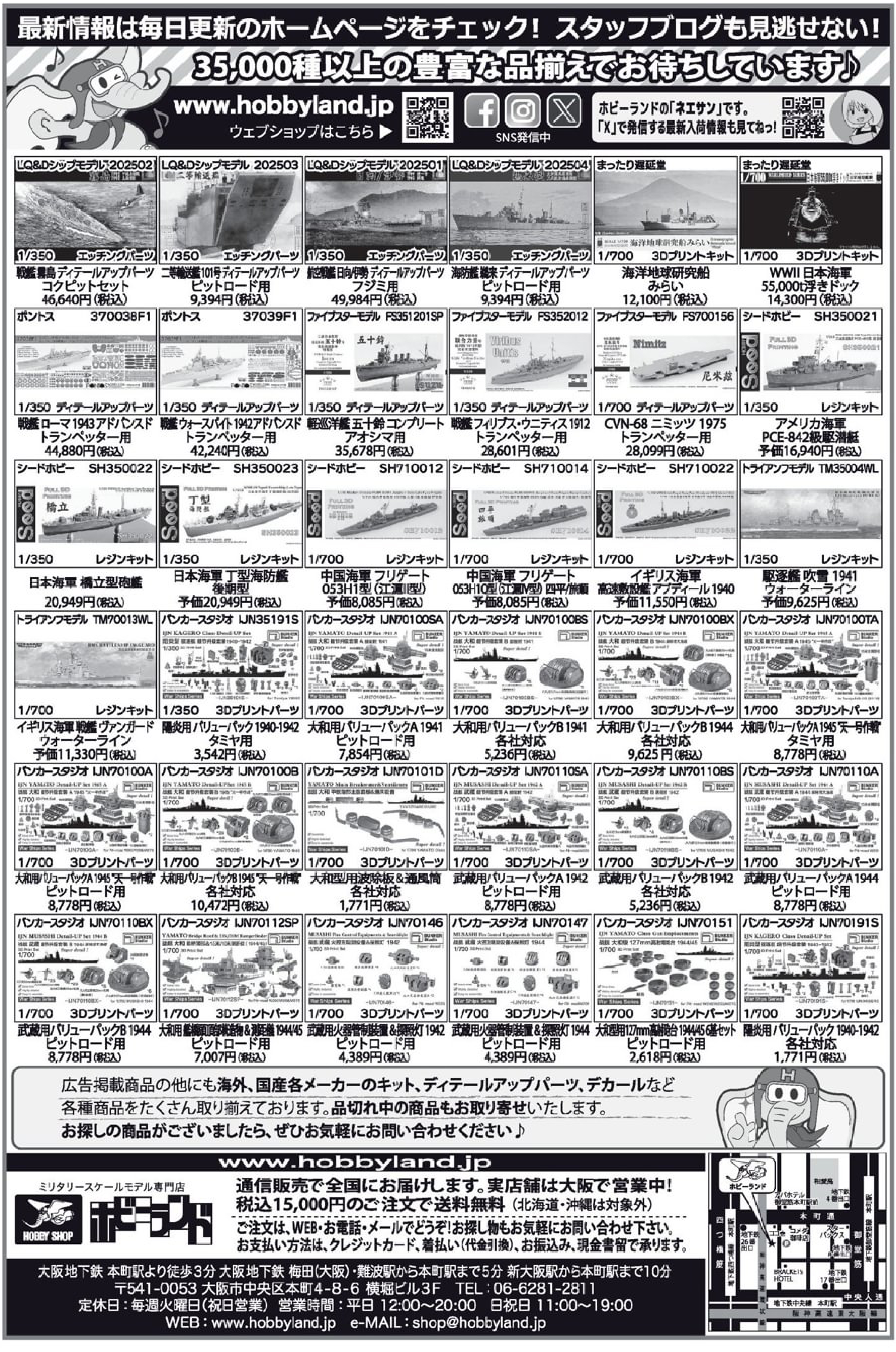
お申込み窓口
○ モデルアート Webショップ
○ お電話での直接注文
× 書店
*流通の都合上、書店での年間購読は出来ません。ご了承ください。

詳しくはHPにて掲載も致します。
QRコードより、ご確認頂けます。

ご注文方法 電話OK
ご注文は Webショップ又はお電話で承ります！
スマホからもOK

年間購読：8,712円(税込)
*4冊/年 ＜送料弊社負担＞

発行：(有)モデルアート社 〒110-0016　東京都台東区台東2-3-9 KHビル4F　TEL:03-6240-1936 FAX:03-6240-1937
MODEL Art


最新情報は毎日更新のホームページをチェック！ スタッフブログも見逃せない！
35,000種以上の豊富な品揃えでお待ちしています♪
www.hobbyland.jp
ウェブショップはこちら ▶
SNS発信中
ホビーランドの「ネエサン」です。
「X」で発信する最新入荷情報も見てねっ！
LQ&Dシップモデル 202502
1/350 エッチングパーツ
戦艦 霧島 ディテールアップパーツ
コクピットセット
46,640円(税込)
LQ&Dシップモデル 202503
1/350 エッチングパーツ
二等輸送艦101号 ディテールアップパーツ
ピットロード用
9,394円(税込)
LQ&Dシップモデル 202501
1/350 エッチングパーツ
航空戦艦 日向/伊勢 ディテールアップパーツ
フジミ用
49,984円(税込)
LQ&Dシップモデル 202504
1/350 エッチングパーツ
海防艦 鵜来 ディテールアップパーツ
ピットロード用
9,394円(税込)
まったり遅延堂
1/700 3Dプリントキット
海洋地球研究船
みらい
12,100円(税込)
まったり遅延堂
1/700 3Dプリントキット
WWII 日本海軍
55,000t浮きドック
14,300円(税込)
ポントス 370038F1
1/350 ディテールアップパーツ
戦艦 ローマ 1943 アドバンスド
トランペッター用
44,880円(税込)
ポントス 37039F1
1/350 ディテールアップパーツ
戦艦 ウォースパイト 1942 アドバンスド
トランペッター用
42,240円(税込)
ファイブスターモデル FS351201SP
1/350 ディテールアップパーツ
軽巡洋艦 五十鈴 コンプリート
アオシマ用
35,678円(税込)
ファイブスターモデル FS352012
1/350 ディテールアップパーツ
戦艦 フィリブス・ウニティス 1912
トランペッター用
28,601円(税込)
ファイブスターモデル FS700156
1/700 ディテールアップパーツ
CVN-68 ニミッツ 1975
トランペッター用
28,099円(税込)
シードホビー SH350021
1/350 レジンキット
アメリカ海軍
PCE-842級駆潜艇
予価16,940円(税込)
シードホビー SH350022
1/350 レジンキット
日本海軍 橘立型砲艦
20,949円(税込)
シードホビー SH350023
1/350 レジンキット
日本海軍 丁型海防艦
後期型
予価20,949円(税込)
シードホビー SH710012
1/700 レジンキット
中国海軍 フリゲート
053H1型(江滬I型)
予価8,085円(税込)
シードホビー SH710014
1/700 レジンキット
中国海軍 フリゲート
053H1Q型(江滬IV型) 四平/旅順
予価8,085円(税込)
シードホビー SH710022
1/700 レジンキット
イギリス海軍
高速敷設艦 アブディール 1940
予価11,550円(税込)
トライアンフモデル TM35004WL
1/350 レジンキット
駆逐艦 吹雪 1941
ウォーターライン
予価9,625円(税込)
トライアンフモデル TM70013WL
1/700 レジンキット
イギリス海軍 戦艦 ヴァンガード
ウォーターライン
予価11,330円(税込)
バンカースタジオ IJN35191S
1/350 3Dプリントパーツ
陽炎用 バリューパック 1940-1942
タミヤ用
3,542円(税込)
バンカースタジオ IJN70100SA
1/700 3Dプリントパーツ
大和用 バリューパックA 1941
ピットロード用
7,854円(税込)
バンカースタジオ IJN70100BS
1/700 3Dプリントパーツ
大和用 バリューパックB 1941
各社対応
5,236円(税込)
バンカースタジオ IJN70100BX
1/700 3Dプリントパーツ
大和用 バリューパックB 1944
各社対応
9,625 円(税込)
バンカースタジオ IJN70100TA
1/700 3Dプリントパーツ
大和用バリューパックA 1945 "天一号作戦"
タミヤ用
8,778円(税込)
バンカースタジオ IJN70100A
1/700 3Dプリントパーツ
大和用バリューパックA 1945 "天一号作戦"
ピットロード用
8,778円(税込)
バンカースタジオ IJN70100B
1/700 3Dプリントパーツ
大和用バリューパックB 1945 "天一号作戦"
各社対応
10,472円(税込)
バンカースタジオ IJN70101D
1/700 3Dプリントパーツ
大和型用波除板＆通風筒
各社対応
1,771円(税込)
バンカースタジオ IJN70110SA
1/700 3Dプリントパーツ
武蔵用 バリューパックA 1942
ピットロード用
8,778円(税込)
バンカースタジオ IJN70110BS
1/700 3Dプリントパーツ
武蔵用 バリューパックB 1942
各社対応
5,236円(税込)
バンカースタジオ IJN70110A
1/700 3Dプリントパーツ
武蔵用 バリューパックA 1944
ピットロード用
8,778円(税込)
バンカースタジオ IJN70110BX
1/700 3Dプリントパーツ
武蔵用 バリューパックB 1944
ピットロード用
8,778円(税込)
バンカースタジオ IJN70112SP
1/700 3Dプリントパーツ
大和用 艦橋頂部構造物＆測距儀 1944/45
ピットロード用
7,007円(税込)
バンカースタジオ IJN70146
1/700 3Dプリントパーツ
武蔵用火器管制装置＆探照灯 1942
ピットロード用
4,389円(税込)
バンカースタジオ IJN70147
1/700 3Dプリントパーツ
武蔵用火器管制装置＆探照灯 1944
ピットロード用
4,389円(税込)
バンカースタジオ IJN70151
1/700 3Dプリントパーツ
大和型用127mm高射砲台 1944/45 6基セット
ピットロード用
2,618円(税込)
バンカースタジオ IJN70191S
1/700 3Dプリントパーツ
陽炎用 バリューパック 1940-1942
各社対応
1,771円(税込)
広告掲載商品の他にも海外、国産各メーカーのキット、ディテールアップパーツ、デカールなど
各種商品をたくさん取り揃えております。品切れ中の商品もお取り寄せいたします。
お探しの商品がございましたら、ぜひお気軽にお問い合わせください♪
www.hobbyland.jp
ミリタリースケールモデル専門店
HOBBY SHOP
ホビーランド
通信販売で全国にお届けします。実店舗は大阪で営業中！
税込15,000円のご注文で送料無料(北海道・沖縄は対象外)
ご注文は、WEB・お電話・メールでどうぞ！お探し物もお気軽にお問い合わせ下さい。
お支払い方法は、クレジットカード、着払い(代金引換)、お振込み、現金書留で承ります。
大阪地下鉄 本町駅より徒歩3分 大阪地下鉄 梅田(大阪)・難波駅から本町駅まで5分 新大阪駅から本町駅まで10分
〒541-0053 大阪市中央区本町4-8-6 横堀ビル3F TEL：06-6281-2811
定休日：毎週火曜日(祝日営業) 営業時間：平日 12:00～20:00 日祝日 11:00～19:00
WEB：www.hobbyland.jp e-MAIL：shop@hobbyland.jp
ホビーランド
本町通
中央大通
地下鉄中央線 本町駅
スターバックス
地下鉄 17番出口

Build by FA YUURI

FOLLOW YOUR HEART
心の命じるままに！

スケールモデルというジャンルに囚われず、編集者が気になる超魅力的なキットを純粋に楽しんでしまう連載です。

1941 年公開の映画『The WOLF MAN』でロン・チェイニー・ジュニアが演じた狼男を、特徴的なプロポーションやポーズを見事に再現したエクスプラスのキット。夜闇の中に潜む殺意や衝動を思うがままの感性で塗装して表現しました。

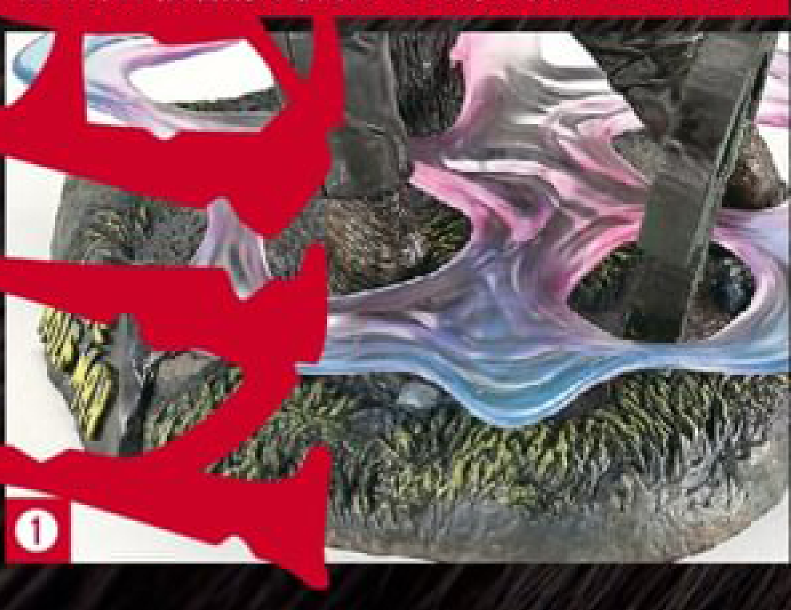




特徴的なロン・チェイニー・ジュニアのプロポーションやポーズを再現。

X-PLUS1/8 スケール
ロン・チェイニー・ジュニア as 狼男
8,800 円（税込）
制作・文：ふぁゆうり
問合せ：エクスプラス
web サイト：https://jp. ric-toy.com/

1．ベースのモールドは雰囲気よく再現されていて、さらに霧の表現をクリアーパーツが用意され怪しい雰囲気に塗装することで「らしさ」を強調しました。
2．墓場の風通しが悪く湿度の高いところにある樹木のカビが生えている樹皮をターナーのアクリルガッシュで表現しました。
3．各パーツの合わせ目処理はパテや瞬間接着剤で行うと後処理でディテールが崩れるので、流し込み系の接着剤で馴染ませた方が良かったかも。



1



2



3

ホラー映画スター ロン・チェイニー・ジュニアが演じた 狼男 をリアルに立体化

模型の完成着地点はある程度の所に設定はするものの、なかなか思う様に辿り着けない所が楽しい。持っている引き出しで、なんとか落とし所を探す作業がすごく楽しい。それを体現させてくれるのがエクスプラスのキット。今回はロン・チェイニージュニアが演じる狼男です。キットはおよそ20cm強、そして台座だけですでに雰囲気が出ています。

合わせ目消しに関して一つ思ったことがあり、私は普段から瞬間接着剤で合わせ目を消すのですが、今回ばかりはそれは選択ミスと言わざるを得ませんでした、それはなぜか、合わせ目は服のシワ、毛並みの所に多く、消した後の処理に金属ヤスリやリュータなどでニュアンスを復活させます。しかし、メーカーの施した形は流石であり、私くらいのモデラーが手を加えると態と（ワザト）らしくなってしまいます。そこを溶着系の接着剤での合わせ目消しをすると、サラッとした溶着剤、薄め液で撫でることにより、馴染ませられるので溶着系接着剤での合わせ目消しを推奨します。

塗装に関しては、全体を暗めにしました。キットのジオラマ台座は狼男になった主人公が意思に反して墓守を殺害してしまうシーンだと思います、そのシーンでの夜闇の中に潜む殺意や衝動を体現したかったためです。シャツはガイアノーツガイアカラー062 ミディアムブルーをベースに染料系のガイアノーツ 101 蛍光ブルーと104 蛍光グリーンを斑に吹き付け滲みを期待します。タミヤスミ入れ塗料（ブラック）で表情を加えつつ、トーンを落としました。パンツはGSIクレオスMr.カラーC29 艦底色（ココアブラウン）でベタ塗りしタミヤスミ入れ塗料（ブラック）でウォッシング、裾など泥が跳ねそうな所にはタミヤスミ入れ塗料（ブラウン）で汚しを入れました。

存在感のある台座はGSIクレオスMr.カラーC41 レッドブラウンをベースにターナーアクリル34A バーント シェナーで土っぽさを出し、タミヤスミ入れ塗料（ブラック）でトーンを落とします、小石はガイアノーツ 062 ミディアムブルーとターナー 9A ジェット ブラック。木はGSIクレオスMr.カラーC41 レッドブラウンのベタ塗り、次に大理石塗装のようにFOK アクセルS 24-2 コンクブラックで印象を付け、風通しの悪い湿度の高そうな場所でカビが生えた不潔な樹皮を表現したくターナー 37A バーント アンバー、0A ミキシング ホワイト、40A エメラルド グリーンを使い 10A パーマネント レモンで決定的な黄色を塗りました。

使った塗料や手数が多く、塗装好きな私はゾーンに入るとは少し違うけれど、ペインターとしての本能を開放し衝動のまま塗装していた私、自分の意思に反し本能のままに殺意を解放する狼男。デスクライトと月光の下で俺たちは同じ眼をしていたに違いない。



獣の体毛の造形も細やかにモールドされています。

Wonder Festival 2026 [Winter]

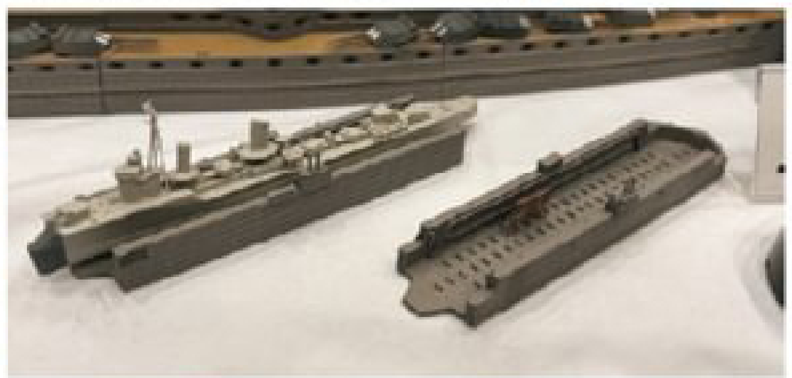
2月8日（日）、幕張メッセ国際展示場1～8ホールにて、造形・フィギュアの祭典 ワンダーフェスティバル2025［夏］が開催された。ここでは会場の様子をスケールモデルを中心にピックアップしてお届けする。

写真・報告：編集部



























■雪のワンフェス再び！

前日、当日と発表された雪の予報が的中し、当日は幕張メッセ周辺も銀世界！ 交通機関の遅れなどがあったようだが、それでも多くのディーラー、一般参加者などが一堂に会し、熱気溢れるイベントとなった。
企業ブースでは、塗装体験コーナーやステージイベントなどが催され、多くの一般参加者で溢れていた。また、毎回恒例となっている１つのIPをテーマに合同展示を行なう「○○ワンフェス」は今年は「ウルトラ怪獣ワンフェス」が開催され、特設ブースが設けられていた。一般ディーラーブースでも多くのディーラーが渾身の力作を持ち込み、展示・販売を行ない盛り上がりを見せていた。スケールモデルでは、3Dプリンターを駆使した艦船模型が多く見られ、他には市販プラモデルに適合するマニアックな改造パーツも充実していた。

閉会間際にセンムことワンフェス実行委員長の宮脇修一氏より、次々回の2027年冬ワンフェスが2日間開催となるというサプライズ発表もあり、場内がどよめいていた。今後も目が離せないイベントとなりそうだ。

Spielwarenmesse 2026

TAMIYA SHOWCASE 2026 年上半期新製品展示 レポート

1月27日～1月31日にかけてドイツ・ニュールンベルクで行われた、世界各国のトイ・ホビーメーカーが出展する見本市「シュピールヴァーレンメッセ 2026」。そこで発表されたタミヤ製品がチェックできる TAMIYA SHOWCASE が TAMIYA PLAMODEL FACTORY TOKYO にて開催された。ここでは注目のニューアイテムをいち早くご紹介。TAMIYA PLAMODEL FACTORY TOKYO、静岡ホビースクエアでの展示は終了しているが、3月7日、8日には大阪のジョーシン スーパーキッズランド本店で、3月26日 ～ 4月2日には神奈川県のタミヤ プラモデルファクトリー トレッサ横浜店でも開催されるので要チェックだ。

タミヤオリジナルの完全新設計「M24 チャーフィー」が登場！





1/35 アメリカ軽戦車M24 チャーフィー（ヨーロッパ戦線）。連合軍車両の精力的なリリースを続ける中、大戦後期の傑作軽戦車M24 チャーフィーを発表。完全新設計となる。非常に特徴的な砲塔、車体の形状が再現されている。ライトガードやOVM、機銃などもシャープで実感的な印象だ。後部バスケットはエッチングパーツでの再現。サンドシールドのない状態も再現可能。イタリア戦線の第1機甲師団 第81偵察大隊などのマーキングが付属するようだ。





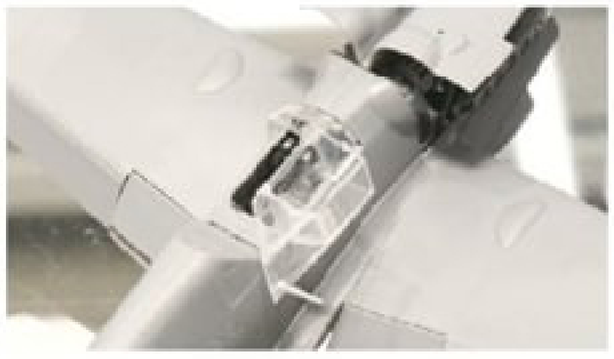
CB シリーズ最新モデルをいち早くキット化！

1/12 Honda CB1000F。ホンダのCBシリーズ最新フラッグシップモデルをリリース。堂々たる出で立ちの999cc水冷DOHC直列4気筒エンジンが非常にディテールフルに再現され、大きな見どころとなっている。マフラー、ミラー鏡面などはメッキパーツとなる。右写真は未塗装完成品。巧みな設計、パーツ分割で、組み立てるだけでこの仕上がりとなる。付属デカールで3種類のカラーを再現できる。

Bf109 G-6 待望の後期型バリエーション！







1/48 メッサーシュミット Bf109 G-6 後期生産型。後期型特有の機首上部の機関銃弾道溝と側面のボイレ、空気取り入れ口などを再現。ヘルマン・グラーフ大佐機用に、主車輪カバー、脚庫内部パーツ、バルジ付きキャノピーなど新規設計パーツを多数用意。フレームの少ないキャノピー「エルラ・ハウベ」や21cmロケット弾発射筒なども再現しているようだ。フィンランドのエース、ユーティライネン搭乗機のマーキングもセットされる。

再販アイテムなどピックアップ

「シュピールヴァーレンメッセ 2026」会場での展示品からも注目商品をピックアップ！ミニクーパーが待望の再販。**1/24 モーリス ミニクーパー 1275S Mk.Ⅰ**、**オースチン ミニクーパー 1275S Mk.Ⅰ**が再生産され、**1/24 モーリス ミニクーパー レーシング**もスポット再販品として限定販売される。他にもスポット再販品が続々。**1/12 Honda RS1000 耐久レーサー**、**1/12 ヤマハ RZV500R**などバイクモデルも充実。また、ツール・マテリアル類にも新たな動きが！メッキ調塗料の**ミラーペイント**が展示され、話題を呼んだ。同時に**ミラーペイント専用プライマー**も展示されていた。使用感などは追って本誌でレビューしたい。RCカーでは**1/10RC ポルシェ 934 (1976) 50周年記念**を発表。同社初の電動RCカー**1/12RC ポルシェ 934**発売から50周年を記念したアイテムで、単なる復刻ではなく、専用のボディ・シャシーを新規に設計し、実車同様の駆動方式を再現。リアエンドにモーターを配置し、RRのドライブ感を楽しめる。







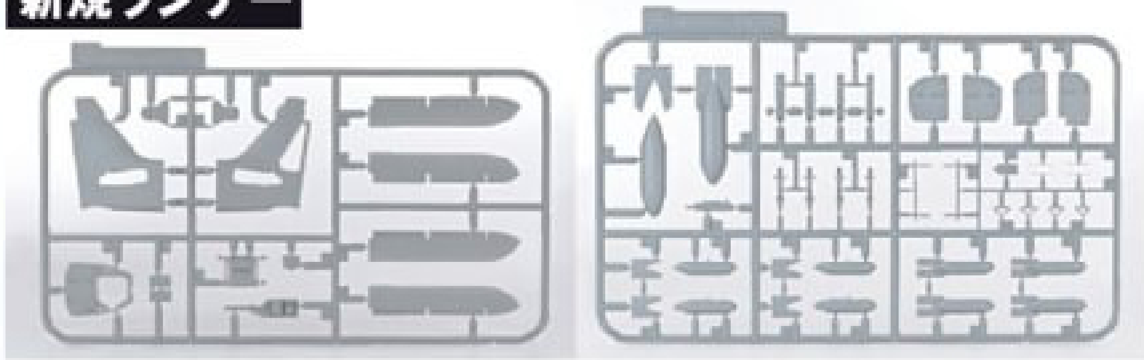


出典：タミヤHP (https://www.tamiya.com) ※右下除く

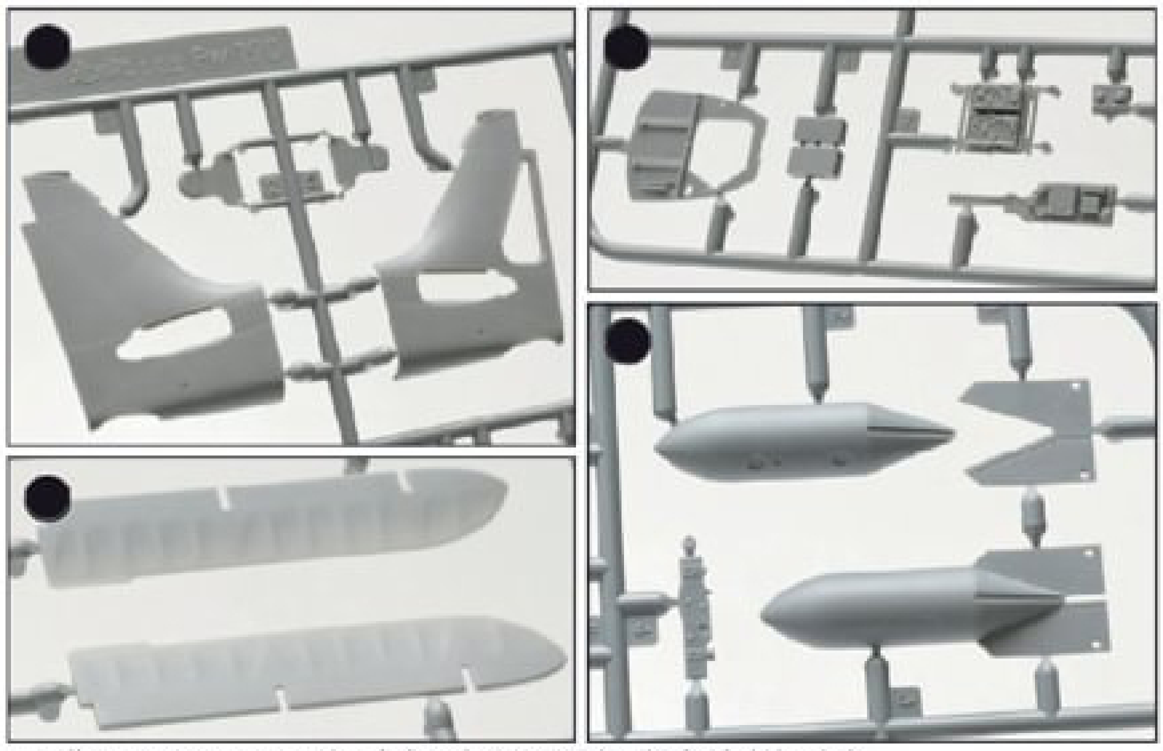
PICK UP

造形村のFw 190A-3パッケージイラスト＆テストショット到着！





新規ランナー

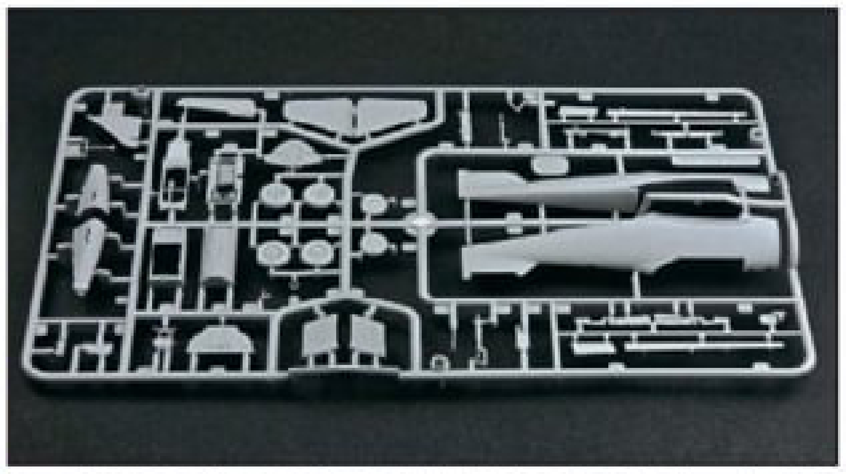


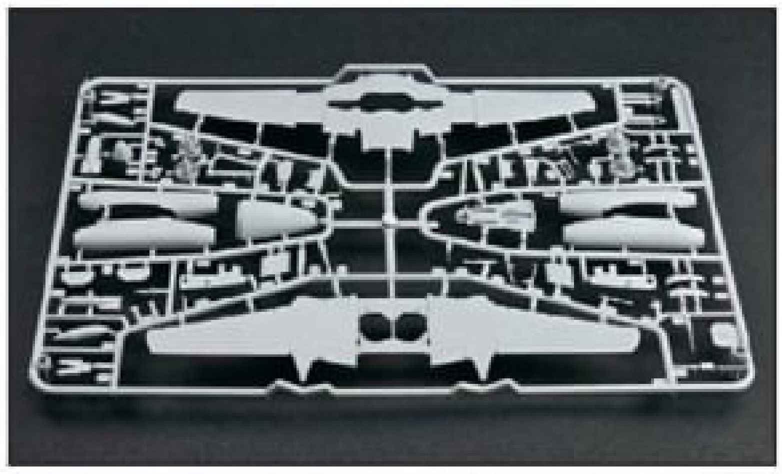
※画像はテストショットです。実際の商品とは異なる場合がございます。

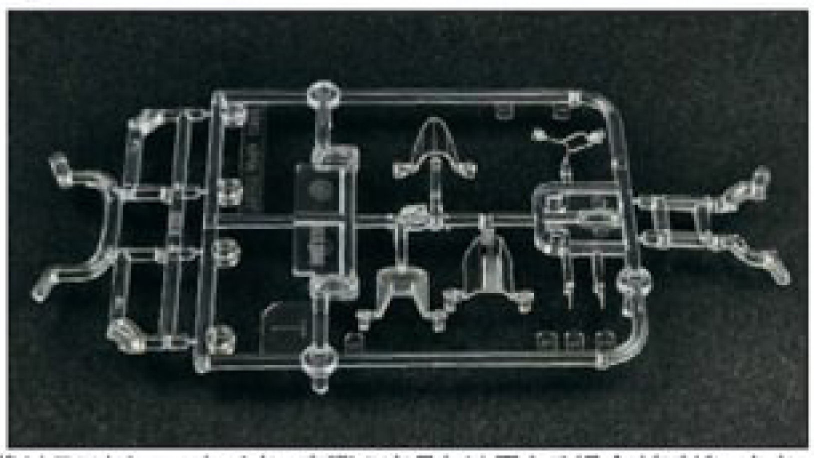
❶フォッケウルフ Fw 190 A-3❷造形村 1/32❸13,200円❹4月18日発売予定❺徹底したリサーチで「真の姿」を再現する造形村SWSのFw190シリーズに、初期シルエット型の礎となったA-3が登場。新規ランナーを含むテストショットが到着したのでご紹介。①垂直尾翼は発売済みのA-4と異なる上部のアンテナ形状を的確に再現。その間には大型化される前のヘッドアーマーが見える。キャノピーの開閉に合わせて2種付属。②コクピット内の無線関連パーツも配電盤、隔壁を新規パーツで製作し差異を再現している。③リブの数が少ないエルロンを再現。④戦闘爆撃型再現のために完全新金型の爆弾を追加。フィンなどの精密なディテールが魅力的な250kg爆弾などを搭載可能だ。予約期間は2月27日～4月5日まで❻ボークス

注目のアルマホビー メッサーシュミット Me 262A-1a をチェック！









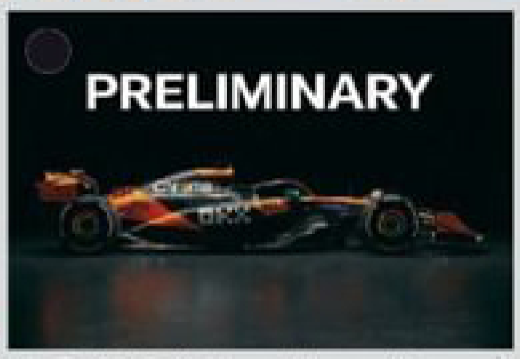
❶メッサーシュミット Me262A-1a❷アルマホビー 1/72❸6,160円❹2月発売予定❺1/72スケールで高品質な大戦機キットを続々リリースしているアルマホビーから、完全新金型のMe 262A-1aが登場。MK 108 機関砲を4門装備する単座の戦闘機／戦闘爆撃機型A-1aをモデル化。テストショットをチェックしてみよう。1/72最高クラスのディテールを再現する同社のスタンダードな構成を踏襲。奥行きがあり、複雑なフレーム構造の脚収納庫も精密な印象。脚の角度を決めるための治具、尻餅防止用の錘も付属する。機関砲の薬莢排出口スリットは開孔されておりシャープに仕上がりそうだ。250kg爆弾とR4M対空ロケット弾も付属している。説明書に印刷されたQRコードを読み込むことで、コクピットの3Dディテールアップパーツのデータを無料でダウンロードでき、自宅で3Dプリンターを使用しているユーザーは自分で出力して使用することが出来る。マーキングは3種セットされ、9./JG の「白の3」とアドルフ・ガーランド乗機の独空軍2種に加え、戦後のチェコスロバキアで生産されたアヴィア S-92も再現できる❻ビーバーコーポレーション

※画像はテストショットです。実際の商品とは異なる場合がございます。

シュピールヴァーレンメッセ注目の海外メーカーニューキット情報







出典：ドイツレベル公式HP（https://revell.com）







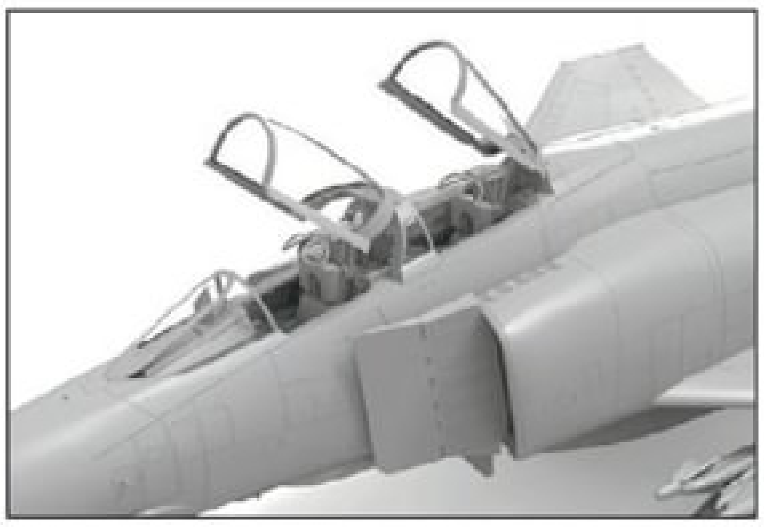
出典：イタレリ公式HP（https://www.italeri.com）

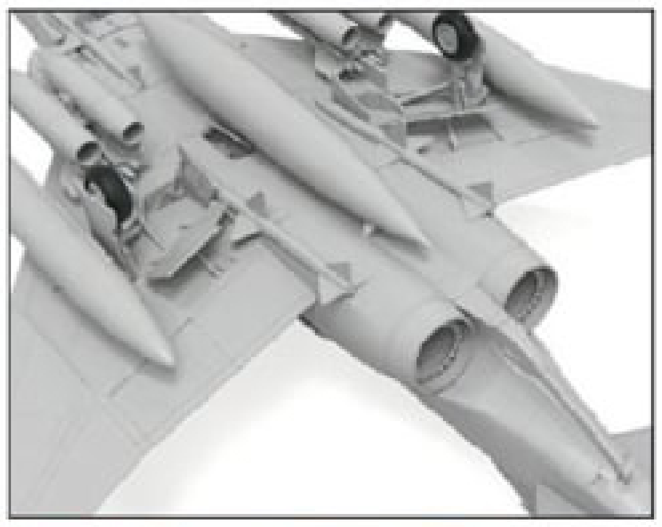
シュピールヴァーレンメッセ2026の新製品からピックアップ。**ドイツレベル**はⒶ 1/72の「**メッサーシュミット Bf109E-3（仮）**」や、Ⓑ「**1/32 メッサーシュミット Me262A-1a/U4（仮）**」Ⓒ接着剤不要のクリックシステムシリーズで「**1/20マクラーレン MCL39（仮）**」と「**レッドブル・レーシング RB21（仮）**」を発表。**イタレリ**は完全新金型でⒶ「**1/9 ベスパPX125/150 1978（仮）**」Ⓑフレッチェトリコローリの次世代機としても注目の「**1/72 M-246 マスター（仮）**」Ⓒ「**1/48 MC.202 フォルゴーレ（仮）**」などを発表。他にも「**1/12メルセデスベンツSSK（仮）**」、「**1/72 S.79 スパルヴィエーロ（仮）**」など新金型キットが目白押し。いずれも詳細は追って紹介したい。

世界82億人のFAAファンが歓喜！エアフィックスが 1/48 FG.1 発表！



❶マクドネルダグラス ファントム FG.1❷エアフィックス1/48❸各18,700円❹10月以降発売予定❺ついに来た！1/72に続き1/48でスペイエンジン搭載ブリティッシュファントムが完全新金型で登場！発艦の距離に制約があった英空母での運用のため通常のF-4より長く伸びる前脚など、ブリティッシュファントムの魅力を余すところなく再現。大型化したインテークもスライド金型によりディテールフルなパーツとなるようだ。スカイフラッシュ、サイドワインダー、ロケット弾ポッド、1,000ポンド爆弾と豊富な兵装類も付属。英海軍の3種のマーキングをセット。「威風堂々」とした姿を楽しめる❻GSIクレオス



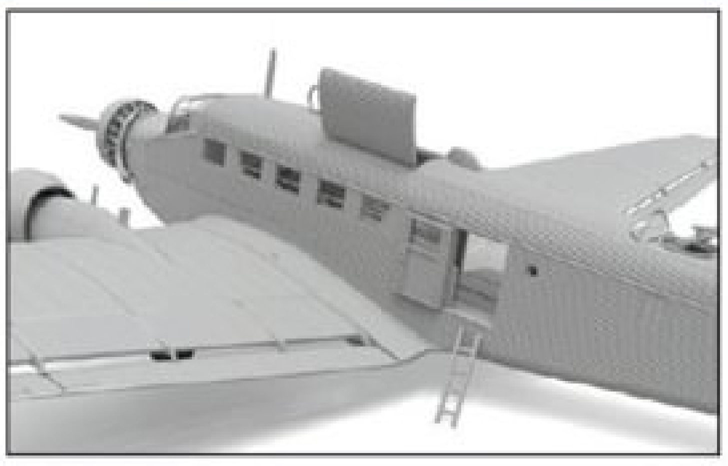




※画像は3Dです。実際の商品とは異なる場合がございます。



まだまだあるぞ！英国からの新製品攻勢に刮目せよ！



※画像は3Dです。実際の商品とは異なる場合がございます。

❶Ⓐユンカース Ju52/3mg4eⒷエレクトリック キャンベラ B.2❷エアフィックス1/72❸Ⓐ10,450円Ⓑ7,700円❹9月以降発売予定❺いずれも完全新金型。Ⓐはユンカース社の名旅客/輸送機をキット化。特徴的な3発機のプロポーションを再現。外板コルゲートの表現など必見だ。インテリアも詳細に再現されている。Ⓑ初飛行が1949年とオールドタイマーながら、その基本設計の良さから今なお派生型が運用されているE.E.キャンベラの爆撃機型をキット化。3Dスキャンを用いたプロポーション再現、爆弾倉など細部の再現が楽しめる❻GSIクレオス

1/35で初インジェクションキット化

❶アルヴィス サラセン Mk.5❷エアフィックス1/35❸8,800円❹9月以降発売予定❺FV601サラディン装甲車などと共通のシャシーを使用しており、北アイルランド紛争での使用などで知られる6輪式装甲兵員輸送車を1/35スケールで初キット化。ベース車両はオーストラリア、インドネシア、タイ、レバノン、リビア、南アフリカなどをはじめ非常に多くの国で運用されておりバリエーションが豊富。今回リリースとなるMk.5は、北アイルランドでの使用を重視してMk.1/2をベースに追加装甲などを装着した仕様となる。細部までこだわったインテリアなども注目ポイントだ❻GSIクレオス





※画像は3Dです。実際の商品とは異なる場合がございます。

インパクト大！鮮烈デビューの“色付き”航空自衛隊 F-35B ほか限定品ラインナップ





※実際の製品パッケージとは一部異なる場合がございます。





Ⓐ❶F-35 ライトニングⅡ（B型）“航空自衛隊 新田原スペシャル 2025”❷1/72❸4,840円
Ⓑ❶MV-22B オスプレイ “VMM-362 アグリーエンジェルス 2025”❷1/72❸4,620円
Ⓒ❶三菱 キ67 四式重爆撃機 飛龍 “飛行第7戦隊”❷1/72❸3,960円
Ⓓ❶メッサーシュミット Me262A-1a “第7戦闘航空団”❷1/72❸2,640円
❹ⒶⒷ4月22日頃発売予定Ⓒ4月29日頃発売予定Ⓓ5月2日頃発売予定
❺Ⓐは新田原基地エアフェスタ2025にてスペシャルマーキングを纏い初公開となった空自のF-35Bをキット化。Ⓑは米海兵隊にてオスプレイ運用のため2018年に再編成された歴戦の部隊VMM-362のマーキングを再現。Ⓒ旧日本陸軍で雷撃部隊として運用された飛行第7戦隊の飛龍を再現。武装は魚雷と夕弾の選択式Ⓓ1/72 Me 262は久しぶりのリリースとなる❻ハセガワ



❶MH-6J リトルバード アメリカ特殊部隊ヘリコプター❷ICM 1/48❸9,790円❹4月以降発売予定❺名機OH-6を源流とし、様々な発展・改良などを経て新造された小型の特殊任務用ヘリコプターが完全新金型で登場。ローター後部の特徴的なアンテナの有無なども選択可能。第160特殊作戦航空連隊「ナイトストーカーズ」の2種のマーキングをセット❻ハセガワ



❶B-26 マローダー アメリカ軍搭乗員4体セット❷ICM 1/48❸3,190円❹4月以降発売予定❺完全新金型。米爆撃機の搭乗員の装備などを精密に再現したフィギュアセット。パイロット2体、爆撃手兼航法士1体、機銃手1体の計4体セット❻ハセガワ

初期スピットファイアの到達点 Mk.V



❶スピットファイア Mk.Vb 初期型 プロフィパック❷エデュアルド 1/72❸4,950円❹発売中❺完全新金型。吸排気が改良され、出力が格段にアップしたマーリン45型搭載のMk.Vが1/72で登場。計器盤が塗装済みのカラーエッチングパーツと、多数のマーキングが再現できるデカールが付属するプロフィパック仕様。既に1/48のラインナップでも実績がある同社ならではの高い再現性、繊細なモールドやリベットなど、手の平に収まるサイズながら見どころは尽きない。英空軍の6種のマーキングをセット。キャノピーなどのマスクシールが付属する❻ウィリング/GSIクレオス／ビーバーコーポレーション



❶ハイブリッドエディション エンストロム480❷エデュアルド 1/72❸5,720円/6,050円❹4月発売予定❺練習機として陸自も採用しているヘリコプターが登場。3Dプリントパーツと新金型のインジェクションパーツを組み合わせたキット。チェコ、メキシコ、タイ、ベネズエラそして陸自のマーキングをセット❻GSIクレオス／ビーバーコーポレーション



❶中国空軍 J-20S 戦闘機 マイティ・ドラゴン❷トランペッター 1/48❸10,780円❹発売中❺初のアジア製第5世代ジェット戦闘機とされており、現在300機超が配備されているJ-20の複座タイプをキット化。ウェポンベイも再現されており、ミサイルを搭載し開状態に仕上げることも出来る。エンジンノズルは3Dプリントパーツ。エッチングパーツとキャノピーのマスクシールが付属する❻インターアライド

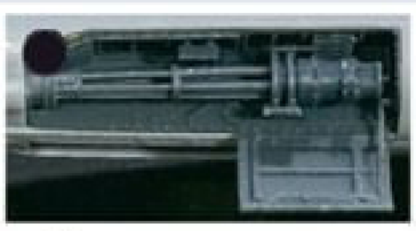




❶バッカニア S.2D❷トランペッター 1/48❸13,200円❹3月発売予定❺トランペッターから遂にバッカニアが完全新金型で登場。海軍のS.2をマーテル対艦ミサイルを運用可能な空軍向けのS.2B相当に改修したS.2Dが先陣を切る。トランペッターらしいリベット表現や細部再現が施されている。また、対レーダー型のマーテルも再現。エッチングパーツとキャノピーなどのマスクシールが付属。801NASと809NASのマーキングをセット❻インターアライド









Ⓔ



Ⓐ❶MXU-648トラベルポッド Ⓑ❶A-1Hスカイレイダーコクピット
Ⓒ❶F-104 バルカン砲 Ⓓ❶F-104 エアブレーキ＆ドラッグシュートドア
Ⓔ❶F-14D パイロット＆デッキクルーフィギュア❷モデリンクⒶ 1/48ⒷⒸⒹⒺ 1/72❸ⒶⒷ2,750円Ⓒ2,200円Ⓓ3,025円Ⓔ3,850円❹3月発売予定❺いずれも飛行機用の3Dプリント製パーツセット。データ設計はⒶⒷV1models、ⒸSPModels、ⒹⒺMach3 Models。Ⓐは航空祭などで目にするポッドを2本製作可能。Ⓑはハセガワ用。ⒸⒹはファインモールドのキットをさらにディテールアップ可能。Ⓔはパイロット×2、デッキクルー×2の計4体セット❻モデリンク



❶P-26 ピーシューター 米陸軍空軍❷KPモデル 1/72❸5,830 ~ 5,940円❹発売中❺完全新金型。ボーイングが開発し、米陸軍航空隊が運用した米国初の全金属単葉戦闘機をキット化。特徴的な翼上面形状、胴体のシェイプをKPモデルらしい造形で再現している。米陸軍航空隊の3種のマーキングが付属。風防はフレーム印刷済みの透明フィルムでの再現となる。派手な塗装が目を引くイエローウィング仕様、中華民国軍などのマーキングをセットした外国仕様などバリエーションキットもリリースされている❻ウィリング、ビーバーコーポレーション



❶P-47C-2/5 w/フェリータンク❷KPモデル1/72❸6,490~6,820円❹発売中❺完全新金型。最初の量産型P-47Bの改良型であるC型の中でも、胴体下のハードポイントが追加されたC-2、水メタノール噴射装置を装備したエンジンを搭載したC-5を再現。こぶのようなフェリータンクは3Dプリントパーツとなっている❻ウィリング、ビーバーコーポレーション



❶デフォルメ飛行機 F-15C イーグル❷AFVクラブ❸3月発売予定❹5,720円❺完全新金型。同社のデフォルメシリーズに可愛いイーグルが仲間入り。デフォルメキットとは言え、ヘルメットがJHMCSとHGU-55Pの選択式となっていたりと凝った構成となっている。付属のマーキングは米空軍1種、イスラエル空軍1種の計2種❻GSIクレオス

新時代の幕開け！フル3DプリントのA-7

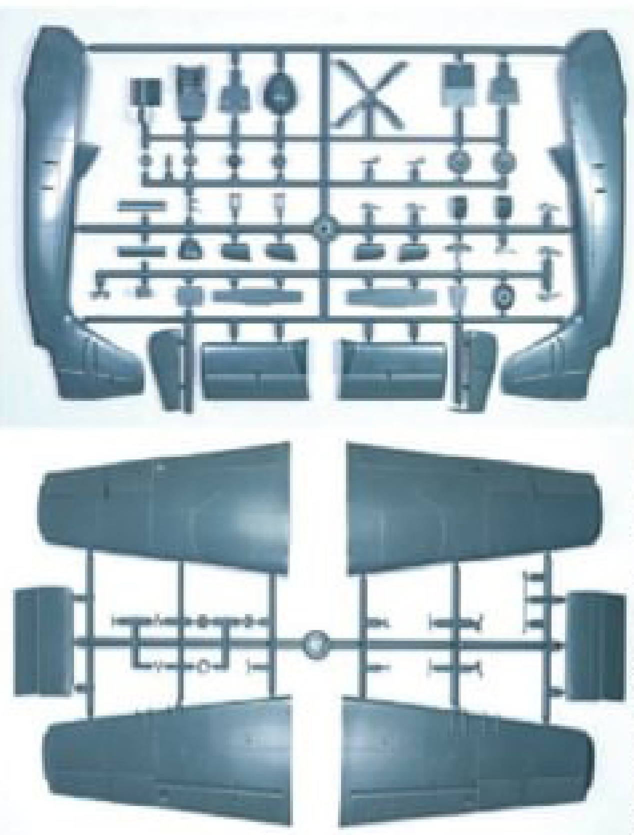


❶ A-7D/E コルセア II（仮）❷レスキット1/48❸未定❹未定❺エアモデル用の超精密なアフターパーツ、3Dデカールなどを多数リリースしているレスキットが何とA-7コルセアIIのフル3Dプリントキットを発表。高解像度3Dプリンターによるコクピット、脚収納庫など、同社ならではの内部ディテールの精密再現はもちろん外板の形状にもこだわったキットになるようだ❻ビーバーコーポレーション



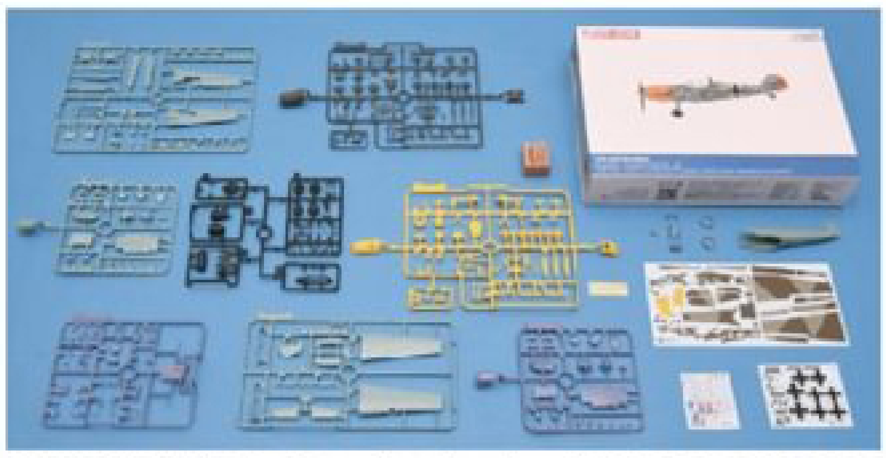
❶ブルーエンジェルス 2機セット 80周年記念（ギフトセット）❷ドイツレベル1/72❸5月発売予定❹12,430円❺米海軍のアクロバットチーム、ブルーエンジェルス80周年を記念したスペシャルアイテムが登場。初代のF6Fヘルキャットと最新のF/A-18Eの2機セット。筆、塗料セット、接着剤なども付属するオールインワンのパッケージとなっており、時代を超えた共演をすぐに楽しめる❻ハセガワ

1度見たら忘れられない!?異形の迷機を堪能せよ



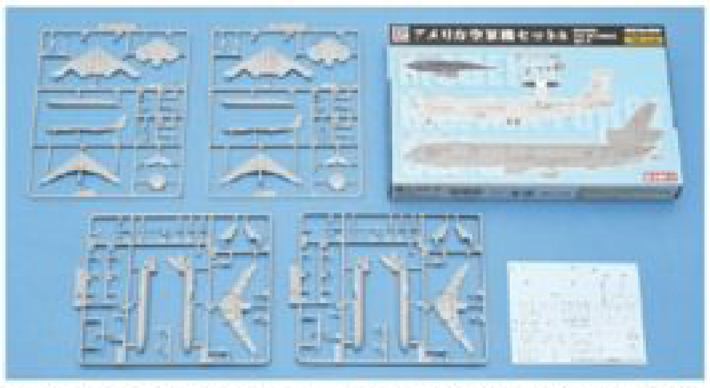


❶ショートSB.6シーミュー❷ソード1/72❸5月発売予定❹6,160円❺英試作対潜哨戒機が待望の初インジェクションキット化。大戦後も英空軍が保有していた小型の護衛空母からの運用を想定した軽量で生産性の高い機体として試作されたが、1957年防衛白書の影響もありわずかな機数が生産されたのみで実戦配備に至っていない。独特な機体形状をがどのように再現されるか注目のキットだ❻ビーバーコーポレーション



❶WW.II ドイツ軍 メッサーシュミットBf109 E-4❷ドラゴン1/48❸未定❹10,780円❺WING TECH2と銘打たれた革新的シリーズが遂に本格始動！Bf109E-4を多色成型、スライド金型による一体パーツ、塗装済みキャノピーなど意欲的な要素を盛り込みモデル化。DB601エンジンは精密な3Dプリント製パーツが用意されている。カラー成型パーツの表面はしっとりとしたツヤ消しになっており、透け感がないため、そのまま成型色で仕上げても様になりそうだ。迷彩はデカールでの再現も可能となっている❻ブラッツ





❶Ⓐアメリカ空軍機セット7 Ⓑアメリカ空軍機セット8❷ピットロード1/700❸発売中❹各2,750円❺かつて同社が発売していたホワイトメタル製の1/700航空機シリーズを彷彿とさせる大型機ラインナップが完全新金型で登場！ⒶはXB-70、B-58、KC-135Rを2機ずつ、ⒷはB-2A、KC-10、E-3G、MQ-9Aを2機ずつセット。1/700ながら繊細なモールドで精密かつ忠実に実機のイメージを再現している❻ピットロード

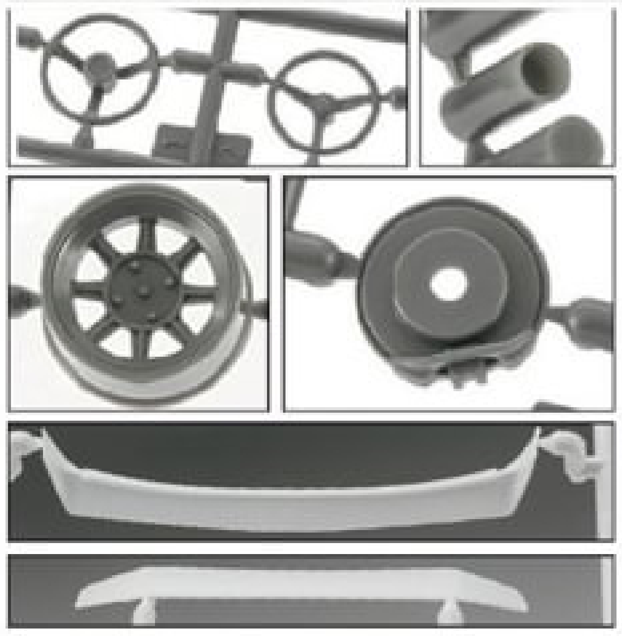


❶三菱零戦 パート6❷ライフライク・デカール1/48❸発売中❹2,640円❺マイクロスケール製の高品質なデカール。第381海軍航空隊 神崎國雄大尉機や青い零戦など特徴的なマーキングを含む15種入り。零式練戦や二式水戦も収録している。零戦の塗装についてや各機の考証など詳細な解説と塗装図が掲載されている大ボリュームの説明書が付属❻ライフライク・デカール

「走り」の新規パーツ多数追加！







❶ニッサン ローレル HT 2000SGX（KHC130）後期型（1973）"カスタムバージョン" ❷ハセガワ1/24 ❸3,960円❹4月18日頃発売予定❺前号ニューキットレビューにて紹介した話題の2代目ローレルに早くもカスタムバージョンのキットが登場する。シート、ホイール、ブレーキキャリパー、ステアリング、スポイラー、大径マフラーエンドといった「走り」重視仕様に仕上がる新規パーツを多数追加。やんちゃさもありながら上品な雰囲気漂うローレルを組み上げよう❻ハセガワ

レースクイーンが華を添える！たまごガールズ×F1マシン





❶ザクスピード ZK891 "エイミー マクドネル" w/フィギュア❷ハセガワ1/24❸6,050円❹5月2日頃発売予定❺人気のフィギュア×カーモデル キットシリーズに新展開!?ついにF1マシンが登場する。オリジナルラッピングのZK891につるぎ だん氏原型の同スケールフィギュアをセット。フィギュアは3Dプリント製で、瞳デカールが付属する❻ハセガワ



❶アストンマーティン ウルスター❷ドイツレベル1/32❸3,630円❹5月発売予定❺戦前のアストンマーティンの名車をモデル化。エンジンなども再現されている。同スケールの飛行機と並べるのもオツなアイテムだ❻ハセガワ

走らせて遊べる初代セリカ！



❶トヨタ・セリカ1600 GT ❷童友社❸4,048円❹発売中❺旧山田模型のキットを復刻する「昭和の名車シリーズ」にセリカのフラッグシップモデルが登場。当時と変わらないモーターライズ仕様が楽しめる。ボディはパッケージと異なるオーバーフェンダー付きとなる❻童友社

❶1964 マーキュリー コメット Kコード❷メビウスモデル1/25 ❸8,580円❹発売中❺フォードの1ブランド、マーキュリーの「コメット」1964年式をモデル化。ハイパフォーマンスモデル「Kコード」のV8エンジンも再現したフルディテールキット❻プラッツ



2種のチューンド仕様でキメよう！ 180SXと86&BRZ 注目のバリエーション！





※画像は試作品です。実際の商品とは異なる場合がございます。

Ⓐ❶B-WAVE RPS13 180SX '91 Ver.A（ニッサン）
Ⓑ❶B-WAVE RPS13 180SX '91 Ver.B（ニッサン）
❷アオシマ1/24❸各4,840円❹5月発売予定❺ザ・チューンドカーシリーズにB-WAVE仕様の180SXが登場！ⒶⒷ共に金型追加でエアロパーツと引っ張りタイヤをセット。Ⓐはエアロミラー、15inプレセディオ CSTデーモンキャンバーホイールが付属、Ⓑはエアロライトキット、15inパナスポーツG7 C8Rホイールが付属しており、それぞれ異なる仕様となっている❻青島文化教材社

Ⓐ❶1/24 HKS ZN8 GR86 '21 TYPE-S（トヨタ）Ⓑ❶1/24 HKS ZD8 SUBARU BRZ '21 TYPE-S（スバル）❷アオシマ1/24❸各4,840円❹5月発売予定❺スタイリッシュなHKSボディキットTYPE-Sを装備した86とBRZを再現。各部スポイラーやカナード、フェンダー、ホイール、マフラーなどを新たに追加。ワイドで迫力ある姿を楽しめる❻青島文化教材社





※画像は試作品です。実際の商品とは異なる場合がございます。デカールのデザインは変更になる可能性があります。

「楽プラ」ラインナップ充実！



432 オレンジ



ミッドナイトブラック

※画像は3Dです。実際の商品とは異なる場合がございます。



メタリックパープル



ストラトシルバー



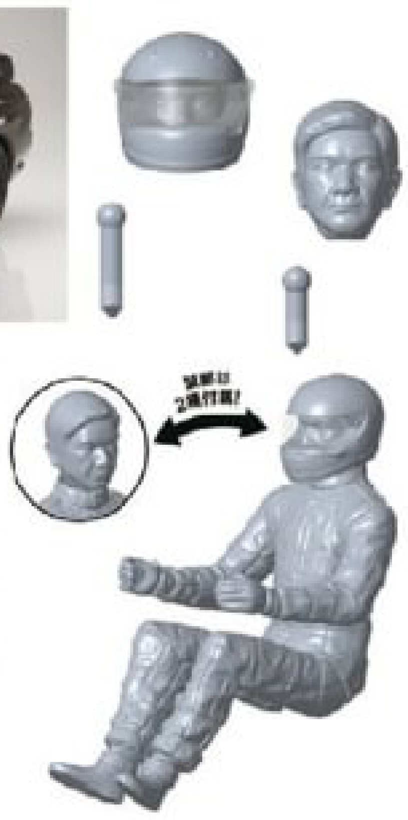
メタリックパープル

ⒶⒷ❶RZ34 フェアレディZ Customized Edition 2024 432オレンジ／ミッドナイトブラック
ⒸⒹ❶フォルクスワーゲン ビートル カスタム ストラトシルバー／コーラルピンク／メタリックパープル／メタリックオレンジ
Ⓔ❶ニッサン C110 スカイライン GT-R カスタム メタリックパープル／メタリックブルー
❷アオシマ1/32❸ⒶⒷ3,960円ⒸⒹⒺ2,640円❹5月発売予定❺いずれもバリエーションキット。ⒶⒷは金型を大幅に追加し純正オプション仕様を再現する。ⒸⒹは4色展開でカスタムホイールとタイヤ、バンパーを追加。ストラトシルバーとコーラルピンクはWバンパー、メタリックパープルとメタリックオレンジはTバーが付属。カラーごとに異なる仕様で楽しめる。Ⓔケンメリのカスタム仕様がリニューアル。メタリックパープルがメッキ、メタリックブルーがゴールドとホイールカラーが異なる組み合わせとなっている❻青島文化教材社

AUTO MODEL

ビッグなGT-Rに新金型フィギュア！アウトドアパーツ付きのFJクルーザーも！





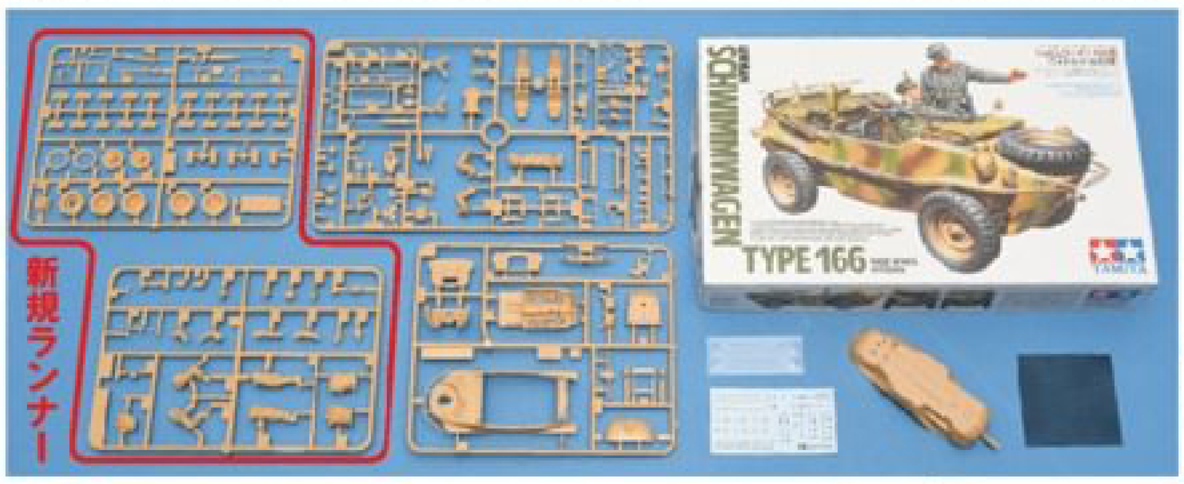
❶ニッサン スカイラインGT-R（BNR32）特別仕様（ドライバーパーツ付き）❷フジミ1/12❸17,600円❹4月30日以降発売予定❺1/12 AXESシリーズに特別仕様キットが登場。GT-Rにレーシングスーツを纏った新金型のドライバーフィギュアをセット。頭部はヘルメットの有無で2種付属。直径3㎜のジョイントを採用し、着脱・交換が可能。市販の1/12フィギュアの頭部を取り付けて遊ぶことも出来る❻フジミ模型

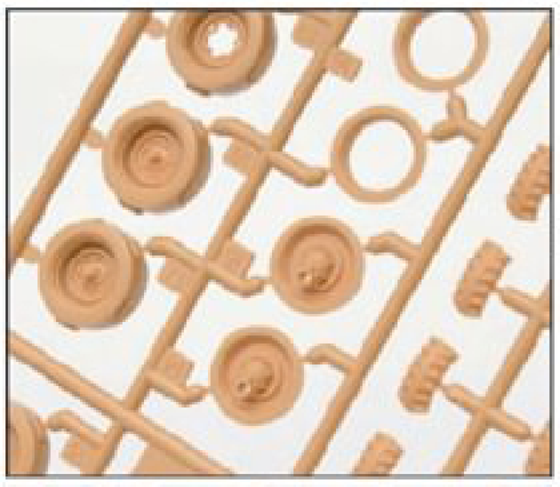


❶トヨタFJクルーザー（ホワイト/2011）（特別仕様/アウトドアパーツ付き）❷フジミ1/24❸5,060円❹発売中❺バリエーションキット。日本仕様の初期タイプをフォグランプのないフロントサイドバンパー、ベースグレード用のスチールホイールを追加して再現。接着剤不要で未塗装でも実車に近いカラーリングとなる。特別仕様としてラダー、キャリアボックス、シャベルが新規パーツで付属。成型色が異なる**ツートーンオレンジ/2012、ツートーンブルー/2011**もラインナップ。**ホワイト/2011**のみ塗装派向けのデカールとシール両方が付属する❻フジミ模型

AFV MODEL

傑作キットに新規設計パーツを追加した注目のバリエーションアイテム

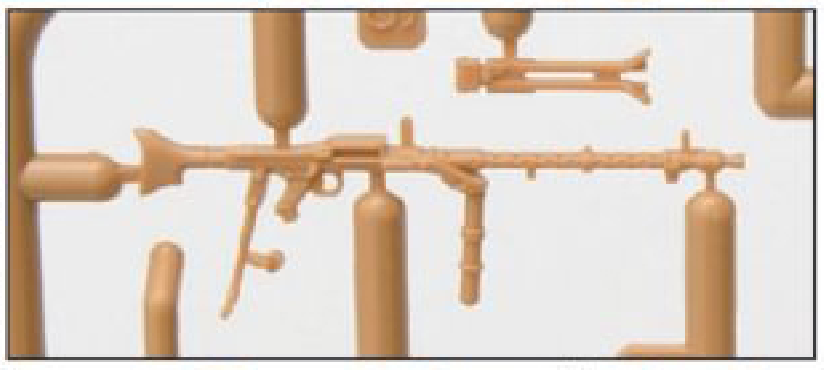








❶シュビムワーゲン166型（ワイドホイール仕様）❷タミヤ1/35❸2,640円❹3月14日頃発売予定❺同社の傑作水陸両用車キットに新規パーツを大幅に追加。200㎜のワイドホイール、タイヤをセット。タイヤはホイールと一体成型のサイドウォールを囲むように5パーツからなる踏面を取り付ける構成で、トレッドパターンを実感的に再現。合わせ目やパーティングラインの処理などで豊かなモールドが削がれることがない。ドライバーと戦車部隊士官のフィギュアも実感的なシワや表情が見どころ。その他にも精密なMG34機関銃やOVM類、カバー付きのウインドシールドなども追加して、ますます充実のキット内容となっている❻タミヤ









「砂漠の狐」の指揮車「グライフ」





❶Sd.Kfz.250/3 A型❷ダス・ヴェルク1/16❸20,350円❹3月発売予定❺完全新金型。独軍の軽装甲兵員輸送車を1/16のビッグスケールで再現。多数のサブタイプが存在する同車だが、今回モデル化されるのは北アフリカ戦線でロンメルが使用した、車体に「グライフ」「アドラー」と大きく描かれた車両が有名な無線指揮車タイプ、Ausführung Aベースのバリエーションである Sd.Kfz.250/3 となっている。エンジン、インテリアなどの作り込みはもちろん、可動式の組み立て履帯と実車同様の構造を有したトーションバーなど、足周りにもこだわった製品となるようだ。ドライバーとロンメルのフィギュア付き❻ビーバーコーポレーション



Ⓐ❶ドイツ陸軍 ティーガーII（H）戦車 Ⓑ❶ドイツ陸軍ティーガーI戦車後期生産型 Ⓒ❶ドイツ陸軍 ティーガーII（P）戦車 ❷ピットロード1/144❸各3,080円❹発売中❺完全新金型。各3両入り。Ⓐはヘンシェル砲塔を再現。付属マーキングは第501、503、505、506重戦車大隊の4種。Ⓑは初期型と異なるキューポラ形状や鋼製転輪など後期生産型を忠実に再現。付属マーキングは第505、509、510重戦車大隊、SS第101重戦車大隊の4種。ⒸはティーガーIIのポルシェ砲塔を再現。車体パーツはⒶと共通。マーキングは第503重戦車大隊2種、戦車教導師団 第316戦車中隊の計3種が付属❻ピットロード

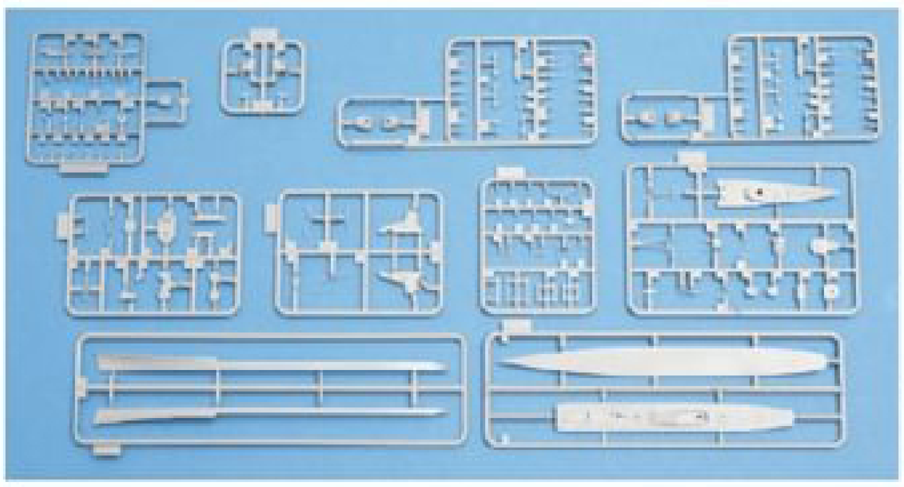
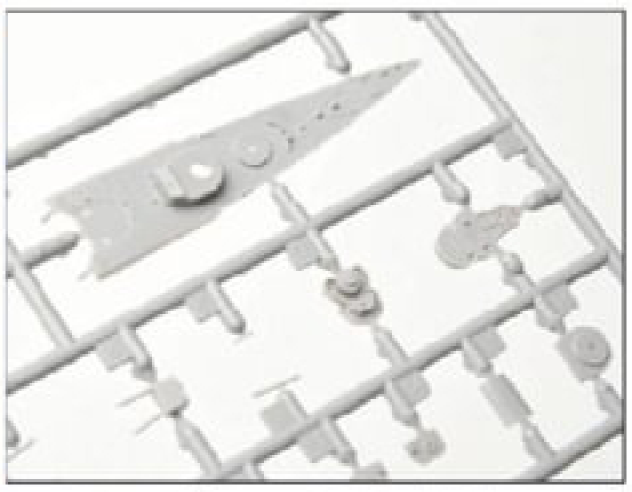
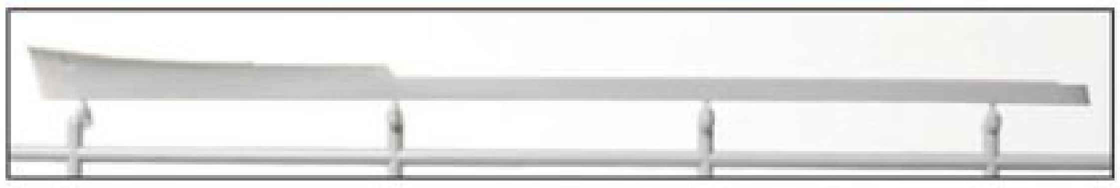
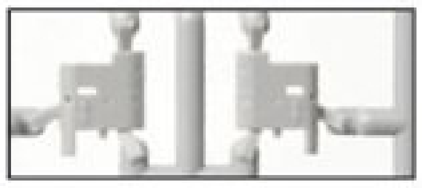
ライフィールドモデル新作！



❶JS-2 1944年型（仮）❷ライフィールドモデル1/35❸未定❹未定❺ライフィールドモデルがJS-2重戦車を新金型でリリースするとの情報をキャッチ。競合が多いモチーフなだけにどのようにモデル化されるか期待が膨らむ❻ビーバーコーポレーション

SHIP MODEL

速報！ヤマシタホビーから待望の「1/700 冬月 1945」テストショットが到着！

❶防空駆逐艦 冬月1945❷ヤマシタホビー 1/700❸未定❹4月発売予定❺今後の展開から目が離せないヤマシタホビーから最新キットのテストショットが到着したのでご紹介。完全新金型で最終時の冬月を再現。艦首・艦橋の形状や簡略化された煙突周辺の蒸気パイプなど秋月型の後期建造型としての特徴を余すところなく再現。天一号作戦で奮闘した姿を楽しめる。同社らしい高精細な造形となっており、マストなどは目を見張るほどの細さ、シャープさで精密な仕上がりが期待できそうだ。今回の「冬月 1945」に続き、「春月」「夏月」「涼月1945」「秋月1944」「照月」「初月」と秋月型防空駆逐艦の製品化を続々発表しており、いずれも期待大のラインナップとなっている❻ヤマシタホビー



❶イギリス海軍 航空母艦 HMS クイーン・エリザベス❷トランペッター 1/700❸16,280円❹発売中❺完全新金型。女王陛下のF-35キャリアが初のインジェクションキット化！ 2017年に就役したクイーン・エリザベス級の1番艦「クイーン・エリザベス」を洋上モデルでキット化。航海・作戦指揮用と航空管制用で2箇所に分割された艦橋やスキージャンプ甲板を再現。複雑な塗り分けと標識類の再現が必要な飛行甲板はエレベーター、スキージャンプ部も含め塗装済みとなっているため、艦船模型初心者でも取り組みやすい内容となっている。艦載機もF-35が6機、EH-101が6機と充実。エッチングパーツ、デカール、ネームプレートが付属する❻インターアライド




❶アーレイ・バーク級フライトⅢ ミサイル駆逐艦 ジャック・H・ルーカス DDG-125❷ビーコンホビー 1/350❸21,890円❹3月発売予定❺2024年の全日本模型ホビーショーで展示され話題となったアーレイ・バーク級最新バージョンの「フライトⅢ」を再現したインジェクションキットが遂に登場。台座付きのフルハルモデルで、エッチングパーツ、金属チェーンが付属。搭載用にMH-60Rもセット。さらなるディテールアップが可能なエッチングパーツ、レドームの削り出しパーツや真鍮挽物砲身、多数の3Dプリントパーツなどをセットした純正のアップグレードセットも同時発売予定❻ビーバーコーポレーション



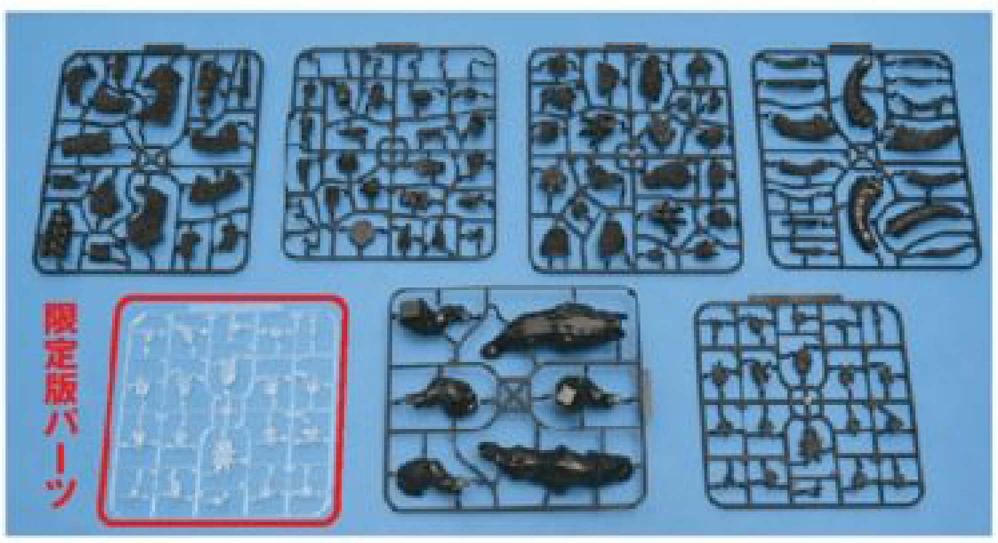
Ⓐ❶1/500駆逐艦 白雲 Ⓑ❶1/700第4駆逐隊 1905 セット❷シールズモデル❸Ⓐ13,200円Ⓑ8,800円❹発売中❺Ⓐは1/500フルハルモデル。船体など大きなパーツはレジン、細部パーツがメタル製。旅順口攻撃、黄海開戦、日本海海戦などに参加した3等駆逐艦を再現している。横須賀記念艦三笠展示模型を限定でキット化。Ⓑは1/700洋上モデルで船体などはレジン製。細部パーツはプラ製と真鍮線という構成だ。日本海海戦における隊司令鈴木貫太郎の第4 駆逐隊所属の2隻をセット❻フォーサイト

CHARACTER・TOOL




Ⓐ❶壺中美人
Ⓑ❶バーミアンの摩崖仏
❷福田工芸Ⓐ1/6 Ⓑ高さ18.3㎝、幅15.2㎝、厚さ6.5㎝❸Ⓐ精霊7,000円/壺4,000円Ⓑ3,000円❹Ⓐ未定Ⓑ発売中❺Ⓐレジンキット。ナイフを持ったアラブの精霊のお姉さま。壺から出てきたそのポージングが魅力的だ。精霊と壺はそれぞれ単体で販売される。Ⓑ石膏製キット。アフガニスタンのバーミアン渓谷に彫られた巨大な仏像を再現。アフガン紛争において、ターリバーン政権の手によりその遺跡群の多くが破壊された。キットは破壊される前の摩崖仏を再現。ボリューム感のある造形を楽しめる❻福田工芸





❶ゴジラ（2001）❷アオシマ❸7,700円❹6月発売予定❺完全新金型。圧倒的な造形プラモデルを目指すPLAfig.（プラフィギュア）シリーズから、『ゴジラ モスラ キングギドラ 大怪獣総攻撃』に登場したゴジラ（2001）が登場！原型はゴジラ（1999）に続きRYO ねんど星人氏が担当。シリーズ屈指の凶悪さを誇るゴジラ（2001）をプラモデル化。有機的な形状の内部骨格パーツにディテールフルな体表パーツと取り付けていくことで、全高13㎝に凝縮された迫力ある姿を再現できる。おまけ特典としてゴジラの心臓が付属する。同時発売の**アオシマオンラインショップ限定版**（7,920円）には熱線再現用クリア成型背びれパーツが付属する❻青島文化教材社

ソフビの歩みを刺激するソフビレガシーは「ゴジラ1954」「仮面ライダー1号」「仮面ライダーV3」




TM & © TOHO CO., LTD. ㈲酒井ゆうじ造型工房




©石森プロ・東映

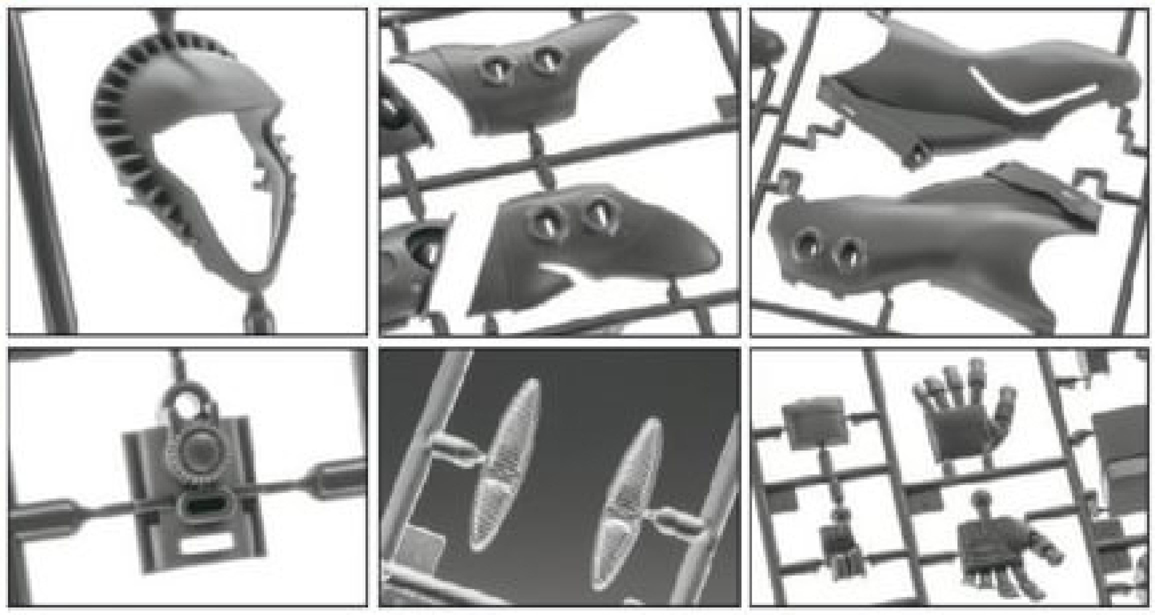



©石森プロ・東映

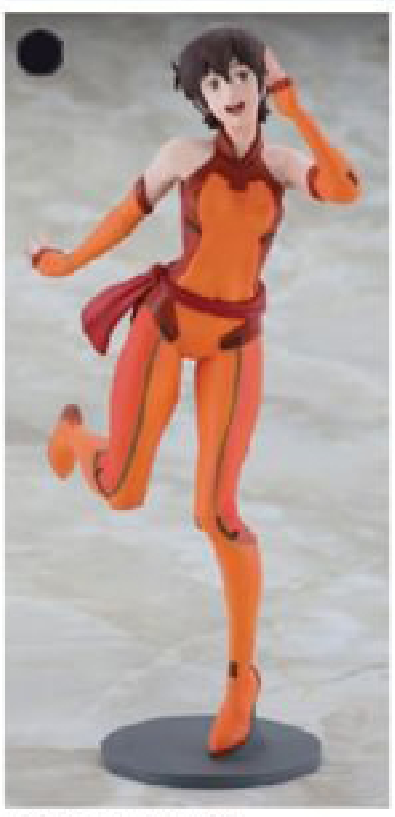
❶Ⓐゴジラ1954Ⓑ仮面ライダー1号Ⓒ仮面ライダーV3❷ソフビレガシー/南国堂❸Ⓐ9,680円ⒷⒸ6,380円❹3月1日発売予定❺いずれも組み立てと塗装が必要なソフビキット。Ⓐゴジラ映画の原点である第1作目『ゴジラ』より、酒井ゆうじ氏の造形による初代ゴジラの傑作キットを復刻。今なお色褪せない迫力ある姿を楽しめる。全高約205㎜。Ⓑ高いデッサン力を持つ造形作家、田熊勝夫氏による仮面ライダー1号。1/8サイズに凝縮されたディテールと高い再現性、どっしりと安定感のある田熊氏ならではの「初代仮面ライダー」を是非手に取ってほしい。アンテナはレジン製。全高約210㎜。Ⓒ『仮面ライダー』の続編である『仮面ライダーV3』より仮面ライダーV3が登場。こちらは「決めポーズ」に定評がある佐藤 拓氏による造形で、躍動感溢れるポーズとなっている。全高約190㎜。アンテナはレジン製。原型製作を行なう作家ごとの作風の違いも楽しめるラインナップだ❻海洋堂高知/南国堂

※ソフビレガシーは過去に発売された海洋堂製ソフビキットの復刻版を展開する南国堂の製品です。



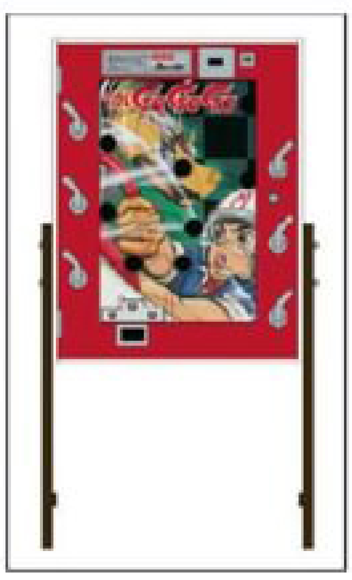


❶ヌージャデル・ガー（劇場版）❷ハセガワ1/72❸6,380円❹Ⓐ3月28日頃発売予定❺劇場版『超時空要塞マクロス 愛・おぼえていますか』に登場するゼントラーディ軍の「ヌージャデル・ガー」をキット化。接着剤不要で、グリーン、コールドグレー、グレー、サンドイエロー、クリアーレッド、クリアーイエローの成型色で構成され、未塗装でも劇中に近い雰囲気で組み上がる。宮武一貴氏全面監修で、一部このキットのために描き起こされたラフ画稿によりディテールを再現している。画稿は説明書に掲載されるとのことで発売が楽しみだ。ゼントラーディ文字などのデカールが付属する❻ハセガワ ©1984 BIGWEST ※画像はテストショットです。実際の商品とは異なります。




Ⓐ❶「キャッツ・アイ」来生 愛Ⓑ❶「キャッツ・アイ」来生 泪❷ハセガワ1/12❸各6,490円❹Ⓐ発売中Ⓑ4月1日頃発売予定❺北条 司氏による伝説的コミックを原作とした2025年配信の完全新作アニメ『キャッツ・アイ』から来生三姉妹の三女、来生 愛と長女、来生 泪のキャッツスーツ姿を、レジンキットで立体化。スーツの再現、しなやかなポージングの表現などに注目したい。いずれも原型製作はあらけん氏で、瞳デカール付き❻ハセガワ

©北条司／コアミックス ※来生 泪のポーズはイラストとは異なります。

Ⓐ❶10円ゲーム"マッハGoGoGo"❷ハセガワ1/12❸2,420円❹2月28日頃発売予定❺駄菓子屋の店頭などに設置されている、10円玉を落とさないように弾いてゴールを目指す懐かしのゲーム筐体キットにバリエーションが登場。タツノコプロの名作アニメ『マッハGoGoGo』の迫力ある盤面イラスト2種から選択して製作できる❻ハセガワ

©Tatsunoko Production

CHARACTER・TOOL





❶2WAY モデリングルーペ（LEDライト付）❷ハセガワ❸3,960円❹7月発売予定❺かゆい所に手が届くハセガワの模型用工具、トライツールにルーペが登場！直径は約85㎜で倍率は2倍。レンズ下部に直径約20㎜の4倍レンズが備わっており、2種の倍率を使ってパーツのサイズ、作業内容などによって使い分けることが出来る。グリップを展開することでスタンドルーペとしても使用可能で、両手を使う精密工作などもバッチリ。グリップ上部に白色LEDライトがあり、単3形乾電池2本（別売り）で点灯する❻ハセガワ



❶凄！ホビー用 セラミックピンセット ⑦ストレート／⑧ツル首型❷童友社❸各3,520円❹3月発売予定❺耐熱性、耐久性に優れたセラミック製の先端部を持つ精密ピンセット。瞬間接着剤が付着しても簡単に剥がすことが出来る。ストレートとツル首の2種をラインナップ❻童友社



❶タミヤセメント 低臭❷タミヤ❸550円❹3月14日頃発売❺発売中のタミヤセメント（流し込みタイプ）低臭に続き、粘度のある通常のものに有機溶剤臭が気になりにくい低臭タイプが登場する。引火性の低い水溶性。ご家庭への配慮もバッチリ❻タミヤ

ソフビカラー新色＆お手頃価格の筆シリーズ



❶ソフビカラー グリーン／ブラウン／グレー／クリアー
❷GSIクレオス❸各605円❹2月発売予定❺PVCなど柔らかい素材に塗ってもしっかり定着し、塗膜が追従する高性能水性ソフビ用塗料に新色が登場。怪獣、クリーチャーなどはもちろんミリタリーモデル、メカモデルなどの軟質素材にもバッチリ（ゴムは不可）。中間色の登場で塗装の幅がより広がるだろう。ソフビキットの悩みどころである塗装後のべたつきも防止できる❻GSIクレオス



❶Mr.BRUSH BSシリーズ
❷GSIクレオス❸各385円❹2月発売予定❺Mr. BRUSHに新シリーズ登場。穂先がまとまりやすく、弾力のある合成繊維製。ラインナップは丸筆、丸筆 細、平筆、平筆細、丸平筆と模型用に最適なものが揃っている❻GSIクレオス




Ⓐ❶匠TOOLS 極薄刃ニッパー
Ⓑ❶HGワンタッチピンバイス専用テーパー面取りビット❷ウェーブ❸Ⓐ4,378円Ⓑ1,408円❹発売中❺Ⓐプラパーツ用の専用薄刃ニッパー。切れ味と耐久性を兼ね備えた片刃タイプ。刃角度7°のフラットタイプでランナーの細い隙間もカバーできる。Ⓑ着脱が簡単なHGワンタッチピンバイス用の面取りビット。穴のフチをすり鉢状に削ることが出来る。先端はタングステン鋼で切削性良好❻ウェーブ

OTHERS



❶タミヤモデルマガジン№362
❷ADH Publication❸1,540円❹発売中❺イギリスの月刊模型誌。オールカラーA4判、68頁。掲載作例は表紙を飾るイラク軍戦車T-55エニグマ（タミヤ1/35）や、注目のグラマンF-14D トムキャット（タミヤ1/72）など。また、ボービントン戦車博物館に所蔵されているT-55の実車資料写真も掲載されている。一部記事は日本語訳付き❻タミヤ



❶ⒶAvro Lancaster Tシャツ ⒷP-40 WarhawkTシャツ ⒸLand Rover フィールドバックパックⒹP-40 Warhawk バックパック❷レッドカヌー❸ⒶⒷ6,160円Ⓒ19,140円Ⓓ16,390円❹発売中❺レッドカヌーは航空・ミリタリー・探検の歴史にインスパイアされたカナダ発のブランド。Ⓐはそれぞれ第二次大戦の名機ランカスターとP-40デザインのTシャツ。Ⓒはランドローバーのロゴなどをあしらったバックパック。ⒹはP-40インスパイア。サイドにシャークティースをデザイン❻レッドカヌー

でものはつもの掲載商品問合せ先一覧

青島文化教材社	〒420-0922 静岡県静岡市葵区流通センター12-3 ☎054-263-2595
インターアライド	〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町543-1 ☎045-549-3031
ウィリング	〒270-1423 千葉県白井市南山3-1-9 ☎047-498-3537
ウェーブ	（Webサイト）https://www.hobby-wave.com
海洋堂高知／南国堂	（Webサイト）https://sofubi.fun
GSIクレオスホビー部	〒105-0014 東京都港区芝3-8-2 ☎0570-041-223
タミヤカスタマーサービス	〒422-8610 静岡県静岡市駿河区恩田原3-7
童友社	☎054-283-0003、☎03-3899-3765 〒116-0002東京都荒川区荒川4-27-21 ☎03-3803-4747
ハセガワ	〒425-8711 静岡県焼津市八楠3-1-2 ☎054-628-8241
ピットロード	（Webサイト）http://pit-road.jp
ビーバーコーポレーション	（Webサイト）https://beavercorp.jp
フォーサイト	（Webサイト）http://www.f-sight.jp
福田工芸	〒333-0868 埼玉県川口市芝高木1-17-39 ☎048-266-6452※
フジミ模型	（Webサイト）https://www.fujimimokei.com
プラッツ	〒424-0886 静岡県静岡市清水区長崎64-1 ☎054-345-2047
ボークス	〒600-8862 京都府京都市下京区七条御所ノ内中町60 ☎075-325-1171
モデリンク	〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-7-8 VORT秋葉原Ⅳ 2F ☎03-4363-2796 （E-mail）info@modelinkjapan.com
レッドカヌー	（Webサイト）https://www.redcanoebrands.jp
ヤマシタホビー	（Webサイト）https://tnby.stores.jp
ライフライク・デカール	（Webサイト）http://www.lifelikedecals.sakura.ne.jp

※封書によるお問い合わせの際はご自身の電話番号とご都合の良い時間帯も明記してください。

BOOK REVIEW

ブックレビュー　ー新刊和書 / 洋書ー

※価格は税込表記です。問合先はアルゴノート社が☎03・5225・6995、海人社が03・3268・6351、機芸出版社が☎03・3482・6016、グランプリ出版が☎03・3295・0005、並木書房が☎03・6903・4366、ボークスが☎075・325・1171、三樹書房が☎03・3295・5398。

メッセーシュミット Bf 109G



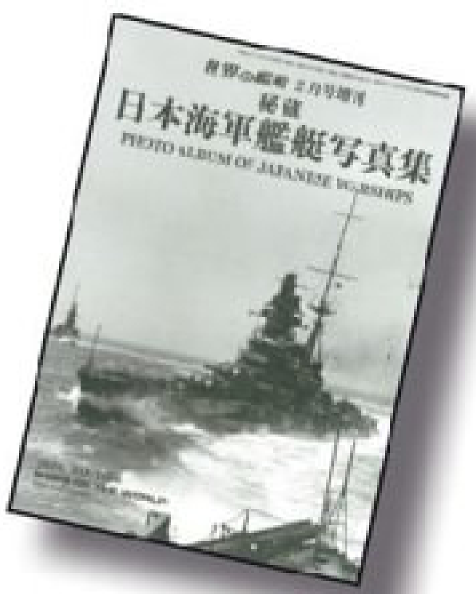
ボークス 刊
1,980円
造形村コンセプトノートの12冊目で、現在1/32でG-4とG-14が発売済みのBf109Gをカバー。始めの20頁は同社が取材した、英コスフォードRAF博物館のG-4/Tropを主体にディテール写真集をたっぷり。カラー二面図6頁を挟んで、後半は5名のベテランモデラーによるモデリングガイド。それぞれが独自の作風を披露しており、その違いを楽しんだり、自らのスキル向上にも大いに役立つだろう。文章は全て英語との併記。96（オールカラー）頁。

海鷲の翼 F-2戦闘機



小峯隆生 著・柿谷哲也 撮影
並木書房 刊
1,980円
三菱F-2について、航空自衛隊の将官や、歴代の飛行隊長を含むパイロットなどに対する多くのインタビューにより、機体の開発、運用、特徴、訓練、有事で求められるミッション、隊員のエピソードなどが詳しく描かれている。自衛隊が装備してきた各機種の特性や、パイロットに求められる適性など、実体験に基づく記述は興味深い。開発の経緯から配備に至るまでのヒストリーに関しても1章を充てて解説。278＋カラー6頁。

秘蔵 日本海軍艦艇写真集



海人社 刊
3,300円
世界の艦船2月号増刊。同社が長年に亘って収集してきた、日本海軍艦艇の写真を集成したもの。艦種では戦艦から給糧艦、砕氷艦まで、時期的には1913年から終戦後までと多岐に亘っている。「大和」などのごく有名なものから、「翔鶴」「瑞鳳」の空撮といった未発表のものまで、様々な写真が選ばれているが、いずれも1頁1点のみと大きめに収録し、解説も巻末にまとめてある。折込は「曙」と「霜月」の未発表機銃兵装図。120（カラー8）頁。

重戦車　ティーガーⅡ［3］



アルゴノート社 刊
2,550円
ウォーマシン・リポートのNo.156は、ティーガーⅡのパート3。前半は砲塔のディテールで、ヘンシェル、ポルシェの両タイプについて、多数の写真とイラストを用い、42頁を充てて構造やバリエーションを解説。後半は部隊ごとの写真集で、陸軍部隊のパート2。第501、第505、第506、第507、第509、第510重戦車大隊及び第502大隊第3中隊が取り上げられている。遺棄車両が多めとはいえ、見応えのあるコレクションとなっている。112頁。

戦後10年 日本の車輌



機芸出版社 刊
1,200円
1955年（昭和30年）5月に発行された鉄道模型趣味No.82の復刻版。全てが写真頁で、まず昭和20年から30年までの年ごとに、新登場した国鉄主体の鉄道車両の歩みと、鉄道関連の事件などを紹介。続いて御召列車、この時期に導入の始まったHゴムと2枚窓、東京都電10年史、全国各地のディーゼル車、私鉄各社の特急電車、海外で使用される日本の車両などを紹介。巻末の編集後記や広告頁もそのまま収録されている。52頁。

第24回 JAM 国際鉄道模型コンベンション公式記録集



機芸出版社 刊
1,760円
昨年8月、東京ビッグサイトで催された、第24回JAM国際鉄道模型コンベンションの模様を収録したもの。モデラー出展76件、企業出展57件ということで、かなりの規模。本書はそこで展示された模型単品やレイアウト作品、写真、模型製作のテクニック紹介、競技会の出品車両などが紹介される。パネル展示からの記事としては、貨車の様々、グリーンマックス50年の歩み、国鉄の貨物用蒸気機関車、アメリカの貨物列車などを収録。130頁。

トヨタ モータースポーツ前史



松本秀夫 著
三樹書房 刊
4,950円
その多くを知られていない、トヨタ初期のモータースポーツについてまとめた労作。第1章はトヨペット・レーサー誕生の背景、構造解説など。第2章はクラウンによる豪州一周ラリーと日本一周読売ラリー、第3章では中日ラリーについて。第4章は歴史保存を考えるとして、モータースポーツにおいて、車両そのものおよび資料をどのように保管・維持していくべきか、第5章では関係者の語録となっている。158頁、ハードカバー。

復刻版 蒸気機関車のすべて



久保田 博 著
グランプリ出版 刊
4,950円
正にタイトルのとおり、蒸気機関車について、実に詳しく広範な知識を盛り込んだ1冊。まず構造別、使用目的別といった種類に始まり、世界のSLの歴史、海外の主なSL（69種）、日本のSLの歴史、日本の主なSL(82種)、SLの設計、製作と仕組み、性能と運転、整備と保守、種々の知識、回想のSLの11章から成っている。内外の主なSL紹介の頁では、それぞれに側面図が掲載されている。1999年初版の復刻版。296頁。

Hasegawa Hobby kits

85th ANNIVERSARY HASEGAWA 1941-2026

2026年3月発売 ハセガワ新製品情報

本誌ウラ表紙掲載の新製品もご覧ください

1:72 新デカール 限定生産版 2026NEW
EA-18G グラウラー “VAQ-131 ランサーズ 2025”

品番：02528 発売：3月14日ごろ 価格：¥4,300（税込価格 ¥4,730）

VAQ-131 飛行隊長機の最新マーキングを再現！



PHOTO：久場 悟 Ks,18

【デカール】●アメリカ海軍 第131戦術電子戦飛行隊 “ランサーズ” 飛行隊長機「NL550」

1:48 新デカール 限定生産版 2026NEW
J35Ö ドラケン “オーストリアン ブラック スペシャル”

品番：07565 発売：3月18日ごろ 価格：¥4,600（税込価格 ¥5,060）

2005年12月のドラケン最終フライトを記念した特別塗装機を再現！



PHOTO：KATSUHIKO TOKUNAGA

【デカール】●オーストリア空軍 第1戦闘飛行隊 退役記念特別塗装機「21」（2005年）

1:72 新デカール 限定生産版 2026NEW
A-1H スカイレイダー “VA-25 ミグキラー”

品番：02527 発売：3月21日ごろ 価格：¥3,400（税込価格 ¥3,740）

1965年6月20日にミグ17を撃墜した機体を再現！

武装パーツはロケットチューブ、ロケット弾ポッド、爆弾をセット。



【デカール】
- ●アメリカ海軍 空母USS ミッドウェイ 搭載 第25攻撃飛行隊 クリント ジョンソン大尉 乗機「NE577」（1965年6月20日にミグ17を撃墜）
- ●アメリカ海軍 空母USS イントレピッド 搭載 第176攻撃飛行隊 ウィリアム T. パットン中尉 乗機「AK409」（1966年10月9日にミグ17を撃墜）

1:24 3Dプリント部品追加 特別仕様 限定生産版
三菱 ランサー EX 1800GSR ターボ w/オーバーフェンダー

品番：20808 発売：3月18日ごろ 価格：¥4,500（税込価格 ¥4,950）

オーバーフェンダー＆ワタナベホイールでカスタム！

MITSUBISHI MOTORS Official Licensed Product

Watanabe www.rs-watanabe.co.jp

新規3Dプリント部品のオーバーフェンダーと、プラ部品のワタナベホイールが付属します。

【ボディパーツカラー】ホワイト

2026NEW



1:24 新デカール 限定生産版 2026NEW
ランチア ストラトス HF “1980 モンテカルロ ラリー”

品番：20810 発売：3月14日ごろ 価格：¥4,600（税込価格 ¥5,060）

1980年 モンテカルロラリーに参戦した、プライベートチーム「シャルドネ」のマシンを再現！



PHOTO:GIRARDO

【デカール】●1980年 モンテカルロ ラリー 出場車 2位 プライベート・チーム「シャルドネ」 Car No.1 ドライバー B. ダルニッシュ

【ボディパーツカラー】ブルー

1:24 限定生産版 2026NEW
ミニ クーパー スポーツパックリミテッド “アマランスパープル”（1998）

品番：20814 発売：4月1日ごろ 価格：¥3,500（税込価格 ¥3,850）

アマランスパープルのスポーツ仕様を再現！





●窓の塗り分けシール付属

【ボディパーツカラー】パープル

1:20 新デカール 限定生産版 2026NEW
ロータス 79 “チーム レバーク 1979”

品番：20813 発売：3月26日ごろ 価格：¥4,500（税込価格 ¥4,950）

レーシングドライバー ヘクトール レバークが、自らのチームでF1参戦したマシンをキット化！



※キットは実車と一部異なる部分がございます。

【ボディパーツカラー】ダークブラウン

【デカール】●1979年F1世界選手権 出場車 チーム レバーク Car No.31 ドライバー：ヘクトール レバーク

1:24 限定生産版 2026NEW
トヨタ セリカ LB 1600GT “ストリートカスタム”

【ボディパーツカラー】ホワイト

品番：20812 発売：3月18日ごろ 価格：¥3,400（税込価格 ¥3,740）

チンスポイラー＆井桁ホイールで定番カスタム！

●プラ部品のチンスポイラーと井桁ホイールをセット。





1:24 限定生産版 2026NEW
トヨタ スープラ A70 2.5GTツインターボ R 1990 “ブラックカラー”

品番：20811 発売：3月26日ごろ 価格：¥3,400（税込価格 ¥3,740）

ブラックボディの2.5GTツインターボ Rをキット化！



【ボディパーツカラー】ブラック



●窓の塗り分けシール付属

●**完全新金型**：新規に金型を開発した完全新企画のアイテムです。●**新金型追加**：一部の部品に、新規金型を開発したアイテムです。
●**限定生産**：生産数を限定したアイテムです。ご購入はお早めに。●**新デカール**：新規開発のデカールにより再現されたアイテムです。
●**輸入商品**：ハセガワによる輸入取り扱い商品です。●**特別仕様**：新デカールに加え、プラ、レジン、金属パーツなどを追加したアイテムです。

接着剤が別途必要となります。
●プラ部品：プラモデル用接着剤
●3Dプリント部品：瞬間接着剤

株式会社 ハセガワ

〒425-8711 静岡県焼津市八楠3-1-2 TEL（054）628-8241 FAX（054）627-8046

● ハセガワの製品・輸入品は、全国の模型取り扱い店にてお買い求めいただけます。
● 表示の価格は標準小売価格です。● 製品の仕様、価格、発売時期は一部変更になる場合がございます。

Let's check it!
最新・詳細情報はウェブサイトで

輸入新製品情報

日本総輸入代理店：株式会社ハセガワ

日本国内で発売される新製品をご紹介します。輸入品の最新情報はウェブサイトでもチェックできます。

Zimiモデル 新製品

ZimiModel

1:35 輸入商品 新金型追加 2026NEW

ストライカー M1296 ICV-ドラグーン w/ESA MWOアップグレード

品番：ZM35046 発売：2026年4月以降予定 価格：¥14,900（税込価格 ¥16,390）



●新規パーツ（精巧なESAシステム、車内アクセサリー、MK44ブッシュマスター II砲塔）
●クリアパーツ＆エッチングパーツ付属 ●リニューアル版取扱説明書付属

1:35 輸入商品 2026NEW

Sd.Kfz.135/1 15cm sFH 13/1 (Sf) auf Gw Lrs. (f) w/ドイツ 50トン 大型平台貨車[3in1]

品番：ZM35076 発売：2026年4月以降予定 価格：¥15,900（税込価格 ¥17,490）



●「Sd.Kfz.135/1」×2、「平台貨車」×1が付属する3 in 1kit

ICM社 新製品

ICM

1:48 輸入商品 2026NEW

WWII イギリス軍 雷撃機 HP.52 ハンプデン TB.Mk.I

品番：48353 発売：2026年5月以降 価格：¥19,900（税込価格 ¥21,890）



●台車付きMk.XII魚雷が付属 ●デカール4種付属

1:48 輸入商品 2026NEW

UH-60A ブラックホーク w/フィギュア

品番：48364 発売：2026年5月以降 価格：¥14,900（税込価格 ¥16,390）



●フィギュア3体付属（コックピット2体、貨物室1体）●デカール3種付属

1:32 輸入商品 2026NEW

Hs 123A w/独空軍士官候補生フィギュア

品番：32017 発売：2026年5月以降 価格：¥14,500（税込価格 ¥15,950）



●フィギュア3体付属（ドイツ空軍士官候補生）

1:35 輸入商品 2026NEW

G7117キッチントラック w/フィギュア

品番：DS3532 発売：2026年5月以降 価格：¥11,900（税込価格 ¥13,090）



●フィギュア8体付属（米陸軍調理人4体、歩兵3体、運転手1体）

読者の、読者による、読者のためのスペース

READER'S CLUB

Readers Voice
Events
Infomation
Etc…

◆モデルアート誌に対する感想
◆展示会・イベント開催のお知らせ
◆展示会・イベントのレポート
◆作品投稿
……などなど、すべてのお便りのあて先は
〒110-0016
東京都台東区台東2-3-9 KHビル4F
モデルアート・リーダーズクラブ係
またはreaders@modelart.jp（E-mail）まで。
なお編集作業の都合上、イベント開催のお知らせなどは**掲載希望号発売日の１ヵ月前**までに届くようにお願いいたします。

リーダーズクラブからの注意事項

本誌及びリーダーズクラブでは、皆様からのご意見やご感想をいただいておりますが、お手紙やメールによる弊社からの個別の返信は基本的にしておりませんので、ご了承ください。また、模型作品投稿以外の読者様による本誌特集企画のアイデア、著作物などの書類やデータを、添付して送ることはご遠慮ください。それらが弊社に送られた場合は、原則として開封せずに破棄させていただきますことを、何卒ご了承ください。

読者からのお便り

3月号特集の感想。子供の頃のジェット戦闘機といえばこれだったような気がします。その後ファントムⅡが登場し、あまりの変化に驚いたのを思い出しました。

大阪府　中村一夫さん

※F-86→F-104→F-4→F-15と、空自主力戦闘機は形状の変化がかなり大きいですね。

ナナニイスポットライトのF-104の作例が良かったです。ツヤ消しコートを除いて筆塗りとのことですが、キットの繊細なモールドがつぶれておらず、しっかり発色させつつも、厚ぼったくなっていない塗膜なのが見事でした。機体上面と下面の境界線のボケもイイ感じでした。10頁の写真が特に良かったです。

大阪府　佐藤裕之さん

※新進気鋭の若手モデラーの今後にご期待ください！

タミヤ ドイツ5㎝対戦車砲について。昭和50年代中頃の話ですが、中学校のクラスでもタミヤMMが大人気で、ドイツ37㎜砲や75㎜砲は、少年達のマストアイテムでした。あれから約半世紀、今度は「50㎜砲」ではなく「5㎝砲」なんですね。どんな製品になっているのかとても楽しみです。

東京都　伊藤勇治さん

※タミヤの進化をお確かめください！

艦船諸国漫遊記の「くろしお」。黒潮町はドライブコースです。らっきょうの花が綺麗で、泊まらないけどホテルのパスタも美味しいです。道の駅のカツオカレーもグッドです。

愛媛県　清水正久さん

※調べてみるとカツオのカツが乗ったカレーで、ルーにもカツオが入っているそうで…美味しそう！

2026年に作りたいキットはベルキットの1/24 GRヤリスラリー1です。静岡ホビーショー以来楽しみに待っていました。ようやく発売されるそうなので製作したいです。ターマック仕様や、2024年以降のマシンも楽しみです。

愛知県　ティーエーケーさん

※2026年WRC開幕戦のモンテカルロでもGRヤリスが表彰台独占！早く作りたいですね。

イベントのお知らせ

ワンダーフェスティバル2026［夏］の出展募集がスタート！

7月26日（日）に、ワンダーフェスティバル2026［夏］の開催が決定しました。出展者募集·当日版権予備申請の受付期間は２月20日（金）～３月2日（月）です。今夏の特別企画は豪華２本立て！マシーネンクリーガーなどの横山宏作品をフィーチャーする『横山宏展2026 マシーネンクリーガー幕張ミーティング』と、オリジナル作品に特化した『空想いきものワンフェス』の開催が決定しています。興味がおありの方は、期間内の出展申込みをお忘れなく！

開催概要

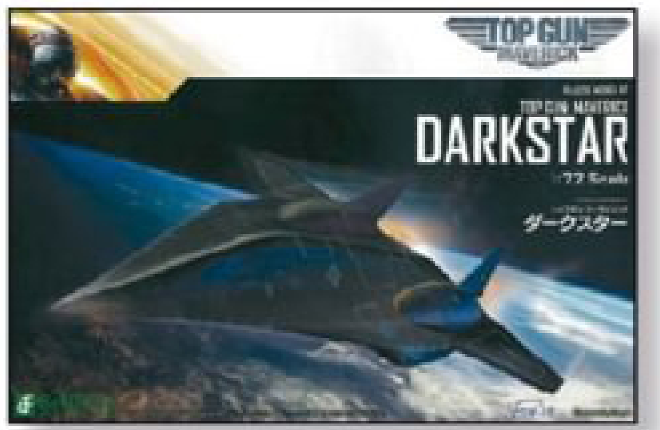
日　時：7月26日（日）10:00～17:00
会　場：幕張メッセ 国際展示場1～8ホール
主　催：ワンダーフェスティバル実行委員会
／株式会社海洋堂
募集期間：2月20日（金）～3月2日（月）
※詳細は公式サイト（https://wonfes.jp）、または右のQRコードよりご確認ください。

啓蟄特別！読者プレゼント

①

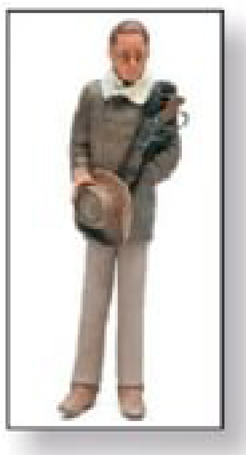

②

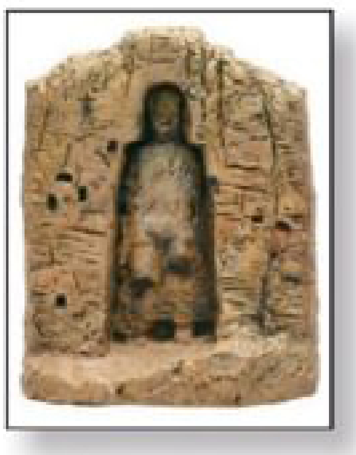

© しげの秀一／講談社

③


④


⑤


⑥


⑦


⑧


TM & © TOHO CO., LTD. ㈲酒井ゆうじ造型工房

⑨


©石森プロ・東映

⑩


©石森プロ・東映

①ハセガワ1/12 カワサキ GPZ900R（A1）（1984）………1名様（提供：ハセガワ）
②アオシマ1/24 須藤 京一 CE9A ランサーエボリューションⅢ………1名様（提供：青島文化教材社）
③ベルファイン1/72 ダークスター………1名様（提供：ベルファイン）
④エイチエムエー1/144 JAS39 グリペン………1名様（提供：エイチエムエー）
⑤"One of One" スーパーコリンスキー 4号 オーバル筆 <キャッツタン>………1名様（提供：アイテムクラフト）
⑥賞金稼ぎ………1名様（提供：福田工芸）
⑦バーミアンの摩崖仏………1名様（提供：福田工芸）
⑧ソフビレガシー ゴジラ1954………1名様（提供：海洋堂高知／南国堂）
⑨ソフビレガシー 仮面ライダー1号………1名様（提供：海洋堂高知／南国堂）
⑩ソフビレガシー 仮面ライダーV3………1名様（提供：海洋堂高知／南国堂）

※⑧⑨⑩はソフビキットです。ご自身での組み立て・塗装が必要となります。

応募はハガキにⒶ希望賞品、Ⓑ今月号で1番面白い記事（その理由も合わせて）、Ⓒ特集の感想、Ⓓ本誌の購入先（インターネット or 書店）Ⓔ住所、Ⓕ氏名、Ⓖ年齢、Ⓗ電話番号、Ⓘ「フィギュア塗装で気になること、難しいと感じること」の回答を明記のうえ
〒110-0016 東京都台東区台東2-3-9 KHビル4F モデルアート社 月刊モデルアート「4月号プレゼント」係までご応募ください。
締め切りは3月31日（当日消印有効）。※当選発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※Eメールでご応募の場合は、**Dokupure@modelart.jp**まで送信してください（必要記入事項はハガキの場合と同様です）。
※お預かりした個人情報は、感想の誌面掲載、プレゼント発送、弊社刊行物のご案内の送付以外の目的に使用することはありません。

オープンキャンパスのお知らせ

21世紀アカデメイア 専門学校 東京デザイナー・アカデミー
21世紀アカデメイア 専門学校 大阪デザイナー・アカデミー
21世紀アカデメイア 専門学校 名古屋デザイナー・アカデミー
21世紀アカデメイア 専門学校 福岡デザイナー・アカデミー

オリジナルガレージキットの組み立て講座 第2弾！

学校法人21世紀アカデメイア フィギュアデザイン学科は、ホビー業界直結のカリキュラムによる学びで『好きを職業にする』プロ育成の専門学校です。今回は当校をより身近に感じてもらうためにスペシャル講座を開催いたします。



▲造形作家 **蟹蟲修造氏**によるオリジナルガレージキット「コモドオオトカゲ」を題材に、ガレージキット製作の基礎を体験できる特別講座です。

日　時：3月15日（日）13：00～16：30
参加対象：当学園への入学を検討されている方（年齢・学歴不問）
参加費：無　料
予約方法：校舎を1つ選び、右のQRコードからお申し込みください。
場　所：デザイナー・アカデミー専門学校
東京校　〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-6
☎0120-62-6006（Webサイト）https://www.tdg.ac.jp
名古屋校　〒460-0008 名古屋市中区栄5-1-3
☎0120-7575-38（Webサイト）https://ndac.ac.jp
大阪校　〒530-0003 大阪市北区堂島2-3-20
☎0120-59-2299（Webサイト）https://www.odc.ac.jp
福岡校　〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-8-24
☎0120-474-923（Webサイト）https://www.kdg.ac.jp

▲東京校　▲名古屋校　▲大阪校　▲福岡校

軍事学セミナー３月例会

軍事学セミナーは1977年に創立され、1978年からは月例公開講座を開設し、今年で49周年を迎えます。軍事専門誌やTVなどでお馴染みの先生をお招きし、講演していただいた後、皆さんの質問にも直接お答えをいただけます。

日　時：3月14日（土）18：00～21：00
場　所：ルームス水道橋店 第２会議室
（東京都千代田区神田三崎町3-4-10
庄司ビル5F）
演　題：アブラハムの宗教誕生と超国家性とその戦争
講　師：林 吉永（NPO国際地政学研究所理事）
会　費：2,000円
問合先：「大寄浩志」☎080-6781-3876
E-mail：anschluss@neo.famille.ne.jp

モデラーズOYAMA作品展示会（T'sホビークラブと共催）

栃木県小山市を拠点に活動している模型クラブです。メンバーの作品展示会を開催します。内容は、スケールもの、キャラクターものなどオールジャンルです。皆様のお越しをお待ちしております。当日はゲストの持ち込み展示（無料）も可能です。お１人様１点のみ、サイズは縦横40㎝×40㎝以内とさせていただきます。

日　時：4月4日（土）10：00～17：00
　　　　4月5日（日）　9：00～16：00
場　所：道の駅 思川 小山評定館
（栃木県小山市大字下国府塚25-1）
問合先：「横山」☎090-4742-9918

第47回岐阜コクピット展示会

下記のとおり模型展示会を開催いたします。市民公園では各務原市桜まつりも開催されています。桜まつりも楽しんでください。お待ちしております。

日　時：4月4日（土）11：00～17：00
　　　　4月5日（日）10：00～16：00
場　所：那加福祉センター
（各務原市那加雲雀町15）
テーマ：「海」
協賛クラブ：アサヒ倶楽部/小松Ｇクラブ
富山サンダーバーズ
問合先：「渡辺」
E-mail：f8u.crusader.vf84@gmail.com

モグラクラブ模型作品展

モグラクラブ模型展示会では当日持ち込み展示も大歓迎です。展示スペースなどの制約上、希望者多数の場合やむを得ずお断りすることもございます。予めご了承ください。

日　時：4月11日（土）10：00～17：00
　　　　4月12日（日）　9：00～16：00
場　所：群馬県生涯学習センター
（群馬県前橋市文京町2-20-22）
問合先：「宮沢」☎090-7606-1378

モデラーズミーティング イン 熊本 2026

当日作品を持ち込んで、モデラー同士の交流を図る展示会です（ジャンルは問いません）。今回はゲストにフィギュア原型師として活躍されていますあらけん様をお招きし、当日午後からトークイベントも予定しています。

日　時：4月12日（日）10：00～16：00
場　所：くまもと森都心プラザ 6F 会議室
（熊本市西区春日1-14-1）
参加費：1,000円
（見学のみ・高校生以下の方は無料）
※作品につきましては当日各自で搬入、展示、搬出作業をお願いいたします。また、展示スペースは参加者多数の場合、1人あたり45㎝×45㎝程度に収めていただきますようお願いする場合があります。
問合先：「取りまとめ役 境」
Webサイト：http://modemekuma.blog.fc2.com
Facebook：
https://www.facebook.com/modemekuma

第36回 ききょうや大展示会



「第36回ききょうや2026大展示会」の開催が決定いたしました。今年も道頓堀ホテルで２日間の開催。恒例「激安市」もございます！是非ご来場くださいませ。

日　時：5月4日（月祝）12：00～18：00
　　　　5月5日（火祝）10：00～16：00
場　所：道頓堀ホテル
（大阪府大阪市中央区道頓堀2-3-25）
入場料：無　料
※諸事情により変更・中止の場合がございます。Webサイトをご確認ください。
Webサイト：https://kikyo-ya.com

第64回 静岡ホビーショー

静岡ホビーショーはプラモデルや鉄道模型、RCモデルなど、日本が世界に誇る模型ブランドが一堂に会する日本最大級の模型展示会です。国内外のバイヤーが活発に商談を行う「業者招待日」、静岡県内の学校を対象とした「小・中・高校生招待日」、そして入場無料で一般の来場者を迎える「一般公開日」の５日間にわたり開催されます。一般公開日には模型ファンによる「第35回モデラーズクラブ合同作品展」も同時開催。国内外のクラブが参加する世界最大級の模型展示会です。皆様のご来場をお待ちしております。



※写真は昨年の様子です。

■一般公開日：5月16日（土）9：00～17：00
　　　　　　　17日（日）9：00～16：00
■会場：ツインメッセ静岡（〒422-8006 静岡県静岡市駿河区曲金3-1-10）
■お問い合わせ：静岡模型教材協同組合 ☎054-287-5931
■同時開催
・第35回モデラーズクラブ合同作品展
・RCカーフェスティバルinホビーのまち静岡（静岡市南部体育館）　ほか

ご入場には事前登録が必要です

会場内の混雑緩和のため、ご入場には全期間を通じてWebサイトを通じた「事前登録」が必要です。事前登録をされていない方は入場が出来ませんのでご注意ください。登録開始時期などは追って発表となりますので、詳しくは静岡ホビーショー Webサイトをご確認ください。 https://hobby-shizuoka.com



まさかの最後尾からスタートの決勝に！

オフは恒例のミニバイクレースでトレーニング

模型製作が趣味のロードレーサー 大久保 光選手は、2026年開幕を控えてトレーニングを兼ねたレースに日本で参戦しました。予選タイムは1位なのに何故かスタートは最後尾からという、意外な展開の結末は…。

皆様こんにちは！大久保光です。2月になりまして開幕戦まであと2ヶ月となりました。今年のシーズンオフはいつも以上に気合を入れてトレーニングに励んでおります。世界一を獲得するために全力で取り組んでいるところでもあります。

そんな2月ですが、1日に行われたミニバイクレース「秋ヶ瀬チャレンジカップ」に参戦してきました。開催場所は私が昔からお世話になっているサーキット秋ヶ瀬で行われました。ミニバイクレースで私は、普段トレーニングで乗っているkayo MR150で参戦しました。このチャレンジカップは当日にエントリーできる比較的参加しやすいレースとなっておりまして、今年は100台近くのエントリーがありとても盛り上がっていました。私はミッションクラスに参戦。予選では自己ベストタイムを更新してポールポジションを獲得！しかし決勝では主催者側の指示により、何と最終コーナー手前からのぶっちぎり最後尾からのスタートとなりました（笑）10周のレースで追い上げていきたいところでしたが、追い上げ切ることが出来ず結果4位という順位でチェッカーとなりました。悔しい反面、とても面白く、そして良いトレーニングとなったレースとなりました。



●プロフィール
大久保 光（おおくぼ・ひかり）
1993年8月11日生まれ。東京都小平市出身のロードレーサー。2020年までスーパースポーツ世界選手権に参戦。MotoE 参戦を経て2024年から世界耐久選手権に参戦中。

その他の日にはライダー仲間と一緒にダートトラックを使ったトレーニングをしたり、ミニバイクを使った基礎練習、8の字やブレーキングの練習など様々なことをしています。開幕戦での優勝を目指してこれからも頑張っていきます！

イベントレポート

HondaとTAMIYAの世界展
Hondaプレリュードまるわかりトーク in TAMIYA TOKYO













1月17日、新橋のTAMIYA PLAMODEL FACTORY TOKYOにて、本田技研工業株式会社のプレリュード開発責任者 山上智行氏と、タミヤ企画開発部の石黒 毅氏によるトークショー「Hondaプレリュードまるわかりトーク in TAMIYA TOKYO」が開催された。実車のリリースと同時にプラモデルが発売されたHondaプレリュードをテーマに、実車とプラモデルそれぞれの開発者による対談や、開発に際してのこだわりなどが語られた。また、参加者が持ち寄ったプレリュードの模型を囲んでのファンミーティングも実施された。本イベントの主役でもある1/24 Honda プレリュード（BF1）や先日再販された1/24 Honda プレリュード XXなどが並んだ。実車に忠実に製作されたものや、オリジナルマーキングで彩られたものなど、思い思いの装いに仕上げられており、模型談議にも華が咲いた。トークショーの模様は、後日タミヤ公式YouTubeチャンネル（@TAMIYAINC）にて公開予定とのこと。是非ともご覧いただきたい。　（報告:編集部）

イベントレポート

第9回 FBプラモデル愛好会 展示会











2月11日、すみだ産業会館（錦糸町マルイ8F）にて、第9回 FBプラモデル愛好会 展示会が開催された。FBプラモデル愛好会とは、Facebookで8,500名以上の会員数を誇る模型グループ。錦糸町で開催するのはこれで3回目。今回のテーマ展示は「私とタミヤ」で、懐かしのキットを中心に様々な作品が卓上に集合した。また、会場の一角ではチャリティーバザーも行われ、お買い得品やレアアイテムなどが多数販売された。　（報告：編集部）

ショーケース



▲製作：素組み★おじさん さん

サラリーマンも先が見え始めた頃にプラモ作りを再開し、約6年が経ちました。小学生の頃には作るのが難しかったウォーターラインのキットを、コツコツと作っています。先日、旧版のハセガワ古鷹型キット（同型艦4隻）を、全て完成させることが出来ました。写真は左上から時計回りに「衣笠」「加古」「青葉」「古鷹」です。

※ベースを活かしながらも艦橋やマストなどが緻密にディテールアップされています！




▲製作：中田安彦さん「朱漆塗合子形兜 黒田官兵衛」

使用キット「童友社1/4 黒田官兵衛 兜」。今まで気になっていた、独特な形状をした黒田官兵衛の兜を製作してみました！作品自体はストレートに組み立てています。今回は渋く製作しようと思い、錣、前立て、飾り台などはアクリル塗料を中心に、アクセントが出るよう表現してみました。兜全体の渋さが伝わっていただければ幸いでございます。

※大河ドラマのシーンを思い出す仕上がりです！




▲製作：神岡福之さん

今回はロレーヌシュレッパー（プロトタイプ）を作ったので作品を応募します。試作車両の写真をベースに、実際に運用されたらこんな感じ？をイメージして製作しました。工作で苦労したところはホーンガードとライトガードで、プラバンが折れやすく実際より厚くなりました。

※自走砲化する前の姿を製作！マニアックなチョイスと見事な工作です。

模型はいつ壊れるか分からない、実にはかないもの。そこでモデルアートの誌面上に、貴方の成果を残してみませんか！このコーナー（ショーケース）では、読者の皆様からの作品投稿をお待ちしております。※誌面の都合上、投稿作品の全てを掲載することは出来ません。投稿の際には必ず製作やキットに関するコメントもお願いします。なお、お送りいただいた写真は原則として返却できません。投稿先は展示会のお知らせやイベントレポートなどの送り先と同じです。写真を郵送の場合は〒110-0016 東京都台東区台東2-3-9 KHビル4F モデルアート・リーダーズクラブ係まで、写真データ（JPG）での投稿の場合はreaders@modelart.jp（E-mail）まで、お願いいたします。



艦船模型スペシャル No.99

特集：南遣艦隊とマレー馬来作戦

見どころポイント！

初・月刊との特集コラボ！
半島上陸後の陸軍の動向を特集した月刊に対し、海上の南陸軍上陸作戦を海上から支えた日本海軍・南遣艦隊を特集！

ジャンル：艦船
#日本海軍 南遣艦隊 #イギリス海軍 Z 部隊
電子版：2026年3月12日（木）配信開始

Size：A4 判　ページ数：144
発売日：2026 年 2 月 14（土）発売
定価：2,200 円（税込）

昭和 16 年 12 月 8 日、真珠湾攻撃に先駆け、日本軍はマレー半島の要衝シンガポール攻略を目指し、馬来作戦を発動した。本特集では、陸軍上陸作戦を海上から支えた日本海軍・南遣艦隊の編成と行動を軸に、開戦初期の南方作戦の実相を読み解く。
さらに、マレー沖海戦で史上初めて航行中の戦艦が航空機によって撃沈されるという衝撃的な戦果を被った、イギリス海軍 Z 部隊の艦船群を模型作例として再現する。

もっと知りたいあなたへ
関連本はこちら

艦船模型スペシャル No.95
多号作戦 オルモック輸送の駆逐艦と輸送船に迫る



見どころポイント！

レイテ島増援輸送、第二次作戦、第四次作戦、第三次作戦、ヒ 81 船団、第七次作戦、第八作戦、第九次作戦と盛りだくさん。

ジャンル：艦船
電子化：好評配信中

Size：A4 判　ページ数：160
発売日：2025 年 2月
定価:2,310 円（税込）



モデリング JASDF プラス No.1

見どころポイント！

見たい！撮りたい!! 作りたい!!!
航空自衛隊機を“作りたくなる”
貴重な実機資料 × 工作テクニック

構成、取材、撮影、文、イラスト、模型製作：秋山いさみ

ジャンル：飛行機
電子書籍：2026年3月11日（水）配信開始

Size：A4 判　ページ数：128
発売日：2026 年 2 月 25 日（水）発売
定価：3,190 円（税込）

飛行機模型スペシャルで好評連載中の「モデリング JASDF」。その総集編第 1 弾がついに登場します。本号では、F-15J をはじめ、F-86D、T-4 ブルーインパルス、T-33A、U-125A など、戦闘機から救難機まで多彩な航空自衛隊機を収録しました。
いずれの機種も、豊富な実機資料と分かりやすく的確なモデリングガイドによって、その魅力を余すところなく紹介しています。
特に F-86D は徹底した取材により、希少な機体のディテールを誌上で可能な限り再現。さらに、元 F-86D パイロットへの貴重なインタビュー記事も掲載しています。

もっと知りたいあなたへ
関連商品はこちら

飛行機模型スペシャル No.52
特集：タミヤ 1/48 傑作機シリーズの歴史

見どころポイント！

半世紀におよぶ飛行機模型の軌跡と最前線



ジャンル：飛行機
電子版：好評配信中

Size：A4 判　ページ数：128
発売日：2026 年 1 月
定価：2,178 円（税込）



上級テクを極める
1/24 カーモデルの製作術 総ざらい 2

見どころポイント！

シリーズ第二弾！
定番モデリングに新風を巻き起こすマテリアルと塗料の「比較検証」が満載！

ジャンル：テクニック・カーモデル
電子書籍：2026年3月10日（火）配信開始

Size：B5 判変形　ページ数：160
発売日：2026 年 2 月 24 日（火）発売
定価：2,860 円（税込）

最新版のマテリアル・塗料を使いこなそう！
昨年 11 月に発売し、大好評を博した前作に続き、早くも続編が登場します！　前作も 1/24 カーモデルの製作テクニックを幅広く紹介してきましたが、 実際に作ってみて戸惑うポイントは、まだまだ存在します。
　今回は日本の名車にスポットを当てつつ、困った特に役立つ解決策などを紹介。
ロードカーの延長にあるラリーカー、GT レーシングカーも採り上げ、 汎用テクニックと作例を通じた実践テクニックが満載の一冊とします。

もっと知りたいあなたへ
前号はこちら

上級テクを極める
1/24 カーモデルの製作術総ざらい

見どころポイント！

同じキットを同じように作っているはずなのに、自分と名人の作品はどこか雰囲気が違うな…。そんな風に感じた方へオススメ



ジャンル：カーモデル・テク
電子化：配信未定

Size：B5判変形　ページ数：160
発売日：2023 年 11 月
定価：2,860 円（税込）



プラスアルファ秋葉征人の
デジタルカーモデリング & プリンティング

見どころポイント！

3D プリント模型サードパーティのパイオニアの月刊連載がついに1冊に！

Autodesk® Fusion を習得出来る！
ラフの作成から表紙の完成データの状態になるまでをステップバイステップ方式で解説

ジャンル：デジタルプリンティング
　　　　　カーモデリング

電子書籍：好評配信中 e-books

Size：B5 判　ページ数：160
発売日：2026 年 1 月 28 日
定価：3,850 円（税込）

本書は Autodesk® Fusion を習得するにあたって、“できるだけクルマに関わる部品を題材にモデリングの基本を覚えたい方”に向けて制作しました。内容は、3D プリントによる模型サードパーティのパイオニアである秋葉征人が、月刊モデルアート誌で連載した内容をまとめ、ビギナーにも比較的容易に挑戦できるよう情報を補足したものです。序盤で基本操作を学んだ後は、ランチア・ストラトスをモチーフに、ラフの作成から当ページの画像❶の状態になるまでを解説します。いざ「自分だけの1台」への1歩を踏み出しましょう！

もっと知りたいあなたへ
3D プリンター関連商品はこちら

3DPR Detail shape cleaner
（ディテールシェイプクリーナー）

オススメポイント！

エアゾールタイプで細かな箇所にも洗浄が行き届く！洗浄液に浸て洗浄するよりも、便利でこまめに洗浄が出来ます！



成分：プロピレングリコール
　　　モノメチルエーテル、ブタン、
　　　プロパン
容量：420ml

メーカー：日本メカケミカル株式会社
定価：1,760 円（税込）
▲ 公式通販サイト・ご購入情報はこちら

もっと知りたいあなたへ
関連本はこちら

モデルアートプロフィールNo.15
F-35 ライトニングII



見どころポイント！

初公開画像をはじめ、様々なアングルからの画像で新鋭機にクローズアップ

ジャンル：飛行機
電子化：なし

Size：B5 判　ページ数：120
発売日：2025 年12 月定価：2,860 円(税込)

モデルアートプロフィール No.3 では、歴代の航空自衛隊戦闘機の中でも特に人気の高い F-104「栄光」を総力特集。
細部を徹底的に解剖するディテールファイルをはじめ、懐かしい現役当時の写真や詳細な塗装ガイド、さらに実機の開発と運用のドキュメントを掲載。もちろん、各スケール F-104 の作例やヒストリカルなキットの紹介など、モデラーのページも充実の内容です。
* 再々版となる商品で、2017 年に再版した内容と変更がございません。
折り込み図面は、別紙での対応となります。

再版・直販商品

モデルアートプロフィール No.3
航空自衛隊 F-104 栄光

見どころポイント！

機体ディテール解説、現役当時の写真、実機に基づく塗装ガイド、開発から運用までの資料を収録。

ジャンル：飛行機　電子版：配信未定

Size：B5 判
ページ数：136／別紙図面付
発売日：2026 年2月16日(月)
定価：2,750 (税込)



※直販商品：書店流通は行っておらず、全国模型店および公式 Web ショップにてご購入いただけます。

新商品情報：3月下旬発売予定

折れないボールジョイント

MODEL Art

本製品は、市販プラモデルキットのボールジョイントを、より頑丈なものに置き換えることを念頭に置いた真鍮挽き物製パーツです。関節の緩みや保持力不足に悩むモデラーに向けたアップグレードアイテムとなっています。使用にあたっては、キット側ボール径をノギスで計測し、適合サイズを選択してください。本製品は市販のポリキャップ（PE）製軸受けに刺すことを前提に設計されており、PS・KPS 製軸受けでは破損や摩耗の恐れがあります。硬質素材のため、抜き差しは最小限に抑えてください。

素材：**真鍮製**

Planed Designed by MODEL Art　Manufactured by PONTOS MODEL.COM



＊本製品の球径は上記の方法で計測しております。



「全サイズ入りお試しパック」（各サイズ 1 本入り）もご用意いたしました。





頑丈！高精度設計！関節をしっかり保持！

各商品のサイズ・数量・価格

▶【MA0002】	球径 3㎜ 軸径 2㎜	8本入り	定価：880(税込)
▶【MA0003】	球径 3.5㎜ 軸径 2㎜	8本入り	定価：880(税込)
▶【MA0004】	球径 4㎜ 軸径 3㎜	8本入り	定価：880(税込)
▶【MA0005】	球径 4.5㎜ 軸径 3㎜	8本入り	定価：880(税込)
▶【MA0006】	球径 5㎜ 軸径 3㎜	6本入り	定価：880(税込)
▶【MA0007】	球径 6㎜ 軸径 3㎜	6本入り	定価：880(税込)
▶【MA0008】	上記全サイズ各1本入り	6本入り	定価：770(税込)

※サイズにより内容量（数量）が異なります。

バックナンバー毎月25日追加！

購入情報は
↑こちらから

▶バックナンバーは、Amazon Kindle、Fujisan、ヨドバシ・ドット・コム電子書籍ストア、楽天 Kobo、マガストア、シナノブックドットコム、ebook japan より購入可能。

▶新刊配信は、さらに、BookLive からも購入可能。

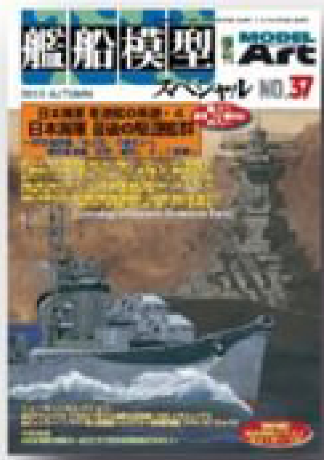
電子書籍 ebook



1,781円(税込)

艦船模型スペシャルNo.36
●航空母艦「鳳翔」「龍驤」日本海軍航空母艦の礎

世界初の純粋な航空母艦「鳳翔」と、その実績を基に建造された「龍驤」。大型空母「赤城」「加賀」の陰に隠れがちな存在ながら、日本海軍空母の設計・運用に大きな影響を与えた両艦の変遷を、フジミ1/700キットで模型的に検証する。



1,781円(税込)

艦船模型スペシャルNo.37
●日本海軍 最後の駆逐艦群

防空駆逐艦「秋月型」の誕生から「松型」「橘型」までを追う連載第4弾。「丙型」島風を含む各型を、竣工時から最終時まで作例と解説で紹介。特に秋月型は前期・後期の違いや装備変遷を図面・イラスト入りで詳解する。



1,781円(税込)

艦船模型スペシャルNo.38
●重巡アドミラル・ヒッパー級＆最新ドイツ海軍艦船キットレヴィ

ドイツ大海艦隊再建の象徴として誕生した唯一の艦隊型重巡「アドミラル・ヒッパー級」。その成立と変遷を軸に、「改ヒッパー級」プリンツ・オイゲンとの相違点や、変化に富む船体塗装の違いまで詳しく解説する。



1,781円(税込)

艦船模型スペシャルNo.39
●第2次大戦のアメリカ軽/護衛空母

2010年秋に登場した1/350「ガンビア・ベイ」と「インデペンデンス」を軸に、第2次大戦期アメリカ海軍の軽空母・護衛空母を特集。急速な発展と役割、運用の変遷を模型と資料で読み解く。



1,781円(税込)

艦船模型スペシャルNo.70
●珊瑚海海戦

真珠湾攻撃から半年、史上初の空母同士が激突した珊瑚海海戦。視界外の敵を航空機で攻撃する新次元の海戦は、戦争の形を一変させた。本号では両軍空母を中心に、新製品作例も交えて詳しく特集する。



2,860円(税込)

エアクラフト・スケール・モデリング F.A.Q 2.1
●「組立・クリアパーツ・塗装準備・塗装とウェザリング 編」

原書588頁の大作を全4冊で刊行するシリーズ第1巻。本号では組み立てから下地処理、塗装とウェザリングの基本を中心に構成。工程の意味や判断の考え方まで丁寧に解説し、後続巻につながる確かな基礎を築く。

艦船模型スペシャル別冊

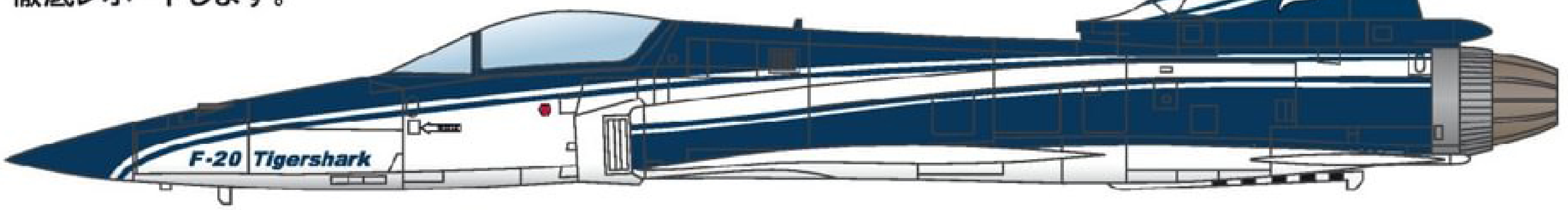
エリア88
モデリング ミッション・2

待望の第2弾

A4 56P 本体予価 3,900円
3月下旬発売予定

特集：F-20 タイガーシャーク

作品で活躍した風間真の愛機"F-20タイガーシャーク"。軽戦闘機でありながら、シンが駆ればその卓越した操縦技術と相まって、物語終盤まで活躍した名戦闘機です。今回は機種をF-20に絞り、劇中で描かれたその魅力とキットの見どころをご紹介します。もちろん、付録の完全新金型F-20タイガーシャークも徹底レポートします。



主な内容

○ F-20 タイガーシャーク 作例
・フリーダムモデル 1/48 ・ハセガワ 1/72 ・LS 1/144 ・フリーダムモデル ノンスケール
・タカラ 1/100 ・モデルアート 1/144

今度の付録は 完全新金型 のプラモデル

MODEL Art 1/144スケール インジェクション・プラスチックキット
F-20 タイガーシャーク





付属デカール

アスラン王国空軍外人部隊
風間真 搭乗機

MODEL Art

“Always Something Wonderful”

タコム











1/35 T28 重戦車　価格未定　発売時期未定

ライフィールドモデル



1/35 IS-2 重戦車 1944年型
価格未定　発売時期未定

ゲッコー・モデル



1/35 イギリス歩兵戦車 Mk.I マチルダI
価格未定　発売時期未定

ゲッコー・モデル



1/35 FV103 CVR (T)
スパルタン 装甲兵員輸送車
w/HMG砲塔 (ウクライナ軍)
価格未定　発売時期未定

ゲッコー・モデル



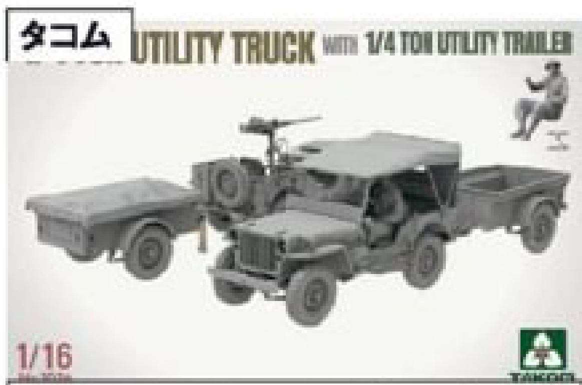
1/35 ベッドフォード OYD 3トン
4x2 GS トラック (金属製荷台タイプ)
価格未定　発売時期未定

タコム



1/35 M28A1/A2
価格未定　発売時期未定

タコム



1/16 1/4トン ユーティリティトラック
価格未定　発売時期未定

ダス・ヴェルク



1/16 Sd.Kfz.250/3 A型
¥20,350　3月発売予定

クラッシーホビー



1/16 イギリス M5 スチュアート 偵察戦車
価格未定　発売時期未定

DBMK



1/32 DH 103 ホーネットF Mk.3
¥55,000　5~6月発売予定

DBMK



1/32 ホーカー シーフューリー FB Mk.11
¥37,400　5~6月発売予定

ソード



1/72 ショート SB.6 シーミュー
¥6,160　3月発売予定

クリアープロップ!



1/72 A2D-1 スカイシャーク
¥14,960　3月以降発売予定

アルマホビー



1/72 メッサーシュミット Me262A-1a
¥6,160　2月発売予定

モンモデル



1/48 F-4E AUP (ギリシャ空軍)
¥19,800　2~3月発売予定

エデュアルド





1/72 エンストロム480 ヘリコプター ハイブリッドエディション
¥5,720　3月発売予定

X-スケール



1/144 A300B4-605R　¥11,200　2月以降発売予定

ビーコンホビー



1/350 アーレイ・バーク級フライトIII ミサイル駆逐艦
ジャック・H・ルーカス DDG-125
¥21,890　3月発売予定

イーグルアヴィエーション



ニミッツ級航空母艦の運用
価格未定　発売時期未定

MODEL Art
MODELING MAGAZINE

月刊モデルアート2026年5月号は
3月26日（木）発売
一部地域は発売日が遅れることがございます。

－次号予告－

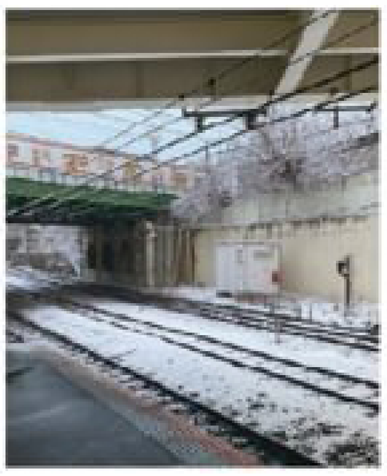
■ 特　集：模型塗装トレンド研究（仮題）

最近話題のスポンジ塗装やマーカー塗装を取り上げ、実際にスケールモデルにどのように生かせるかを紹介します。ただの「代用手段」ではなく、その塗装法ならではの表現や、手軽さを追求していきましょう。簡易的に吹き付け塗装を行なえるアイテムなどもレビュー予定。模型塗装をもっと楽しく！というアプローチで特集します。

■ニューキットレビュー
・アオシマ1/24 RZ34 フェアレディ Z NISMO 2024
・イタレリ1/24 ランチア フルビア HF 1972 ラリー モンテカルロ ウィナー
・エアフィックス1/48 スーパーマリーン スピットファイア Tr.9
・ICM 1/48 ドルニエ Do217M-1 ドイツ爆撃機
・モノクローム1/48 航空自衛隊 F-86F-40 セイバー

編集後記

●ワンフェスへ向かう道すがら、久々にこんなに白くなったので柄にもなく写真を撮ってしまいました。前日も降ってはいたものの積もるほどではなく、少し油断していましたが、当日は幕張メッセ周辺も真っ白…。流石に「あの」2014年ほどではなかったということですが、皆さんやはり脳裏に過ったようですね。外は凍てつくような寒さで会場内の暖房が染み入るようでした。　T倉



●球春到来！今季のヤクルトは青木GM新体制、池山監督就任、村上のメジャー移籍と、色々と変わりそうです。その割には補強が少なかったですが…。注目はドラ1内野手、松下歩叶（あゆと）ですね。法大出身野手というと古くは稲葉、近年は西浦や大引、中山がいましたが、松下の入団で実に3年ぶりの在籍となります。卒業生としては何とか活躍してもらいたいところですが、キャンプ中に故障…。これを書いている2/13時点では開幕不透明です。それと新人でもう1人注目は、トヨタからドラ4で入団した増居翔太です。即戦力左腕で、谷間でも良いので先発でしばらく見たいですね。　㋔

●久しぶりの戦車特集、しかも日本戦車！という本誌にしては尖った内容になりましたがいかがでしたでしょうか。短期決戦のマレー作戦と言えど、全てを語ることはできず（特に航空戦とかね）、まだまだ書き足りませんが今回はこのあたりで。いずれそちら方面も特集したいですね。また、欧州戦線で活躍した戦車たちと比べると、未だにマイナー扱いではありますが少しでも陸軍車両の魅力をお届けできれば幸いです。九二式重装甲車やチハ改、ホニ、ホロなどなど、まだまだカッチョ良い車両がいますので、こちらもどんどん取り上げていきたいところ。となると、次は北支かフィリピンか、海軍陸戦隊もいいなぁ…と妄想は膨らむのであります。　キブチ

広告案内

'Mission Complete' Is Just the Beginning

新刊情報



2026年4月10日発行 モデルアート4月号臨時増刊（通巻1179号）

MODEL Art

MISSION : MODELING MotorCycle

―バイク模型 モデリングミッション―

― Improve Your Motorcycle Modeling Skills







エンジンや足回りの製作、そして塗装にも手間の掛かる印象を持たれがちなバイクの模型。車種／スケールによっては高い製作スキルが要求され、製作に取り掛かるのがためらわれることも多いことでしょう。そんなバイクの模型ですが、工作でも塗装でも各作業のコツさえ掴んでしまえば、意外とラクに製作できるものです。本書では各バイク模型の製作で一番重要な作業工程などを“ミッション”に設定し、それらを攻略して完成を目指していきます。ミッション完了の先には、バイク模型を製作する楽しみも広がっていることでしょう。







● 主要な”ミッション”

- ・大型モデルを攻略せよ
- ・ベテランキットを製作する
- ・全面カーボンデカール貼り付け
- ・最新キットを隅々まで堪能せよ
- ・メッキパーツとの”和解”

etc…

全国の書店・模型店で
2026年
3月21日(土)
予価2,970円(税込)
B5判 104ページ

”ミッションコンプリート”の先にあるのは インプルーブしたバイク模型製作のスキル

詳細はこちら▶ TEL : 03-6240-1936 FAX : 03-6240-1937 モデルアート 検索 𝕏@ModelArtInc www.facebook.com/modelartinc



HC69 トヨタ スプリンター トレノ AE92 GT-Z 後期型 (1989) 新金型追加 ¥3,300 (税込価格 ¥3,630)

2026 NEW 【3月下旬新発売】

高性能エレガンス「キューニー」トレノ登場!!

【ボディパーツカラー】ホワイト

最上位グレード「GT-Z」後期型を、徹底した実車取材をもとにキット化。レビンをベースに新規部品を多数追加して再現します。オプションのムーンルーフ（サンルーフ）を装着した仕様、アルミホイールとノーマルホイールの選択式、リトラクタブルヘッドライトは開閉可能です。ヘッドライト/テールライト鏡面、スモールランプ/フォグランプ鏡面、アルミホイール/ノーマルホイールがメッキパーツです。

【新規プラ部品】■ボディ（ムーンルーフ付）
■エアインテークバルジ付ボンネット
■フロントバンパー ■リトラクタブルヘッドライト
■ヘッドライト/テールライトレンズ ■風防
■サンルーフ ■ヘッドライト/テールライト鏡面
■スモールランプ/フォグランプ鏡面





■窓の塗り分けシール付属

【模型サイズ】全長：178mm/全幅：78mm

国内線で運用されている、JALのボーイング 737-800を再現。



展示用スタンド付 1:200

2026 NEW 【3月下旬新発売】

【パーツカラー】胴体：ホワイト 翼：グレー

PHOTO : HAJIME ISHIHARA

■胴体部品は左右分割。窓はデカールによる表現となります。

45 日本航空 ボーイング 737-800 ¥1,800 (税込価格 ¥1,980)

カサブランカ級30番艦のシャムロックベイを再現！

2026 NEW 【4月初旬新発売】

■船体側面 迷彩塗装用の、マスキング用型紙図面が付属します。
■艦載機はワイルドキャット×6、アベンジャー ×3をセット。
主翼は展張/折り畳み状態の選択式となります。

限定生産版 1:350

SHAMROCK BAY (CVE-84)



40126 アメリカ海軍 護衛空母 CVE-84 シャムロック ベイ

【製品仕様】■アメリカ海軍（1944年12月～ 1945年5月）

¥10,400 (税込価格 ¥11,440)

ICM社より完全新金型 新製品 登場!!



1:48 2026 NEW

輸入商品 完全新金型 【4月以降発売】

48131 B-26 マローダー アメリカ軍搭乗員4体セット

※「B-26 マローダー」は含まれません。 ¥2,900 (税込価格 ¥3,190)



1:48 2026 NEW

輸入商品 完全新金型 【4月以降発売】

48369 MH-6J リトルバード アメリカ特殊部隊ヘリコプター

■デカール付属 ¥8,900 (税込価格 ¥9,790)

接着剤が別途必要となります。
●プラ部品：プラモデル用接着剤

●表示の価格は標準小売価格です。
●ハセガワのプラモデルは、全国の模型取り扱い店にてお買い求めいただけます。
●本誌 132 ～133ページの定番外・取り扱い商品広告もご覧ください。

【ハセガワ公式SNS】 https://x.com/hasegawa_model
【ハセガワ営業部SNS】 https://x.com/hasegawa_sales
【ハセガワ公式WEBサイト】 www.hasegawa-model.co.jp

株式会社ハセガワ 〒425-8711 静岡県焼津市八楠3-1-2 TEL:(054) 628-8241 FAX:(054) 627-8046

85 ANNIVERSARY HASEGAWA
Hasegawa Hobby kits